

2022

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第287集

第
287
集

岩村田遺跡群

西八日町遺跡 I

西八日町遺跡 I

長野県佐久市教育委員会

2022.3

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第287集

岩村田遺跡群

西八日町遺跡 I

2022.3

佐久市教育委員会



H38 号竪穴建物出土土偶 (弥生時代)



弥生時代前期の土器 (浮線文)



Y3 号竪穴建物出土土器 (弥生時代中期後半)



H92 号堅穴建物出土銅碗（平安時代）



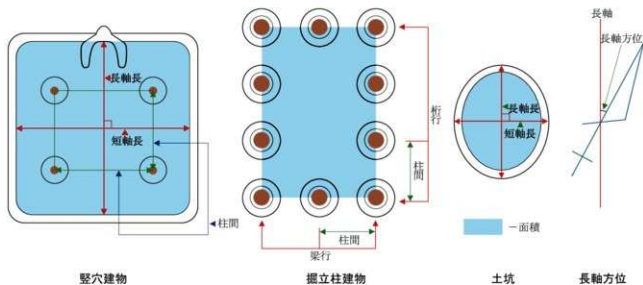
遺跡出土緑釉陶器（平安時代）

例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する岩村田遺跡群西八日町遺跡1の発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 有限会社三和開発が行う宅地造成に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 西八日町遺跡1 (I N C I) 佐久市岩村田 2152-13 外
- 4 調査期間及び面積 発掘作業：昭和58年5月8日～8月31日
整理作業：昭和58年9月1日～9月16日
平成30年4月23日～令和4年3月31日
- 5 発掘作業及び昭和58年9月16日までの整理作業については、原因者負担により実施し、平成30年4月23日～令和4年3月31日の整理作業及び報告書刊行は全額を国庫補助金及び市費の公費により作成した。(平成30年度～令和3年度市内遺跡発掘調査事業)
- 6 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図(1:2,500)、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図(1:5,000)である。
- 7 本書に掲載した遺構図は、平板測量で作成されたものを、図面修正し、Adobe Illustratorでデジタルトレースし作成した。
- 8 遺物実測図は手取り実測を行い、Adobe Illustratorでデジタルトレースし作成した。
- 9 遺構写真は当時の調査団が撮影したカラーポジをスキャニング、モノクロネガをデジタルカメラを用いデュープし、遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshopで補正等を行い使用した。
- 10 本書はAdobe InDesignを用い小林が編集した。
- 11 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略記号は竪穴建物-H(ただし、弥生時代はY中世はTaである)、掘立柱建物-F、土坑-D、溝址-M、ピット-Pである。
- 2 挿図の縮尺は遺構1/80、遺物1/4を基本とする。これ以外のものは挿図中のスケールを参照されたい。
- 3 遺跡の海拔標高については、当時の記録に記載がないため不明である。土層の色調は、標準土色帖を用いたものでなく、個々の調査員の主観に基づく色調である。
- 4 遺物挿図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 5 調査区グリットは任意に設定されており、間隔は3mである。
- 6 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。



- 7 竪穴建物の形態は長軸長と短軸長の差が1割を超えたものを長方形とした。
- 8 竪穴建物の軸は長軸長より計測し、正方形の場合はカマド側を長軸とした。

- 9 遺構・遺物の計測値の () は推定値、<> は残存値、— は不明である。
 10 遺構の時期は弥生時代は小山岳夫の編年を、古墳時代については富沢一明の編年を、奈良・平安時代については聖原編年に準拠した。
 11 挿図中における網掛けは以下の表現である。



目 次

例言・凡例

目 次

第 I 章 発掘調査の経緯	1
第 1 節 調査の経緯	1
第 2 節 調査体制	1
第 II 章 遺跡の立地と環境	3
第 1 節 自然的環境	3
第 2 節 歴史的環境	3
第 3 節 基本層序	5
第 III 章 調査の方法	5
第 1 節 調査の方法	5
遺跡略記号・遺構略記号	5
遺構調査	5
遺構測量	5
写真	5
遺構・遺物の整理等	6
報告書	7
第 2 節 検出遺構・遺物の概要	7
検出遺構	7
出土遺物	7
第 IV 章 遺構と遺物	7
第 1 節 竪穴建物	7
H 1 号竪穴建物 (第 4 図)	7
H 2 号竪穴建物 (第 5 図)	7

H 3 号竖穴建物 (第 6 图)	7
H 4 号竖穴建物 (第 7·8 图)	7
H 5 号竖穴建物 (第 9·10 图)	8
H 6 号竖穴建物 (第 11 图)	8
H 7 号竖穴建物 (第 12 图)	9
H 8 号竖穴建物 (第 13 图)	10
H 9 号竖穴建物 (第 14 图)	12
H 10 号竖穴建物 (第 15 图)	12
H 11 号竖穴建物 (第 16·17 图)	12
H 12 号竖穴建物 (第 18·19 图)	12
H 13 号竖穴建物 (第 20 图)	20
H 14 号竖穴建物 (第 21 图)	22
H 15 号竖穴建物 (第 22 图)	22
H 16 号竖穴建物 (第 23 图)	22
H 17 号竖穴建物 (第 24·25 图)	24
H 18 号竖穴建物 (第 26·27 图)	24
H 19 号竖穴建物 (第 28 图)	24
H 20 号竖穴建物 (第 29·30 图)	27
H 21 号竖穴建物 (第 31 图)	27
H 22 号竖穴建物 (第 32 图)	29
H 23 号竖穴建物 (第 33 图)	29
H 24 号竖穴建物 (第 34 图)	29
H 25 号竖穴建物 (第 35~37 图)	33
H 26 号竖穴建物 (第 38~40 图)	33
H 27 号竖穴建物 (第 41 图)	33
H 28 号竖穴建物 (第 42·43 图)	35
H 29 号竖穴建物 (第 44·45 图)	35
H 30 号竖穴建物 (第 46 图)	35
H 31 号竖穴建物 (第 47 图)	38
H 32 号竖穴建物 (第 48·49 图)	38
H 33 号竖穴建物 (第 50 图)	38
H 34 号竖穴建物 (第 51 图)	38
H 35 号竖穴建物 (第 52 图)	38
H 36 号竖穴建物 (第 53 图)	41
H 37 号竖穴建物 (第 54·55 图)	41
H 38 号竖穴建物 (第 56·57 图)	41
H 39 号竖穴建物 (第 58 图)	41
H 40 号竖穴建物 (第 59 图)	41
H 41 号竖穴建物 (第 60 图)	46
H 42 号竖穴建物 (第 61 图)	46
H 43 号竖穴建物 (第 62 图)	46
H 44 号竖穴建物 (第 63·64 图)	46
H 45 号竖穴建物 (第 65·66 图)	46
H 46 号竖穴建物 (第 67 图)	47
H 47 号竖穴建物 (第 68·69 图)	48
H 48 号竖穴建物 (第 70·71 图)	48

H 49 号竪穴建物 (第 72 図)	48
H 50 号竪穴建物 (第 73・74 図)	48
H 51 号竪穴建物 (第 75 図)	50
H 52 号竪穴建物 (第 76 図)	50
H 53 号竪穴建物 (第 77 図)	52
H 54 号竪穴建物 (第 78・79 図)	52
H 55 号竪穴建物 (第 80 図)	52
H 56 号竪穴建物 (第 81 図)	52
H 57 号竪穴建物 (第 82 図)	52
H 58 号竪穴建物 (第 83 図)	53
H 59 号竪穴建物 (第 84 図)	53
H 60 号竪穴建物 (第 85・86 図)	55
H 61 号竪穴建物 (第 87・88 図)	55
H 62 号竪穴建物 (第 89 図)	55
H 63 号竪穴建物 (第 90 図)	55
H 64 号竪穴建物 (第 91 図)	55
H 66 号竪穴建物 (第 92 図)	58
H 67 号竪穴建物 (第 93 図)	58
H 68 号竪穴建物 (第 94 図)	60
H 69 号竪穴建物 (第 95 図)	61
H 70 号竪穴建物 (第 96 図)	61
H 71 号竪穴建物 (第 97 図)	66
H 72 号竪穴建物 (第 98 図)	66
H 73 号竪穴建物 (第 99 図)	69
H 74 号竪穴建物 (第 100 図)	69
H 75 号竪穴建物 (第 101 図)	71
H 76 号竪穴建物 (第 102 図)	71
H 77 号竪穴建物 (第 103・104 図)	71
H 78 号竪穴建物 (第 105・106 図)	71
H 79 号竪穴建物 (第 107 図)	71
H 80 号竪穴建物 (第 108・109 図)	74
H 81 号竪穴建物 (第 110 図)	74
H 82 号竪穴建物 (第 111 図)	74
H 83 号竪穴建物 (第 112 図)	74
H 84 号竪穴建物 (第 113 図)	74
H 85 号竪穴建物 (第 114・115 図)	77
H 86 号竪穴建物 (第 116 図)	82
H 87 号竪穴建物 (第 117・118 図)	82
H 88 号竪穴建物 (第 119・120 図)	82
H 89 号竪穴建物 (第 121 図)	82
H 90 号竪穴建物 (第 122 図)	82
H 91 号竪穴建物 (第 123 図)	82
H 92 号竪穴建物 (第 124・125 図)	85
H 93 号竪穴建物 (第 126 図)	85
H 94 号竪穴建物 (第 127・128 図)	85
H 95 号竪穴建物 (第 129 図)	85

H 96 号整穴建物 (第 130 图)	85
H 97 号整穴建物 (第 131 图)	88
H 98 号整穴建物 (第 132 图)	88
H 99 号整穴建物 (第 133 图)	88
H 100 号整穴建物 (第 134 图)	90
H 101 号整穴建物 (第 135 图)	90
H 102 号整穴建物 (第 136 图)	90
H 103 号整穴建物 (第 137·138 图)	91
H 104 号整穴建物 (第 139 图)	91
H 105 号整穴建物 (第 140·141 图)	92
H 106 号整穴建物 (第 142 图)	93
H 107 号整穴建物 (第 143 图)	93
H 108 号整穴建物 (第 144·145 图)	94
H 109 号整穴建物 (第 146 图)	94
H 110 号整穴建物 (第 147 图)	95
H 111 号整穴建物 (第 148·149 图)	95
H 112 号整穴建物 (第 150 图)	96
H 113 号整穴建物 (第 151 图)	96
H 114 号整穴建物 (第 152 图)	97
H 115 号整穴建物 (第 153·154 图)	97
H 116 号整穴建物 (第 155 图)	98
H 117 号整穴建物 (第 156·157 图)	100
H 118 号整穴建物 (第 158 图)	100
H 119 号整穴建物 (第 159 图)	100
H 120 号整穴建物 (第 160 图)	100
H 121 号整穴建物 (第 161 图)	100
H 122 号整穴建物 (第 162·163 图)	102
H 123 号整穴建物 (第 164 图)	102
H 124 号整穴建物 (第 165 图)	102
H 125 号整穴建物 (第 166·167·168 图)	103
H 126 号整穴建物 (第 169 图)	105
H 127 号整穴建物 (第 170 图)	105
H 128 号整穴建物 (第 171·172 图)	106
H 129 号整穴建物 (第 173 图)	107
H 130 号整穴建物 (第 174·175 图)	108
H 131 号整穴建物 (第 176 图)	108
H 132 号整穴建物 (第 177·178 图)	109
H 133 号整穴建物 (第 179 图)	109
H 134 号整穴建物 (第 180·181 图)	109
H 135 号整穴建物 (第 182 图)	111
H 136 号整穴建物 (第 183 图)	111
H 137 号整穴建物 (第 184 图)	111
H 138 号整穴建物 (第 185 图)	111
Y 1 号整穴建物 (第 186 图)	111
Y 2 号整穴建物 (第 187 图)	111
Y 3 号整穴建物 (第 188 ~ 191 图)	114

Y 4号竪穴建物(第192図)	114
Y 5号竪穴建物(第193図)	114
Y 6号竪穴建物(第194図)	114
Y 7号竪穴建物(第195図)	116
Ta1号竪穴建物(第196図)	116
Ta2号竪穴建物(第197・198図)	116
Ta3号竪穴建物(第199図)	116
Ta4号竪穴建物(第200図)	116
Ta5号竪穴建物(第201図)	117
第2節 掘立柱建物	118
F 1号掘立柱建物(第202図)	118
F 2号掘立柱建物(第203図)	118
第3節 土坑	118
D 1号土坑～D 11号土坑(第204～214図)	118
第4節 ビット	119
P 1～P 16(第215～216図)	119
第5節 溝址	119
M 7～M 9(第217～219図)	119
第6節 遺構外出土遺物	119
縄文土器(第220図)	119
弥生土器(第220図)	122
土師器(第220～222図)	122
須恵器(第222～223図)	122
灰釉陶器、緑釉陶器、青磁(第223図)	122
土製品(第223図)	122
石器、石製品(第223～224図)	122
金属器・金属製品(第224図)	124
第V章 まとめ	124
第1節 弥生時代	124
前期	124
中期前半	126
中期後半	128
後期	128
第2節 古代	130
引用・参考文献	142
表	197
写真図版	285
報告書抄録	
奥付	

第I章 発掘調査の経緯

第1節 調査の経緯

昭和58年2月、有限会社三和開発により岩村田遺跡群西八日町遺跡内で宅地造成を行う目的で、佐久市農業委員会に農地転用の申請が出された。農業委員会で承認され、同年3月県知事より許可を受けた。市教委では農業委員会農地部会の議決一覧表から当該地の埋蔵文化財が破壊されると判断し、三和開発に対し文化財保護法の定めによる埋蔵文化財発掘届の提出を求めた。その後、3月31日に埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施する旨連絡をした。4月1日試掘調査を行った結果、数件の住居址を確認した。4月22日に三和開発、市教委、地元研究者で協議を行い、4月23日に市教委は三和開発と埋蔵文化財調査委託契約を締結し、5月8日から調査に着手した。7月14日に現場作業期限を7月31日から8月31日に延長する変更契約を締結し、8月31日に現場作業は終了した。その後9月16日まで整理作業を行った。平成30年、31年度市内遺跡発掘調査事業の一環として、整理作業を行い本書を刊行した。

第2節 調査体制

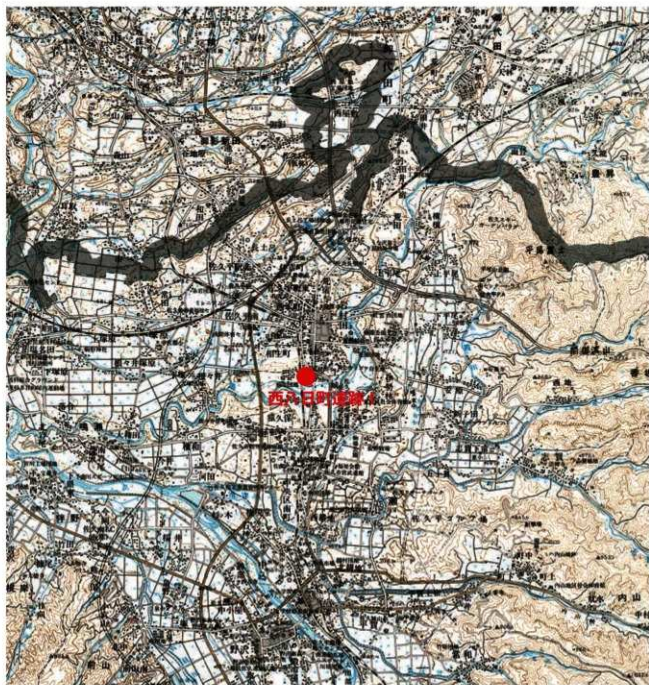
昭和58年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	戸塚平一郎（昭和58年10月退任） 大井昭二（昭和58年11月就任）
事 務 局	社会教育課	次 長	大井昭二（昭和58年10月退任） 森泉郁太郎（昭和58年11月就任）
		課 長	並木 進
		係 長	相沢幸男
		係	関本 功、林 幸彦 細菅健一（昭和58年7月就任）
		社会教育指導員	森泉かよ子、小山岳夫 三村美穂子（昭和58年12月退任） 大井和子（昭和59年1月就任）
調 査 団		団 長	藤沢平治
		調査担当	林 幸彦
		調査主任	小山岳夫
		調査員	井上行雄、大井今朝太、原田政信
		協力者	遠藤しづか、篠原浩江、並木ことみ、早川俊彦 丸山勝子、御園孝子

平成30、令和元・2・3年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤晴樹 吉岡道明（令和3年5月～）
事 務 局	社会教育部	部 長	青木 源（平成30、令和元年度） 三浦一浩（令和2年度） 土屋 孝（令和3年度）
	文化振興課	課 長	小林義夫（平成30年度） 東城 洋（令和元、2年度） 平林照義（令和3年度）

	企画幹	武者新一（平成30年度） 吉田 晃（令和元年度） 岡部政也（令和2年度） 谷津和彦（令和3年度）
文化財調査係	係長	塩川宏幸（平成30年度） 山本秀典（令和元年～）
	係	小林真寿 富沢一明 上原 学 久保浩一郎 岩下 琴（平成30年6月まで） 荻原義春（平成30年7月～平成31年3月まで） 羽毛田卓也（令和元年度～）
	臨時職員 調査員	森泉かよ子（平成30年度） 甘利隆雄 岩松茂年 大矢志穂 小林喜久子



第1図 西八日町遺跡 I の位置 (1 : 50,000)

小林節子 小林敏雄 堀益子 清水律子
 副島充子 田中ひさ子 花岡美津子 細谷秀子
 堀籠滋子 宮川真紀子 山口ひとみ 山村容子
 柳沢孝子 柳澤千賀子 山田叔正 油井満芳

第II章 遺跡の立地と環境

第1節 自然的環境

千曲川上流域の東西幅約6km、長さ約15kmの南北に長い菱形の平野部が佐久平であり、標高は660～740mを測る。行政区分的にはほぼ佐久市に属する。地形地質の成因的には二大別され、旧佐久市の中心部を東西に流れる滑津川を境に著しい差異が認められる。滑津川以南の佐久平は千曲川流域沖積層地帯で標高680m内外の平坦地で、千曲川とその支流の用水を活用した水田地帯である。滑津川以北は千曲川右岸にあたり、北部県境にそびえている浅間火山の堆積物分布地帯で標高700m内外と以南に比べ一段高台をなしている。浅間火山はわが国の火山としては最も新しい三重式成層火山で現在も活動を続けている。佐久平北部はその噴出物に覆われており、噴出物の南縁部は旧岩村田町・中込原にまで及んでいる。西八日町遺跡は旧岩村田町の西南端湯川右岸沿に立地している。

西八日町遺跡付近の地層の最下部層は浅間火山第一次黒斑火山の最活動期の山体を破壊した水蒸気爆発による塚原泥流が山麓南面一帯に流下して、平坦部千曲川沿岸で圧力を減じ溶岩熱泥流の内容物を散在堆積したものである。この塚原泥流は塚原部落・三岡駅付近まで流れ大小100ヶを越す残丘を作っている。これらの残丘は基盤整備以前は現在よりも多数存在しており、古墳や墓地に利用されている例も多い。

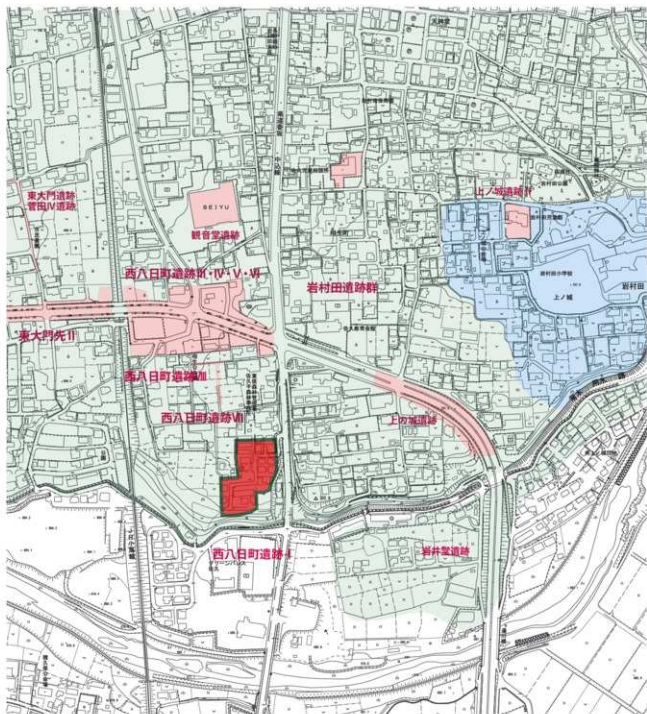
この塚原泥流の堆積上面は不規則な凹凸であったが、黒斑火山の長期に亘る火山活動の火山砕火山灰砂礫が厚く堆積し平準化した。佐久市北部の火山堆積物は全てこれに属し、第一軽石流(P1)第二軽石流(P2)の二期に大別され小諸懐古園や鼻顔稲荷神社付近でその厚い堆積層を見ることが出来る。この軽石流の堆積時期は内部に包含されている自然木炭のC14の測定によって10.650±250YBP 洪積期終期とされている。この堆積層は主として火山灰砂礫浮石によって構成されているため水の浸食に弱く、山麓緩傾斜地では水流洪水に浸食され、御代田・三岡付近では火山地域特有の「田切り地形」が見事に発達し、長土呂・小田井にまで及んでいる。

西八日町遺跡付近は塚原泥流最終末端部分にあたり、その地表面の低所には地下水の湧出、雨水湧水の貯留等による湿地沼沢地も形成されており、若宮神社付近には沼沢状湿地が分布しており、古くから開拓された水田地帯であるといわれている。(1990 佐久埋蔵文化財センター調査報告書第22集 故白倉盛男先生の文書を一部割愛引用)

第2節 歴史的環境

第1節で記述しているように、佐久市北部は浅間火山の火山堆積物で厚く覆われているため、11,000年以前の遺跡が発見される可能性は山地部分を除きない。遺跡は浅間火山の堆積物が侵食され形成された田切台地上に立地することから、旧石器時代から縄文時代草創期の古い部分の遺跡が存在したとしても、開発行為に際し露呈したことは今までではなく、縄文時代の集落遺跡が岩村田周辺で発見されたこともない。ただ、未発達した田切や、窪地が低湿化した部分に縄文時代のもと思われる陥穴や、明確な遺構に伴い土器が発見されることから、此の地域は縄文時代には狩場やそれに伴うキャンプ地であったものと思われる。弥生時代前期になると湯川の河岸段丘斜面や段丘縁に、下信濃石遺跡や西八日町遺跡が出現するようになる。佐久地方で最も古く稲作が開始された地域である可能性が高い。しかし、続く中期前半の遺跡が発見されていないことから、水稲栽培が軌道に乗らなかったものと思われる。中期後半になると、北西の久保遺跡、五里田遺跡、西一本柳遺跡、北一本柳遺跡、円正坊遺跡、根々井芝宮遺跡などの遺跡が林立し隆盛する。そ

の隆盛は弥生時代後期まで継続するが、古墳時代前期には急激に衰退してしまう。近年、佐久市北部から群馬県にかけて、弥生時代の人物造形品の出土が相次いでおり、特に後期のものについては、この地域がその発祥ではないかとの推測もされている。また、金属製品の出土も多く、上直路遺跡の銅剣や、北一本柳遺跡の板状鉄斧・鉄剣、五里田遺跡の布巻の鉄剣など貴重な発見が多い。古墳時代5世紀後半になると再び集落規模が拡大し、6世紀には群馬系の多彩な形象埴輪で飾られた、北西の久保遺跡の北西の久保古墳17号墳が出現する。平野部を囲む山地斜面に無数に展開する群集墳が多い佐久地域で、平地に展開する東一本柳古墳群は7世紀後半から8世紀のものである。この古墳群の中の1基から豪華な金銅製の馬具が出土した。古代の公・私牧が多数存在した東信濃においても、名だたる望月牧が存在する佐久地域は滋野氏系の牧経営に長けた豪族が多く、馬に関連した遺物が多い。奈良・平安時代には岩村田よりも北部の長土呂地域に巨大な計画集落が出現するが、西八日町遺跡から和同開珎が、上の城遺跡から神功開寶が、円正坊遺跡から貞観永寶が出土するなど衰退した状況は認められない。鎌倉時代、信濃守護小笠原長清の七男大井朝光が大井荘の



第2図 周辺遺跡分布図

地頭となり、国府と並び称されるほどの賑わいを呈するが、次第に衰退し1484年村上正清により攻められ、落城し町は焼き払われてしまった。江戸時代末に、藤ヶ城が内藤氏により築城される以前から彼の地は上の城と呼ばれており、四隣譚載にも「黒岩陣城の南四丁（約436m）を隔て、上の城といふあり、南北式丁半（約270m）、東西式丁（約220m）、堀かた橋台あり、八日町へ三丁半（約380m）東南岸高く湯川を帯ひたり」とあることから古くから城跡であることは認識されていたようであり、大井氏累世居館の跡との説もある。上の城遺跡Ⅱの発掘調査では上の城に接続するものと思われる溝址が検出されており、現地地形図上でもこれに連なるように北方向に延びる地割が確認できる。

第3節 基本層序

昭和58年当時の調査においては、「標準土色帖」は用いていない。また、基本層序に関する記録類も存在しないため、調査区際の上層図や工事時の地山断面割り写真などから、基本層序を復元した。

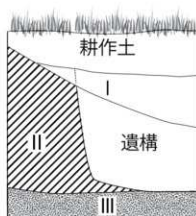
耕作土—20cm～100cmの堆積が認められる。

第Ⅰ層—第Ⅲ層P1の漸移層。

第Ⅱ層—P1。浅間火山第一軽石流の堆積層。

第Ⅲ層—砂礫層。湯川の氾濫によるものと思われる。

遺構は、第Ⅰ層上面から確認可能であるが、検出は第Ⅱ層上面で行われている。



第3図 基本層序模式図

第Ⅲ章 調査の方法

第1節 調査の方法

遺跡名・調査区

昭和58年の調査時点では上の城遺跡群西八日町遺跡であったが、平成15・16年度に実施した旧佐久市の遺跡詳細分布図のデジタル化に伴う、遺跡範囲の見直しにより岩村田遺跡群西八日町遺跡となった。西八日町遺跡における最初の調査であったが、当時は調査回数を遺跡名の末尾には付さなかった。現在は西八日町遺跡Ⅰと表記される。

調査区は南北方向にアルファベット、東西方向に数字を付している。当初付した部分よりも北及び東の箇所については、「 Γ 」を付加して表記されている。分割単位は3mである。

遺跡略記号・遺構略記号

遺跡略記号は以下の決まりに従い付されている。

- アルファベット3文字の先頭は旧大字のローマ字表記の頭文字である。I = 岩村田
- アルファベット3文字の2番目は遺跡名のローマ字表記の頭文字である。N = 西八日
- アルファベット3文字の3番目は遺跡名のローマ字表記の任意の文字である。C = 町のチ
- 末尾のローマ数字は発掘調査の回数を表す。第1次調査 = I

遺構の略記号は以下のとおりである。

H = 古墳時代以降の竪穴建物、Y = 弥生時代の竪穴建物、Ta = 中世の竪穴建物、F = 掘立柱建物、D = 土坑、M = 溝、P = ビット

遺構調査

竪穴建物は均等に4分割し、十字にセクションベルトを残し掘り下げている。カマド部分は掘り下げず、4ないし6分割して住居址覆土とは別に掘り下げている。堀方の調査は行っていない。

遺構測量

縮尺 1/20 で平面図、断面図共に作成しているが、カマドは 1/10 で作成されている。平板測量と簡易造り方測量を併用している。

写真

35 ミリ一眼レフカメラを用い、白黒ネガ、カラーリバーサルで同一カットを撮影している。空中写真は撮影されていない。

遺構・遺物の整理等

調査後遺構番号の付け替えが行われている。遺物洗浄、注記まで終了していた遺物は、セメダインCによ



昭和 47 年 岩村田地域航空写真

り接合作業を行い、エポキシ樹脂を充填剤として復元作業を行った後、手取り実測を行った。図面については各遺構毎にまとめられていたが、修正作業は一切行われていなかったため、手作業による修正作業を行った。遺構写真はカラーポジ、白黒ネガをデジタル一眼レフカメラによりデュープしデジタル化した。遺物写真はデジタル一眼レフカメラを用い撮影した。遺物の保管に際しては、報告書を台帳として、報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分し、コンテナに分類ラベルを貼り取蔵庫に収納した。

報告書

表はMS社製「エクセル」で作成した。遺構・遺物実測はアドビ社製「イラストレーター」によりデジタルトレースを行った。写真・拓本はアドビ社製「フォトショップ」により補正加工を行った。これらのデータをアドビ社製「インデザイン」でレイアウトし、印刷原稿を作成した。

第2節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

検出遺構

竪穴建物 150 軒 掘立柱建物 2 棟 溝址 3 条 土坑 11 基 ビット 16 基

出土遺物

縄文土器（早期）、弥生土器（前期・中期後半・後期）、土師器、須恵器、灰軸陶器、緑軸陶器、磁器、土製品、石器・石製品、鉄器・鉄製品、銅製品、古銭、木器

第IV章 遺構と遺物

第1節 竪穴建物

H 1 号竪穴建物（第 4 図）

F 12 グリッドで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-3°-E に主軸方位をとる。長軸長 3.76 m、短軸長 3.00 m、壁残高 0.4 m、面積 10.25m²の規模である。他遺構との重複関係は有さない。北壁中央部分にカマダが粘土で構築される。ビットは 2 基検出されているが、柱穴は判然としない。

遺物は土師器が出土している。器種的には環、鉢、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 2 号竪穴建物（第 5 図）

E 8 グリッドで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-18°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.8 m、短軸長 4.32 m、壁残高 0.48 m、面積 21.59m²の規模である。H70 に切られ、H69 を切る。北壁中央部分にカマダが構築され、均等配置される 4 基の主柱穴が検出されている。

遺物は土師器と須恵器が出土しているが、土師器 1、4 と須恵器 5 は混入である。器種的には環、鉢、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。

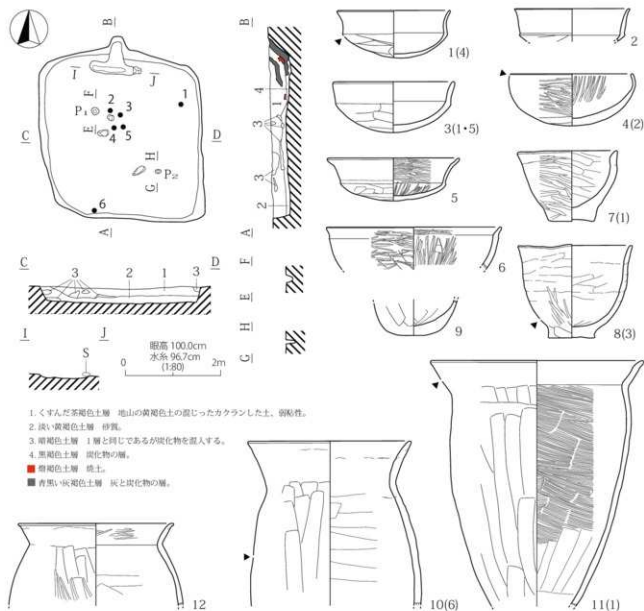
H 3 号竪穴建物（第 6 図）

C 5 グリッドで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-71°-E に主軸方位をとる。長軸長 5.8 m、短軸長 5.36 m、壁残高 0.56 m、面積 30.79m²の規模である。H71 に切られる。北壁中央部分にカマダが構築され、均等配置される 4 基の主柱穴が検出されている。西南隅部分の壁下には周溝が存在する。

遺物は土師器、灰軸陶器、弥生土器が出土しているが、灰軸陶器 3、弥生土器 11 は混入である。器種的には環、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 4 号竪穴建物（第 7・8 図）

C 2 グリッドで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-71°-E に主軸方位をとる。長軸長 6.0 m、短軸長 5.72 m、壁残高 0.56 m、面積 34.18m²の規模である。他遺構との重複関係は有さない。西壁中央部分にカマダが構築され、均等配置される 4 基の主柱穴と、建て替えと思われる柱穴 1 基が検出されている。



第4図 H1号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、石器が出土しているが、須恵器 18、19 は混入である。器種的には環、甕、壺、甗、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

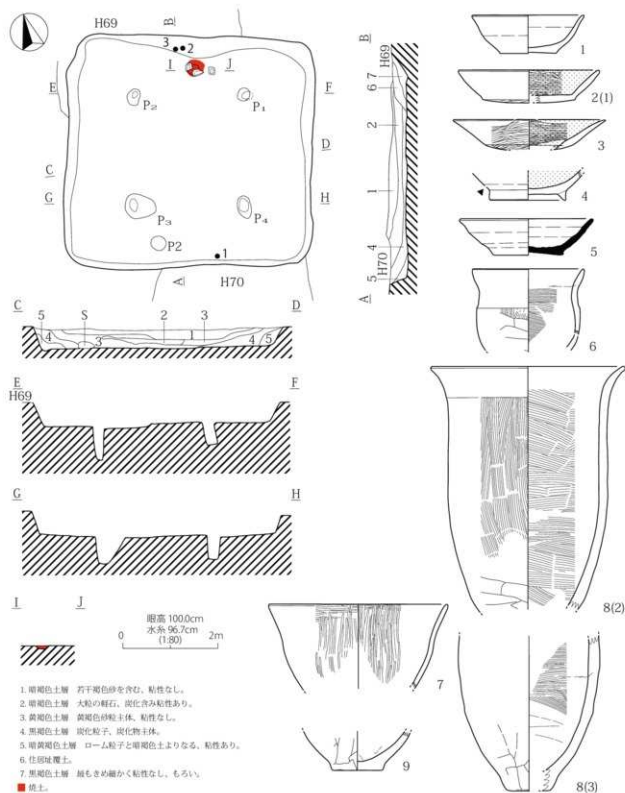
H 5 号竪穴建物 (第 9・10 図)

A 12 グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-9°-E に主軸方位をとる。長軸長 6.92 m、短軸長 6.0 m、壁残高 0.6 m、面積 38.3m²の規模である。H73、F1 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築され、均等配置される 4 基の支柱穴と、カマド東脇に貯蔵穴と思われるピットが検出された。また、床面上には炭化材が散乱していた。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄器が出土しているが、須恵器 14、15、17、18、弥生土器は混入である。器種的には環、高杯、甕、壺、甗、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 6 号竪穴建物 (第 11 図)

C 6 グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-9°-W に主軸方位をとる。長軸長 6.0 m、短軸長 4.84 m、壁残高 0.44 m の規模である。H7、H75、H76、D2、P5 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。14 基検出されたピットの内、P1、P2、P8、P12 が支柱穴と思われる。また、掘方の調査は行われていないが、床面を下げすぎた部分から、火床や壁の一部が検出されており、本址は建て替えが行われたことが推測される。

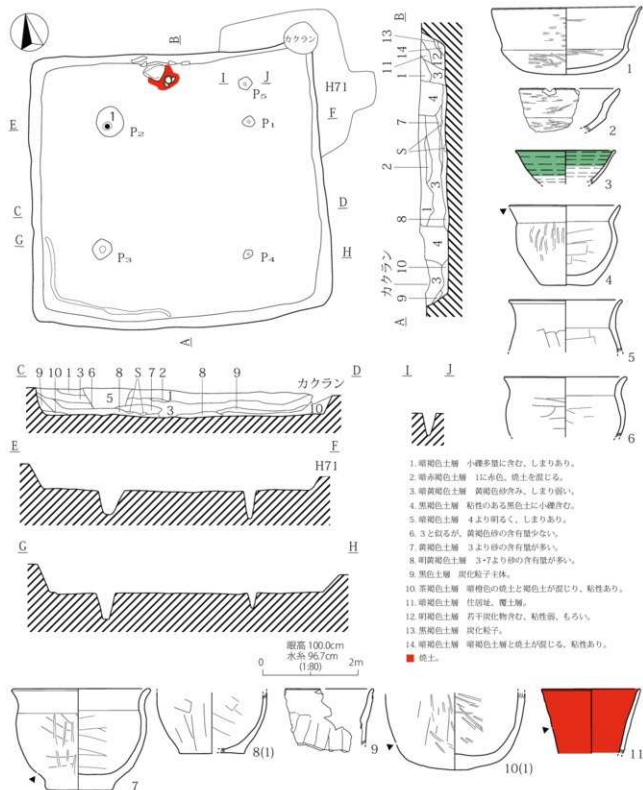


遺物は土師器、石器が出土している。器種的には環、甕、壺、打製石斧、敲石が認められるが、打製石斧は混入品である。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と考えられる。

H7号竪穴建物(第12図)

C5グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、壁残高0.2mの規模である。H6を切り、H76、H81に切られる。ピットは3基検出されたが主柱穴ではない。

遺物は土師器環が2点出土している。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えられる。

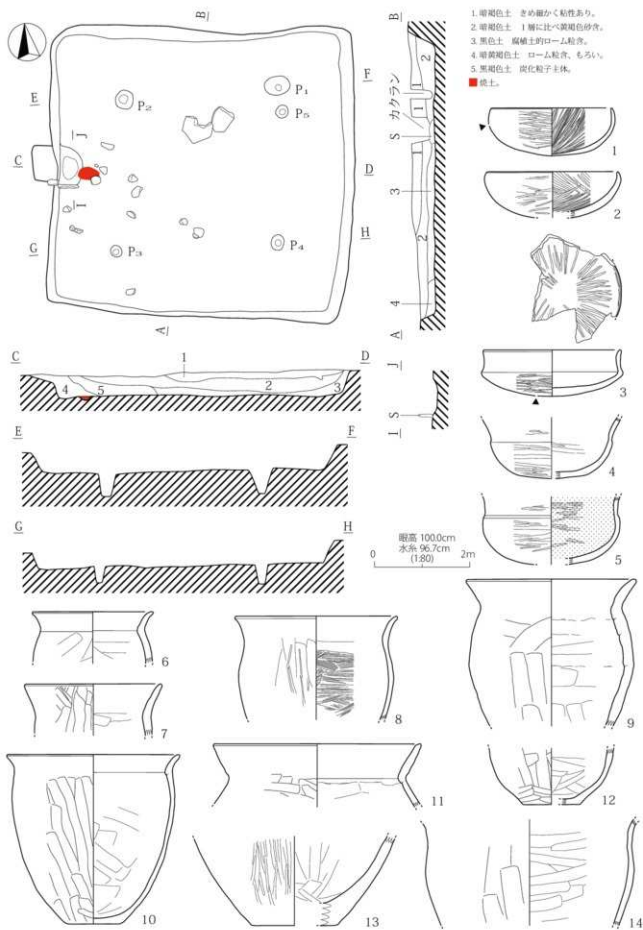


第6図 H3号竪穴建物

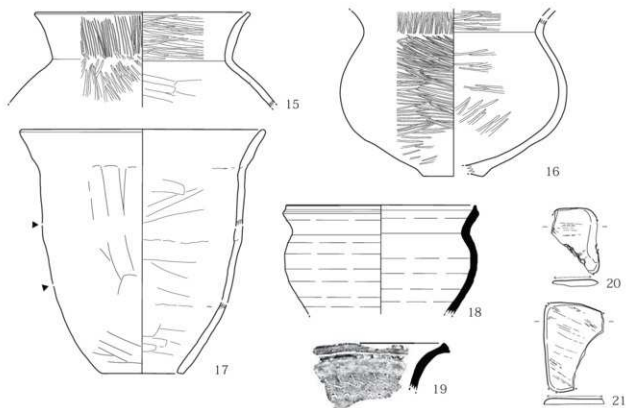
H8号竪穴建物(第13図)

E2グリッドで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-2°-Eに主軸方位をとる。長軸長4.56m、短軸長4.52m、壁残高0.5m、面積17.81㎡の規模である。H9、H78に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等配置される4基の支柱穴検出されている。

遺物は土師器、石製品が出土している。器種的には坏、甕、壺、白玉が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と考えられる。



第7図 H4号壁穴建物(1)



第8図 H4号竪穴建物(2)

H 9号竪穴建物(第14図)

F 3グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、真北に主軸方位をとる。長軸長 6.72 m、短軸長 6.08 m、壁残高 0.56 m、面積 36.58㎡の規模である。H8 を切り、H51、H81、H83、H84 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。9 基検出されたピットの内均等配置される、P1～P4 の 4 基が主柱穴である。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器が出土しているが、須恵器は混入品である。器種的には坏、甕、壺、土器片円盤、磨石、敲石、石錘が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 10号竪穴建物(第15図)

A 1グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-7°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.08 m、短軸長 4.0 m、壁残高 0.52 m、面積 14.96㎡の規模である。H74、H77、H79 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等配置される、P1～P4 の 4 基が主柱穴である。

遺物は土師器、石器が出土している。器種的には坏、甕、磨・敲石が認められるが、土師器甕 4 は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 11号竪穴建物(第16・17図)

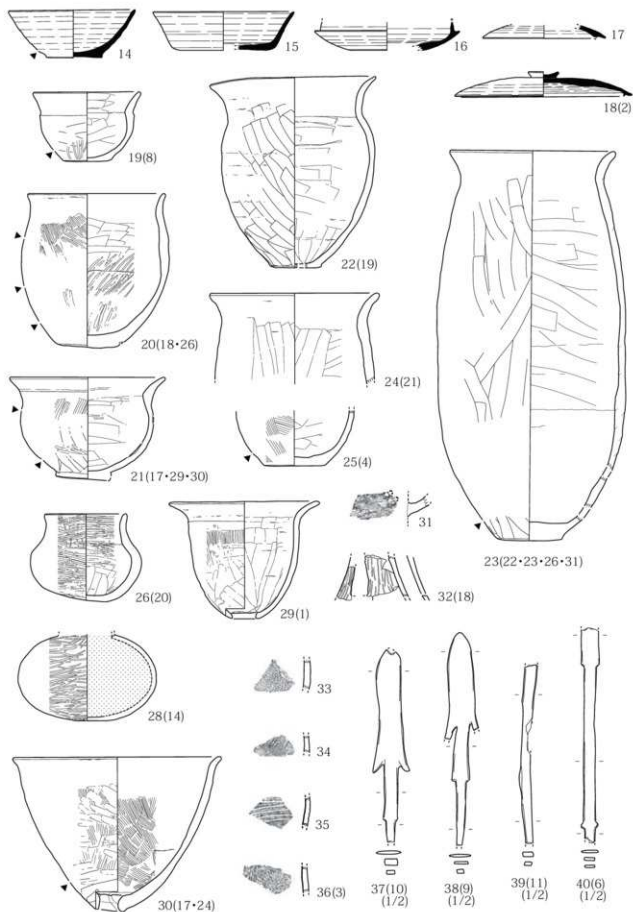
C 1グリットで検出された。平面形状は判然としない。壁残高 0.2 m の規模である。H10、H77～80 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 11 基検出されたが、主柱穴は不明である。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器が出土している。器種的には坏、甕、壺、甗、横瓶、土器片円盤、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

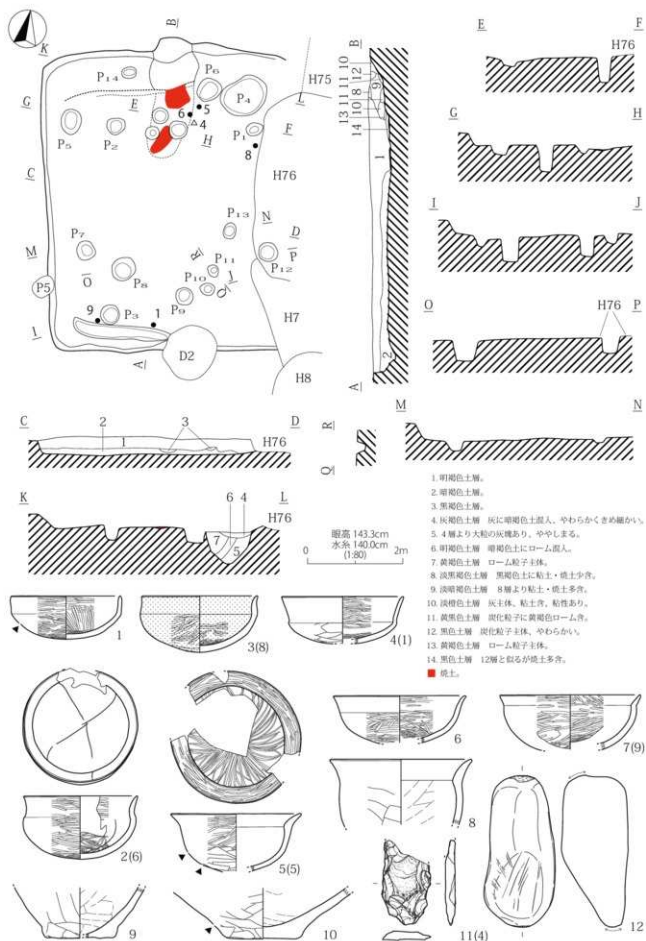
H 12号竪穴建物(第18・19図)

D-2グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈するものと思われる。壁残高 0.52 m の規模である。H80 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが主柱穴である。P5 は出入口施設、D1 は貯蔵穴であろう。壁下には周溝が巡り、ここから 9 条の間仕切りが延びている。

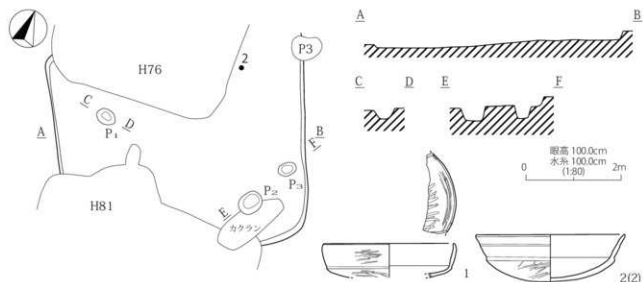
遺物は土師器、須恵器、石器、石製品、鉄器が出土している。器種的には坏、杯蓋、高坏、甕、鉢、壺、



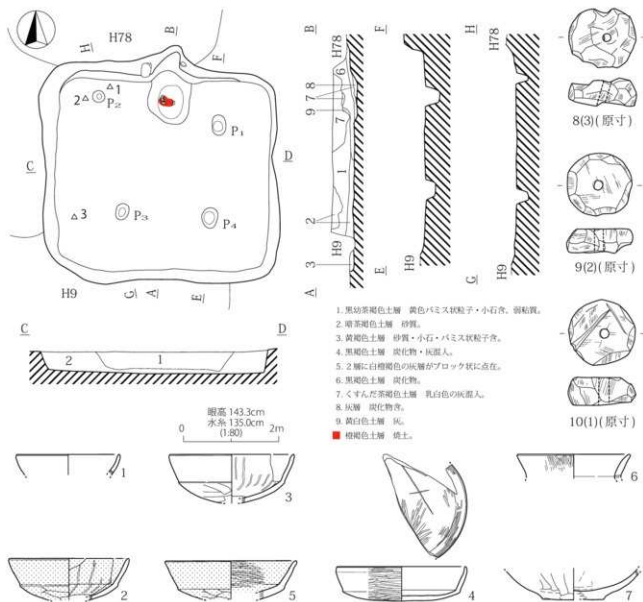
第 10 図 H5 号竪穴建物 (2)



第11図 H6号竈穴建物

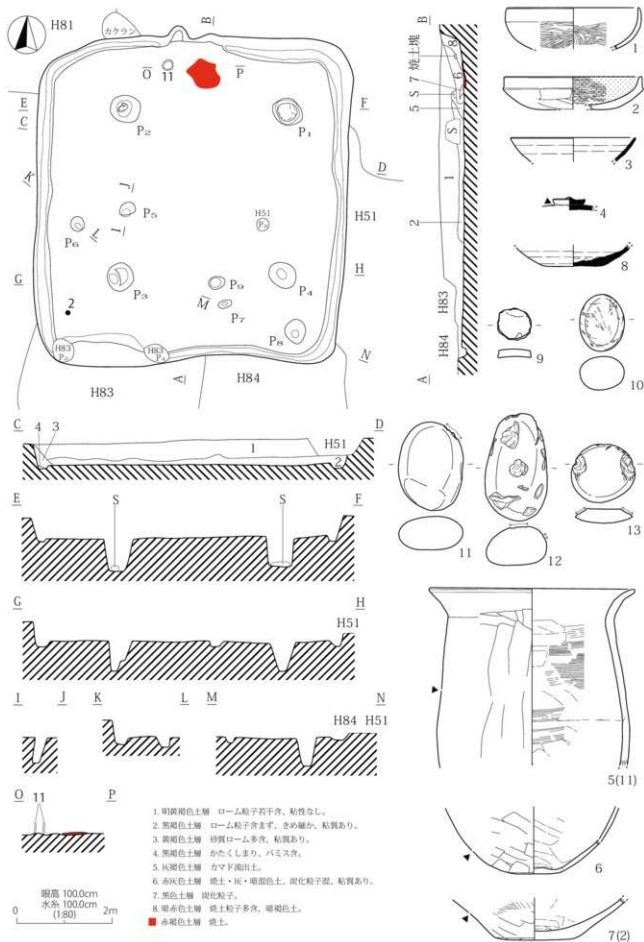


第12図 H7号竪穴建物

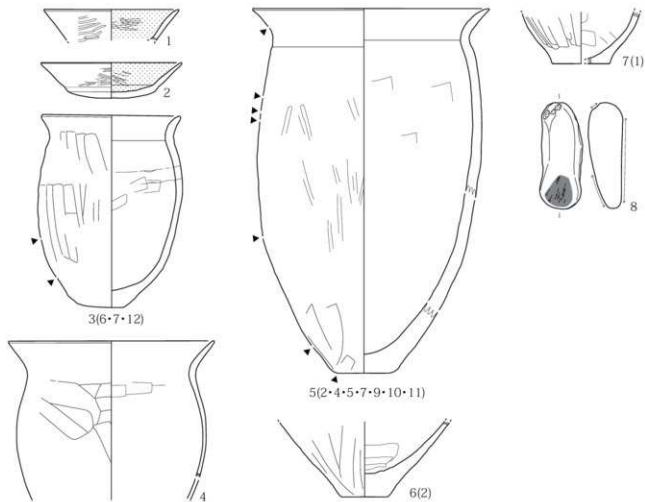
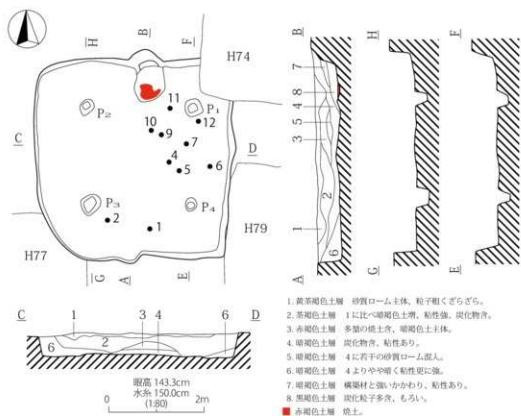


第13図 H8号竪穴建物

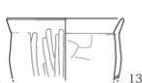
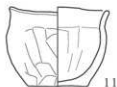
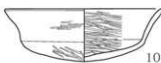
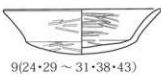
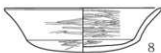
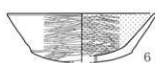
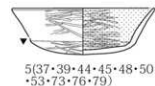
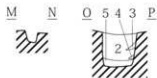
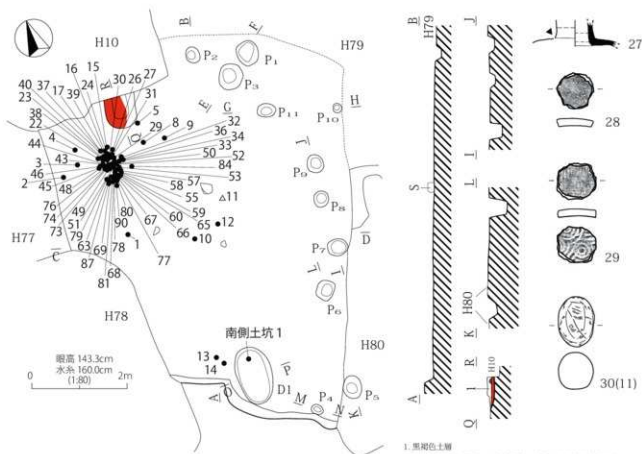
1. 黒幼茶褐色土層 黄色パミス状粒子・小石含む。弱粘質。
2. 暗茶褐色土層 砂質。
3. 黄褐色土層 砂質・小石・パミス状粒子含む。
4. 黒褐色土層 炭化物・灰層入。
5. 2層に白褐色色の灰層がブロック状に点在。
6. 黒褐色土層 炭化物。
7. ぐすんだ茶褐色土層 乳白色の灰層入。
8. 灰層 炭化物含む。
9. 黄白色土層 灰。
10. 橙褐色土層 焼土。



第14図 H9号竪穴建物



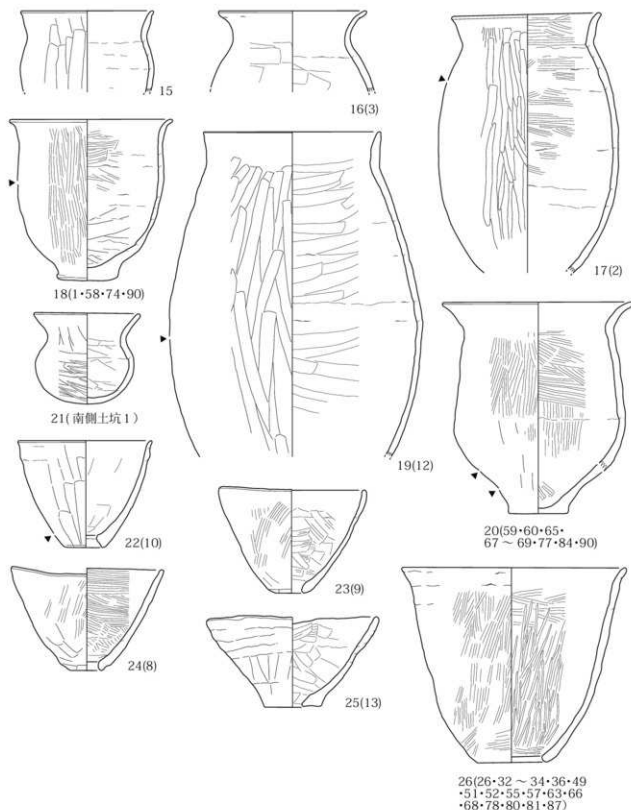
第15図 H10号竪穴建物



1. 黒褐色土層
2. 暗褐色土層 若干ローム粘土含、非常にきめ細かく柔らかい。
3. ローム粘土主体。
4. 砂層のくすねか。
5. 黒褐色土層 ローム粘土含まず、柔らかい、粘性帯びる。

■ 粘土
■ 赤土

第 16 図 H11 号竪穴建物 (1)

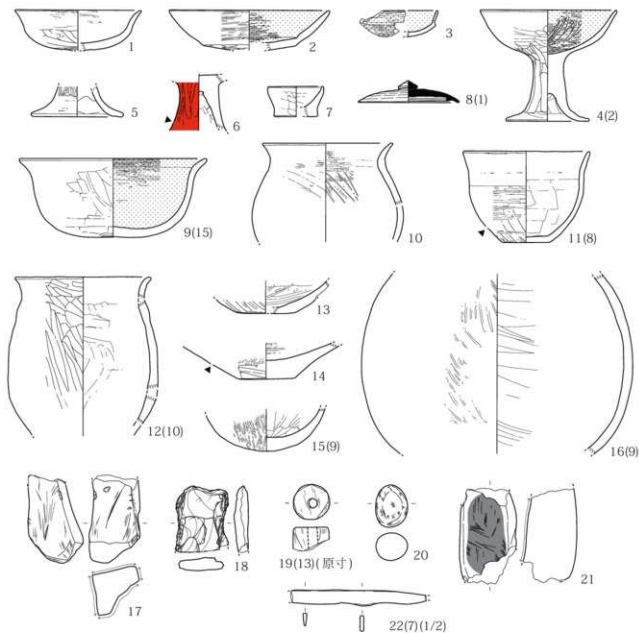


第17図 H11号竪穴建物(2)

ミニチュア土器、砥石、打製石斧、白玉、磨石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀中葉の所産と考えられる。

H 13号竪穴建物(第20図)

F-1グリッドで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-3°-Wに主軸方位をとる。長軸長(5.44)m、短軸長(5.12)m、壁残高0.24mの規模である。H82、H85に切られる。北壁中央部分にカマダが構築される。均等配置される、P1~P4の4基が支柱穴である。



第 19 図 H12 号竪穴建物 (2)

遺物は土師器、須恵器、土製品、石製品、石器が出土している。器種的には坏、高坏、甕、壺、甗、土器片円盤、紡錘車、磨石が認められるが、土師器甕 4 は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 14 号竪穴建物 (第 21 図)

H-2 グリットで検出された。壁残高 0.24 m の規模である。H13, H52 に切られる。2 基検出されたピットは主柱穴と思われる。東壁中央部分の土坑状の掘り込みは本址よりも新しいものである。

遺物は土師器坏が 1 点出土しているが、本址の時期を確定出来るものではない。

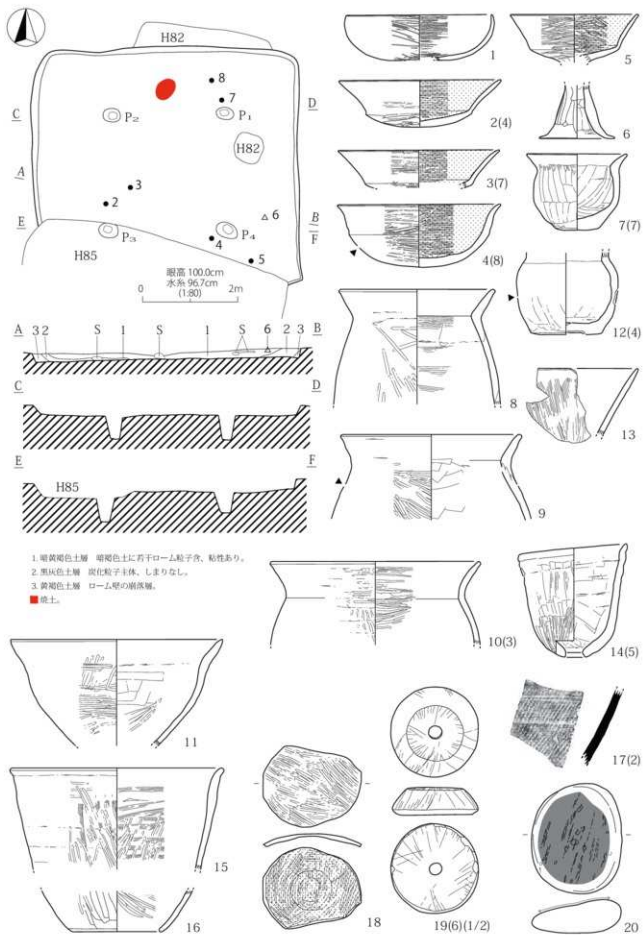
H 15 号竪穴建物 (第 22 図)

F 7 グリットで検出された。壁残高 0.16 m の規模である。ピットが 1 基検出されている。

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。

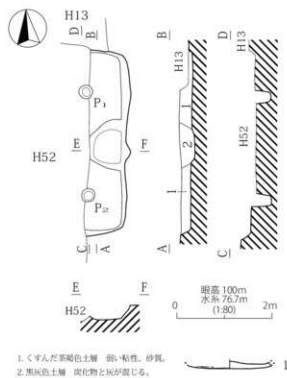
H 16 号竪穴建物 (第 23 図)

G 7 グリットで検出された。壁残高 0.16 m の規模である。H15 を切り、H17, H18 に切られる。ピットが 5 基検出されているが主柱穴は不明である。遺物は土師器、弥生土器が出土しているが、弥生土器は混入

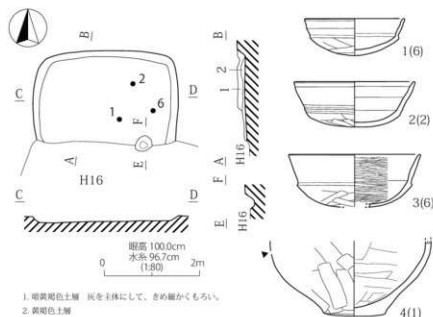


1. 暗黄褐色土層 暗褐色土に若干ローム粒子含、粘性あり。
 2. 黒灰色土層 炭化粒子主体、しまりなし。
 3. 黄褐色土層 ローム殻の剥落層。
 ■ 盛土。

第20図 H13号竪穴建物



第 21 図 H14号竪穴建物



第 22 図 H15号竪穴建物

考えられる。

尚、本址からは炭化した木製の横櫓が出土している。極めて脆弱なため図化は不可能であり、写真のみ掲載した。

H 19号竪穴建物(第 28 図)

J 9グリットで検出された。壁残高 0.52 m の規模である。H20 を切り、H17、H100、M 7 に切られる。均等配置される、P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、甕、鉢、壺、編物石、磨石が認められるが、須恵器環 1、2、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。

である。器種的には坏、鉢、甕、甗が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀前半の所産と考えられる。

H 17号竪穴建物(第 24・25 図)

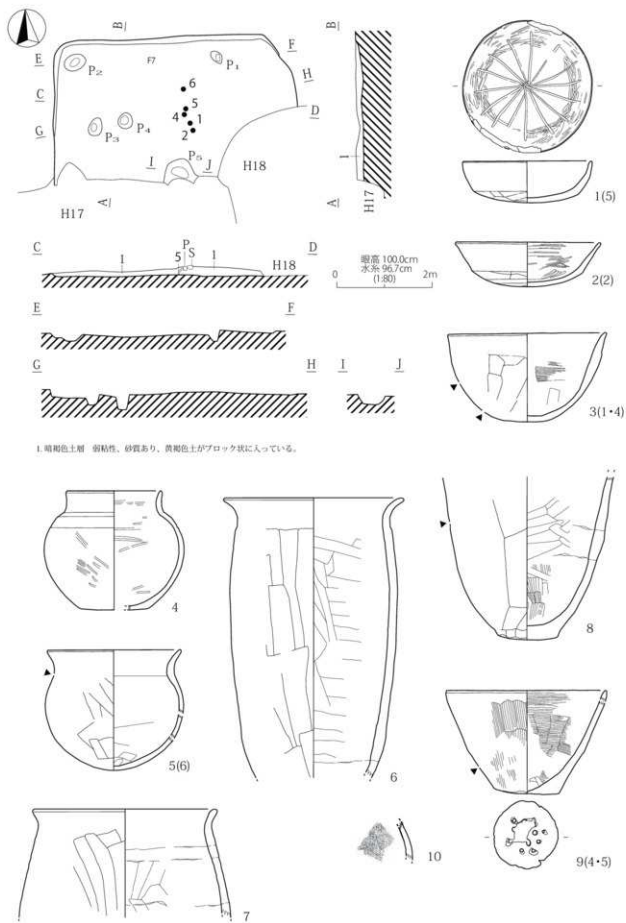
H 7グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-6°-W に主軸方位をとる。長軸長 6.72 m、短軸長 6.48 m、壁残高 0.40 m、面積 39.53 m² の規模である。H16 を切り、H18 に切られる。北壁中央部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築される。均等配置される、P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。北西隅の壁下には周溝が存在する。

遺物は土師器、須恵器、石製品、石器が出土している。器種的には坏、高坏、鉢、甕、壺、甗、砥石、磨製石斧、磨製石鏃、編物石、磨石が認められるが、土師器高坏や鉢 12、甕 13、壺 18、磨製石斧、磨製石鏃は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀中葉の所産と考えられる。

H 18号竪穴建物(第 26・27 図)

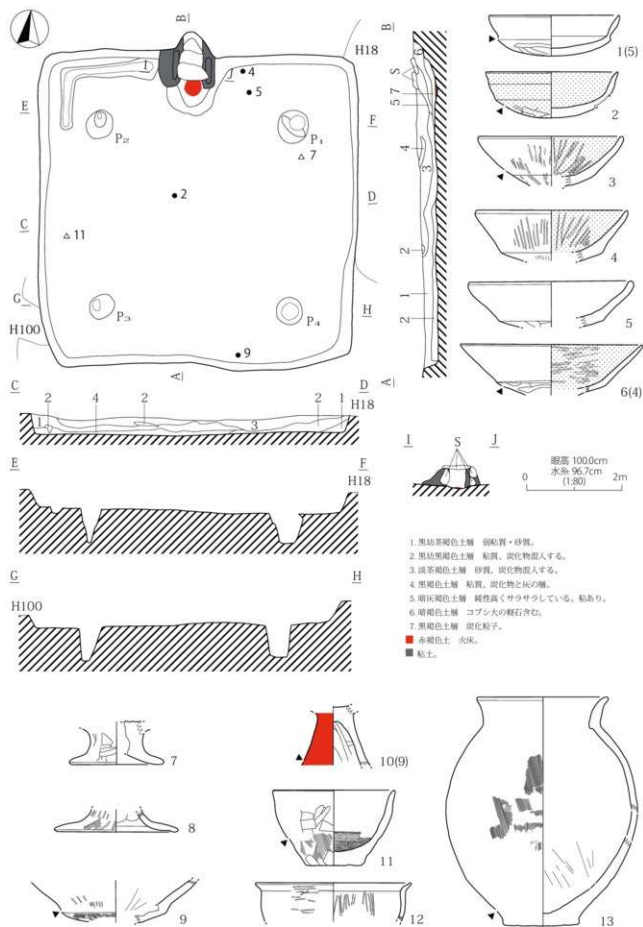
I 7グリットで検出された。隅丸長方形の平面形状を呈し、N-10°-W に主軸方位をとる。長軸長 7.28 m、短軸長 6.26 m、壁残高 0.8 m、面積 35.63 m² の規模である。H16、H17 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。8 基検出されたピットの内、均等配置される、P1 ~ P4 の 4 基が支柱穴である。

遺物は土師器、弥生土器、土製品、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、甕、鉢、壺、土器片円盤、土鏃、編物石、長頸鏃が認められるが、須恵器環 4、5、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀後半の所産と

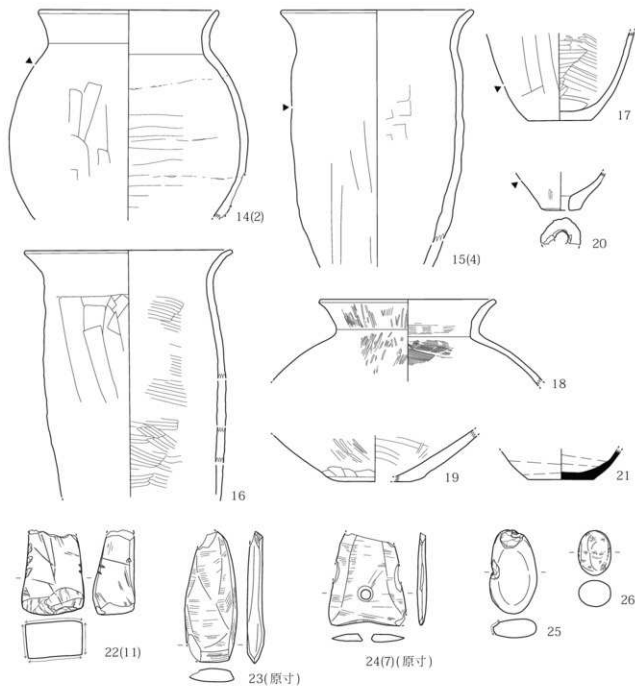


1.暗褐色土層 弱粘性、砂質あり、黄褐色土がブロック状に入っている。

第23図 H16号竪穴建物



第24図 H17号竪穴建物(1)



第25図 H17号竪穴建物(2)

H 20号竪穴建物(第29・30図)

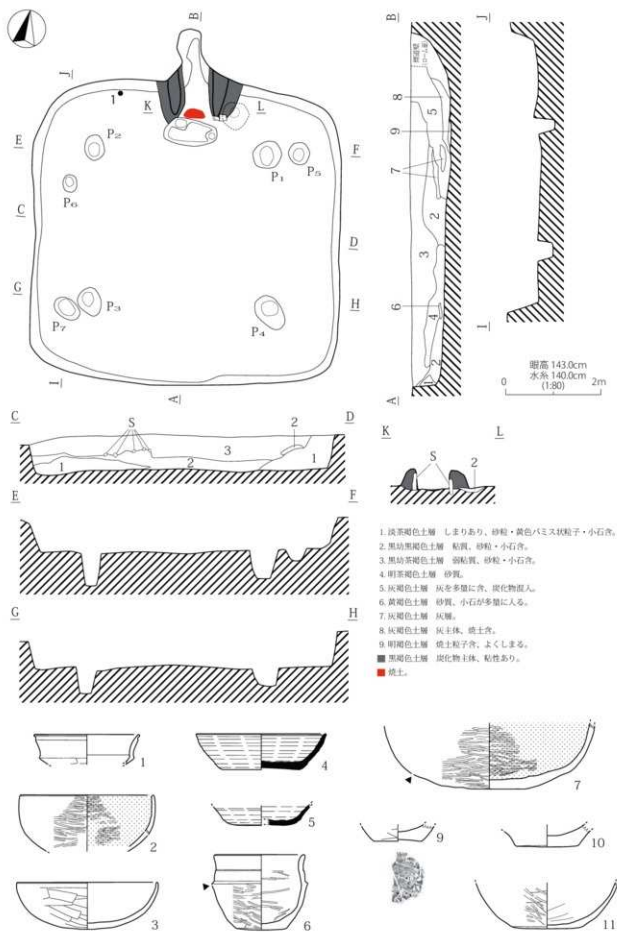
J7グリットで検出された。壁残高0.32mの規模である。H17、H19に切られる。ピットは3基検出されているが、主柱穴は判然としない。残存部分の壁下には周溝が巡る。本址は焼失家屋であり、床面上には炭化材が散乱している。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄滓が出土している。器種的には坏、甕、壺、二次加工のある剥片、打製石斧が認められるが、須恵器、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉から6世紀前葉の所産と考えられる。

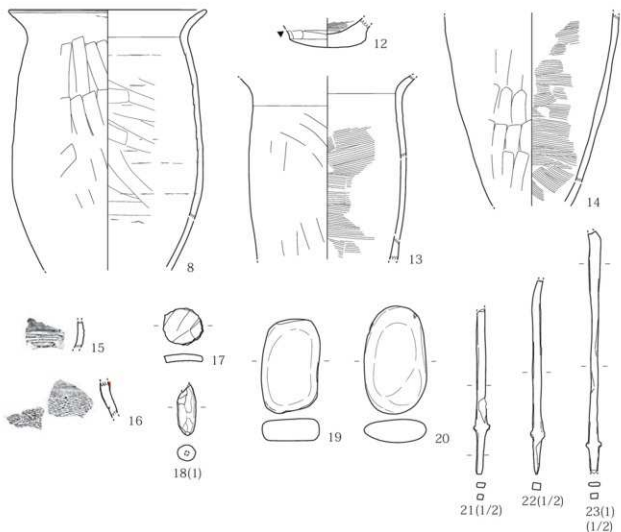
H 21号竪穴建物(第31図)

L7グリットで検出された。長軸長(6.12)m、短軸長(5.84)m、壁残高0.6mの規模である。H43、H66に切られる。均等配置される、P1～P4の4基が主柱穴である。床面中央部分にはベンガラ散布していた。

遺物は土師器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、高坏、坏蓋、甕、壺、甌、打製石斧が認



第 26 図 H18 号竪穴建物 (1)



第27図 H18号竪穴建物(2)

められるが、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と考えられる。

H 22号竪穴建物(第32図)

I 1グリットで検出された。壁残高0.35 mの規模である。H45、H85、H86、H23に切られる。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には甕、壺、甗が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えられる。

H 23号竪穴建物(第33図)

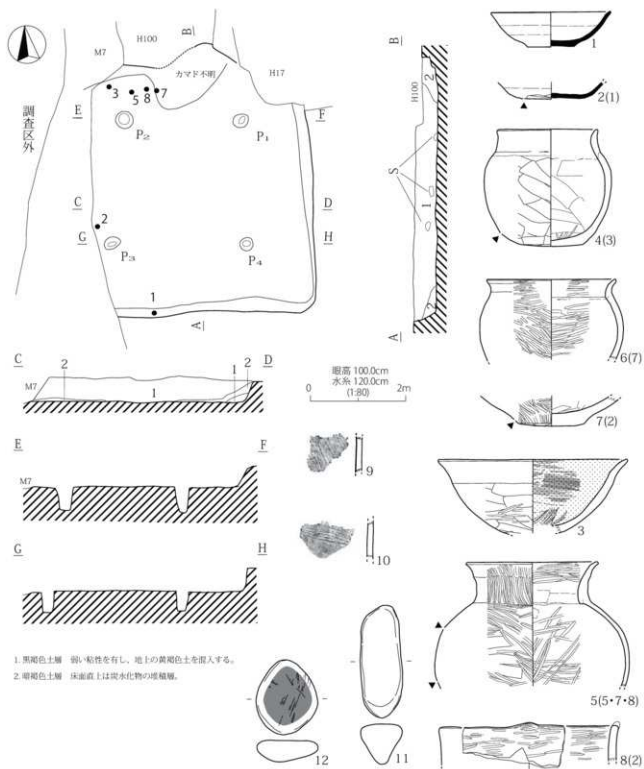
K 1グリットで検出された。N-3°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.4 m、短軸長4.16 m、壁残高0.4 mの規模である。H22を切り、H86に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP 1～P 4の4基のピットが主柱穴である。東壁の南半部分と南壁中央部分の壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には環、甕、壺、甗、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀前半の所産と考えられる。

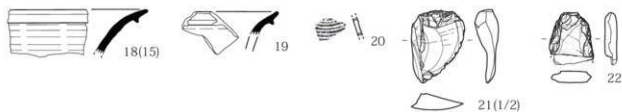
H 24号竪穴建物(第34図)

G 20グリットで検出された。壁残高0.6 mの規模である。Y1を切る。ピットは3基検出されているが、主柱穴は不明である。

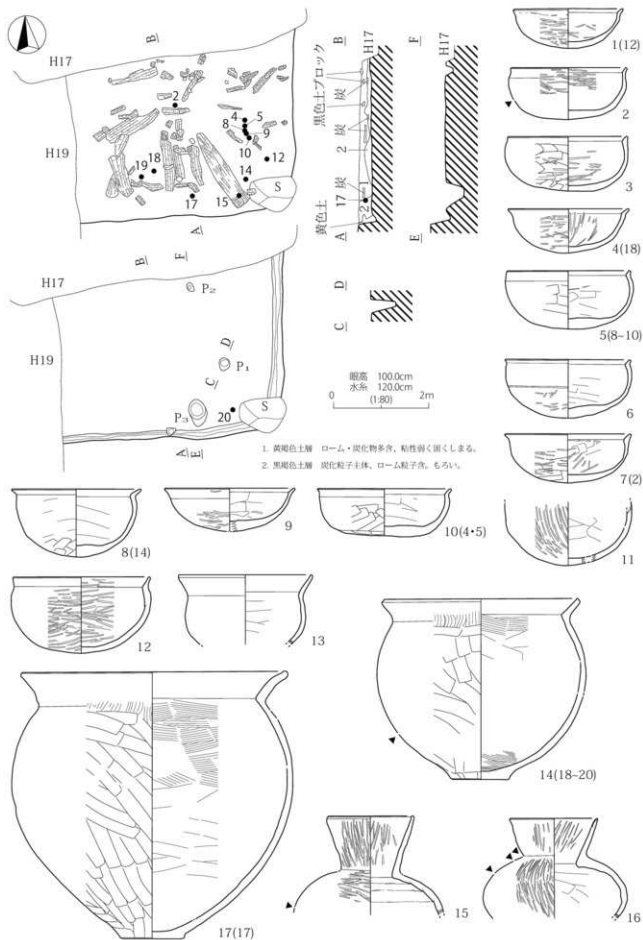
遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には環、碗、高環、高盤、甕、壺、甗が認められるが、土師器碗3、須恵器高盤5・甕10・11、弥生土器は混入品である。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えられる。



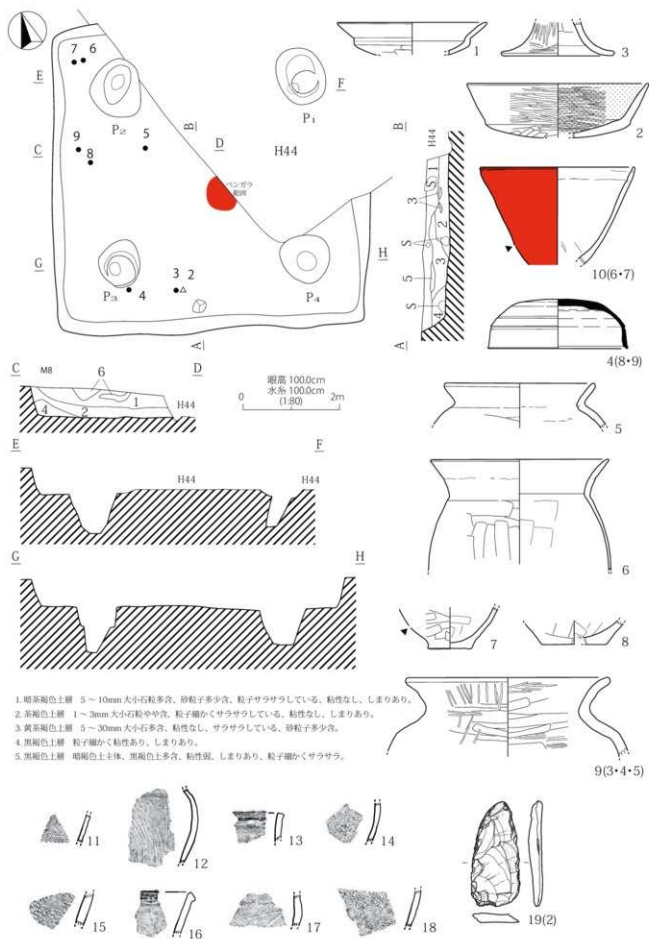
第 28 図 H19 号整穴建物



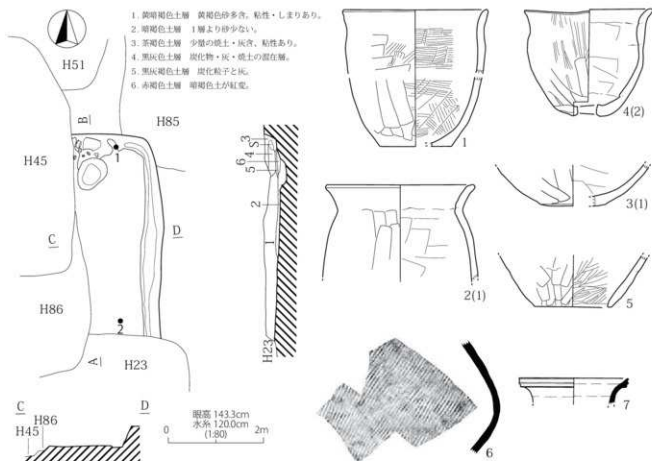
第 30 図 H20 号整穴建物(2)



第29図 H20号整穴建物(1)



第31図 H21号竪穴建物



第32図 H22号竪穴建物

H 25号竪穴建物(第35～37図)

J 20グリッドで検出された。N-30°-Eに主軸方位をとる。不整な隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長7.32m、短軸長7.32m、壁残高0.68m、面積47.4㎡の規模である。H104、H105に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。北・東壁と南壁東半部分の壁下には断続的に周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、土製品が出土しているが、土師器耳皿7、須恵器環8、弥生土器は混入品である。器種的には環、耳皿、鉢、甕、壺、甕、土器片円盤が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀前半の所産と考えられる。

H 26号竪穴建物(第38～40図)

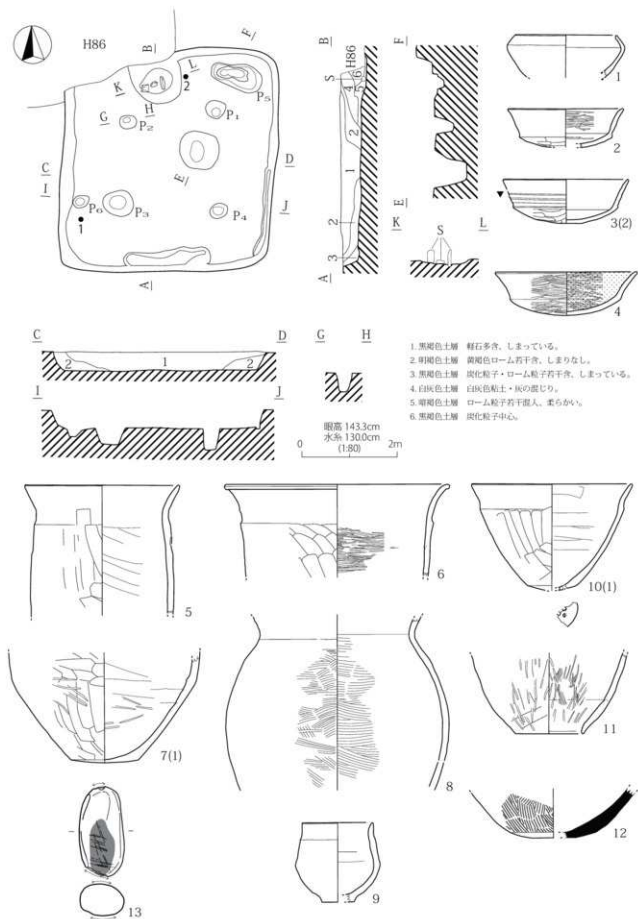
L 22グリッドで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。長軸長6.12m、短軸長5.60m、壁残高0.4m、面積30.0㎡の規模である。H105、Ta2に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。北西隅を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、石製品が出土しているが、土師器環1～3・7～11、13・14・17・18、碗19・20、須恵器環23、有台環24、灯蓋27・28、灰釉陶器碗29、弥生土器は混入品である。器種的には環、高環、有台環、碗、灯蓋、鉢、甕、壺、甕、題、横瓶、ミニチュア土器、凹石、鴛白、編物石が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀前半の所産と考えられる。

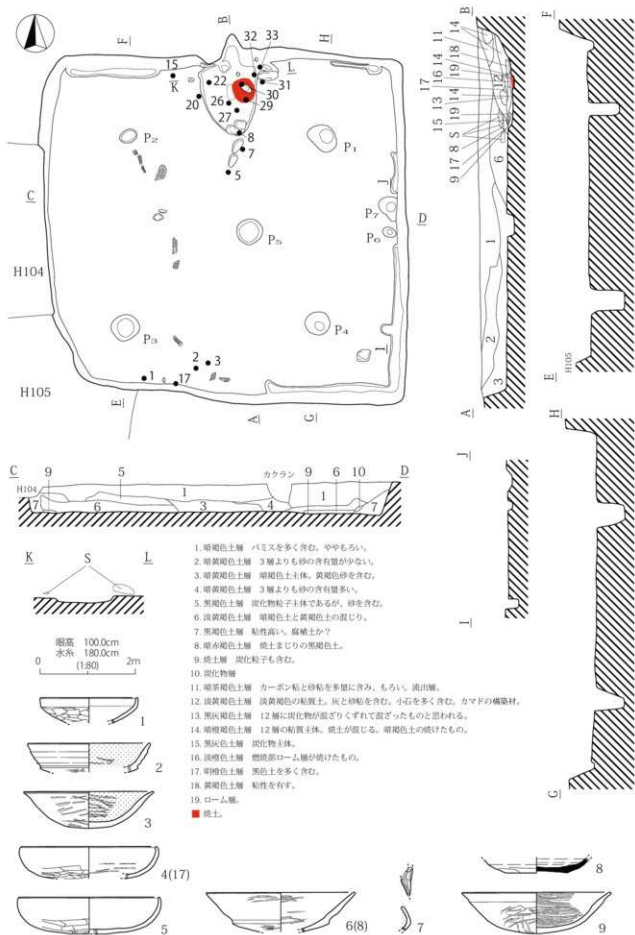
H 27号竪穴建物(第41図)

K 15グリッドで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。長軸長5.6m、短軸長5.6m、壁残高0.4m、面積30.4㎡の規模である。H103を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

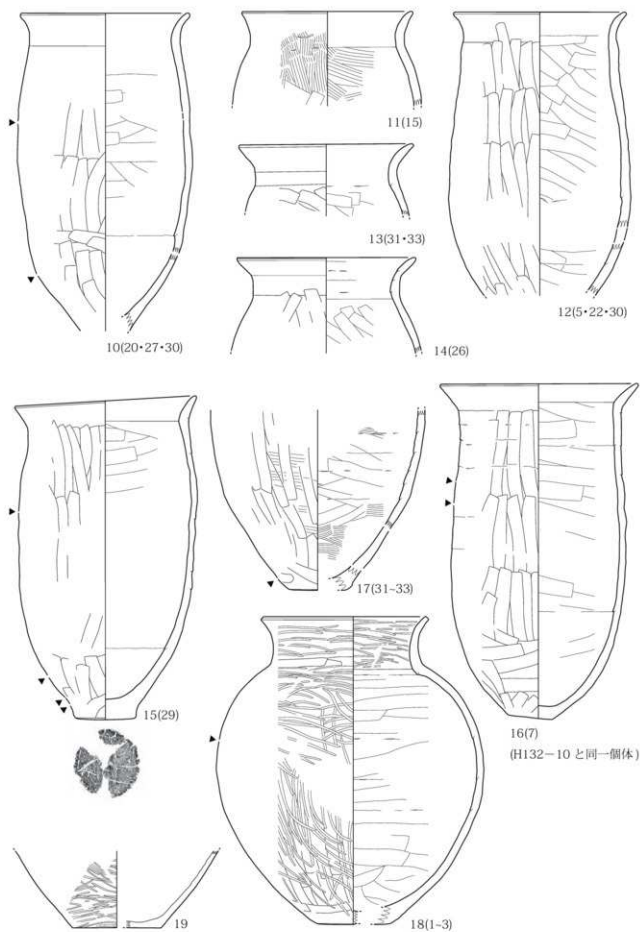
遺物は土師器、弥生土器、石器が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には環、鉢、甕、壺、甕、ミニチュア土器、打製石斧、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と考えら



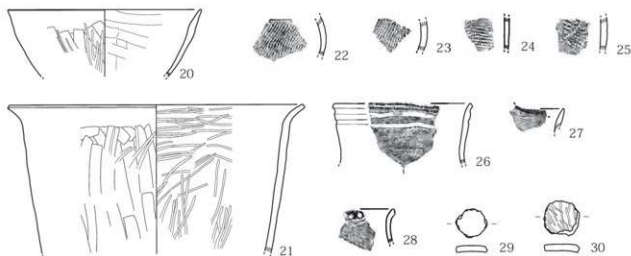
第33図 H23号竪穴建物



第 35 図 H25 号竪穴建物 (1)



第 36 图 H25 号整穴建物 (2)



第 37 図 H25 号竪穴建物 (3)

に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 2 基検出されたが、主柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土しているが、須恵器と弥生土器は混入品である。器種的には甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 31 号竪穴建物 (第 47 図)

O 22 グリットで検出された。N-4°-E に主軸方位をとる。壁残高 0.4 m の規模である。H113・114・116、Ta2 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 1 基検出されたが、主柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土しているが、土師器環 2、須恵器、弥生土器は混入品である。器種的には環、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と考えられる。

H 32 号竪穴建物 (第 48・49 図)

N 11 グリットで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、N-81°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.24 m、短軸長 3.88 m、壁残高 0.68 m、面積 15.12 m² の規模である。H33・120 を切り、M7 に切られる。東壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P 1～P 4 の 4 基のピットが主柱穴である。北壁と北西隅を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土しているが、10 を除く須恵器と土師器環 5・6・7 は混入品である。器種的には環、碗、高環、環蓋、甕、甗、壺、凹石、磨石、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 33 号竪穴建物 (第 50 図)

O 10 グリットで検出された。壁残高 0.18 m の規模である。H32・34・122、F2 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 11 基検出されたが、主柱穴は判然としない。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、弥生土器、石器が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には環、甕、PSSQ、編物石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と考えられる。

H 34 号竪穴建物 (第 51 図)

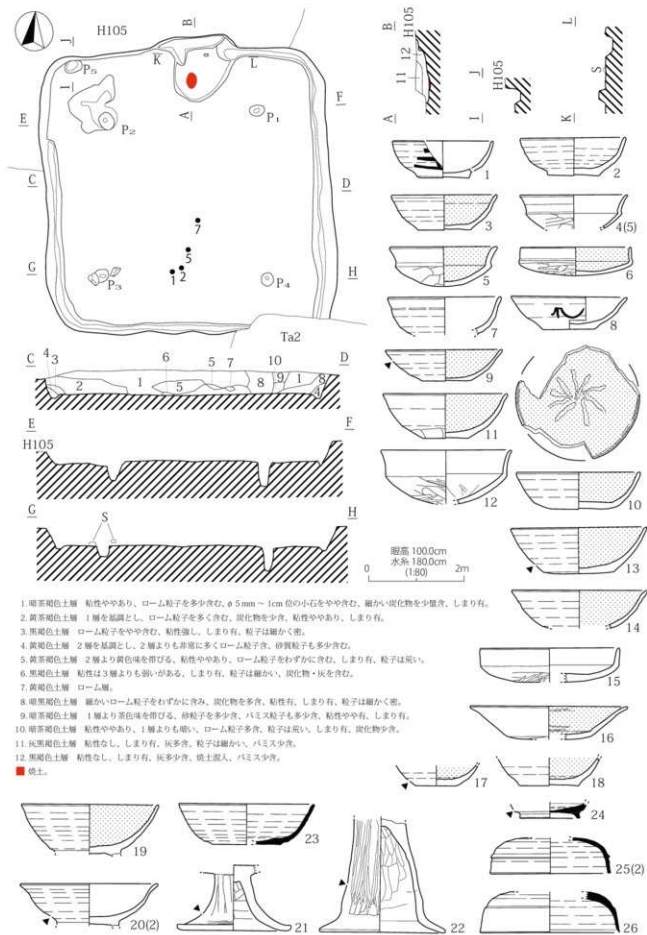
P 10 グリットで検出された。壁残高 0.28 m の規模である。H122、F2、M 7、P 8 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 5 基検出されたが、主柱穴は判然としない。

遺物は土師器、弥生土器が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には甕が認められる。本址の年代は不明である。

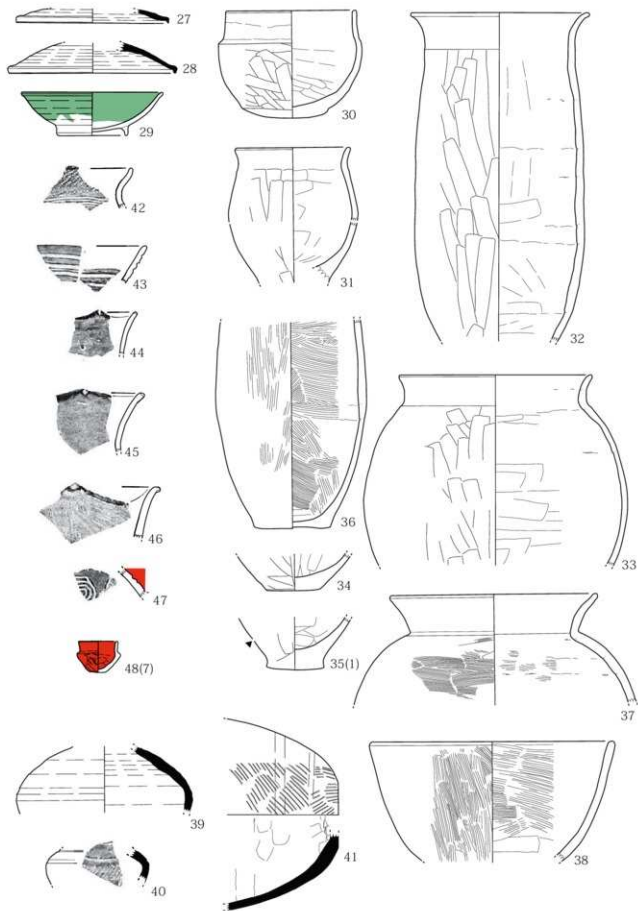
H 35 号竪穴建物 (第 52 図)

P 8 グリットで検出された。壁残高 0.6 m の規模である。H123 に切られる。壁下には周溝が巡る。ピットは 4 基検出された。P1・P4 は主柱穴である。

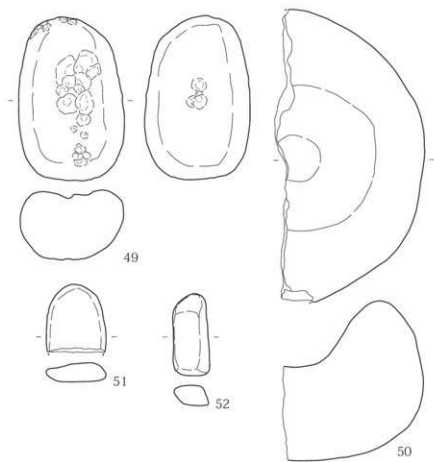
遺物は土師器、土製品が出土している。器種的には環、甕、紡錘車が認められる。出土遺物の特徴から本



第 38 図 H26 号竪穴建物 (1)



第 39 図 H26 号竪穴建物 (2)



第40図 H26号竪穴建物(3)

南壁中央部に方形の張り出を有し、貯蔵穴が掘りこまれている。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品が出土しているが、弥生土器は混入品である。器種的には坏、甕、壺、白玉、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と思われる。

H 38号竪穴建物(第56・57図)

S 23グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.92m、短軸長4.20m、壁残高0.28m、面積18.39㎡の規模である。H38を切り、H31、114、118に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、土製品、石器が出土しているが、土師器坏4、須恵器坏7、土製品(土偶)、弥生土器は混入品である。器種的には坏、高坏、甕、壺、甗、編物石、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は5世紀後葉から6世紀前葉の所産と思われる。

H 39号竪穴建物(第58図)

R 20グリットで検出された。N-11°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長6.08m、短軸長5.60m、壁残高0.36mの規模である。H40を切り、H55、118、124に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器が出土している。器種的には高坏、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀後半の所産と思われる。

H 40号竪穴建物(第59図)

T 20グリットで検出された。N-80°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.76m、短軸長5.6m、壁残高0.24mの規模である。Y6を切り、H39、129に切られる。西壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器、縄文土器、石器が出土しているが、縄文土器は混入品である。器種的には坏、鉢、甕、壺、

址は7世紀前半の所産と思われる。

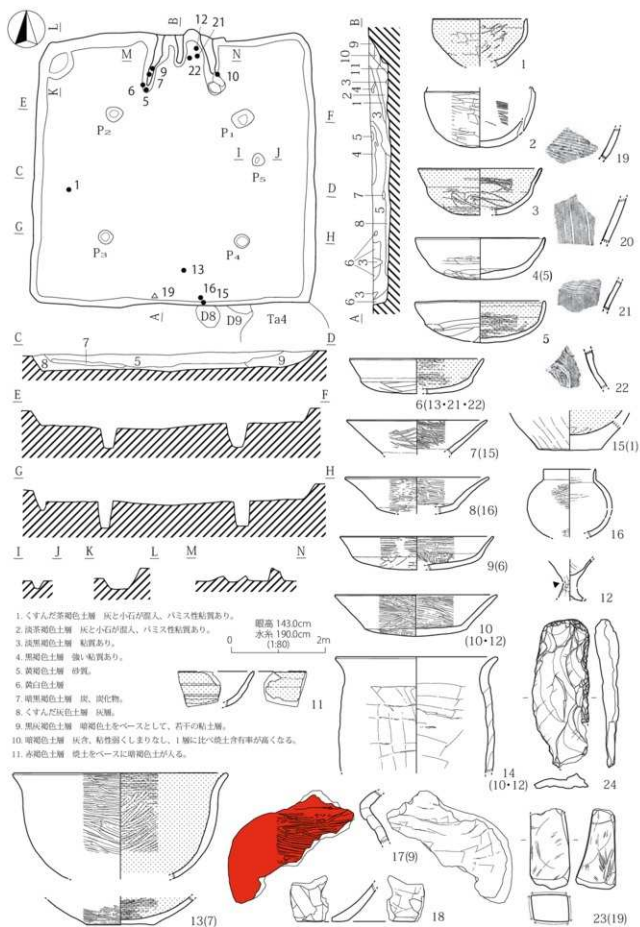
H 36号竪穴建物(第53図)

R 8グリットで検出された。N-32°-Wに主軸方位をとる。壁残高0.4mの規模である。北西隅の床面に焼土が認められたが、カマドではない。4基検出されたビットの内、P1、P2は主柱穴である。

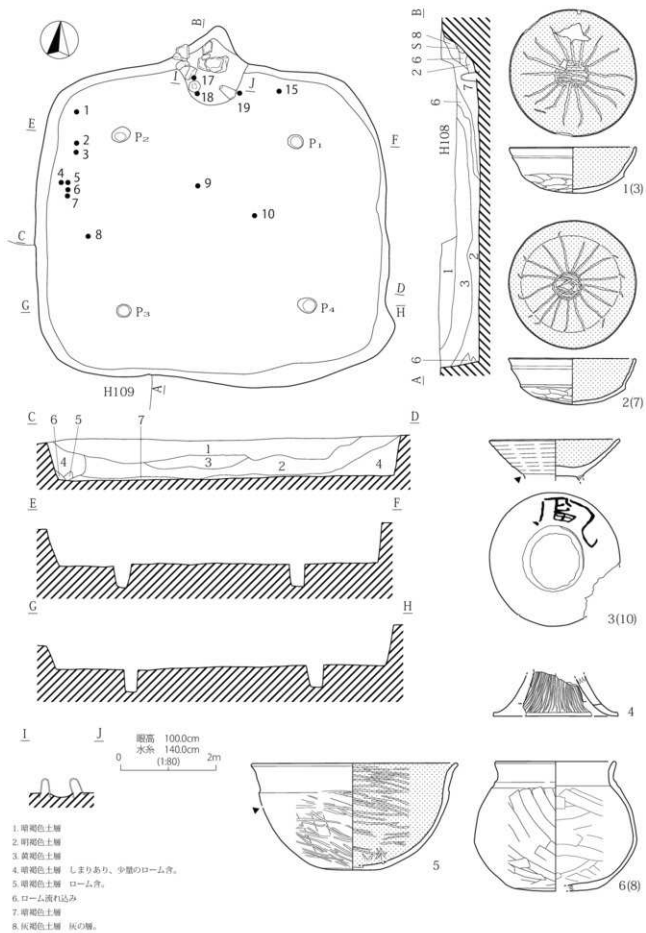
遺物は土師器、須恵器、石器が出土しているが、須恵器は混入品である。器種的には坏、坏蓋、甕、壺、磨・敲石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と思われる。

H 37号竪穴建物(第54・55図)

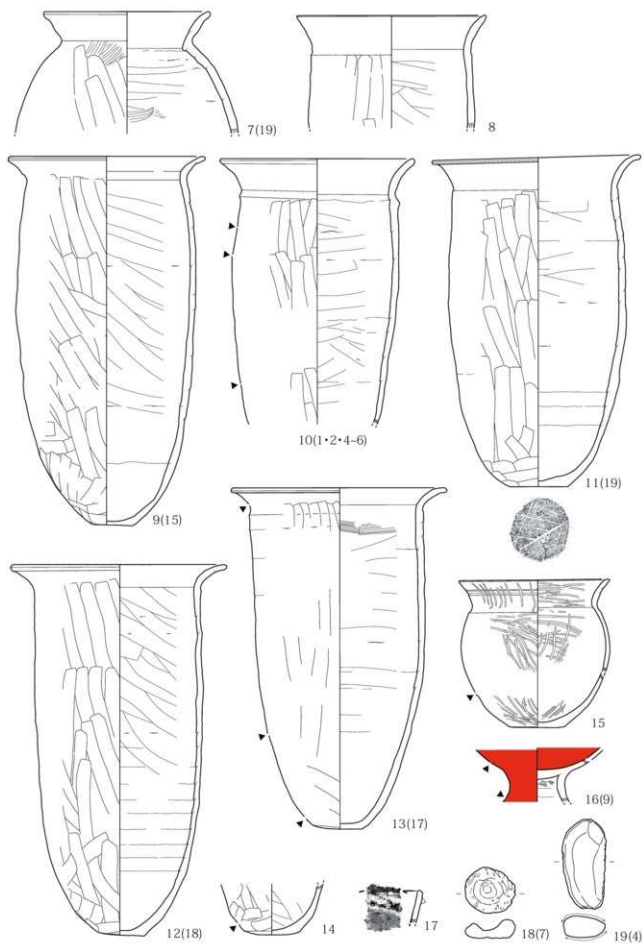
R 23グリットで検出された。N-80°-Wに主軸方位をとる。長軸長8.0m、短軸長6.56m、壁残高0.6m、面積45.3㎡の規模である。H38を切り、H31、114、118に切られる。



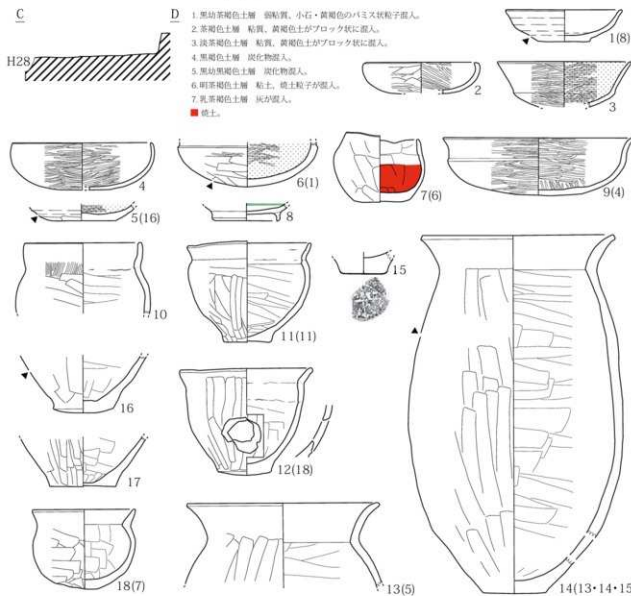
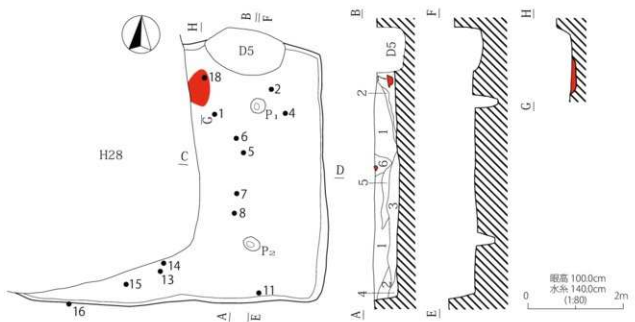
第41図 H27号竪穴建物



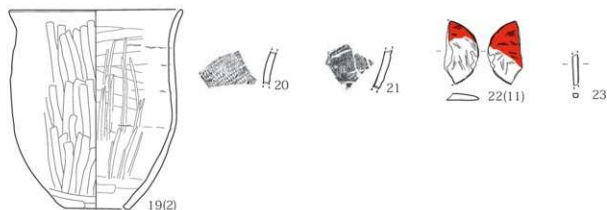
第42図 H28号竪穴建物(1)



第43图 H28号整穴建物(2)



第44図 H29号竪穴建物(1)



第 45 図 H29 号竪穴建物 (2)

使用痕が有る剥片が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と思われる。

H 41 号竪穴建物 (第 60 図)

V 17 グリッドで検出された。N-0°-E に主軸方位をとる。不整形の平面形状を呈し、長軸長 8.0 m、短軸長 7.52 m、壁残高 0.32 m の規模である。H125 ~ 128 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P 1 ~ P 4 の 4 基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器が出土している。器種的には壺、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と思われる。

H 42 号竪穴建物 (第 61 図)

S 14 グリッドで検出された。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 5.36 m、短軸長 5.09 m、壁残高 0.24 m の規模である。H129、130 に切られる。ビットは 2 基検出されたが主柱穴は判然としない。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、石器が出土しているが、土師器 2、3 は混入品である。器種的には壺、甕、甗、台石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀前半の所産と思われる。

H 43 号竪穴建物 (第 62 図)

T 13 グリッドで検出された。N-10°-E に主軸方位をとる。方形の平面形状を呈し、長軸長 5.04 m、短軸長 4.80 m、壁残高 0.4 m、面積 20.03 m² の規模である。H42 を切り、H130、131 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のビットが主柱穴である。カマドから北西隅を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、石器、石製品が出土しているが、須恵器は混入品である。器種的には有台杯、甕、壺、打製石斧、白玉が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と思われる。

H 44 号竪穴建物 (第 63・64 図)

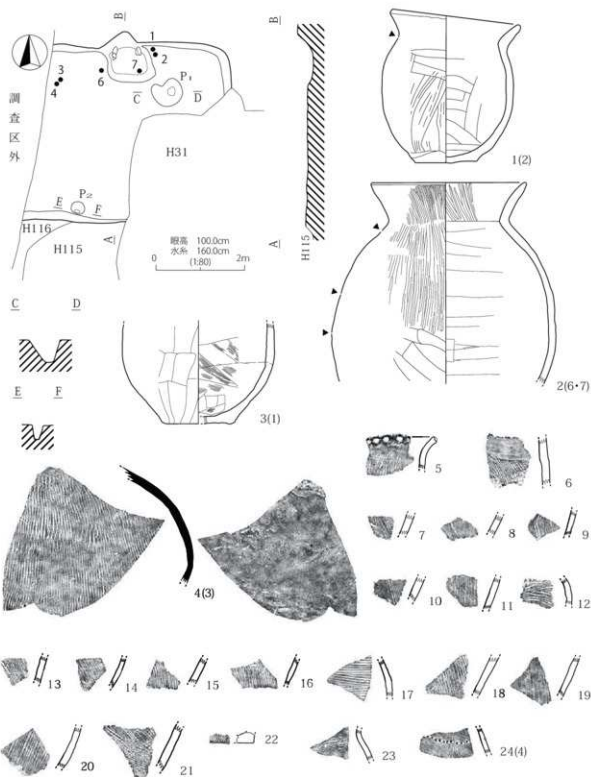
K 5 グリッドで検出された。N-20°-W に主軸方位をとる。方形の平面形状を呈し、長軸長 7.76 m、短軸長 7.76 m、壁残高 0.56 m、面積 50.19 m² の規模である。H21 を切り、H53、63、89 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P6 の 6 基のビットが主柱穴である。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、石製品が出土しているが、土師器 16、18、須恵器 22 は混入品である。器種的には壺、碗、高杯、甕、壺、甗、土器片円盤、丸玉、白玉、台石、編物石、磨石、磨・敲石、石材が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀前半の所産と思われる。

H 45 号竪穴建物 (第 65・66 図)

I 2 グリッドで検出された。N-11°-W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 5.2 m、短軸長 4.72 m、壁残高 0.52 m の規模である。H22 を切り、H83 ~ 87 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、鉄器が出土している。器種的には壺、碗、甕、勾玉、凹石、編物石、長頸鉄が認められる。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀後半の所産と思われる。

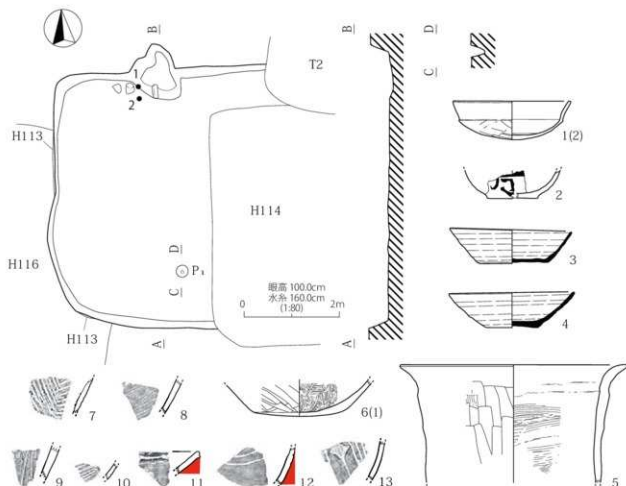


第46図 H30号竪穴建物

H 46号竪穴建物(第67図)

J4グリッドで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.4mの規模である。H53、87に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは2基検出されたが主柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、石製品が出土している。器種的には坏、甕、搦臼が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。



第47図 H31号竪穴建物

H 47号竪穴建物 (第68・69図)

I-1グリッドで検出された。N-7°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.36m、短軸長4.6m、壁残高0.48m、面積24.27㎡の規模である。H52を切り、H47、85、88に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には坏、高坏、鉢、甕、壺、甔、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は7世紀後半の所産と思われる。

H 48号竪穴建物 (第70・71図)

L11グリッドで検出された。N-87°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長5.28m、短軸長5.2m、壁残高0.52m、面積27.09㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

遺物は土師器、縄文土器が出土しているが、縄文土器は混入品である。器種的には坏、ミニチュア土器、鉢、甕、壺、甔が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と思われる。

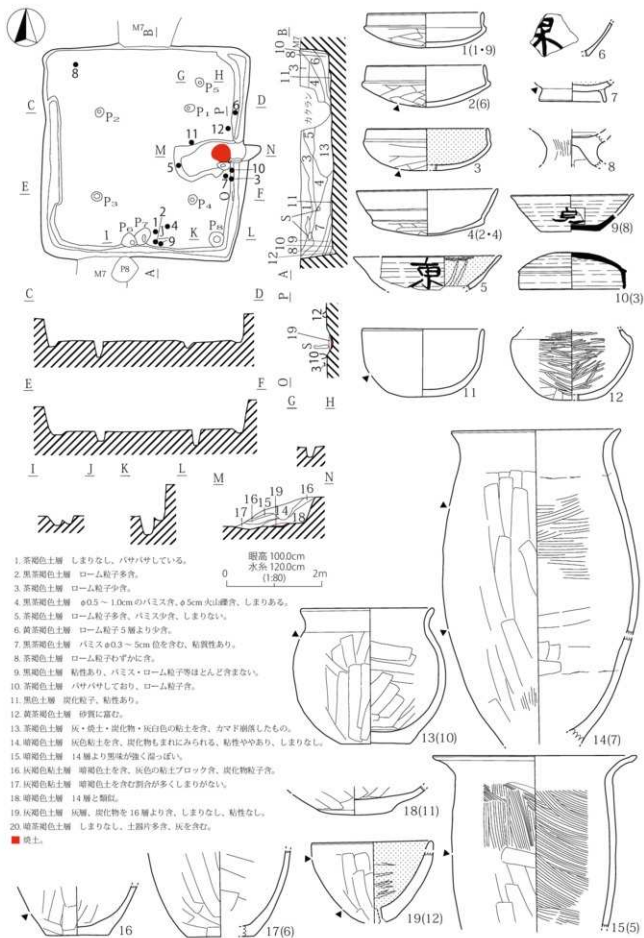
H 49号竪穴建物 (第72図)

A7グリッドで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.08m、短軸長4.08m、壁残高0.52m、面積13.97㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴である。

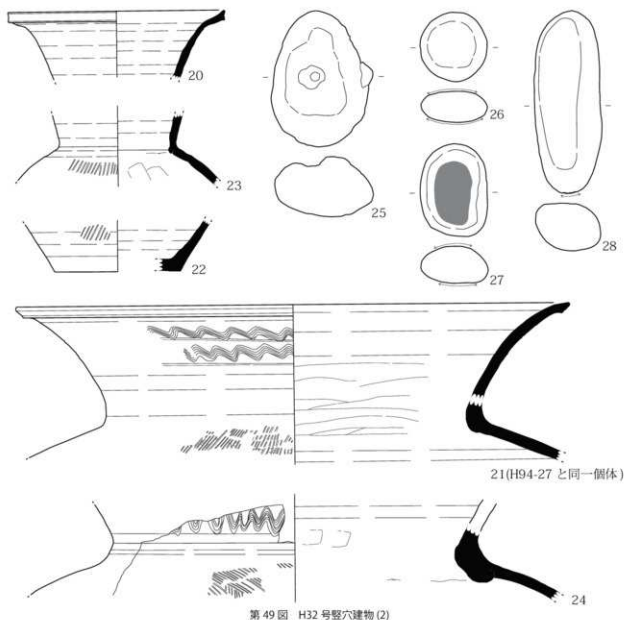
遺物は土師器、須恵器、土製品、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、壺、土器片円盤、刀子、長頸鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 50号竪穴建物 (第73・74図)

D11グリッドで検出された。N-17°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.64



第48図 H32号整穴建物(1)



m、短軸長 4.52 m、壁残高 0.36 m の規模である。Y7 を切り、H92 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1～P4 の 4 基のビットが支柱穴である。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、壺、砥石、敲石、剥片が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 II 四半期の所産と思われる。

H 51 号竪穴建物 (第 75 図)

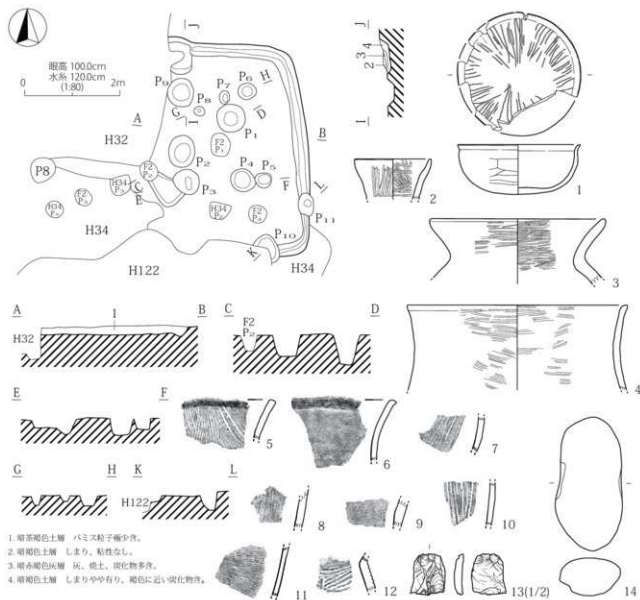
G 2 グリッドで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 6.32 m、短軸長 4.78 m、壁残高 0.36 m の規模である。H9、45 を切り、H83、84 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。P1～P3 の 3 基のビットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、鉄器が出土している。器種的には坏、壺、甕、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 I 四半期の所産と思われる。

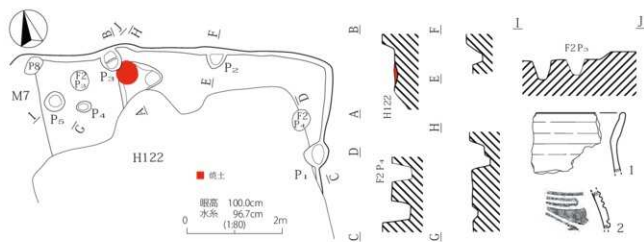
H 52 号竪穴建物 (第 76 図)

G-1 グリッドで検出された。N-15°-E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 5.16 m、短軸長 4.40 m、壁残高 0.36 m、面積 22.63m² の規模である。H9、45 を切り、H83、84 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築され、西南隅とカマド部分を除く壁下には周溝が巡る。均等に配置される P1～P4 の 4 基のビットが支柱穴である。P5 は出入口施設と思われる。

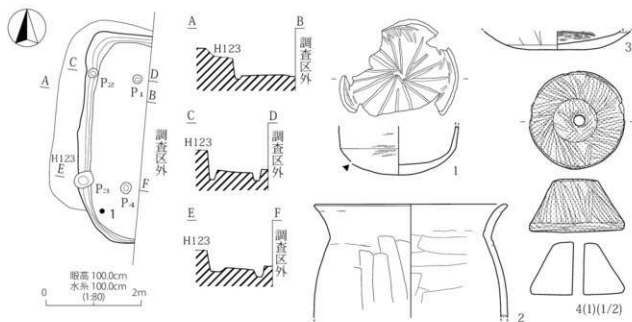
遺物は土師器、須恵器、土製品、石製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、土器片円盤、



第50図 H33号竪穴建物



第51図 H34号竪穴建物



第52図 H35号竪穴建物

丸玉、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 53 号竪穴建物 (第 77 図)

J 4 グリッドで検出された。N-12.5°-E に主軸方向をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.2 m、短軸長 3.92 m、壁残高 0.44 m、面積 12.51 m² の規模である。H44、46 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。P1 ~ P4 の 4 基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、深鉢、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 54 号竪穴建物 (第 78-79 図)

P 18 グリッドで検出された。N-110°-E に主軸方向をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 5.84 m、短軸長 5.44 m、壁残高 0.12 m、面積 30.68 m² の規模である。H109、111 に切られ、H 112、Ta3 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、甗、鉢、砥石、PSSQ、二次加工の有る剥片、刀子、長頸鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅰ四半期の所産と思われる。

H 55 号竪穴建物 (第 80 図)

R 20 グリッドで検出された。N-1.5°-E に主軸方向をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.92 m、短軸長 4.84 m、壁残高 0.32 m、面積 22.51 m² の規模である。H39 を切り、H118 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

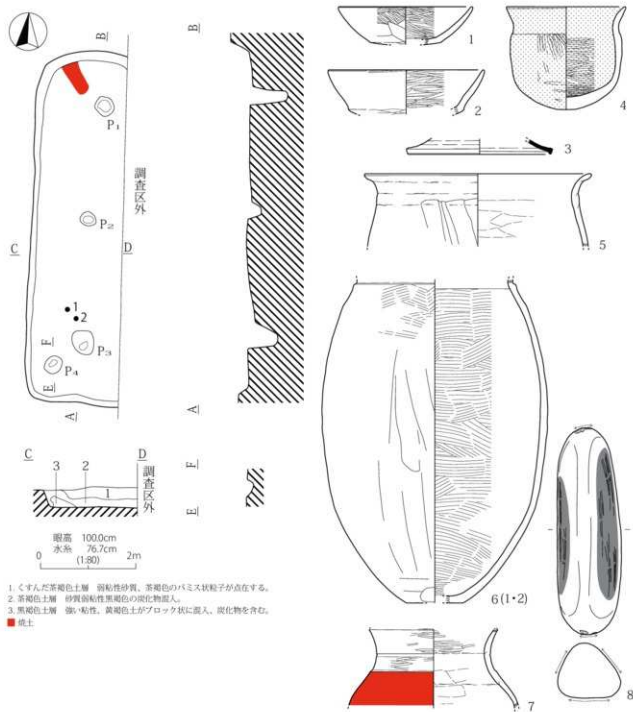
H 56 号竪穴建物 (第 81 図)

T 17 グリッドで検出された。N-2°-W に主軸方向をとる。隅丸方形の平面形状を呈するものと思われる。壁残高 0.52 m の規模である。H41 を切り、H125、126、127 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器武蔵甕、須恵器坏が各 1 点出土している。本址の所産期は不明である。

H 57 号竪穴建物 (第 82 図)

I 18 グリッドで検出された。N-12°-E に主軸方向をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.56 m、短軸長 3.04 m、壁残高 0.36 m、面積 10.70 m² の規模である。H106 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1 ~ P4 の 4 基のビットが主柱穴と思われる。



第53図 H36号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には環、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第II四半期の所産と思われる。

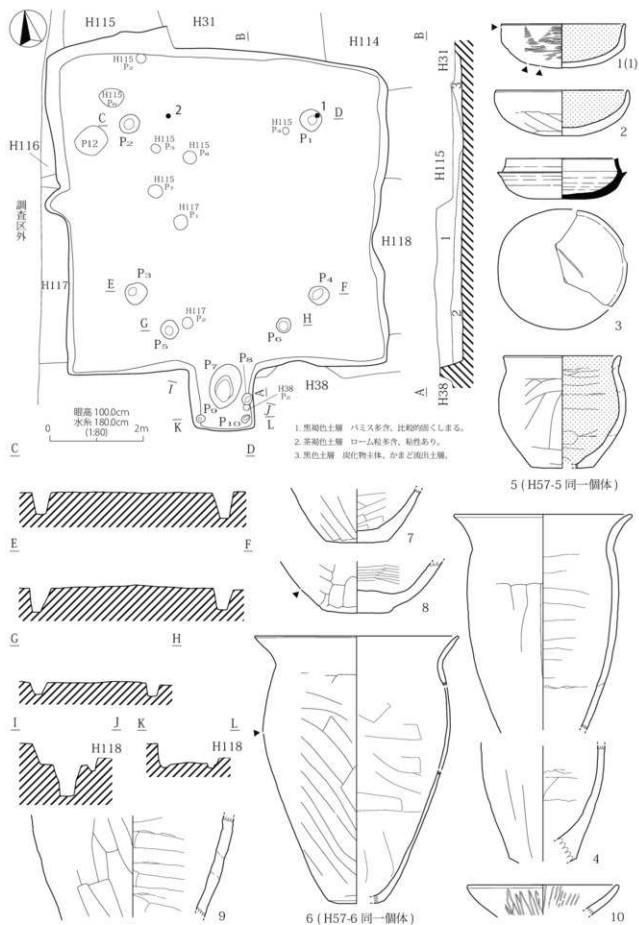
H 58号竪穴建物(第83図)

T'12グリットで検出された。調査区外に延びるため詳細は不明である。壁残高0.16mの規模である。H66に切られる。ピットは検出されていない。

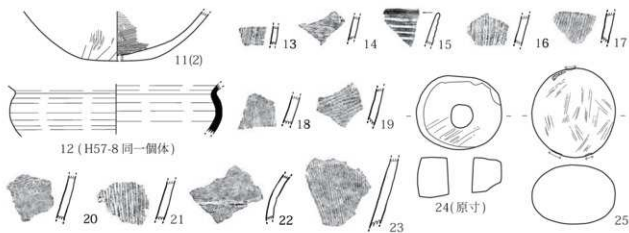
遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には環、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と思われる。

H 59号竪穴建物(第84図)

I'6グリットで検出された。N-9°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.60m、短軸長4.48m、壁残高0.28m、面積19.86㎡の規模である。P7に切られる。北壁中央部分にカマドが構



第 54 図 H37 号整穴建物 (1)



第55図 H37号竪穴建物(2)

築される。P1～P4の4基のビットが主柱穴である。P5は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石製品、鉄製品が出土している。器種的には坏、高坏、甕、砥石、軽石製品、軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 60号竪穴建物(第85・86図)

I'11グリッドで検出された。N-2.5°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.16m、短軸長4.00m、壁残高0.52m、面積14.30㎡の規模である。H67に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、鉢、甕、編物石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 61号竪穴建物(第87・88図)

F'7グリッドで検出された。N-13°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.48m、短軸長4.28m、壁残高0.36m、面積21.68㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。北西隅とカマド部分を除く壁下には周溝が巡る。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、甕、横瓶、砥石、台石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅰ四半期の所産と思われる。

H 62号竪穴建物(第89図)

F'3グリッドで検出された。N-13°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.00m、短軸長3.60m、壁残高0.24m、面積14.29㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置されるP1～P4の4基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、坏蓋、甕、砥石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

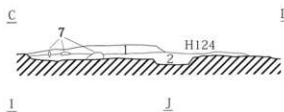
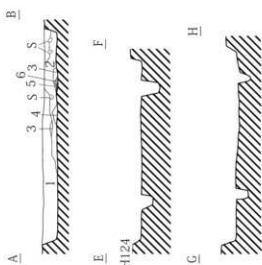
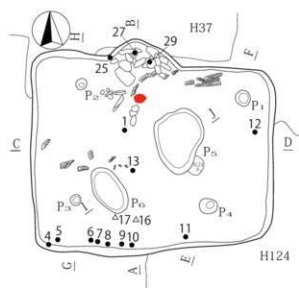
H 63号竪穴建物(第90図)

K6グリッドで検出された。N-77°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.00m、短軸長3.64m、壁残高0.36m、面積13.08㎡の規模である。H21、44を切る。西壁中央部分にカマドが構築される稀有な例である。均等に配置されるP1～P6の6基のビットが主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器が出土している。器種的には坏、高坏、甕、深鉢、土器片円盤、凹石、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅳ四半期の所産と思われる。

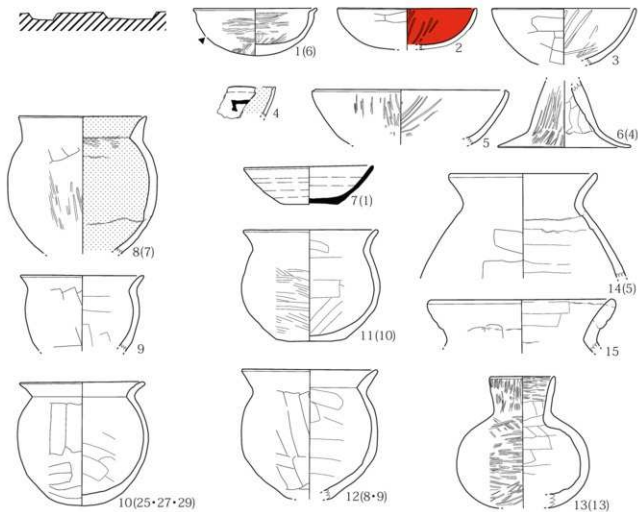
H 64号竪穴建物(第91図)

W11グリッドで検出された。N-3°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.12m、短軸長3.40m、壁残高0.20mの規模である。H138を切り、H137に切られる。北壁中央部分にカマ

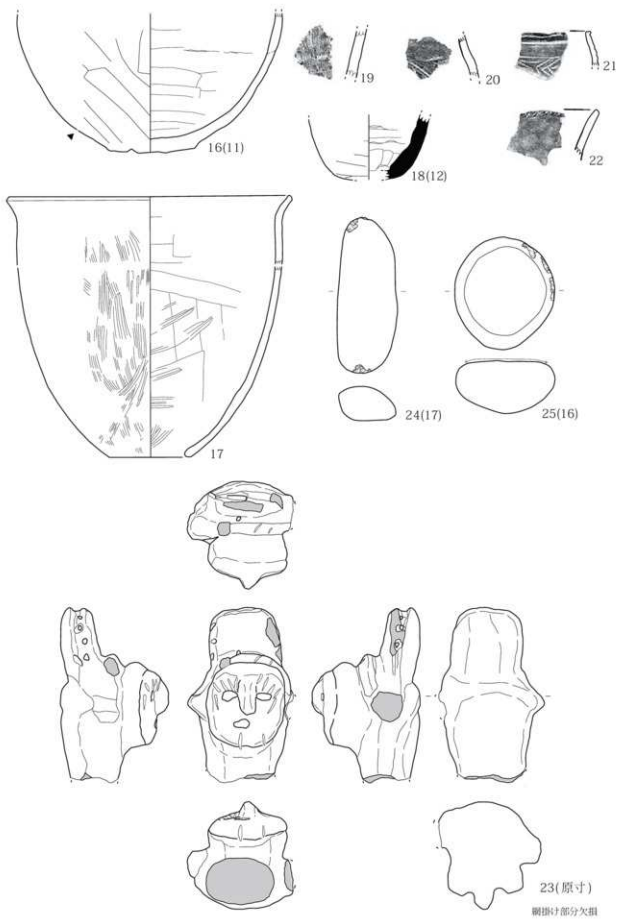


1. 暗黄褐色土層 ローム粒子含、きめ細かく粘性強。
2. 暗褐色土層 炭化物・ハス多量、粘性強。
3. 茶褐色土層 2層より炭化物少、きめ細かく強い。
4. 黒褐色土層 きめ細かく炭成を受けた痕跡が認められる。
5. 灰白色土層 灰・炭化物主体、粘性ややあり。
6. 淡褐色土層 炭土主体、炭化物含、弱粘性。
7. 赤褐色土層 炭土多量、細かく炭化物多少含。
- 暗褐色土層 焼土。

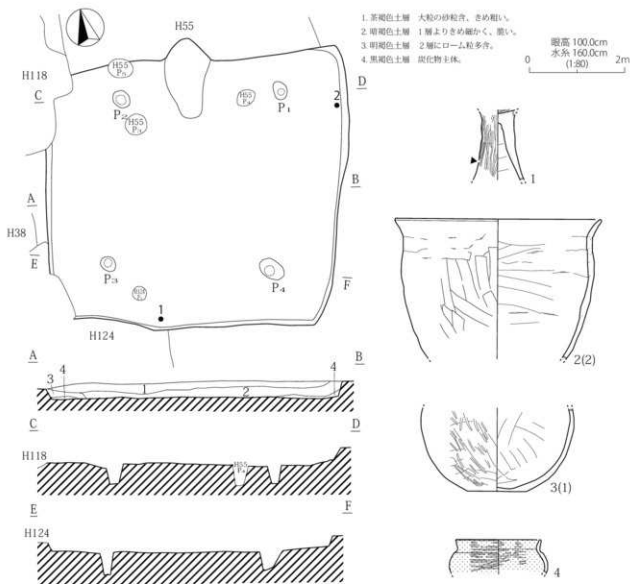
縦高 100.0cm
水平 160.0cm
(1:80) 2m



第56図 H38号整穴建物(1)



第 57 图 H38 号整穴建物 (2)



第 58 図 H39 号竪穴建物

下が構築される。均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが主柱穴である。P6 は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、有台坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 66 号竪穴建物 (第 92 図)

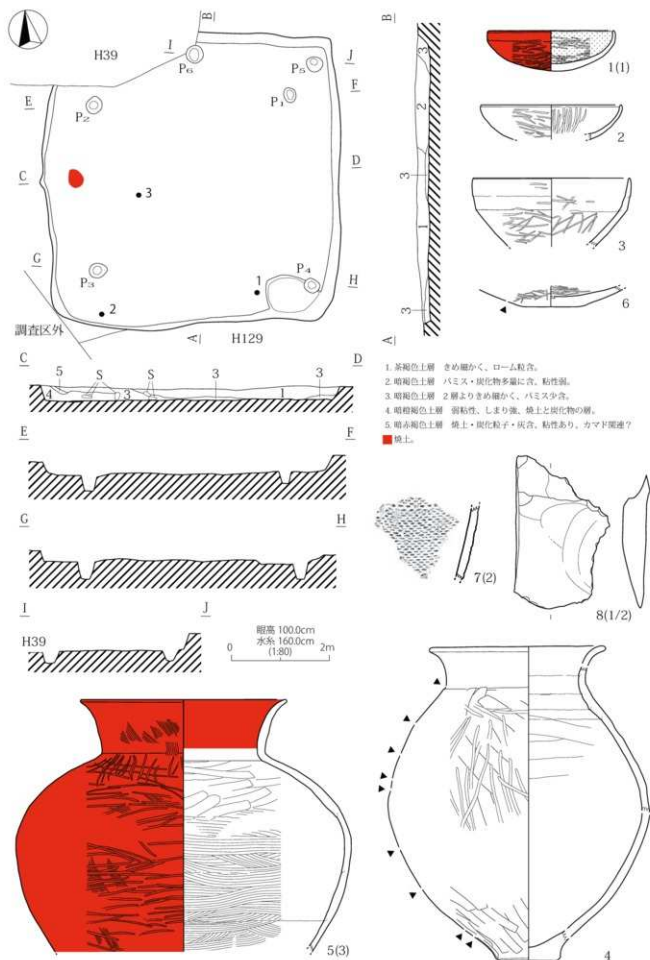
J 12 グリッドで検出された。調査区外に延びるため全容は不明である。N-89°-W に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、壁残高 0.20 m の規模である。H58 を切る。東壁中央部分にカマドが構築される。ピットは 2 基検出されたが、主柱穴は判然としない。

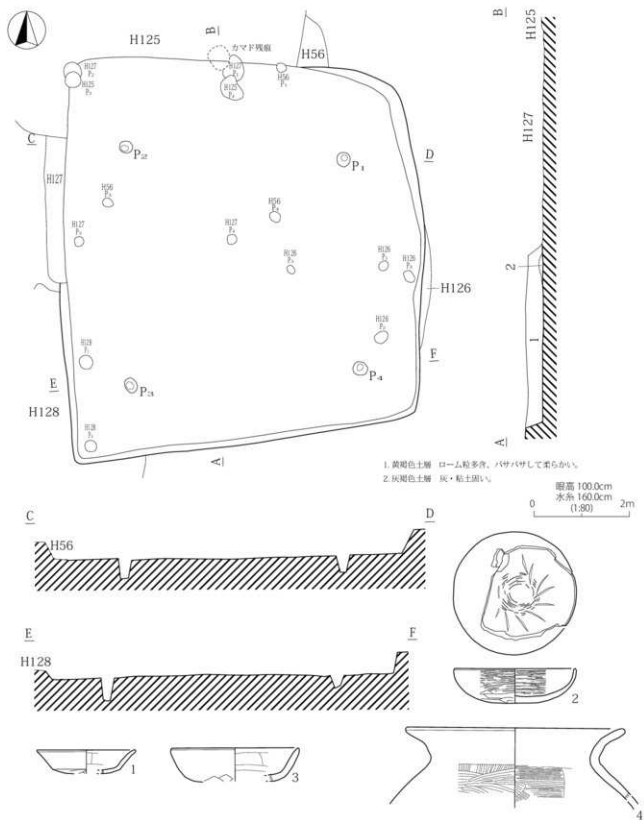
遺物は土師器と須恵器が出土している。器種的には坏、碗、鉢、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 67 号竪穴建物 (第 93 図)

H 12 グリッドで検出された。N-8°-E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 3.24 m、短軸長 2.48 m、壁残高 0.40 m、面積 7.43m² の規模である。H60 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、坏蓋、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第Ⅳ四半期の所産と思われる。

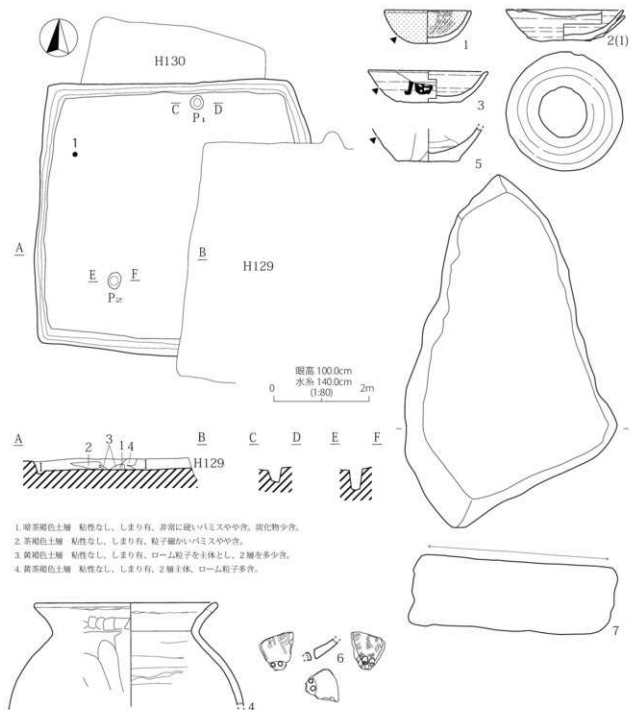




第60図 H41号竪穴建物

H 68号竪穴建物(第94図)

G・9グリッドで検出された。N-5°-Wに主軸方位をとる。平面形状は不整形である。長軸長3.00m、短軸長1.60m、壁高0.48mの規模である。H60を切る。カマドやピットは有さない。調査時の名称・見解を尊重し建物として便宜上記載したが、倒木痕と思われる。南側のフラットな面はH69の床面の一部であろう。



1. 暗茶褐色土層 粘性なし、しまり有、非常に硬いハミスや中骨、炭化物少許。
2. 茶褐色土層 粘性なし、しまり有、粒子細かいハミスや中骨。
3. 黄褐色土層 粘性なし、しまり有、ローム粒子を主体とし、2層を多少含。
4. 黄茶褐色土層 粘性なし、しまり有、2層主体、ローム粒子多量。

第61図 H42号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には碗、甕、甃、軸が認められる。本址の所産期は不明である。

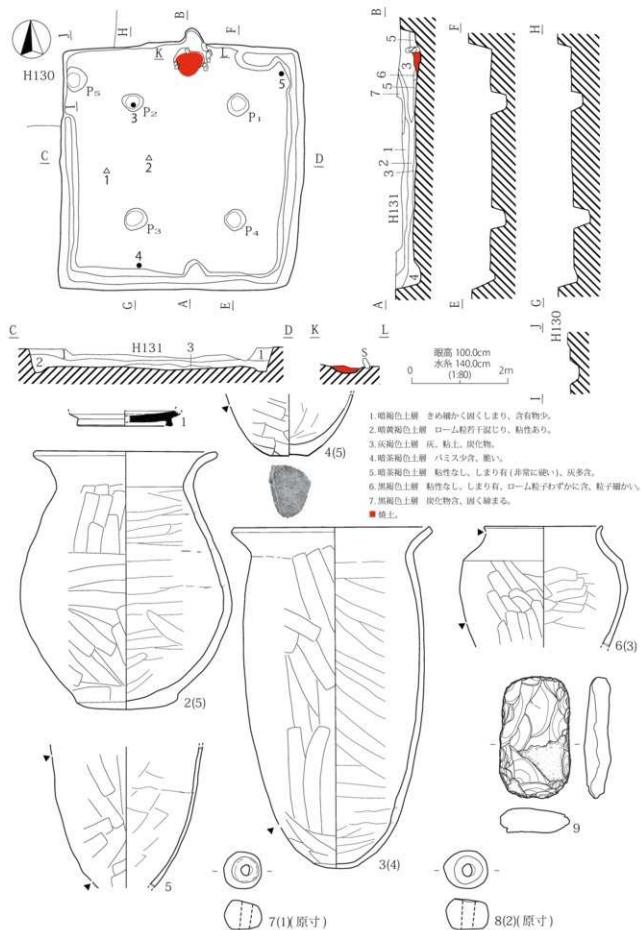
H 69号竪穴建物(第95図)

E'9グリッドで検出された。N-82°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長3.52m、短軸長3.16m、壁残高0.16m、面積12.53㎡の規模である。H2を切り、H68に切られる。東南隅部分にカマドが構築される。ピットは2基検出されたが、主柱穴は判然としない。

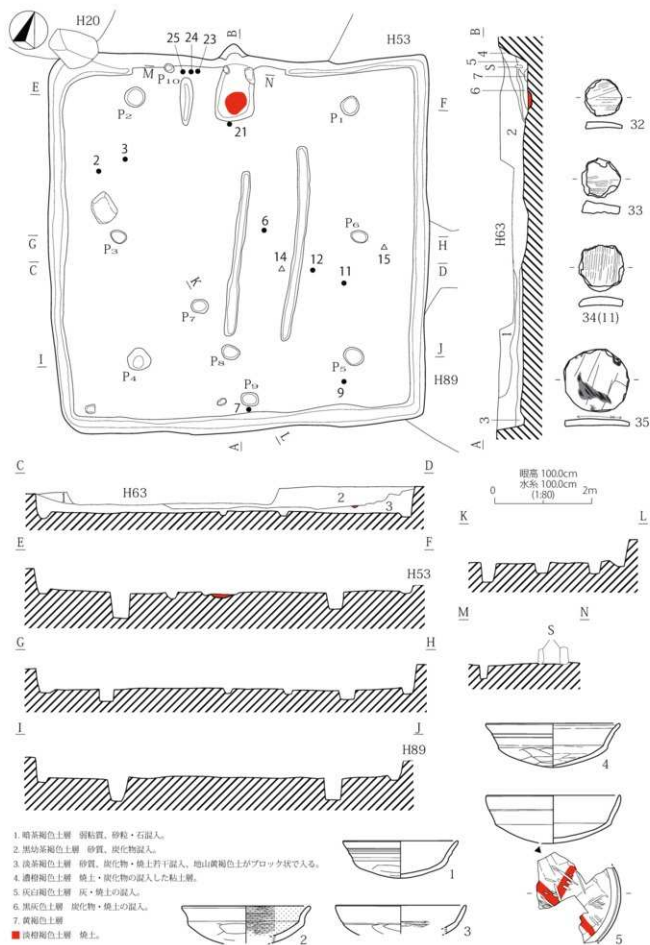
遺物は土師器、灰陶陶器が出土している。器種的には坏、碗、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 70号竪穴建物(第96図)

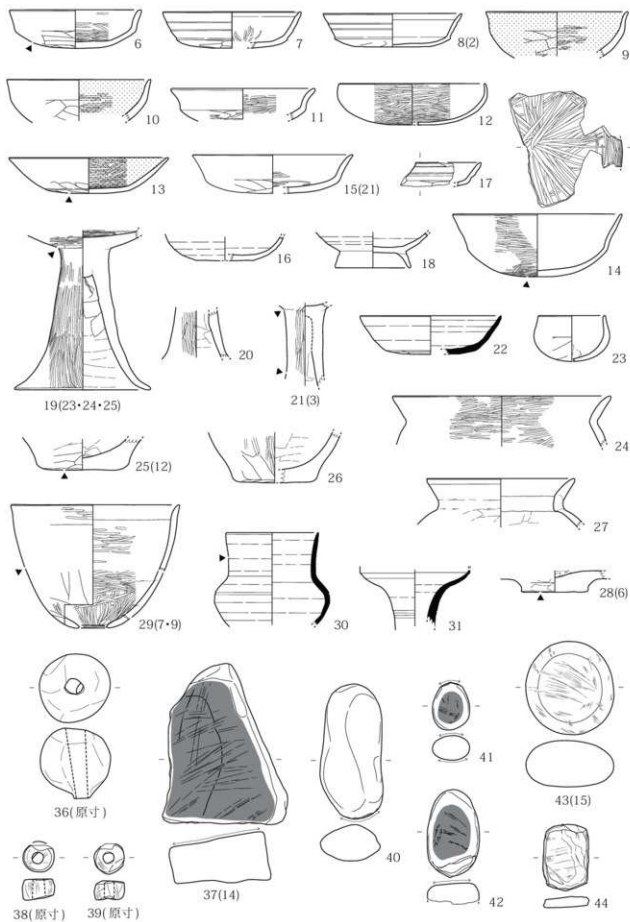
C'9グリッドで検出された。N-40°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長3.64m、



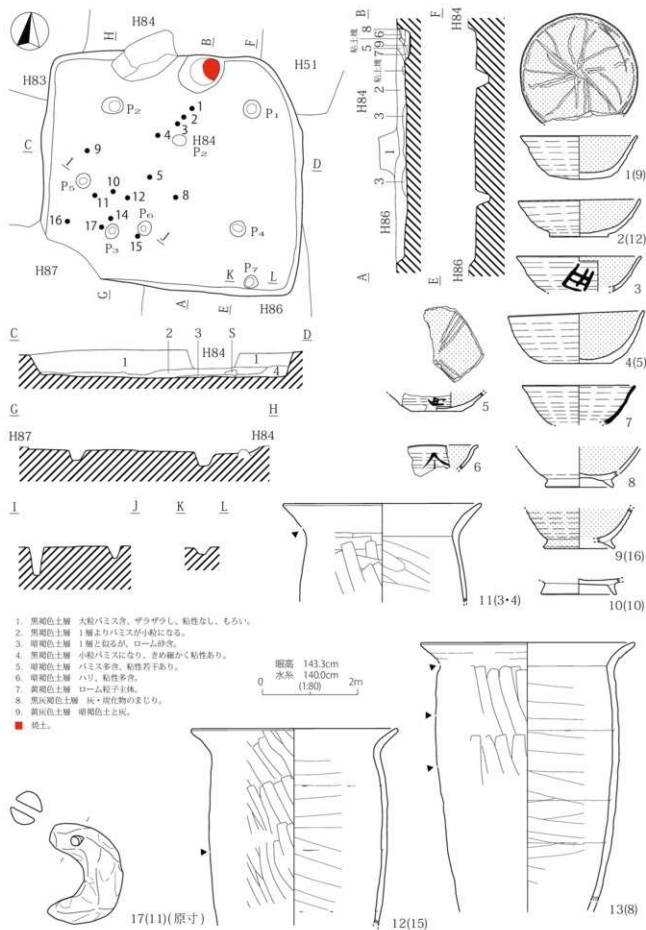
第62図 H43号竪穴建物



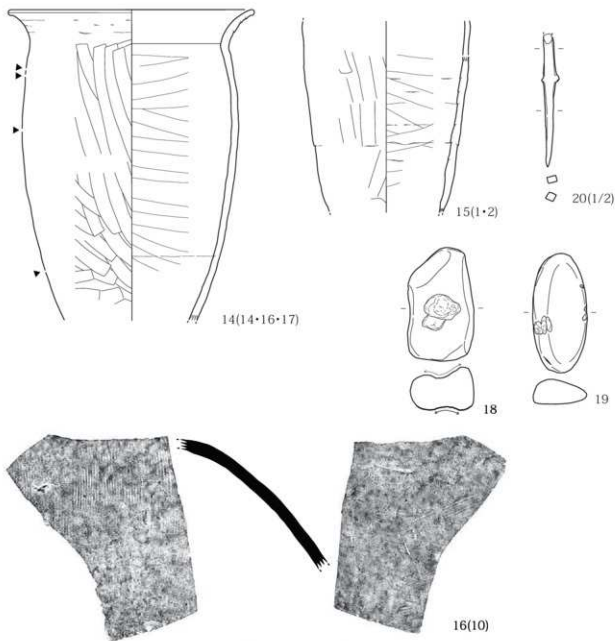
第 63 図 H44 号竪穴建物 (1)



第64图 H44号整穴建物(2)



第 65 図 H45 号竪穴建物 (1)



第66図 H45号竪穴建物(2)

短軸長3.36 m、壁残高0.14 m、面積11.15㎡の規模である。H2を切る。東南隅部分にカマドが構築される。P1～P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、甕、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

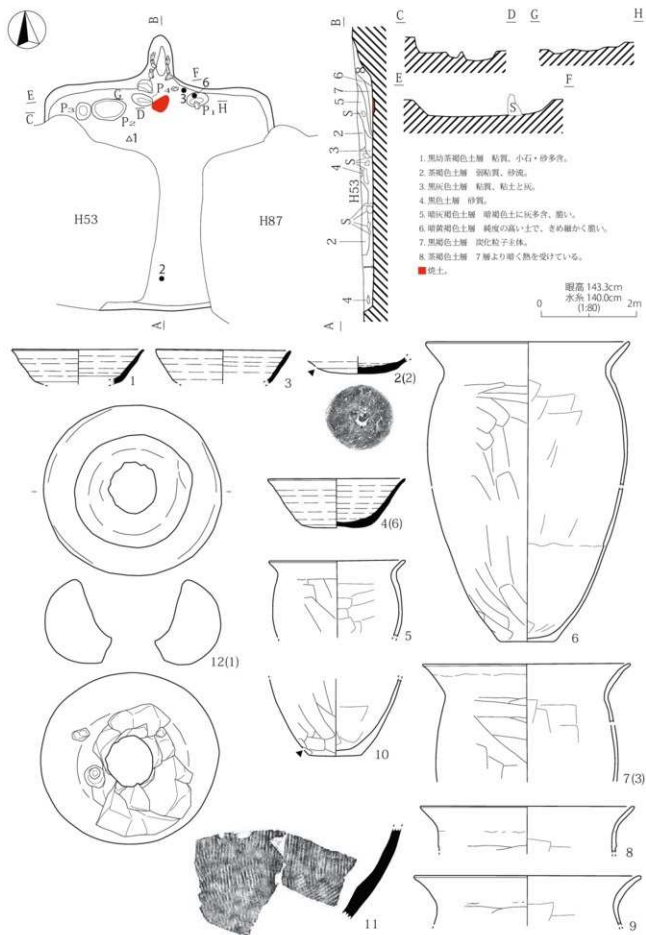
H71号竪穴建物(第97図)

D'4グリットで検出された。N-88°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長2.76 m、短軸長2.28 m、壁残高0.28 m、面積6.33㎡の規模である。H3を切る。東壁中央部分にカマドが構築される。P1～P3の3基のピットは支柱穴と思われる。

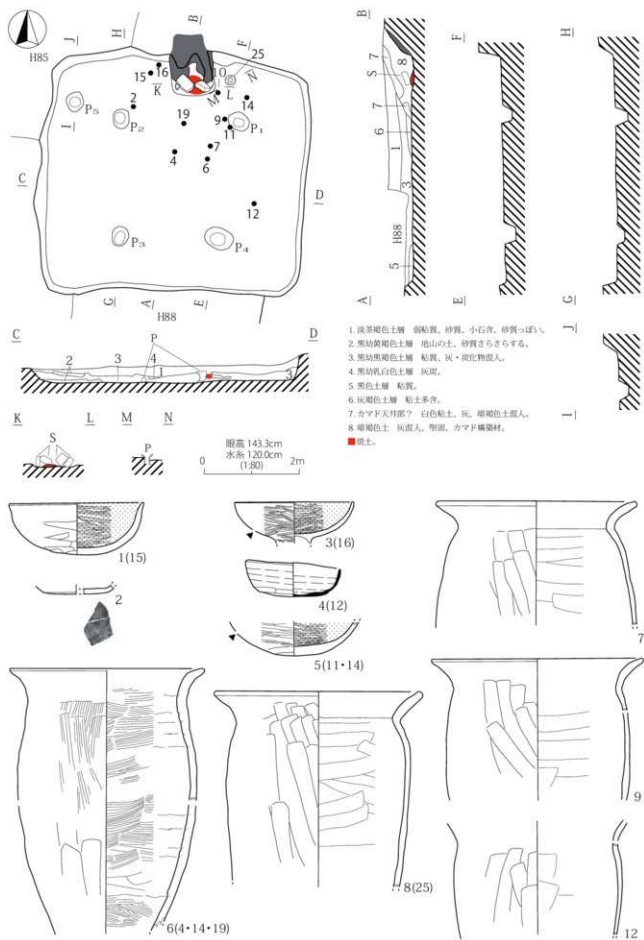
遺物は土師器、灰釉陶器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、打製石斧、刀子、軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

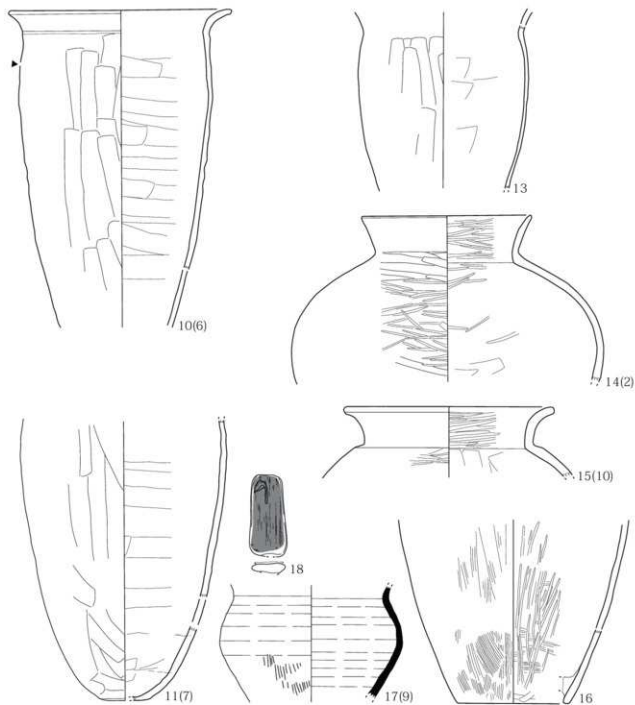
H72号竪穴建物(第98図)

A'5グリットで検出された。N-3°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長3.24 m、短軸長3.16 m、壁残高0.24 m、面積8.48㎡の規模である。北壁中央部分にカマドが構築される。P1～P4の4基のピットが支柱穴と思われる。



第 67 図 H46 号竪穴建物





第 69 図 H47 号竪穴建物 (2)

遺物は土師器壺が 2 点出土している。出土遺物の特徴から本址は 7 世紀後半の所産と思われる。

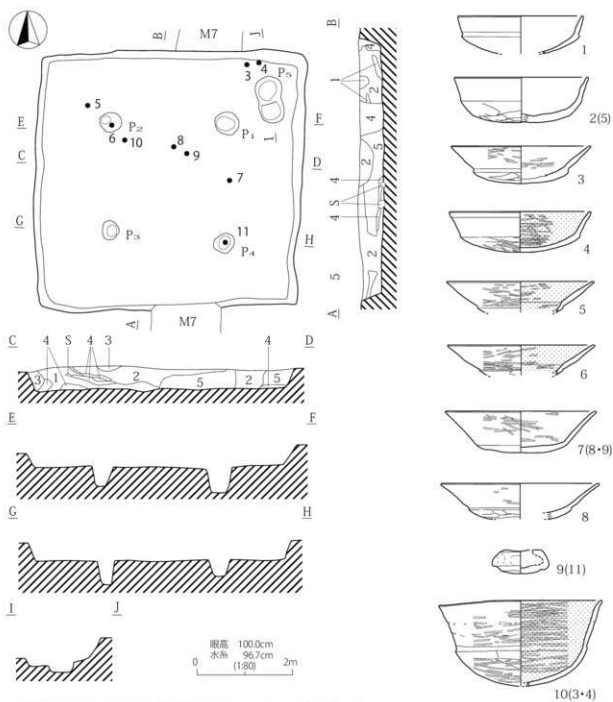
H 73 号竪穴建物 (第 99 図)

A'12 グリッドで検出された。N-64°-W に主軸方位をとる。調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高 0.36 m の規模である。H5 を切る。東壁中央部分と思われる位置にカマドが構築されている。調査範囲にはピットは存在しない。

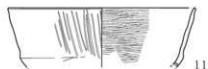
遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には壺、碗、鉢が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 74 号竪穴建物 (第 100 図)

A'1 グリッドで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.12 m、短軸長 4.04 m、壁残高 0.44 m の規模である。H10 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。P2、4、



1. 茶褐色土層 粘性なし。しまりあり。粒子は細かくサラサラしている。ローム粒子をわずかに含む。
2. 黄褐色土層 粘性、しまりあり。2mm～30mm 大の小石粒を多少含む。ローム粒子を多少含む。
3. 黄褐色土層 粘性なし。しまりあり。ローム粒子を多く含む。
4. 黒褐色土層 粘性あり(2層より強い)。しまりあり。粒子は細かく密。ローム粒子をわずかに含む。
5. 暗茶褐色土層 1層を主体としており粘性、しまりあり。



11

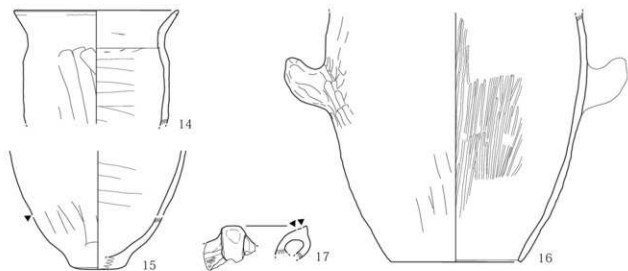


12



13(6・7)

第70図 H48号整穴建物(1)



第71図 H48号竪穴建物(2)

5の3基のピットは主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、台付甕、横瓶、磨石、長頸鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 75号竪穴建物(第101図)

B 4グリットで検出された。N-2°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.16mの規模である。H6、7、96に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは4基検出されたが主柱穴は判然としなない。

遺物は土師器、鉄器が出土している。器種的には坏、甕、台付甕、壺、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は5世紀後半の所産と思われる。

H 76号竪穴建物(第102図)

C 4グリットで検出された。N-8°-Wに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長3.76m、短軸長3.48m、壁残高0.20m、面積13.78㎡の規模である。H6、7、75を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは有さなない。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、石器が出土している。器種的には坏、皿、甕、編物石が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅰ四半期の所産と思われる。

H 77号竪穴建物(第103・104図)

B 3グリットで検出された。N-14°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長4.52m、短軸長4.16m、壁残高0.40m、面積19.08㎡の規模である。H10、11を切り、H78に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは6基検出されており、P1、2は主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、甕、壺、土鍾、砥石、磨石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

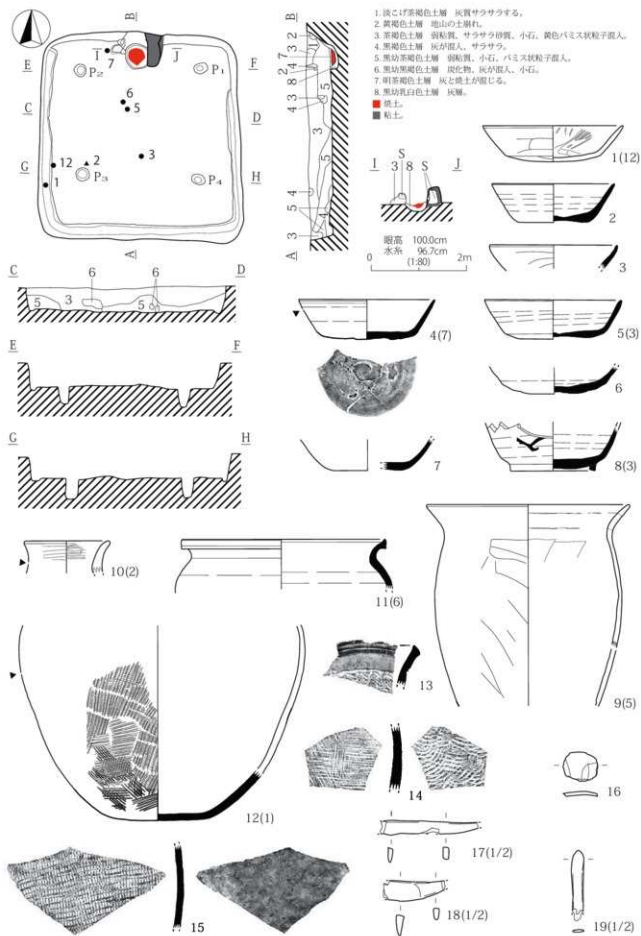
H 78号竪穴建物(第105・106図)

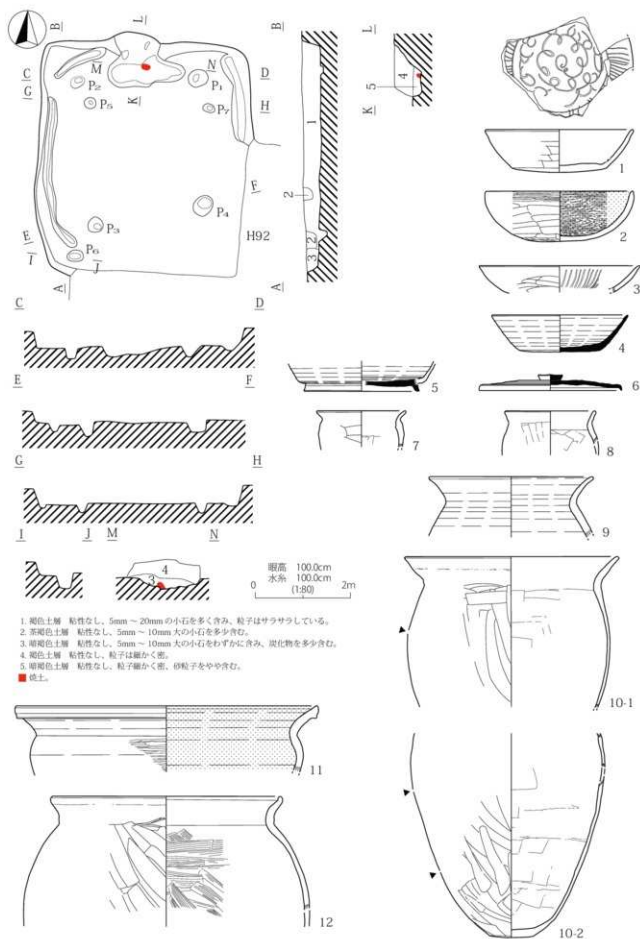
D 3グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長5.12m、短軸長4.40m、壁残高0.48m、面積20.79㎡の規模である。H8、77を切る。カマドは存在しないが、北壁近くのP7周囲に、火床と思われる焼土が存在する。ピットは11基検出されており、P1~P4の4基が主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品、石器、石製品、鉄塊が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、羽釜、壺、土鍾、管玉、砥石、軽石製品、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

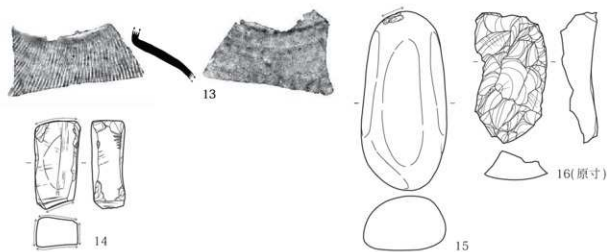
H 79号竪穴建物(第107図)

B 2グリットで検出された。N-6°-Eに主軸方位をとる。不整な方形の平面形状を呈し、長軸長4.80m、短軸長4.76m、壁残高0.28mの規模である。H10、11を切る。判然としなないが、北壁中央部分の掘り込





第73図 H50号竪穴建物(1)



第74図 H50号竪穴建物(2)

みがカマドと思われる。ピットは9基検出されているが、支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には坏、有台坏、环蓋、甕、壺、甕、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 80号竪穴建物(第108・109図)

D0グリットで検出された。N-0°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.88m、短軸長4.32m、壁残高0.32m、面積21.17㎡の規模である。H11、12を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは7基検出されており、均等に配置されるP1~P4の4基のピットが支柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、环蓋、甕、壺、台石、紡錘車が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 81号竪穴建物(第110図)

E4グリットで検出された。N-16°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長4.60m、短軸長4.00m、壁残高0.20mの規模である。H7、9を切る。北壁中央西寄部分にカマドが構築される。ピットは18基検出されたが支柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、土製品、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、环蓋、甕、壺、羽缶、軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 82号竪穴建物(第111図)

F-2グリットで検出された。N-84°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長2.96m、短軸長2.64m、壁残高0.16m、面積8.08㎡の規模である。H12を切る。東壁中央南寄部分にカマドが構築される。ピットは有さない。

遺物は土師器、土製品、鉄器が出土している。器種的には坏、鉢、甕、羽釜、壺、人型土器、芋引金具が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀後半の所産と思われる。

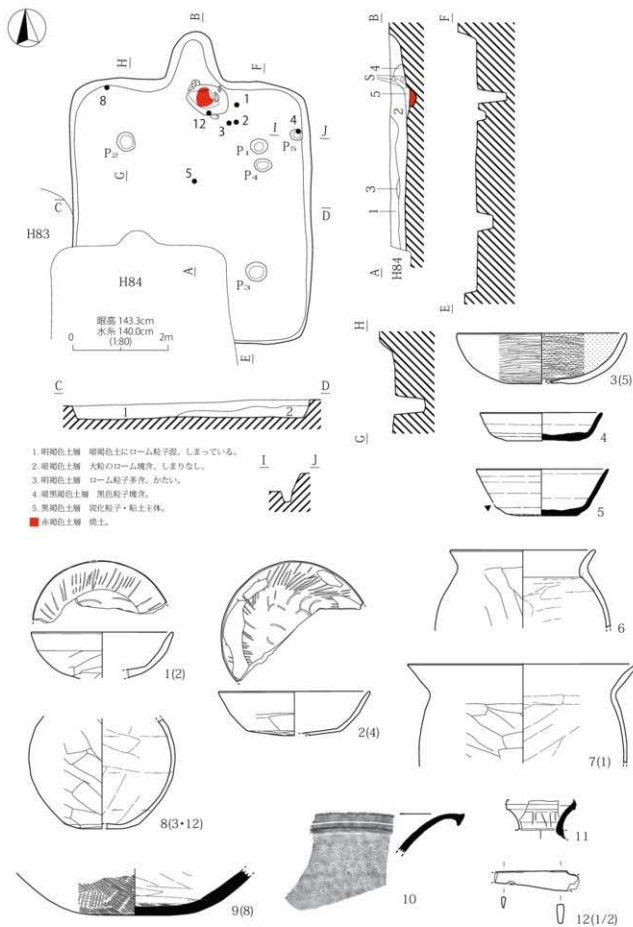
H 83号竪穴建物(第112図)

H3グリットで検出された。N-33°-Wに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長3.64m、短軸長3.36m、壁残高0.32m、面積11.50㎡の規模である。H9、45、51、84を切る。東南隅部分にカマドが構築される。ピットは3基検出されているが、支柱穴は判然としない。

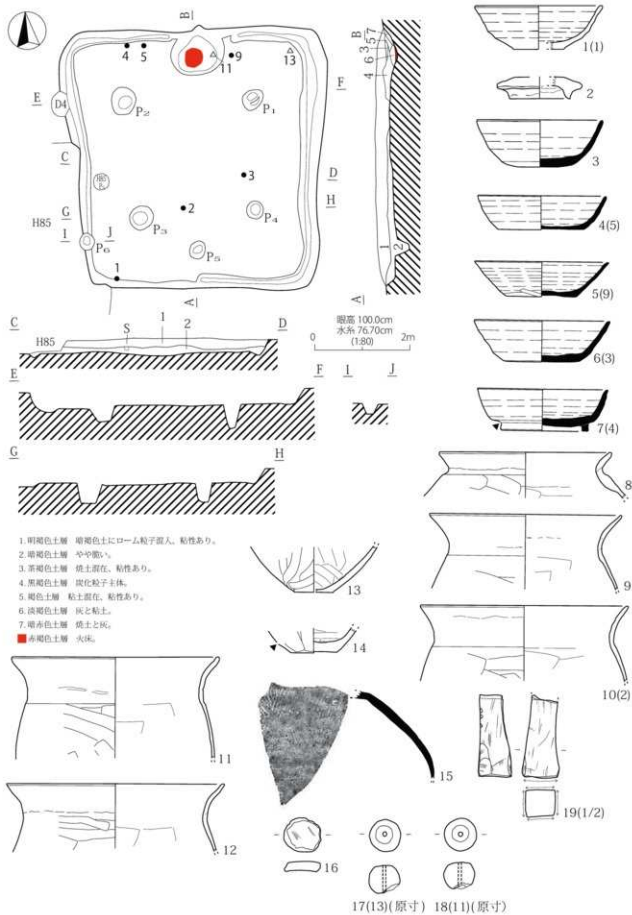
遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、甕、壺、金具が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 84号竪穴建物(第113図)

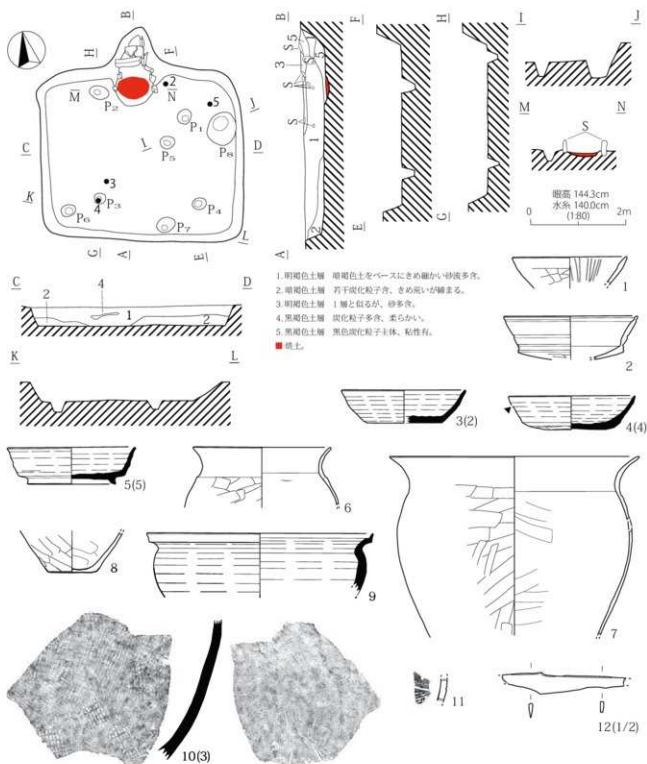
H2グリットで検出された。N-12°-Eに主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長3.68m、短軸長3.48m、壁残高0.40m、面積11.93㎡の規模である。H45、51を切り、H83に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは3基検出されているが、支柱穴は判然としない。



第75図 H51号竪穴建物



第76図 H52号竪穴建物



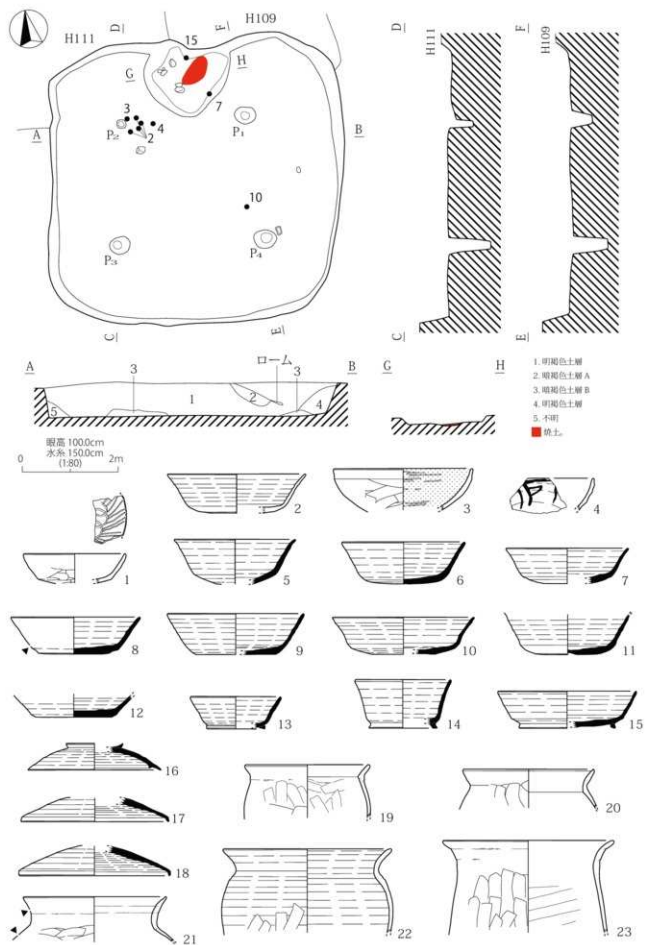
第77図 H53号竪穴建物

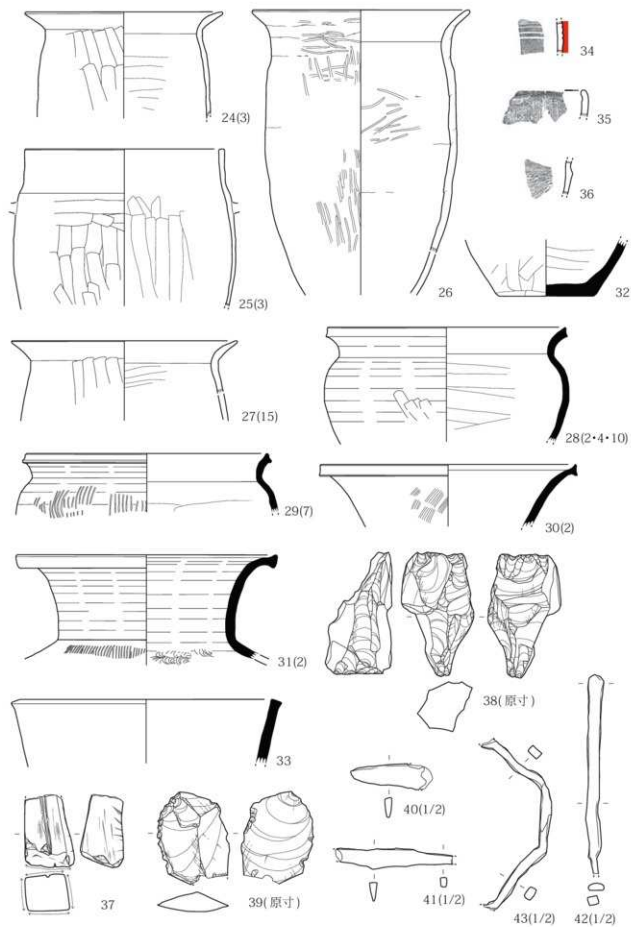
遺物は土師器、須恵器、灰陶陶器が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 85号竪穴建物 (第114・115図)

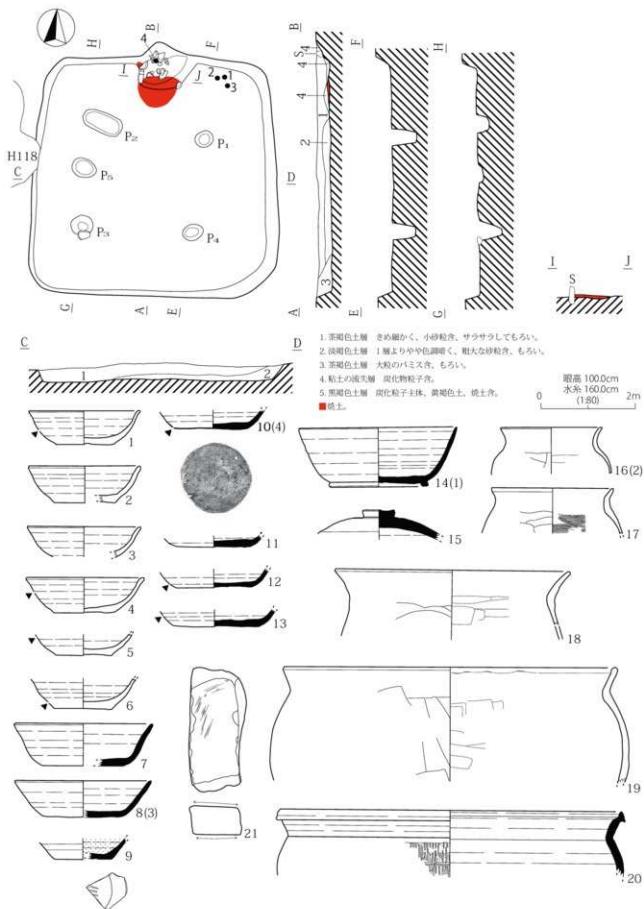
H 0グリットで検出された。N-6°-Eに主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長5.20m、短軸長4.32m、壁残高0.30m、面積21.12㎡の規模である。H22、47、52を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは6基検出されており、均等に配置されるP1～P4の4基のピットが主柱穴である。南壁中央下に構築されるP6は出入口施設と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、坏蓋、甕、壺、編物石、

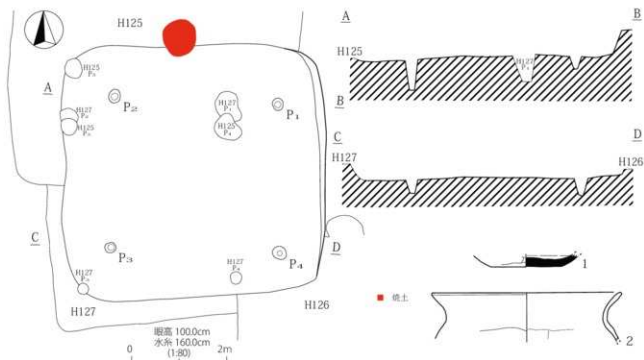




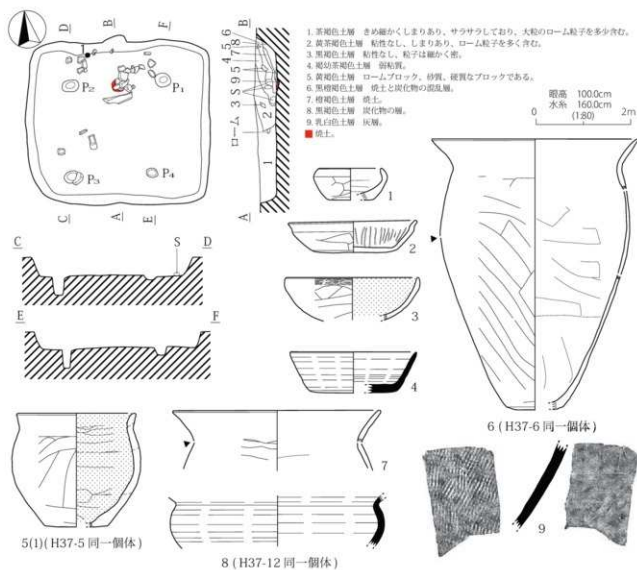
第79图 H54号整穴建物(2)



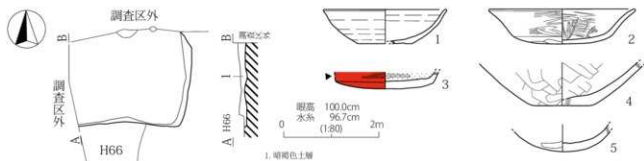
第80図 H55号竪穴建物



第81図 H56号竪穴建物



第82図 H57号竪穴建物



第 83 図 H58 号竪穴建物

鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

H 86 号竪穴建物 (第 116 図)

J 2 グリットで検出された。N-12°-W に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 4.04 m、短軸長 3.76 m、壁残高 0.32 m、面積 14.51 m² の規模である。H22、23、45 を切り、H87 に切られる。北壁中央部分にカマダが構築される。ピットは 5 基検出されており、P3、P4 の 2 基のピットは主柱穴と思われる。

遺物は土師器、須恵器、石器が出土している。器種的には環、有台環、鉢、甕、壺、砥石、石核が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 II 四半期の所産と思われる。

H 87 号竪穴建物 (第 117・118 図)

J 3 グリットで検出された。N-5°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.92 m、短軸長 3.80 m、壁残高 0.40 m、面積 13.63 m² の規模である。H45、46、86 を切る。北壁中央部分にカマダが構築される。ピットは 4 基検出されたが主柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、灰陶陶器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には環、碗、皿、甕、紡錘車、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 88 号竪穴建物 (第 119・120 図)

J-1 グリットで検出された。N-9°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.88 m、短軸長 3.36 m、壁残高 0.36 m、面積 12.20 m² の規模である。H47 を切る。北壁中央部分にカマダが構築される。ピットは 5 基検出されており、均等に配置される P1～P4 の 4 基のピットが主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、灰陶陶器、鉄器が出土している。器種的には環、碗、鉢、甕、壺、鉄鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀前半の所産と思われる。

H 89 号竪穴建物 (第 121 図)

L 4 グリットで検出された。N-10°-E に主軸方位をとる。隅丸方形の平面形状を呈し、長軸長 3.68 m、短軸長 3.44 m、壁残高 0.24 m、面積 10.71 m² の規模である。H44 を切る。北壁中央部分にカマダが構築される。ピットは有さないが、出入口施設と思われる礎石が 2 基配置される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には環、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 III 四半期の所産と思われる。

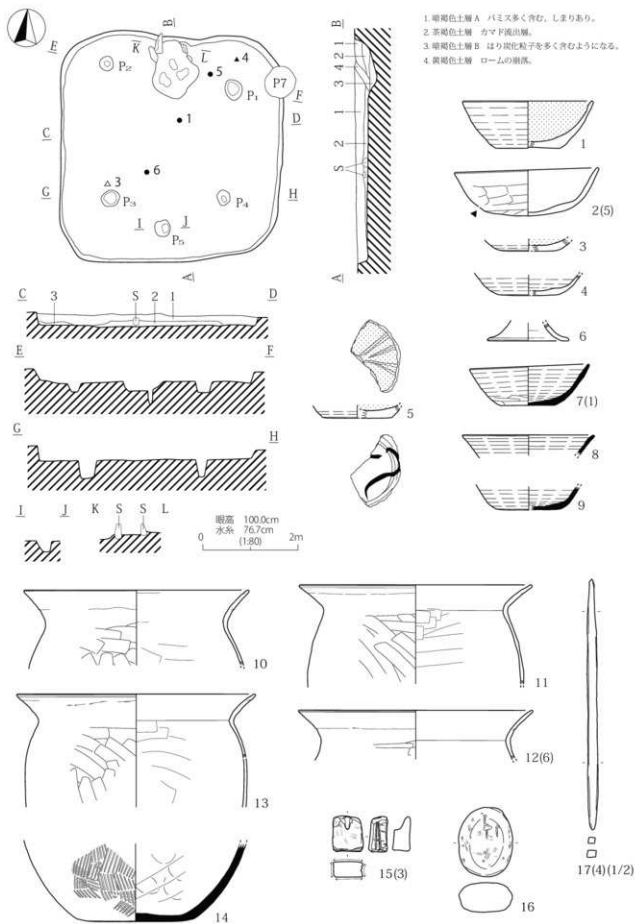
H 90 号竪穴建物 (第 122 図)

N 1 グリットで検出された。N-28°-W に主軸方位をとる。調査区外に延びるため全様は不明である。壁残高 0.12 m の規模である。H91 を切る。中央部分に焼土が存在する。ピットは 4 基検出されたが、主柱穴は判然としない。

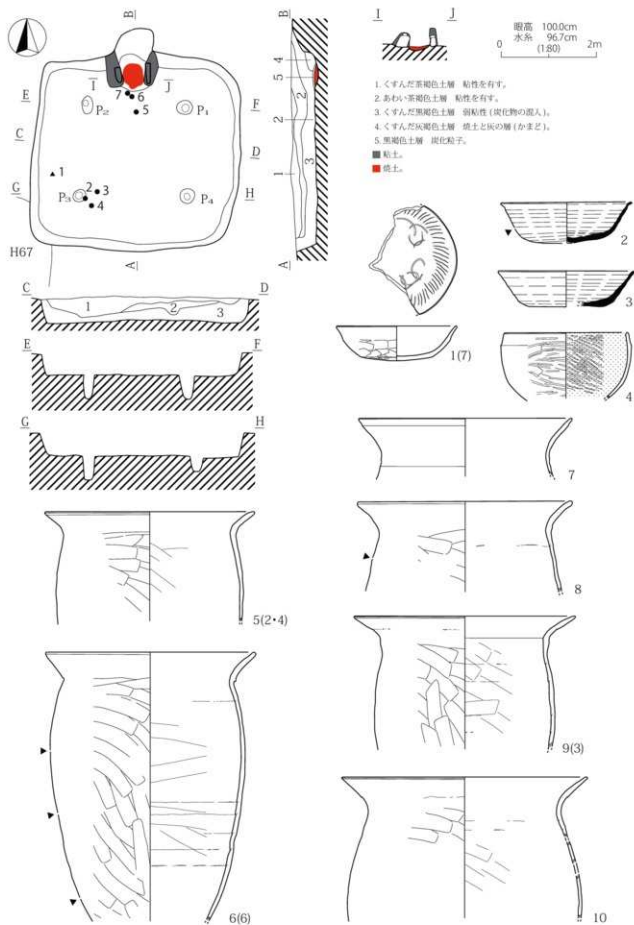
遺物は土師器、須恵器、灰陶陶器、弥生土器、土製品が出土している。器種的には環、碗、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 91 号竪穴建物 (第 123 図)

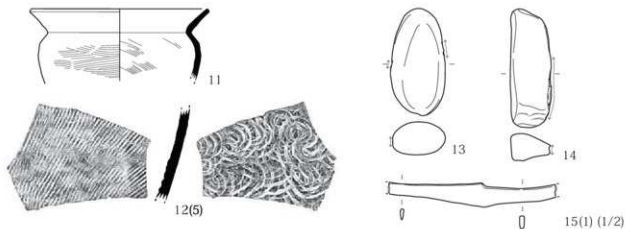
N 2 グリットで検出された。N-25°-E に主軸方位をとる。調査区外に延びるため全様は不明である。壁残高 0.16 m の規模である。H90 に切られる。北壁中央と思われる部分にカマダが構築される。ピットは



第84図 H59号竪穴建物



第 85 図 H60 号整穴建物 (1)



第 86 図 H60 号竪穴建物 (2)

1 基検出された。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には環、有台環、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 92 号竪穴建物 (第 124・125 図)

D 10 グリッドで検出された。N-10°-W に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 5.68 m、短軸長 4.96 m、壁残高 0.32 m、面積 24.88㎡の規模である。H50 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。ピットは有さない。カマド部分を除く壁下には周溝が巡る。床面上には多量の炭化材が散乱しており、本址は焼失遺構と考えられる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、石器、石製品、鉄器、鉄製品、銅製品が出土している。器種的には環、有台環、碗、皿、甕、砥石、石製模造品、磨石、敲石、石錐、刀子、鉄鏝、銅碗が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 93 号竪穴建物 (第 126 図)

F 11 グリッドで検出された。N-0°-E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長約 4.96 m、短軸長約 4.68 m、壁残高 0.24 m の規模である。H92、94 に切られる。北壁中央部分にカマドが構築される。3 基検出されたピットは主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄器が出土している。器種的には環、碗、甕、横瓶、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀前半の所産と思われる。

H 94 号竪穴建物 (第 127・128 図)

D 11 グリッドで検出された。N-6°-E に主軸方位をとる。隅丸長方形の平面形状を呈し、長軸長 5.48 m、短軸長 4.96 m、壁残高 0.44 m、面積 22.99㎡の規模である。H93、97、99 を切る。北壁中央部分にカマドが構築される。3 基検出されたピットは主柱穴である。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、弥生土器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には環、碗、皿、甕、壺、編物石、刀子、角釘が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

H 95 号竪穴建物 (第 129 図)

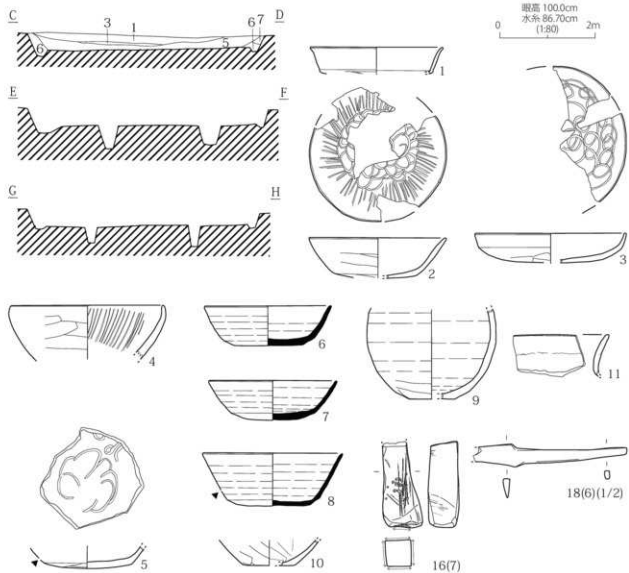
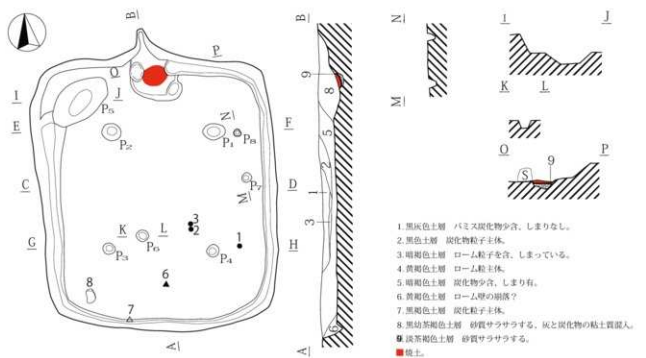
F 9 グリッドで検出された。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。壁残高 0.40 m の規模である。H93、94、99 に切られる。ピットは 3 基検出されているが主柱穴は判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品が出土している。器種的には環、杯蓋、甕、壺、白玉、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 6 世紀後半の所産と思われる。

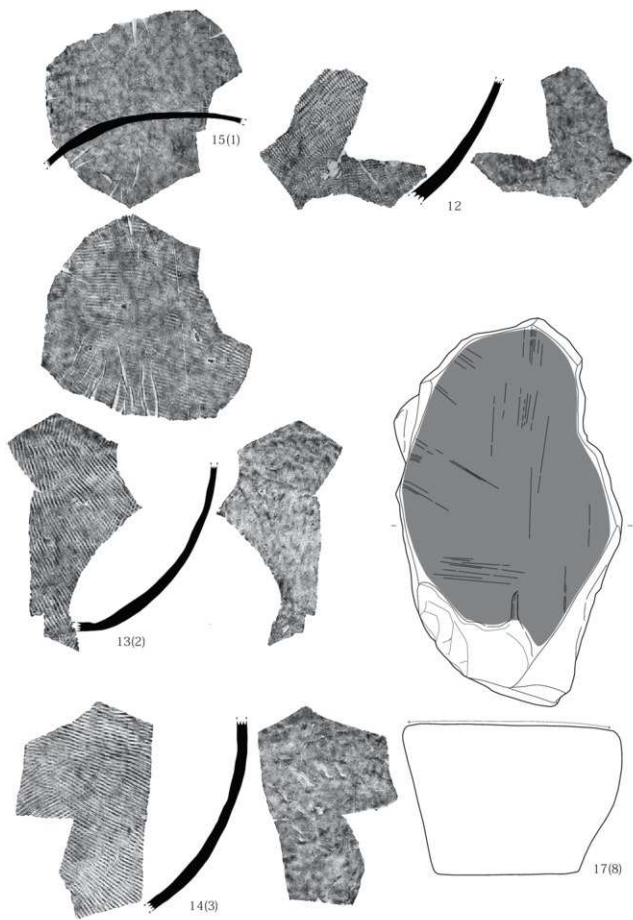
H 96 号竪穴建物 (第 130 図)

G 13 グリッドで検出された。調査区外に延びるため全容、規模等は不明である。H97 を切る。ピット等の付属施設は判然としない。

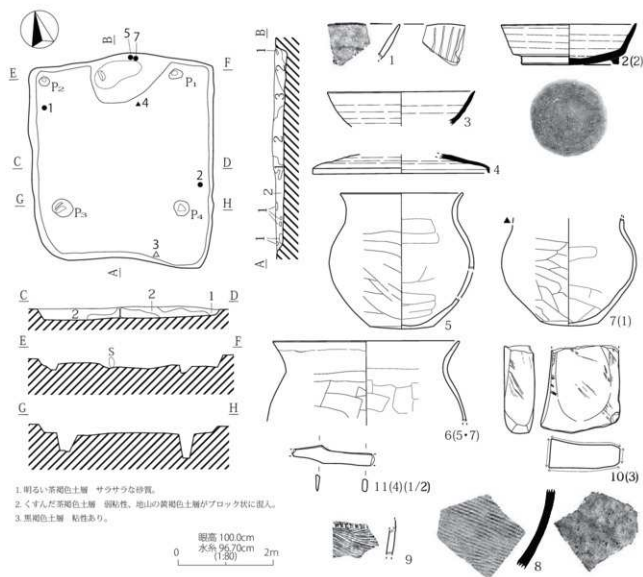
遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。器種的には碗、有台環、甕、壺が認められる。出土遺



第 87 図 H61 号整穴建物 (1)



第 88 图 H61 号整穴建物 (2)



第89図 H62号竪穴建物

物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

H 97号竪穴建物 (第131図)

G 12グリッドで検出された。壁残高0.16 mの規模である。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。H94、96、98に切られる。3基検出されたピットのうちP1、P2の2基は主柱穴である。カマドは東壁の中央南寄りに構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、高坏、甕、甗が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

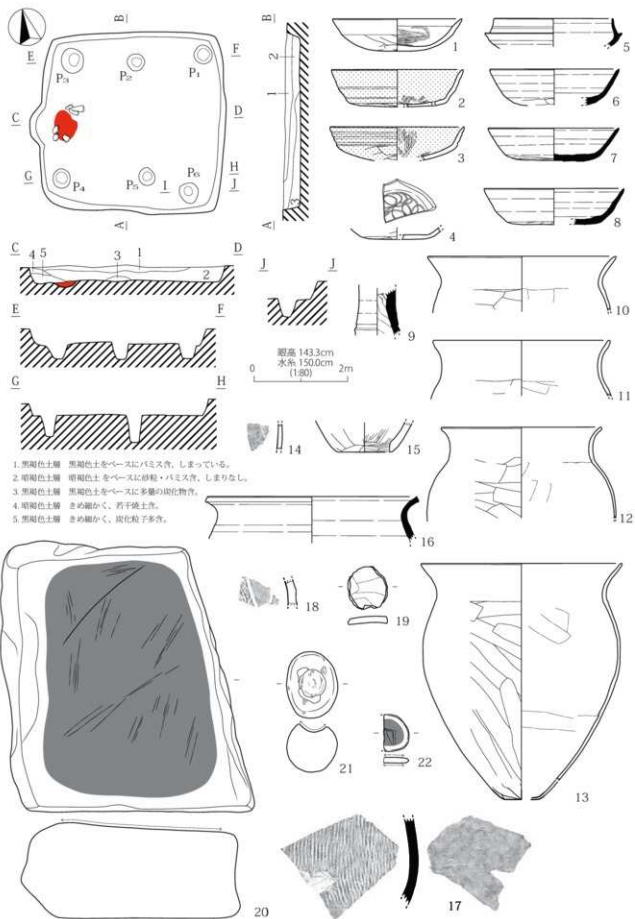
H 98号竪穴建物 (第132図)

H 12グリッドで検出された。壁残高0.40 mの規模である。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。H97を切り、H101に切られる。3基検出されたピットは主柱穴と思われる。北壁中央部分がカマドと思われるが判然としない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、坏蓋、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

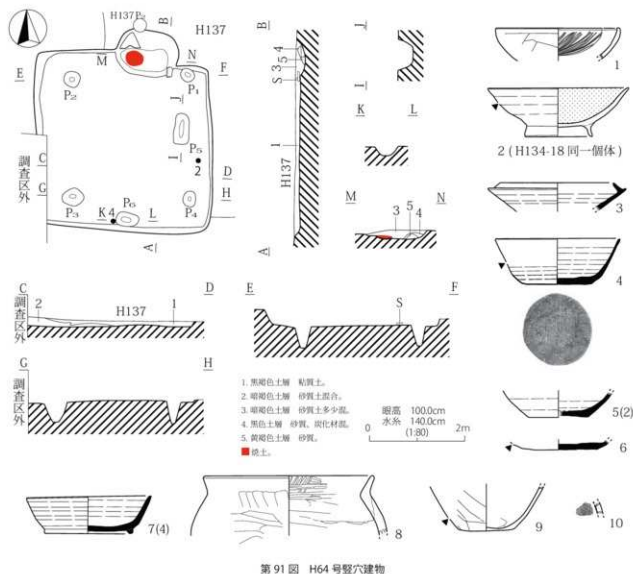
H 99号竪穴建物 (第133図)

H 10グリッドで検出された。長軸長約4.96 m、短軸長約4.72 m、壁残高0.40 mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H93、95を切り、H94、100、101に切られる。ピットは10基検出されているが主柱穴は判然としない。調査範囲内にはカマドは存在しない。



1. 黒褐色土層 黒褐色土をベースにパミス食、しまっている。
2. 暗褐色土層 暗褐色土をベースに砂粒・パミス食、しまりなし。
3. 黒褐色土層 黒褐色土をベースに多量の炭化物食。
4. 暗褐色土層 きめ細かく、若干炭土食。
5. 黒褐色土層 きめ細かく、炭化粒子多食。

第90図 H63号竪穴建物



第 91 図 H64 号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、緑釉陶器、弥生土器が出土している。器種的には環、碗、甕が認められる。本址の所産期は不明である。

H 100 号竪穴建物 (第 134 図)

H 9 グリッドで検出された。N-53°-W に主軸方位をとる。長軸長約 3.40 m、短軸長約 2.48 m、壁残高 0.24 m の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H99、101 を切る。ピットは有さない。カマドは東壁中央南寄りに構築される。

遺物は土師器、灰釉陶器、弥生土器が出土している。器種的には環、碗、皿、高環、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

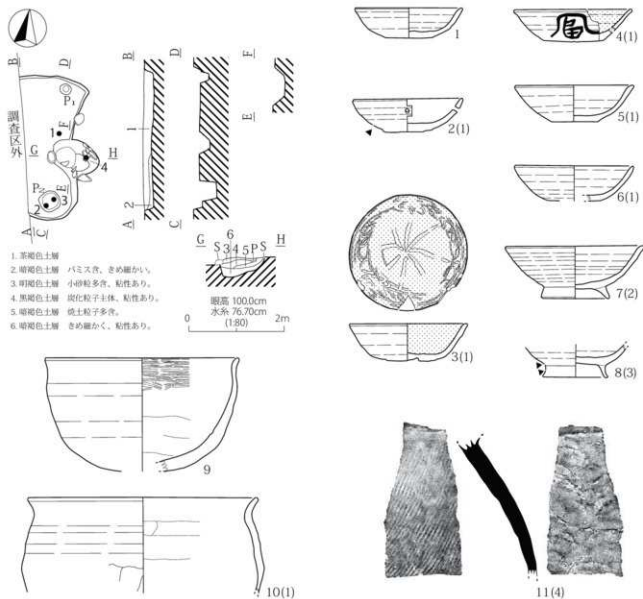
H 101 号竪穴建物 (第 135 図)

I 11 グリッドで検出された。N-4°-E に長軸方位をとる。長軸長 5.16 m、短軸長 5.00 m、壁残高 0.50 m、面積約 25.14 m² の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H99 を切り、H98、100 に切られる。6 基検出されたピットのうち、均等に配置される P1~P4 の 4 基が主柱穴である。カマドは残存していなかった。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、石製品、鉄器が出土している。器種的には環、有台環、环蓋、甕、壺、砥石、石製模造品、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀前半の所産と思われる。

H 102 号竪穴建物 (第 136 図)

I 14 グリッドで検出された。N-40°-W に長軸方位をとる。長軸長 4.84 m、短軸長 3.84 m、壁残高 0.30 m、面積約 16.74 m² の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H103 を切る。ピットは 3 基検出された



第92図 H66号竪穴建物

が、主柱穴は判然としな。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、甕、砥石、長頸鎌、絞具が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀後半の所産と思われる。

H 103号竪穴建物(第137・138図)

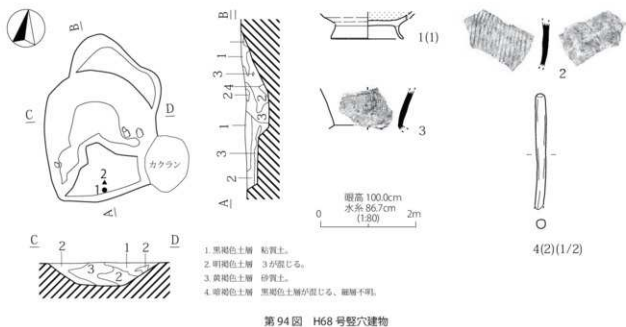
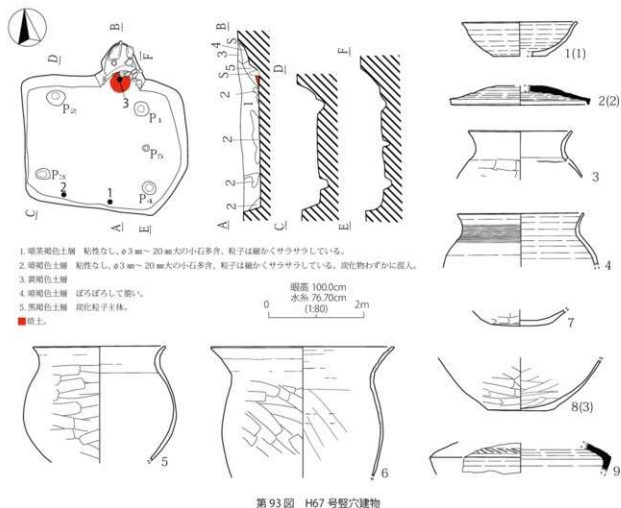
I 14グリッドで検出された。N-5°-Eに主軸方位をとる。長軸長7.88m、短軸長7.76m、壁残高0.60mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H102に切られる。ピットは9基検出されたが、均等に配置されるP1~P4が主柱穴である。カマドは北壁中央部分に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、弥生土器、石器、鉄器が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、碗、甕、鉢、壺、打製石斧、編物石、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀Ⅲ四半期の所産と思われる。

H 104号竪穴建物(第139図)

J 22グリッドで検出された。N-82°-Wに主軸方位をとる。長軸長3.80m、短軸長3.20m、壁残高0.32m、面積約12.16㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H25、105を切る。ピットは5基検出されたが主柱穴は判然としな。カマドは東南隅に構築される。

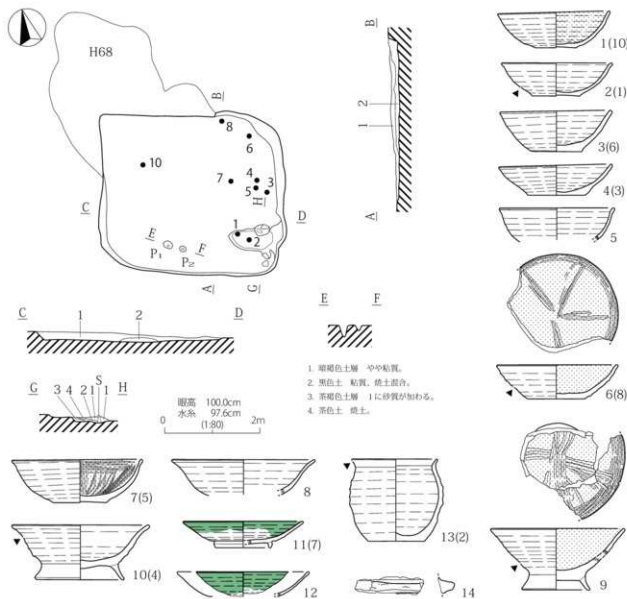
遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が出土している。器種的には坏、碗、有台坏、甕、壺が認められる。出



土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 105号壁穴建物 (第140・141図)

K 22グリットで検出された。壁残高0.24mの規模である。他遺構の構築に際し破壊されたため全容は不明である。H25、26を切り、H104に切られる。ピットは8基検出されたが主柱穴は判然としない。調



第95図 H69号竪穴建物

査範囲にはカマド存在しなかった。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、石器が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、壺、磨・敲石、石核が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 106号竪穴建物(第142図)

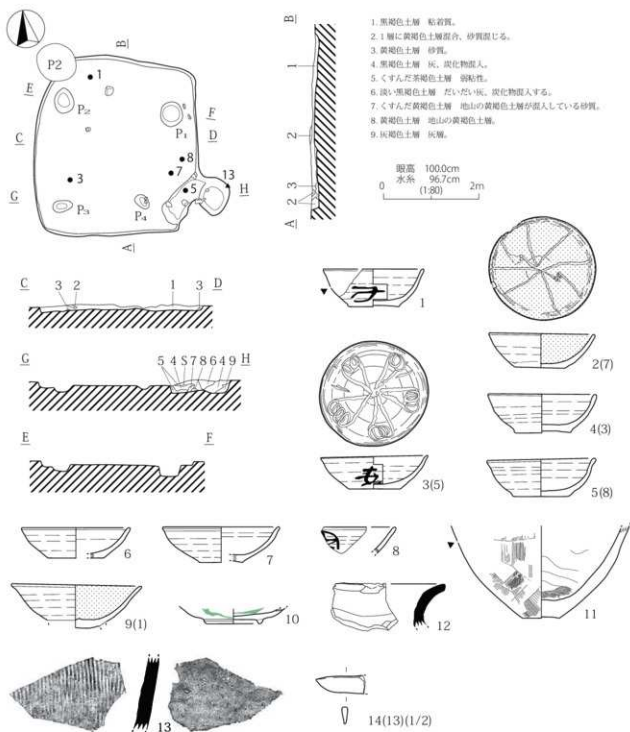
J 18グリットで検出された。N-9°-Eに主軸方位をとる。長軸長3.84m、短軸長3.36m、壁残高0.60m、面積13.06㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、Y3を切り、H57に切られる。4基検出されたピットは主柱穴である。カマドは北壁中央部分に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、甕、砥石が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。本址はH57の旧住居の可能性を有する。

H 107号竪穴建物(第143図)

K 12グリットで検出された。N-34°-Wに長軸方位をとる。長軸長3.40m、短軸長2.56m、壁残高0.20m、面積7.61㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈する。他遺構との重複関係は有さない。ピットは5基検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、弥生土器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、壺、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。



第96図 H70号竪穴建物

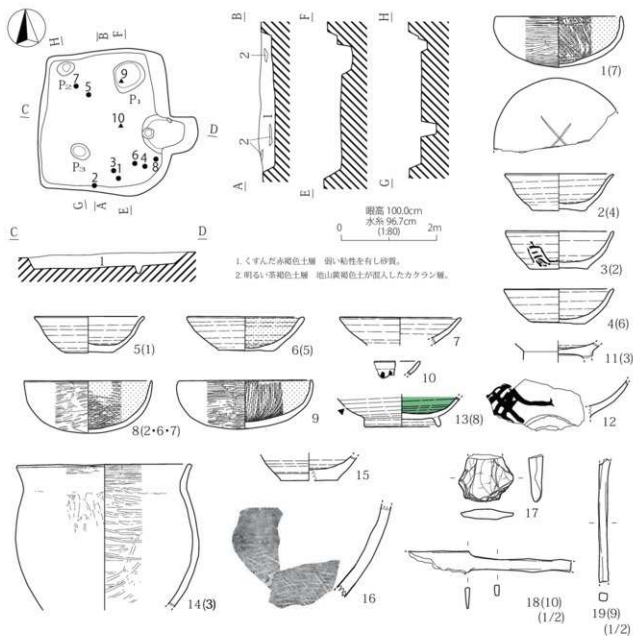
H 108号竪穴建物(第144-145図)

M 16グリッドで検出された。N-79°-Wに主軸方位をとる。長軸長3.64m、短軸長3.52m、壁残高0.32m、面積12.14㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H28を切る。4基検出されたピットは支柱穴である。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、緑釉陶器、石製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、壺、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 109号竪穴建物(第146図)

O 18グリッドで検出された。N-43°-Wに主軸方位をとる。長軸長6.52m、短軸長6.04m、壁残高0.32m、面積37.34㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H28、54、110、111を切る。5基検出されたピット



第97図 H71号竪穴建物

トのうち、均等に配置されるP1～P4の4基が主柱穴である。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、緑軸陶器、弥生土器、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、有台杯、甕、壺、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

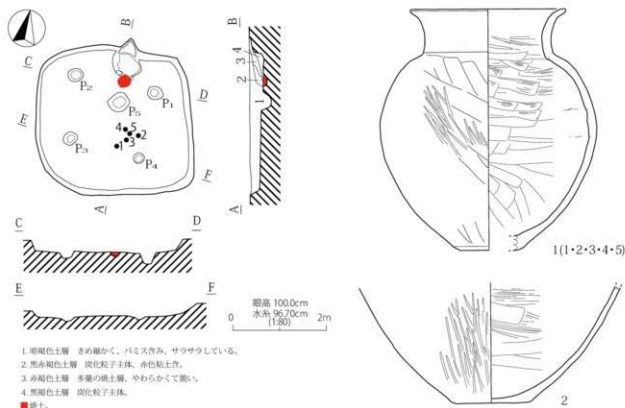
H110号竪穴建物(第147図)

M19グリッドで検出された。N-10°-Eに主軸方位をとる。長軸長4.24m、短軸長3.36m、壁残高0.36m、面積約13.21㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H111を切りTa2、H109に切られる。4基検出されたピットは主柱穴である。カマドは北壁中央やや東寄りくに構築される。西半の壁下には周溝が巡る。

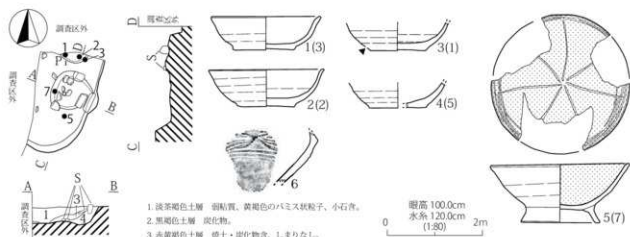
遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H111号竪穴建物(第148・149図)

O19グリッドで検出された。N-84°-Wに長軸方位をとる。長軸長5.88m、短軸長5.60m、壁残高0.34mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H54を切りTa2、H109、110に切られる。6基検出されたピットのうち、均等に配置されるP1～P4の4基が主柱穴である。カマドは存在しない。



第98図 H72号竪穴建物



第99図 H73号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には環、碗、皿、甕、壺、甔、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

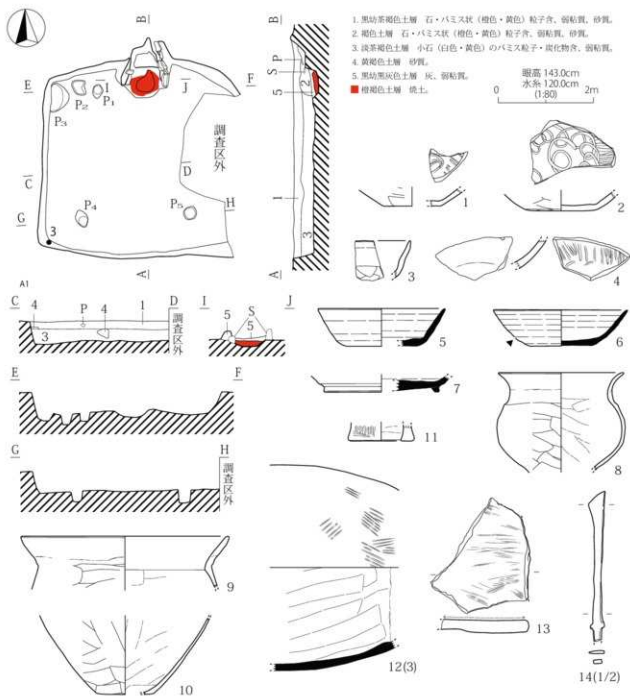
H 112号竪穴建物 (第150図)

P 16グリッドで検出された。N-45°-Eに長軸方位をとる。壁残高0.36mの規模である。H54を切る。ビットは3基検出されたが、支柱穴は判然としない。カマドは北壁の北東隅寄りに構築されている。北壁下の一部に周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器が出土している。器種的には環、碗、甕、刀子が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 113号竪穴建物 (第151図)

O 21グリッドで検出された。N-74°-Wに主軸方位をとる。長軸長4.96m、短軸長4.96m、壁残高0.30mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H32、Ta2、P11に切られ、H114を切る。ビットは有さない。カマド東南隅に構築される。



第100図 H74号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、弥生土器、石器、石製品、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、鉢、鍋、羽釜、甕、壺、砥石、打製石斧、石錐、角釘が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

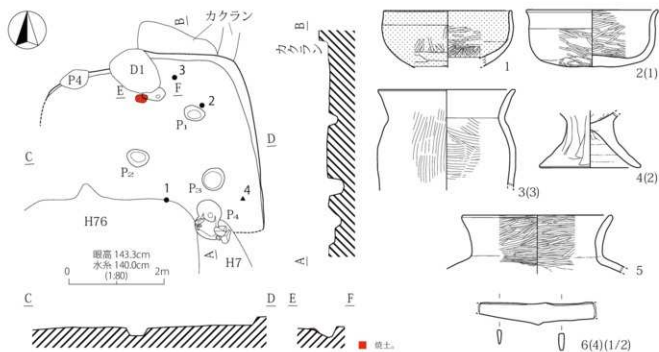
H114号竪穴建物(第152図)

P21グリットで検出された。N-5°-Eに主軸方位をとる。長軸長4.72m、短軸長4.52m、壁残高0.36mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H31、113、Ta2に切られ、H115を切る。6基検出されたピットのうち、P1、P3、P4の3基は主柱穴と思われる。カマド北壁中央部分に構築される。

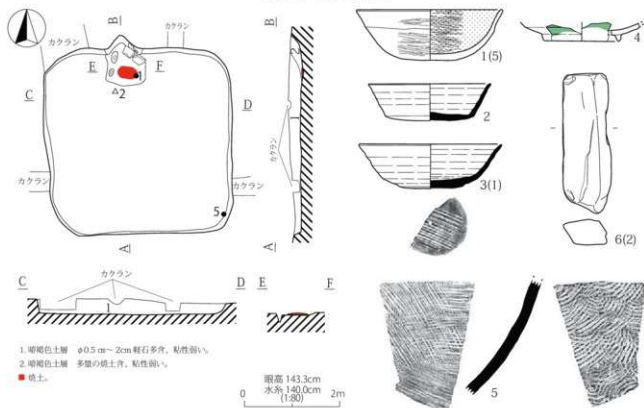
遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、鉢、甕、刀子、角釘、角軸が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

H115号竪穴建物(第153・154図)

P22グリットで検出された。長軸長約5.12m、短軸長5.00m、壁残高0.36mの規模である。隅丸方



第101図 H75号竪穴建物



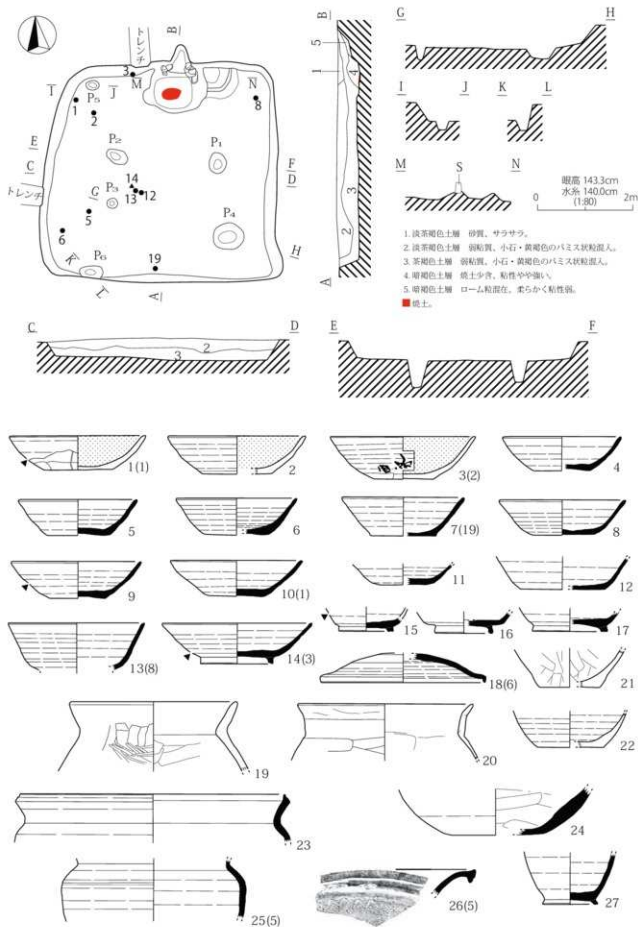
第102図 H76号竪穴建物

形の平面形状を呈し、H31、37、113、114、116、117、118に切られる。9基検出されたピットのうち、均等に配置されるP1～P4の4基が主柱穴と思われる。カマドは存在しない。

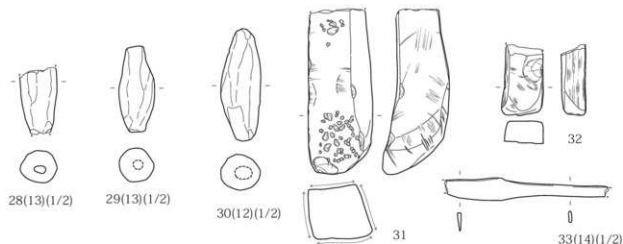
遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、弥生土器が出土している。器種的には坏、碗、坏蓋、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 116号竪穴建物 (第155図)

O 23グリッドで検出された。辛うじてプランが残存している状態であり規模は不明である。H30、31、37、113、115を切り、H117に切られる。ピットは不明である。カマドは北壁中央部分に構築される。



第 103 図 H77 号竪穴建物 (1)



第104図 H77号竪穴建物(2)

遺物は土師器が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、把手が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 117号竪穴建物(第156・157図)

Q 24グリットで検出された。N-7.5°-Eに主軸方位をとる。短軸長3.48m、壁残高0.32mの規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H37、115、116、Y6を切る。2基検出されたピットは主柱穴と思われる。カマドは北壁中央と思われる位置に構築されていた。カマド及びカマドに相対する南壁下部分を除き壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、絞具、芋引金具、鋸が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

H 118号竪穴建物(第158図)

Q 22グリットで検出された。N-78°-Wに主軸方位をとる。長軸長2.96m、短軸長2.68m、壁残高0.36m、面積8.27㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H37、39、55、115を切る。ピットは4基検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは東壁中央に構築されていた。

遺物は土師器、須恵器、青磁、弥生土器が出土している。器種的には坏、有台坏、碗、甕、土器片円盤が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第IV四半期の所産と思われる。

H 119号竪穴建物(第159図)

M13グリットで検出された。N-17°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.80m、短軸長2.42m、壁残高0.32m、面積6.70㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、Ta1を切り、小竪穴1に切られる。ピットは1基検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは有さない。北西隅～南西隅の壁下に周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、壺、盤が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 120号竪穴建物(第160図)

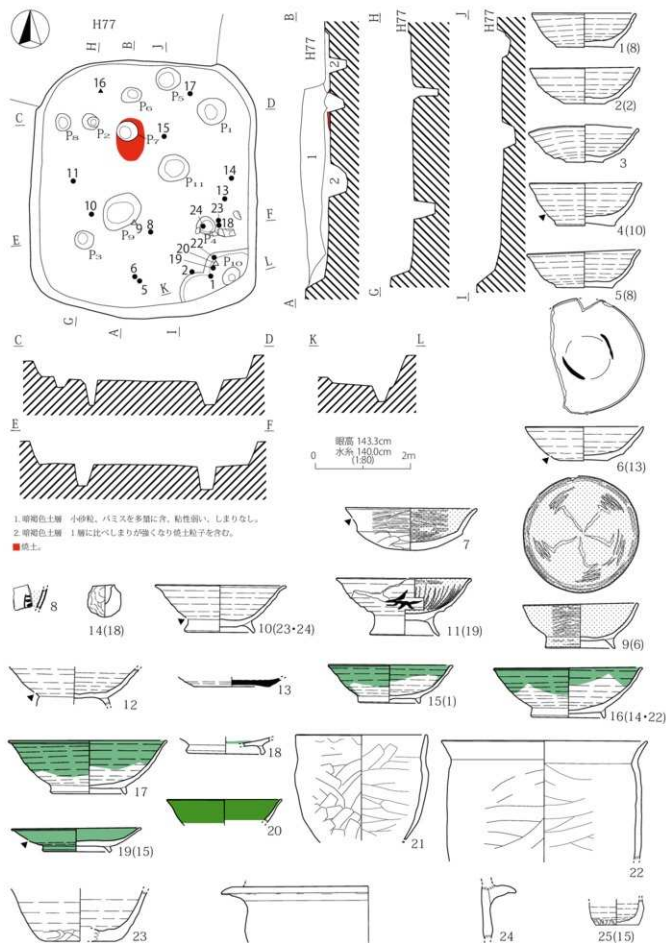
N12グリットで検出された。N-2°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.36mの規模である。H32を切る。3基検出されたピットは主柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築されていた。カマド分部を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

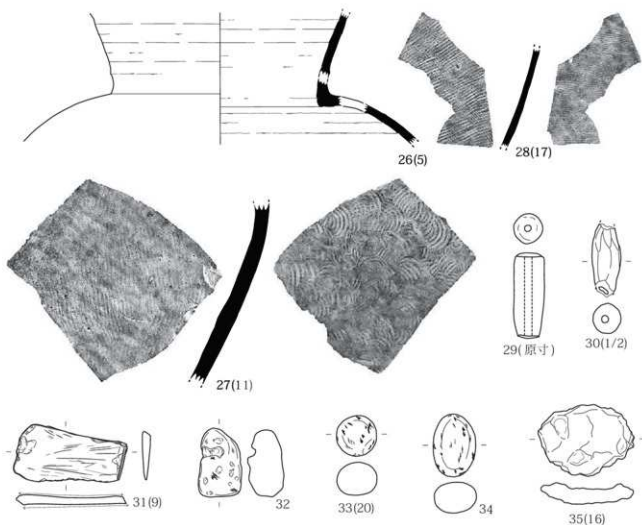
H 121号竪穴建物(第161図)

P14グリットで検出された。N-35°-Wに主軸方位をとる。長軸長5.60m、短軸長5.16m、壁残高0.20m、面積27.59㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、Y4を切る。6基検出されたピットのうち、P1～P3の3基は主柱穴である。カマドは東南隅に構築される。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、白磁、石器が出土している。器種的には坏、碗、有台坏、皿、甕、羽



第105図 H78号竪穴建物(1)



第 106 図 H78 号竪穴建物 (2)

釜、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は 10 世紀前半の所産と思われる。

H 122 号竪穴建物 (第 162・163 図)

Q 9 グリットで検出された。N-0°-W に主軸方位をとる。長軸長 5.28 m、短軸長 5.18 m、壁残高 0.60 m、面積 27.69m²の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H34 を切る。6 基検出されたピットのうち、均等に配置される P1～P4 の 4 基は主柱穴である。P6 は出入口施設と思われる。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器、鉄器が出土している。器種的には高環、環蓋、高盤、甕、壺、甗、横刃型石器、長頸甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 1 四半期の所産と思われる。

H 123 号竪穴建物 (第 164 図)

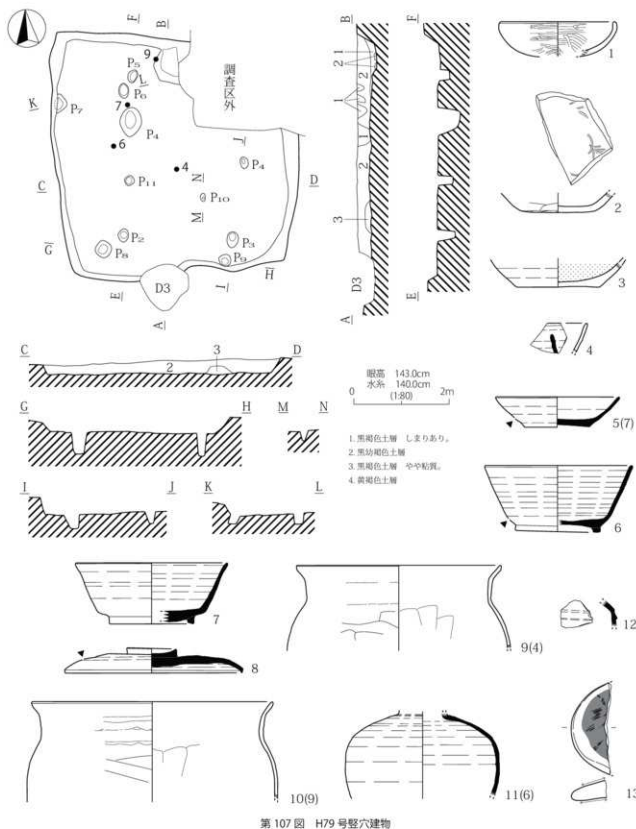
O 8 グリットで検出された。壁残高 0.10 m の規模である。H35 を切る。ピットは 1 基検出されたが性格は不明である。調査範囲にはカマドは存在しない。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には甕、壺、磨石、加工痕のある剥片が認められる。本址の所産期は不明である。

H 124 号竪穴建物 (第 165 図)

S 22 グリットで検出された。N-10°-E に主軸方位をとる。長軸長 4.52 m、短軸長 3.72 m、壁残高 0.20 m、面積 16.69m²の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H38、39 を切る。4 基検出されたピットは主柱穴である。カマドは北壁中央に構築されるが、造り替えが行われている。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には環、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 9 世紀後半の所産と思われる。

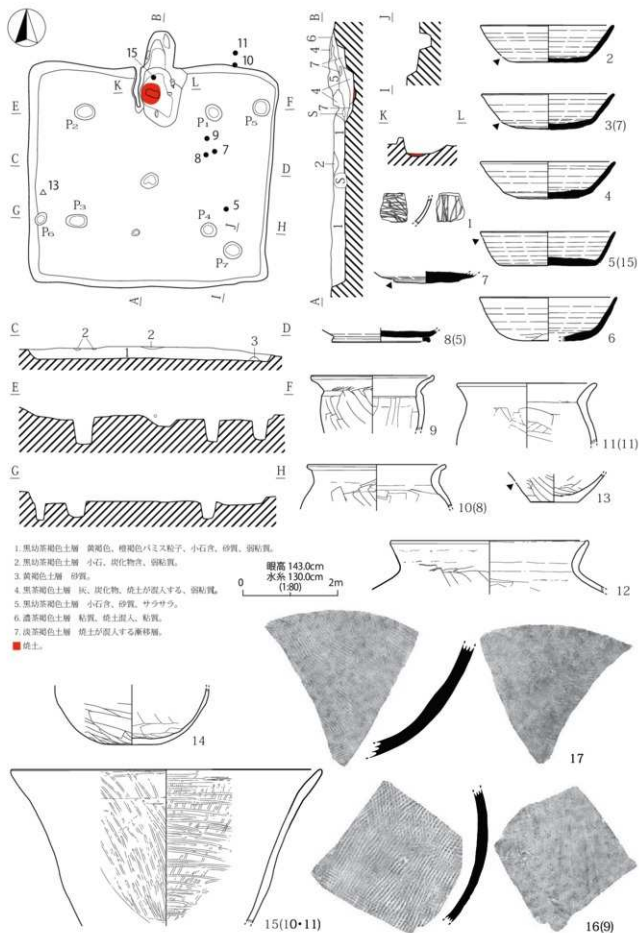


第107図 H79号竪穴建物

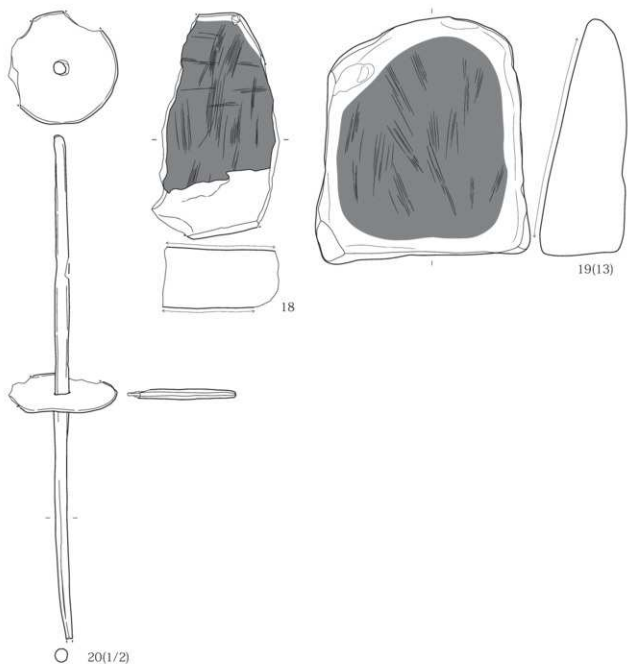
H 125号竪穴建物 (第166・167・168図)

R 18 グリッドで検出された。N-60°-Eに主軸方位をとる。長軸長6.00m、短軸長5.78m、壁残高0.52m、面積31.58㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H56、127を切る。6基検出されたピットのうち、均等に配置されるP1～P4の4基は支柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。北壁の西半の壁下には周溝が認められる。

遺物は土師器、須恵器、石器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、坏蓋、蓋、碗、甕、



第 108 図 H80 号竪穴建物 (1)



第109図 H80号竪穴建物(2)

壺、甕、台石、磨石、敲石、加工痕のある剥片、刀子、紡錘車、鉄鎌、角釘が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅲ四半期の所産と思われる。

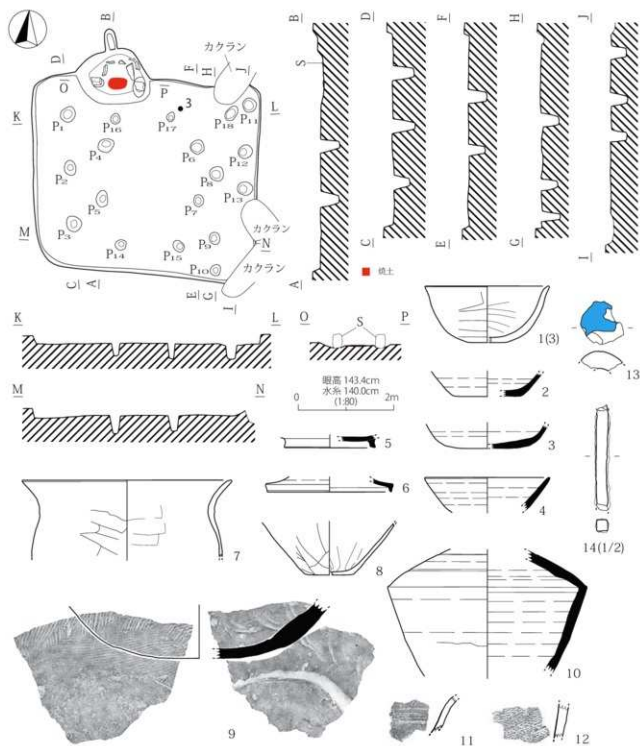
H 126号竪穴建物(第169図)

U16グリットで検出された。N-0°-Wに主軸方位をとる。長軸長3.92m、短軸長3.44m、壁残高0.40m、面積12.73㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H41、56、127を切る。4基検出されたピットのうち、P1～P3の3基は主柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 127号竪穴建物(第170図)

S 18グリットで検出された。N-35°-Wに長軸方位をとる。長軸長4.76m、短軸長4.36m、壁残高0.52m、面積20.21㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H41、56を切り、H 125、126に切られる。4基検出されたピットは主柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築される。



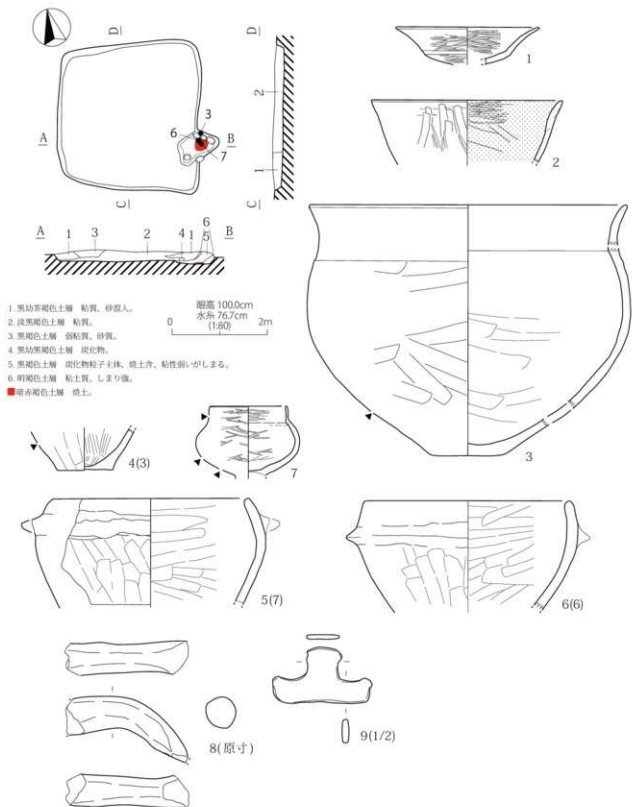
第110図 H81号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、鉢、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第Ⅱ四半期の所産と思われる。

H 128号竪穴建物(第171・172図)

U 19グリッドで検出された。N-0°-Wに主軸方位をとる。長軸長4.40m、短軸長4.32m、壁残高0.16m、面積17.97㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H41、129を切る。6基検出されたピットのうち、均等に配置されるP1～P4の4基が支柱穴と思われる。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、甕、紡錘車が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

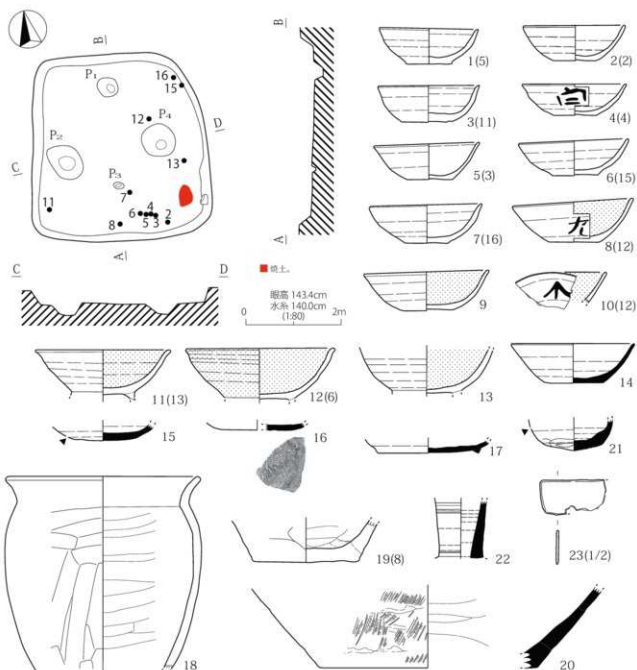


第111図 H82号竪穴建物

H 129号竪穴建物(第173図)

U 21 グリッドで検出された。壁残高 0.00 m の規模である。H40 を切り、H128 に切られる。調査範囲内にはピットは存在しない。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は 8 世紀第 IV 四半期の所産と思われる。



第112図 H83号竪穴建物

H 130号竪穴建物 (第174・175図)

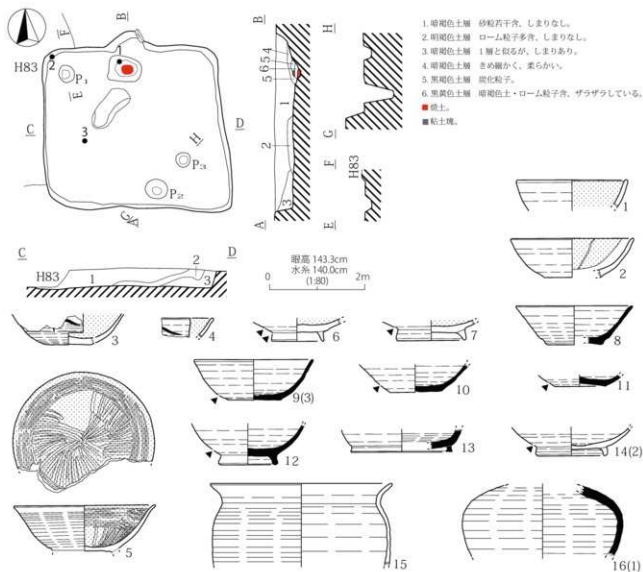
R 14グリットで検出された。N-83°-Eに主軸方位をとる。長軸長3.80m、短軸長3.72m、壁残高0.24m、面積10.92㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H42、43を切る。ピットは7基検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは東南隅に構築される。カマド分を除く壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、須恵器、土製品、鉄器が出土している。器種的には坏、碗、甕、壺、土製勾玉、鉄斧、鉄鎌が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 131号竪穴建物 (第176図)

R 12グリットで検出された。N-87°-Wに主軸方位をとる。長軸長3.18m、短軸長3.12m、壁残高0.20m、面積10.36㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H43を切り、H130に切られる。ピットは有さない。カマドは東壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、鉄器、鉄製品が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、鉄鎌、鉄塊が認められる。出土遺物の特徴から本址は8世紀第IV四半期の所産と思われる。



第113図 H84号竪穴建物

H 132号竪穴建物(第177・178図)

R 12グリッドで検出された。N-2°-Eに主軸方位をとる。長軸長5.12m、短軸長5.08m、壁残高0.56m、面積23.61㎡の規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H133を切る。4基検出されたピットは主柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、石器が出土している。器種的には坏、有台坏、甕、壺、台石、磨石が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀後半の所産と思われる。

H 133号竪穴建物(第179図)

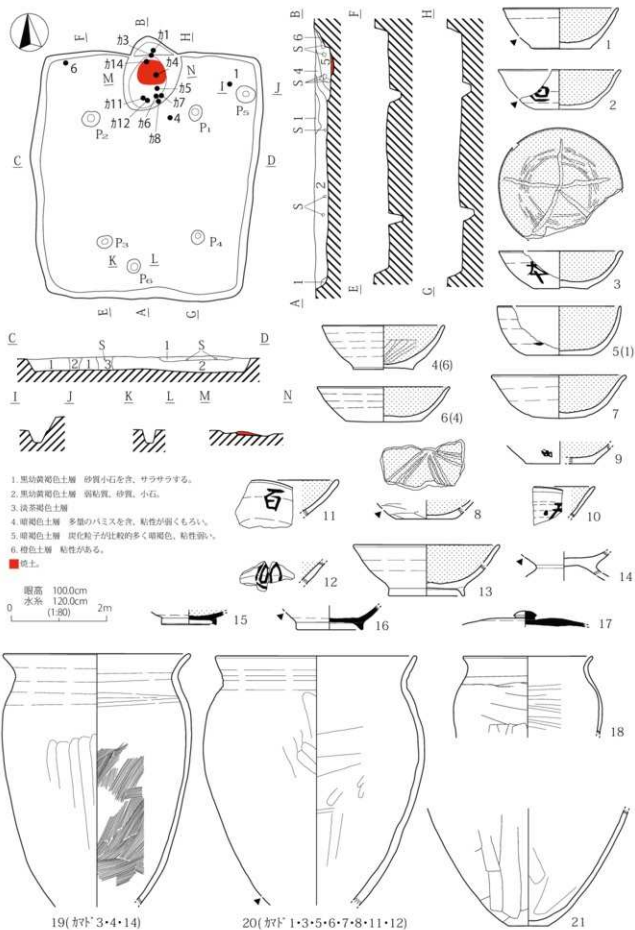
S 11グリッドで検出された。N-86°-Eに主軸方位をとる。長軸長3.86m、短軸長3.76m、壁残高0.22mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H132に切られる。ピットは3基検出されたが主柱穴は判然としない。カマドは東壁の北端部分に構築される。間仕切り溝が認められる。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、壺が認められる。出土遺物は多時期のものが混在しており、本址の所産期は不明である。

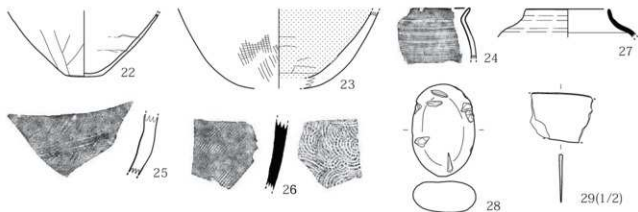
H 134号竪穴建物(第180・181図)

T 9グリッドで検出された。N-86°-Eに長軸方位をとる。壁残高0.24mの規模である。H135、136を切る。2基検出されたピットは主柱穴である。調査範囲にはカマドは存在しない。本址は焼失遺構である。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、碗、皿、高坏、甕、磨・敲石が



第114図 H85号竪穴建物(1)



第115図 H85号竪穴建物(2)

認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀前半の所産と思われる。

H 135号竪穴建物(第182図)

U 9グリッドで検出された。N-7°-Wに主軸方位をとる。壁残高0.32mの規模である。H134に切られる。ピットは4基検出された。P1～P3の3基は主柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。壁下には周溝が巡る。

出土遺物は皆無であり、本址の所産期は不明である。

H 136号竪穴建物(第183図)

T 9グリッドで検出された。N-7.5°-Wに主軸方位をとる。壁残高0.10mの規模である。H134、135に切られる。調査範囲にはピットは存在しない。カマドは北壁中央に構築される。

土師器クロ甕が1点出土しているが、本址の所産期を決定出来るものではない。

H 137号竪穴建物(第184図)

V 11グリッドで検出された。N-5°-Eに主軸方位をとる。長軸長5.04m、短軸長4.84m、壁残高0.24mの規模である。隅丸方形の平面形状を呈し、H64、138を切る。3基検出されたピットは主柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器が出土している。器種的には坏、皿、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀前半の所産と思われる。

H 138号竪穴建物(第185図)

V 12グリッドで検出された。N-3°-Eに主軸方位をとる。壁残高0.52mの規模である。他遺構との重複や調査区域外に延びるため全容は不明である。H64、137に切られる。2基検出されたピットは主柱穴である。カマドは北壁中央に構築される。

遺物は土師器、須恵器が出土している。器種的には坏、甕が認められる。出土遺物の特徴から本址は6世紀前半の所産と思われる。

Y 1号竪穴建物(第186図)

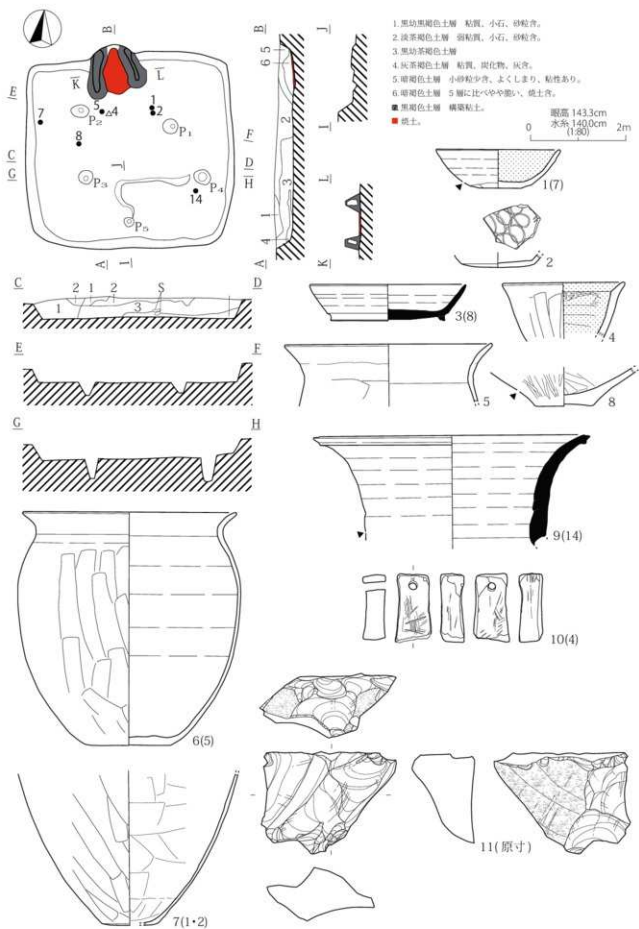
G 20グリッドで検出された。壁残高0.22mの規模である。調査区域外に延びるため全容は不明である。H24に切られる。2基検出されたピットの内、P1は主柱穴である。調査範囲に炉は存在しなかった。

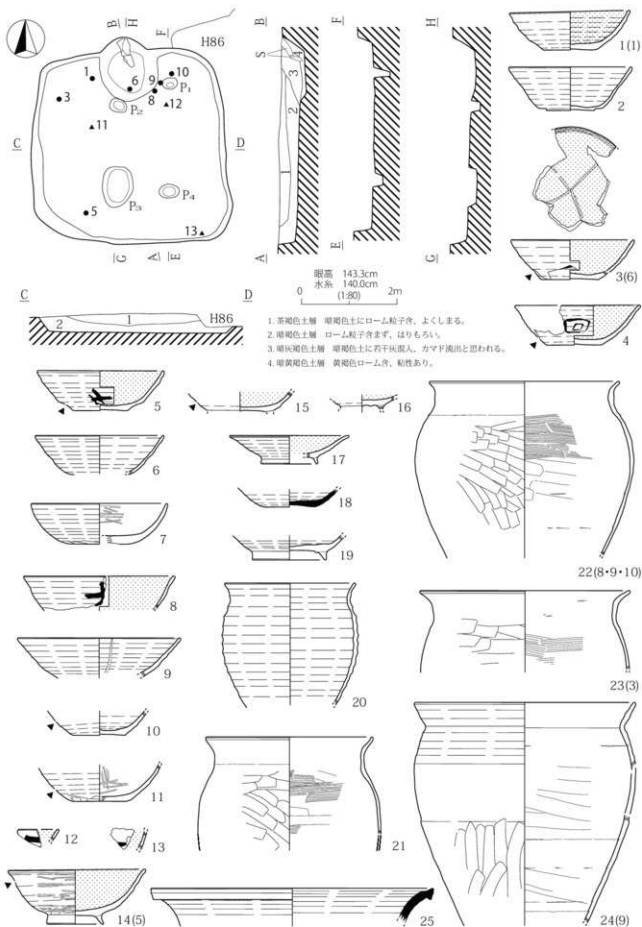
遺物は弥生土器が出土している。器種的には甕、台付甕、壺が認められる。1～5が本址に伴う遺物である。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期栗林式期の所産と思われる。

Y 2号竪穴建物(第187図)

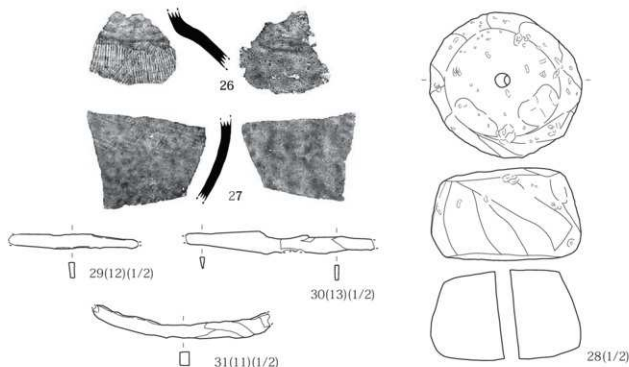
G 17グリッドで検出された。壁残高0.40mの規模である。調査区域外に延びるため全容は不明である。D6に切られる。ピットは2基検出されたが性格は不明である。調査範囲に炉は存在しなかった。

遺物は弥生土器、須恵器が出土している。器種的には甕が認められる。1、2、4が本址に伴う遺物である。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期栗林式期の所産と思われる。





第117図 H87号竪穴建物(1)



第118図 H87号竪穴建物(2)

Y 3号竪穴建物(第188～191図)

K 19グリッドで検出された。N-8°-Eに主軸方位をとる。長軸長6.80m、短軸長5.29m、壁残高0.20mの規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H28、106に切られる。ピットは25基検出された。均等に配置されるP1～P4が主柱穴である。P7、8の2基は出入口施設と思われる。炉は地焼炉で、遺構の中央部分に構築されている。本址は焼失遺構であり、床面上には炭化材が散乱していた。

遺物は土師器、弥生土器、石器が出土している。器種的には坏、鉢、高坏、甕、台付甕、壺、ミニチュア土器、環状石斧、編物石、磨・敲石、石核、石錐が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期粟林式期の所産と思われる。

Y 4号竪穴建物(第192図)

O 15グリッドで検出された。N-5°-Eに主軸方位をとる。短軸長5.28m、壁残高0.20mの規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H29、121、D10、11に切られる。ピットは20基検出された。均等に配置されるP1～P4が主柱穴である。P18、19の2基は出入口施設と思われる。炉は地焼炉で、遺構の中央部分に構築されている。

遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、ミニチュア土器が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期粟林式期の所産と思われる。

Y 5号竪穴建物(第193図)

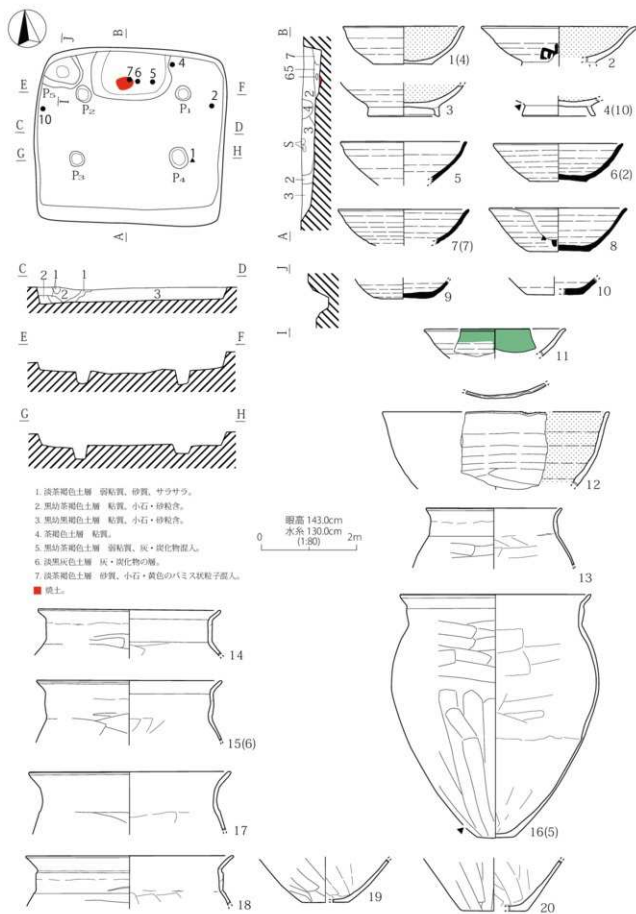
R 23グリッドで検出された。壁残高0.28mの規模である。H37、38に切られる。ピットは1基検出されたが性格は不明である。調査範囲内にはカマドや炉は存在しない。壁下には周溝が巡る。

遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には坏、甕、甕が認められるが、本址の所産期を比定出来るものではなく、本址の所産期は不明である。

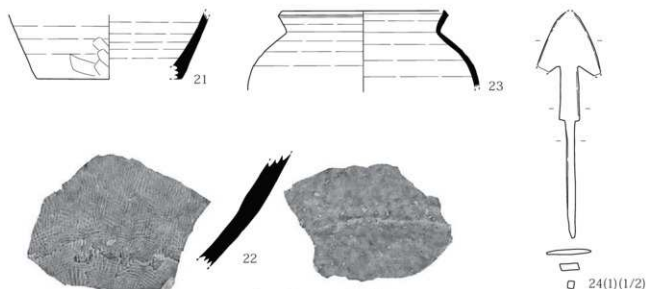
Y 6号竪穴建物(第194図)

T 19グリッドで検出された。壁残高0.32mの規模である。H40、125、127に切られる。他遺構との重複により遺構の全容は不明である。ピットは1基検出されたが性格は不明である。調査範囲内には炉は存在しない。

遺物は弥生土器が出土している。器種的には甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代中期粟林式期の所産と思われる。



第119図 H88号竪穴建物(1)



第120図 H88号竪穴建物(2)

Y7号竪穴建物(第195図)

B13グリッドで検出された。N-97°-Eに主軸方位をとる。長軸長3.64m、短軸長2.68m、壁残高0.52m、面積9.28㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H50に切られる。ピットは6基検出されたが主柱穴は判然としない。東壁下に構築された2基のピットは本址に伴うものではなく、本址に先行するものである。遺構中央東寄りの位置に土器敷居が構築されていた。炉体で使用されたのは9の壺底部である。

遺物は土師器、弥生土器が出土している。器種的には甕、鉢、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は弥生時代後期箱清水式期の所産と思われる。

Ta1号竪穴建物(第196図)

M13グリッドで検出された。N-9°-Eに長軸方位をとる。長軸長4.36m、短軸長1.76m、壁残高0.52m、面積7.33㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H119に切られる。ピット等の付属施設は皆無である。

遺物は土師器、須恵器、鉄製品が出土している。器種的には坏、碗、片口鉢、甕、壺が認められる。出土遺物の特徴から本址は9世紀後半の所産と思われる。

Ta2号竪穴建物(第197・198図)

N21グリッドで検出された。N-97°-Eに長軸方位をとる。長軸長4.88m、短軸長3.48m、壁残高0.52m、面積16.04㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H26、31、110、111、114を切る。ピット等の付属施設は皆無である。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器、弥生土器、土製品が出土している。器種的には坏、碗、皿、甕、横瓶、羽口が認められる。出土遺物の特徴から本址は10世紀後半の所産と思われる。

Ta3号竪穴建物(第199図)

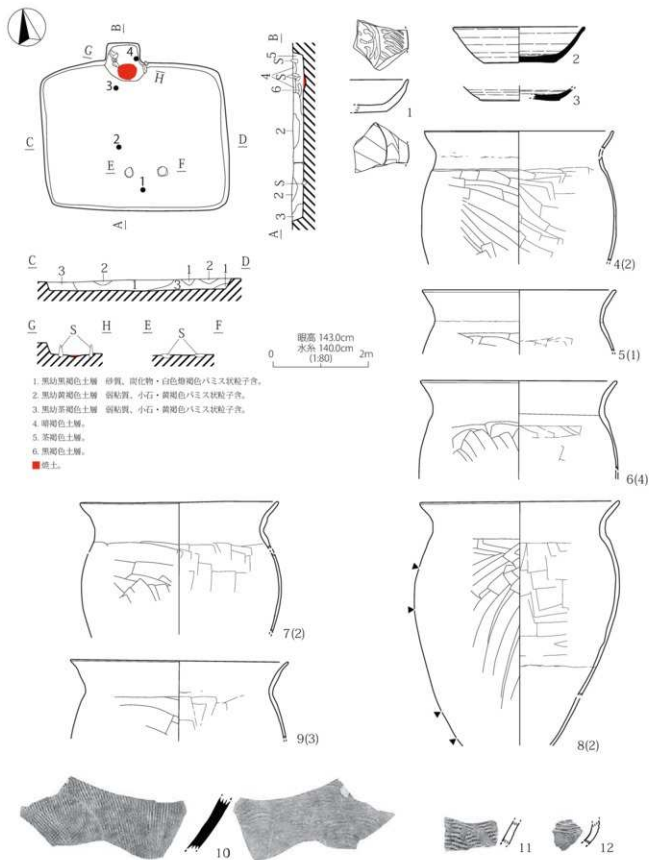
P17グリッドで検出された。N-12°-Eに長軸方位をとる。長軸長5.88m、短軸長3.12m、壁残高0.60mの規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H54、109、112に切られる。ピット等の付属施設は皆無である。

遺物は土師器、須恵器、灰軸陶器が出土している。器種的には坏、碗、甕が認められる。遺構の重複関係から本址は8世紀第1四半期以前の所産と思われる。

Ta4号竪穴建物(第200図)

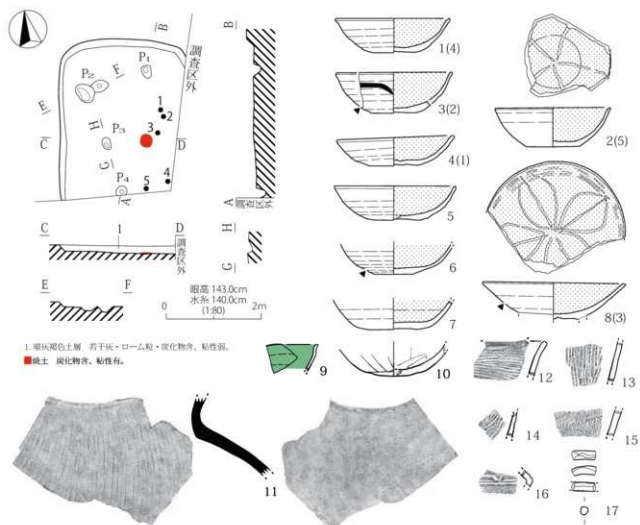
N14グリッドで検出された。N-13°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.16m、短軸長1.72m、壁残高0.24m、面積3.37㎡の規模である。隅丸長方形の平面形状を呈し、H27、119を切る。ピットが1基検出されているが性格は不明である。

遺物は土師器坏が1点出土しているが、本址の所産期を比定しうるものではない。遺構の重複関係から本址は10世紀前半以降の所産と思われる。



Ta5号竪穴建物(第201図)

K 13グリッドで検出された。壁残高0.32mの規模である。不整形の平面形状を呈し、H27、107に切られる。ピットが1基検出されているが性格は不明である。



第122図 H90号竪穴建物

遺物は土師器環が1点出土しているが、本址と重複するH107に帰属するものと思われる。遺構の重複関係から本址は6世紀後半以降の所産と思われる。

第2節 掘立柱建物

F1号掘立柱建物(第202図)

A12グリッドで検出された。N-75°-Wに長軸方位をとる。桁行長8.60m、梁間長5.30m、面積45.58㎡、桁行柱間寸法4.20～4.40mの規模である。2間×1間の側柱形態で、H5を切る。

出土遺物は皆無である。遺構の重複関係から本址は6世紀前半以降の所産と思われる。

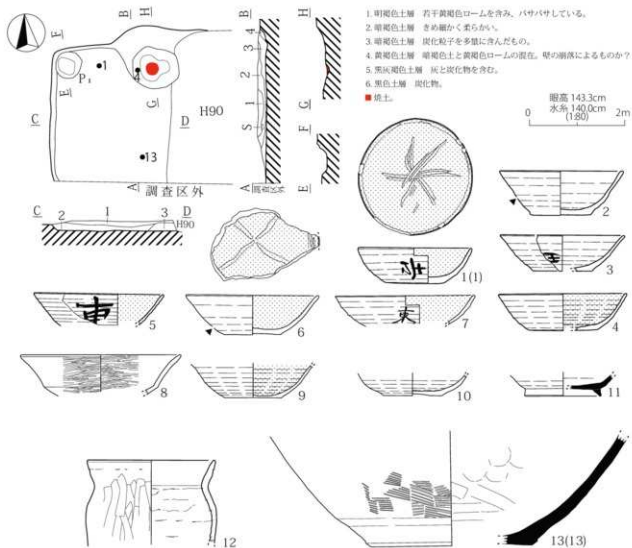
F2号掘立柱建物(第203図)

O11グリッドで検出された。N-25°-Wに長軸方位をとる。桁行長3.40m、梁間長3.10m、桁行柱間寸法1.70m、梁間柱間寸法1.50～1.70mの規模である。2間×2間の側柱形態で、H32、33、34を切り、H122に切られる。

出土遺物は皆無である。遺構の重複関係から本址は6世紀前半以降、8世紀第I四半期以前の所産と思われる。

第3節 土坑

D1号土坑～D11号土坑(第204～214図)



第123図 H91号竪穴建物

詳細については計測表を参照願いたい。出土遺物は皆無であり、所産時期、性格は不明である。M14グリット付近に集中する傾向が認められる。

第4節 ピット

P1～P16 (第215～216図)

詳細については計測表を参照願いたい。出土遺物は皆無であり、所産時期、性格は不明である。

第5節 溝址

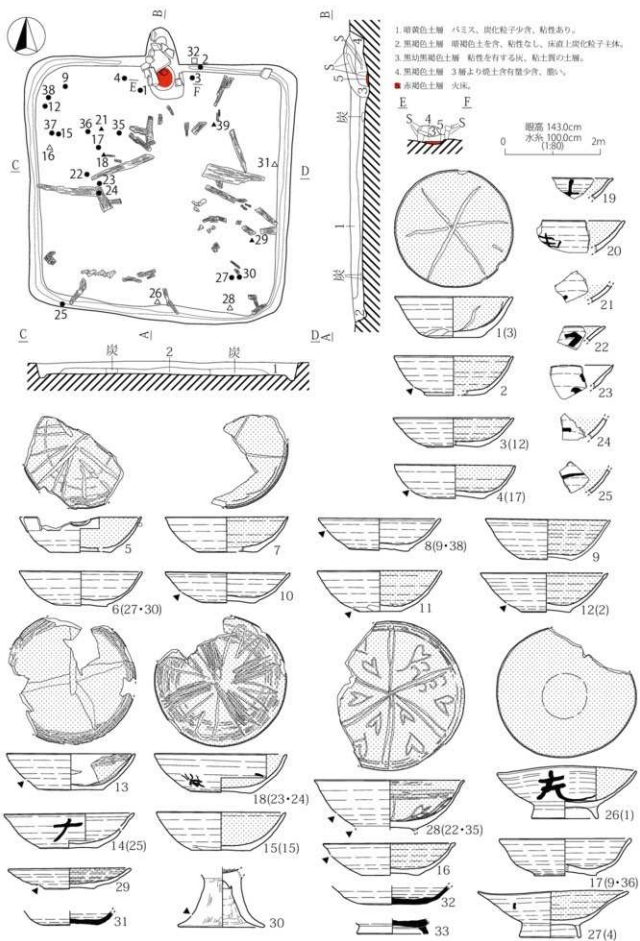
M7～M9 (第217～219図)

I11グリット付近にM7が展開している。遺構図面は存在しないが出土遺物が存在するため、溝址出土遺物として掲載する。重複する遺構に帰属するものも少なからず存在するであろう。

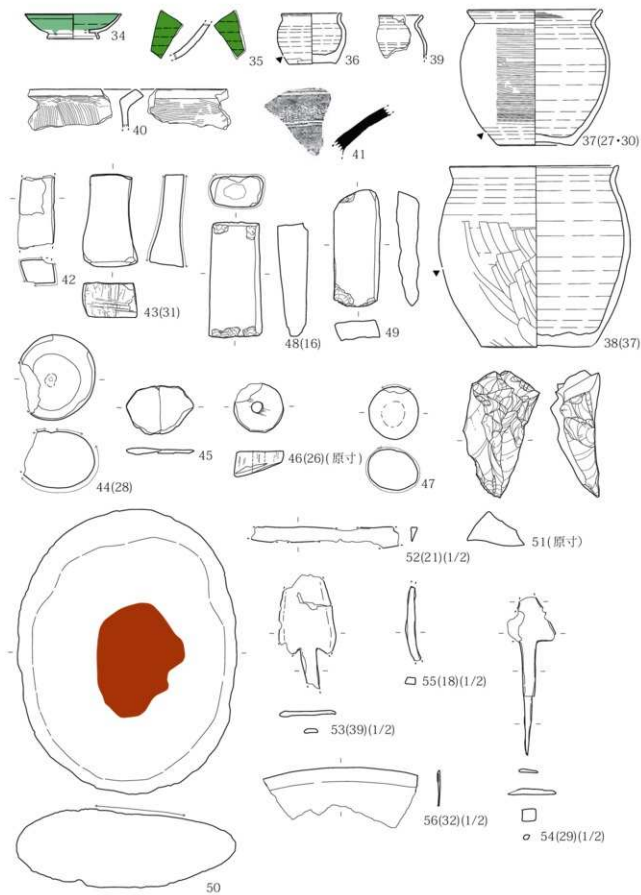
第6節 遺構外出土遺物

縄文土器 (第220図)

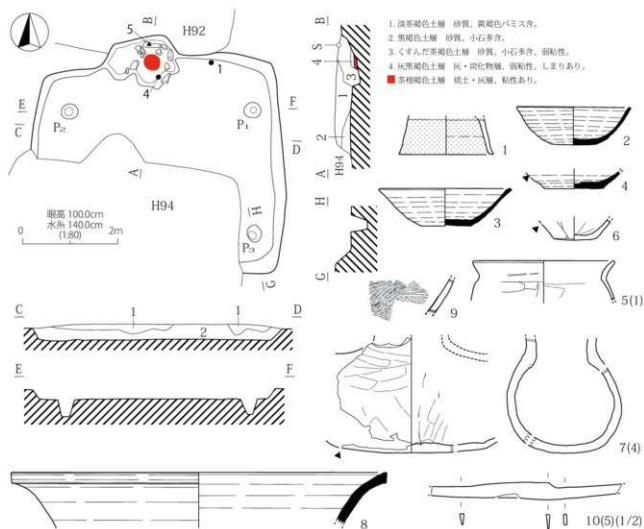
早期楕円押型文土器片が1点出土している。



第 124 図 H92 号竪穴建物 (1)



第125图 H92号竖穴建物(2)



第126図 H93号壁穴建物

弥生土器（第220図）

前期の土器片が比較的まとまって出土している。条痕文が施されるものが大半を占めている。細密なもの占める割合が多いように思われる。その他の文様が施される土器は、口縁部に沈線文が施されるものや、口唇部への加飾が施されるもの、単軸絡条体の燃糸文が施されるものなどが認められる。器種的には甕と壺が存在する。中期後半粟米式の土器片も21や73、76などのような壺片が認められる。

土師器（第220～222図）

5世紀末から10世紀にかけてのものが出土している。器種的には環、碗、皿、耳皿、高環、甕、壺、甗、羽釜などが認められる。墨書が認められるものや（17、40、44、45）、他地域から搬入されたもの（65）なども存在する。基本的には遺構内出土遺物の内容を反映した土器群である。

須恵器（第222～223図）

土師器同様に5世紀末から10世紀にかけてのものが出土している。器種的には環、有台環、環蓋、高環、甕、壺が認められる。

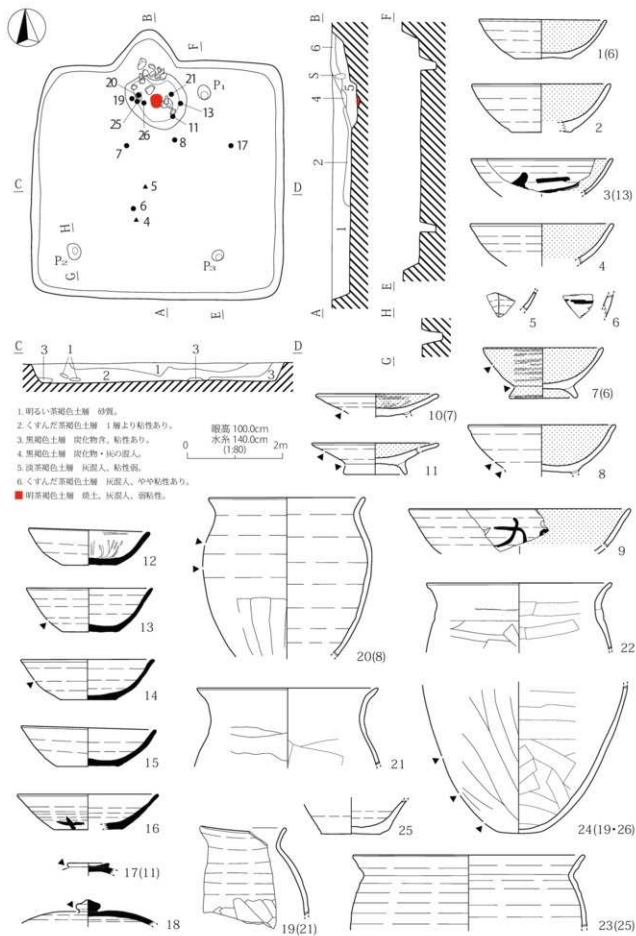
灰釉陶器、緑釉陶器、青磁（第223図）

年代的には10、11世紀の灰釉陶器、緑釉陶器と、15世紀の青磁である。注目すべきものとして、11の灰釉陶器平皿片がある。沈線により斜位の格子が描かれており、諏訪市金鉢場遺跡出土品の様な鳥を意匠としたものかもしれない。

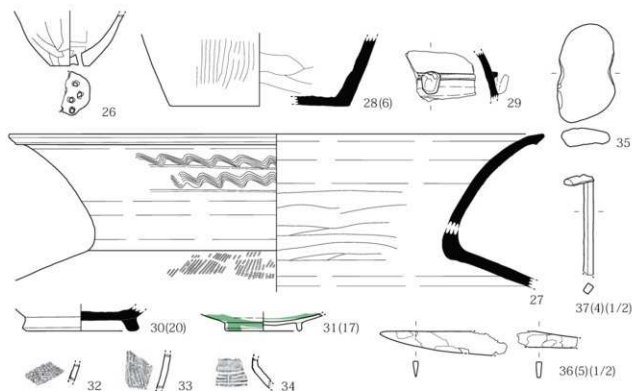
土製品（第223図）

土器片円盤が2点出土している。

石器、石製品（第223～224図）



第127図 H94号竪穴建物(1)



第128図 H94号竪穴建物(2)

打製石斧・打製石鏃・石錐・石匙・二次加工のある剥片などのような打製の石器、白玉・管玉などの玉類、凹石・磨石・敲石・編物石などのような礫を用いた石器、石製模造品の原材、硯などが出土している。

金属器・金属製品 (第224図)

鉄製の刀子、鏃、角釘、銅銭が出土している。

第V章 まとめ

西八日町の調査が行われたのは昭和58年であり、今から38年以上前になる。当時これほど大規模な古代集落の調査が県内で実施された例は稀有であったろう。出土品は貴重なものも多く含まれており、報告書が刊行出来なかったことが悔やまれる。以下各時代毎に若干の総括を記述していく。

縄文時代の遺物は楕円押型文が施される深鉢片が1点認められるだけなので節は設けない。

第1節 弥生時代

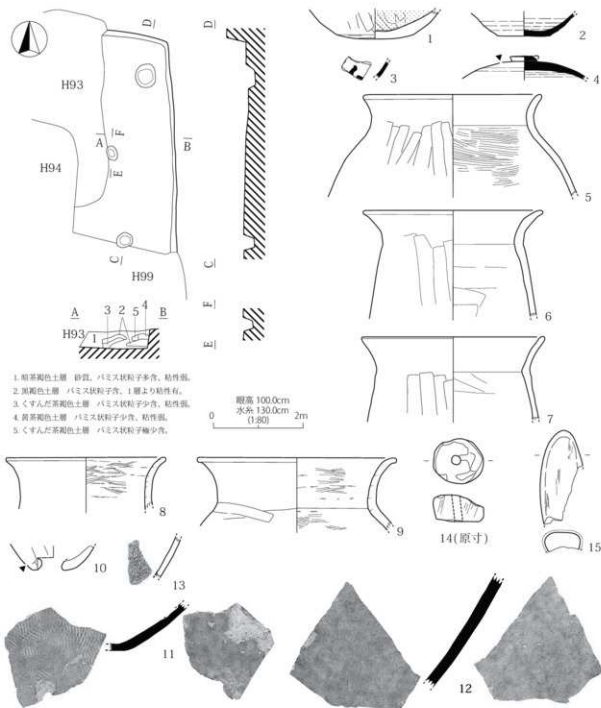
前期

伴うべき遺構は、後世の遺構により破壊され存在しなかったが、弥生時代前期の土器片が、古墳時代以降の竪穴建物の覆土や遺構外から出土している。条痕文が施されるものが大半であるが、その全てを図化したわけではない。第225、226図に主だったものを集成し大別した。(図に遺構名がないものはグリット出土遺物である)

I群は鉢を一括した。赤字のものは浮線文である。H103-32、35は内面に赤彩が認められる。

II群は壺を一括した。H90-16が浮線文の他は沈線文や、摺糸の車輪絡条体などが施される。赤彩が認められるものも少なくない。

III群は口縁部に数条の沈線が巡る甕である。内面にも沈線が巡るものは少数である。沈線は棒ないし竹管の



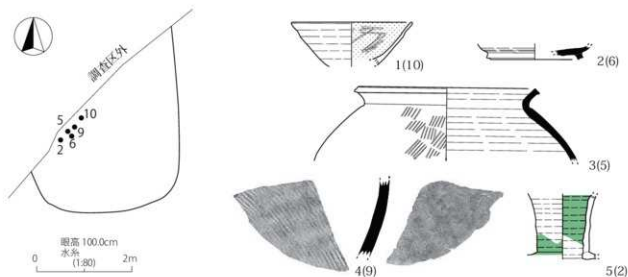
第 129 図 H95 号竪穴建物

背のようなもので描かれるものが大半である。平緑の他に波状のものも認められる。

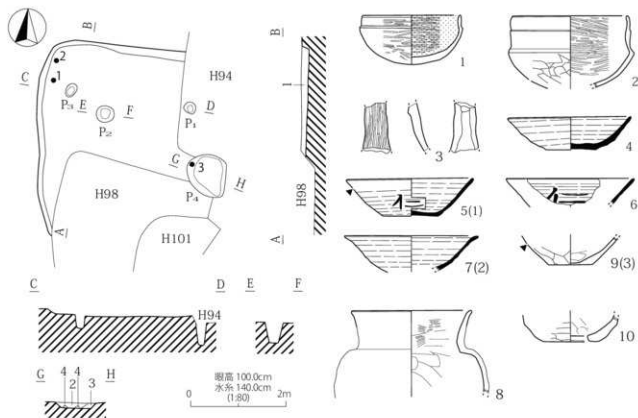
IV群は口外帯をもつものや、口唇部に刻みが施されるもの、口唇部に押捺や刻目が巡るものである。口縁部は平緑と波状のものがあり、条痕が施されるものも多い。無文のものも頸部下には条痕を有するものと思われる。

V群は条痕文が施されるものである。IV群の頸部下のものも含まれている。口縁部が存在するものは、残存部には加飾は認められないが、刻み等が施されている可能性がある。グリット出土資料に1点のみ内外面に条痕が認められるものがある。

VI群は燃糸ないし縄文が施されるものである。燃糸は単軸絡条体である。県内の同時期の遺跡に比べ多めの出土量のように思われる。



第130図 H96号竪穴建物



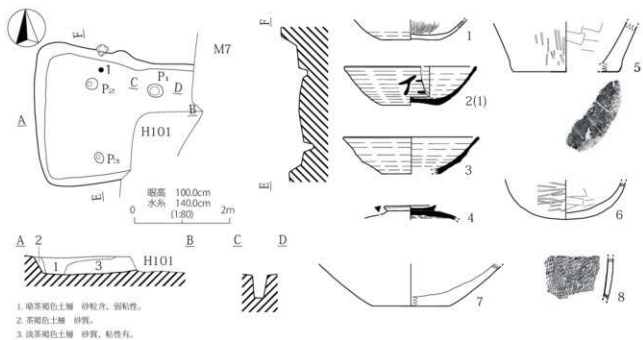
1. 灰茶褐色土層 パミス多量、粘性なし、しまり有。
2. 灰茶褐色土層 灰粒子と硝土多量、炭化物多少有、粘性なし、しまりなし。
3. 茶褐色土層 粒子細かく硝土粒子やや有、粘性やや有、しまり有。
4. 暗茶褐色土層 粒子は3層よりやや粒径目で硝土粒子と灰粒子わずかに有、粘性なし、しまりなし。

第131図 H97号竪穴建物

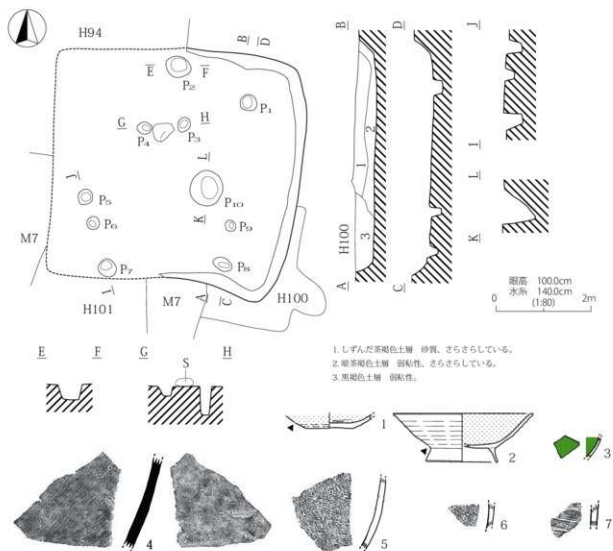
以上の土器群は中沢道彦の水Ⅱ式に該当するものと思われる。当遺跡は湯川の河岸段丘上に立地しており、やや上流には下信濃石遺跡が存在する。長年の調査から、佐久市内では湯川流域と片貝川流域に弥生時代中期前半以前の遺跡が集中することが明らかになって来ている。

中期前半

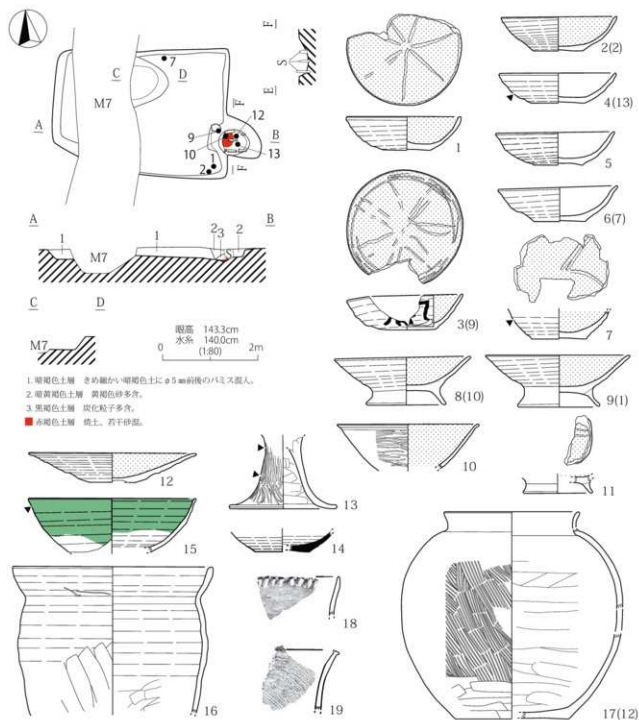
VII群とした土器は中期前半の資料と思われる。量的には少ないが、前期以降の人々の生活の痕跡が確認された。



第132図 H98号竪穴建物



第133図 H99号竪穴建物



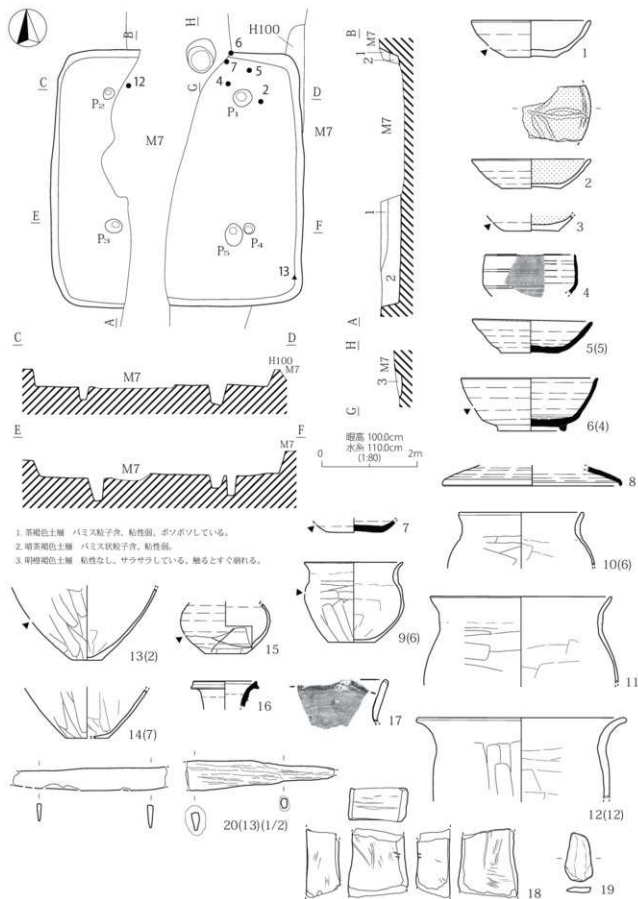
中期後半

中期後半栗林以降については遺構も検出されており、西八日町遺跡では集落が成立していたことが明らかである。Y1・3・4号竪穴建物などが該当し、小山岳夫の中期後半Ⅱ期(1999、長野県考古学会)の所産と思われる。

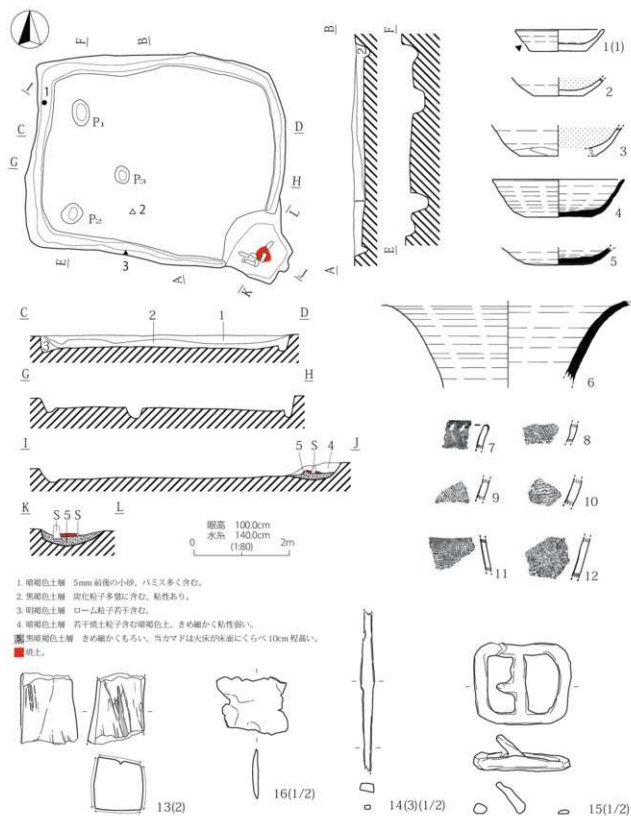
後期

Y7号竪穴建物が該当する。时期的には小山岳夫の後期Ⅲ期(1999、長野県考古学会)の所産と思われる。西八日町遺跡のⅦ次にわたる調査において、弥生時代の遺構は、本事例以外には第Ⅶ次調査で確認されているだけである。西八日町遺跡の弥生時代集落址は第Ⅰ・Ⅶ次調査範囲の西側に展開しているものと思われる。

尚、Y3号竪穴建物から環状石斧片が出土している。佐久市では3例目の出土である。



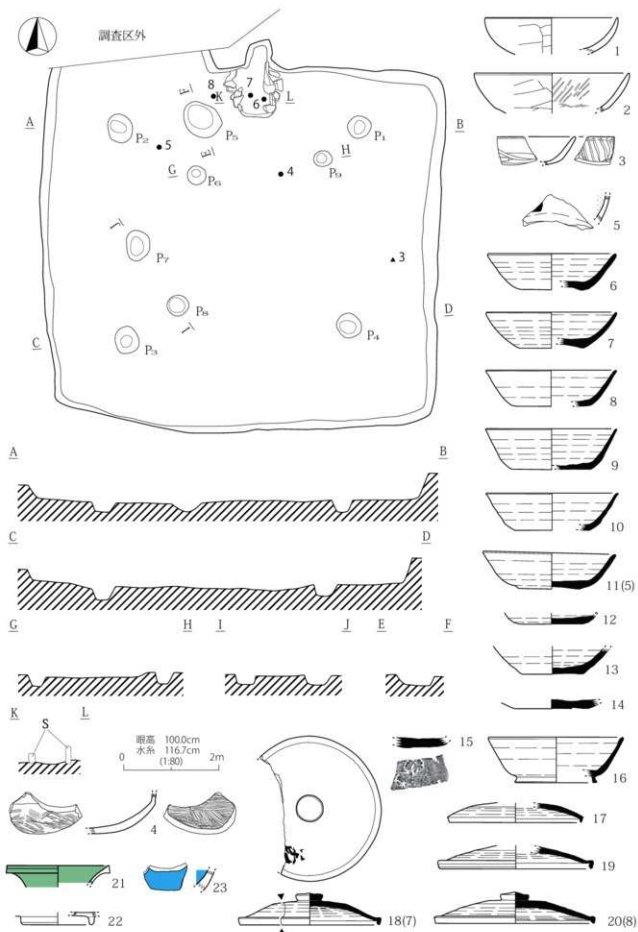
第135図 H101号整穴建物



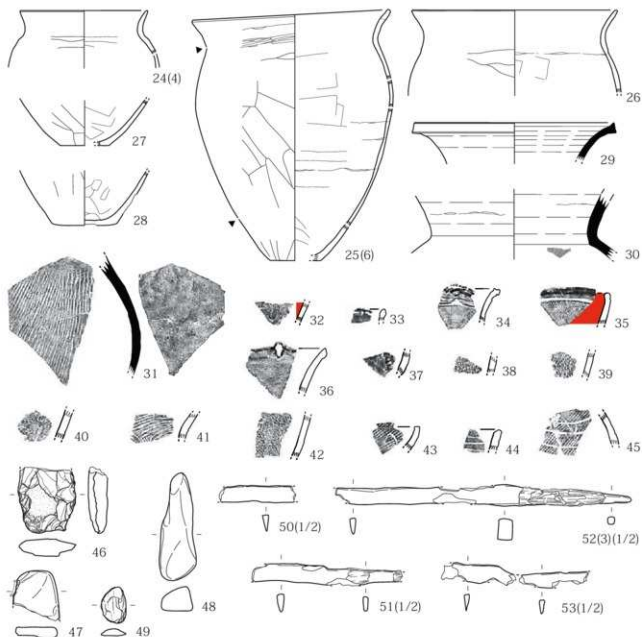
第136図 H102号竪穴建物

第2節 古代

4世紀や5世紀前半の遺構・遺物は確認されていない。集落が形成されるのは5世紀後半からである。これ以降は古墳時代を通じ集落は連続と継続する。集落が終焉するのは10世紀後半である。鉄器・鉄製品は5世紀後半から認められる。器種的には古墳時代には刀子と鉄以外は認められない。奈良時代になると紡錘



第137图 H103号整穴建物(1)



第138回 H103号竪穴建物(2)

車や釘が新たに加わり、量的にも増加する。平安時代に入ると、鎌や鋤先などの農具や斧、鋸、絞具、火打金具などが認められるようになり、量的にも更に増加する。銅製品は古銭も含め、10世紀前半に再利用のため板状に延ばされた銅碗片が1例認められるだけである。文字資料は基本的に古墳、奈良時代には認められない。古墳時代に刻書や朱書きの「×」が認められるだけである。平安時代に入ると朱墨が付着した土器や土器片が出土する。字は9世紀代には「仁」、「西永」、「本」、「百」、「用」、「加」、「生万」、「左」、10世紀前半には「安」、「千」、「回」、「吉」、「東」、「令」などが認められるが、判読できないものもある。

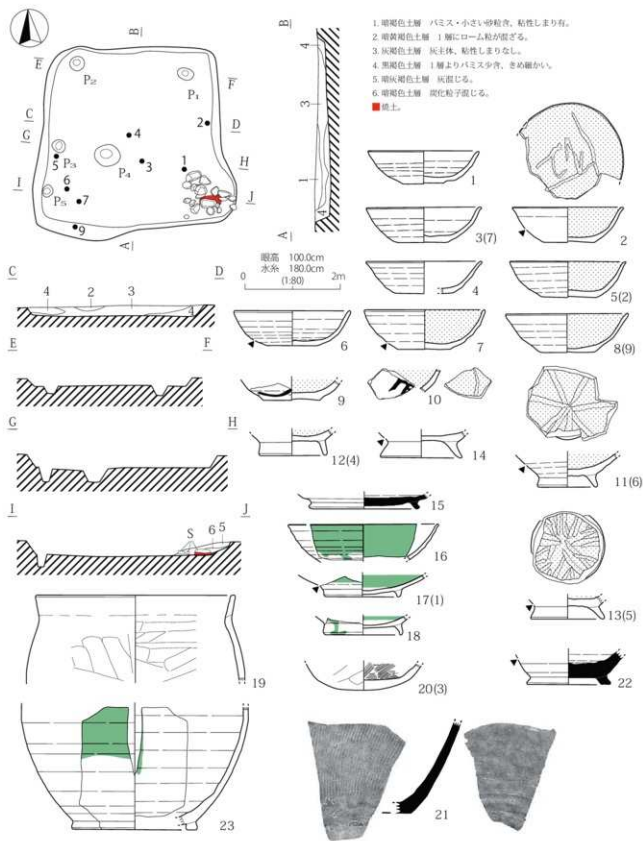
字ではないが、9世紀前半のH137からは馬と思われる絵が刻書された土師器皿が出土している。

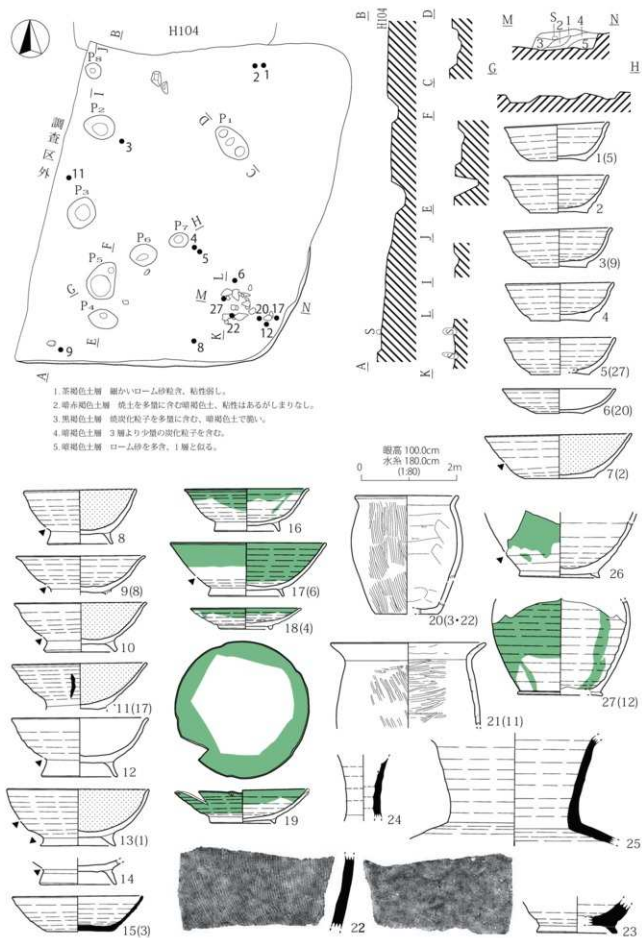
土器の種類からは、緑釉陶器や白磁などの高級な焼き物が10世紀代には認められるようになる。

その他に、炭化した横櫛が7世紀代の竪穴建物址から出土している。状態が悪く図化不可能な状態であるが、貴重な出土例である。

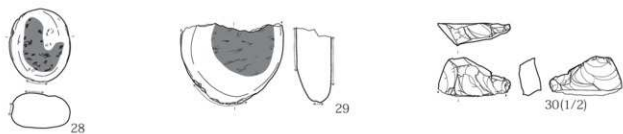
竪穴建物の時期別軒数の推移は以下の通りである。

弥生時代中期後半	Y 1・2・3・4・6
弥生時代後期	Y 7
古墳時代5世紀後半	H 20・38・75

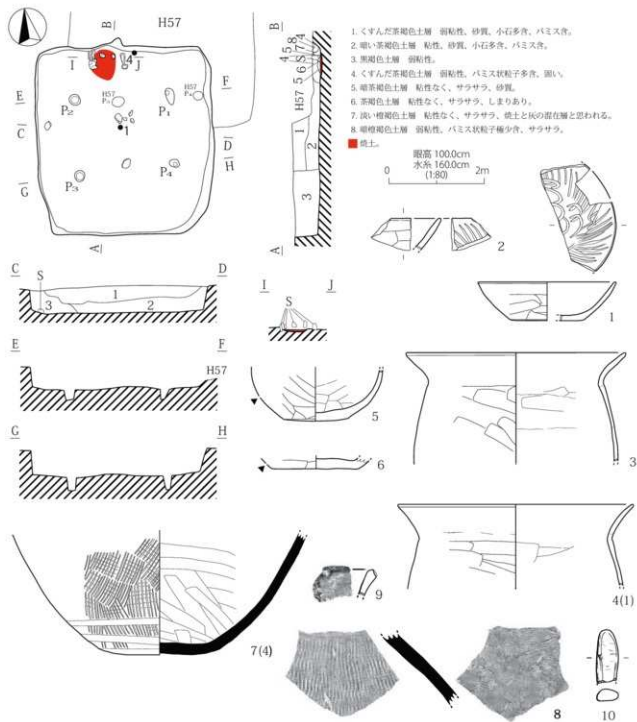




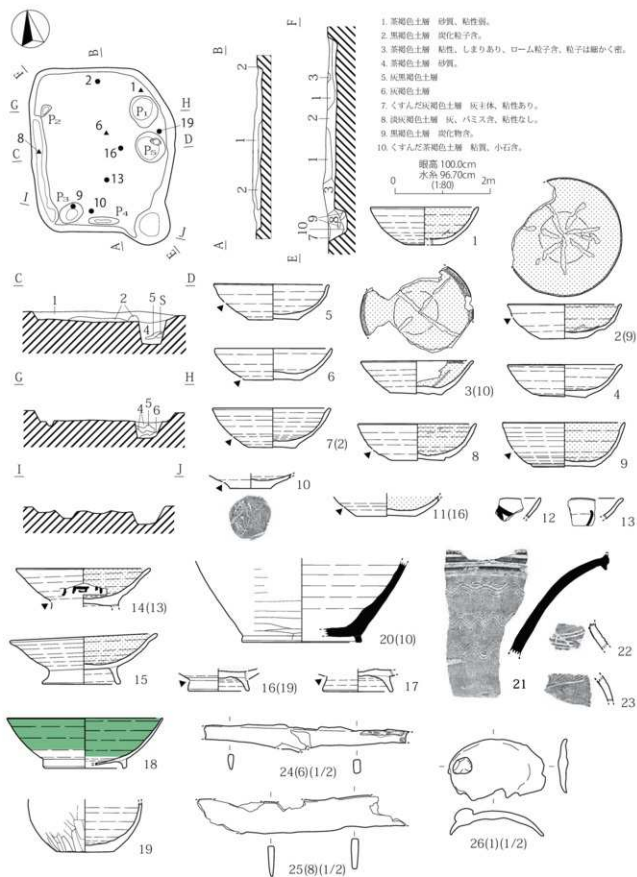
第140図 H105号竪穴建物(1)

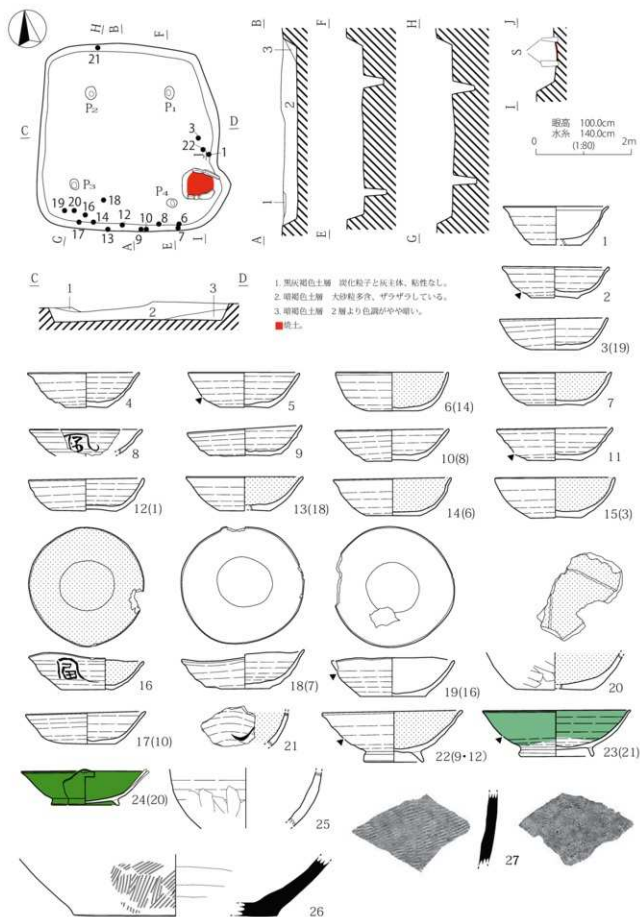


第141図 H105号竪穴建物(2)

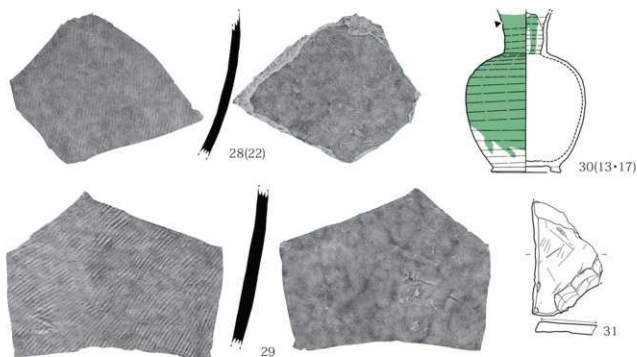


第142図 H106号竪穴建物





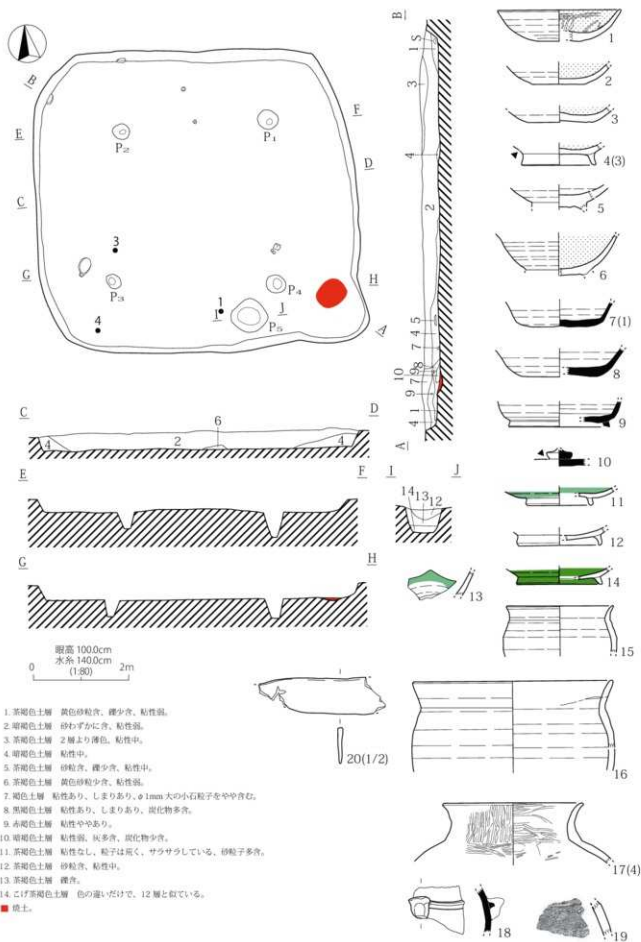
第144図 H108号竪穴建物(1)



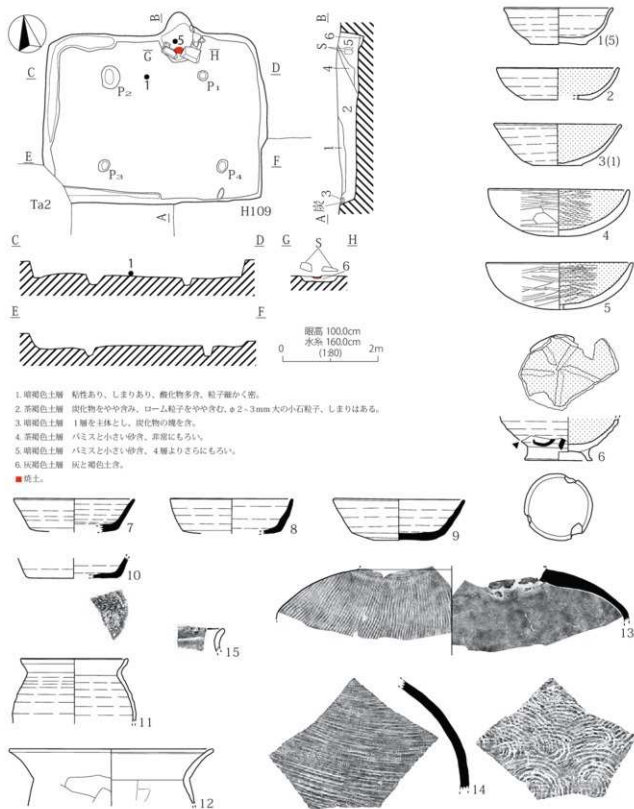
第145図 H108号壺穴建物(2)

古墳時代6世紀前半	H 1・3・4・5・6・8・9・10・11・13・21・29・30・32・33・36 40・41・42・48・58・138
古墳時代6世紀後半	H 2・7・15・19・22・24・27・28・31・37・43・95・132
古墳時代7世紀前半	H 16・23・25・26・35・44
古墳時代7世紀中葉	H 12・17
古墳時代7世紀後半	H 18・39・45・47・72
奈良時代8世紀第Ⅰ四半期	H 51・54・57・61・76・122
奈良時代8世紀第Ⅱ四半期	H 46・49・50・60・80・86・106・126・127
奈良時代8世紀第Ⅲ四半期	H 52・53・55・59・62・64・74・81・89・103・125
奈良時代8世紀第Ⅳ四半期	H 63・67・118・129・131
平安時代9世紀前半	H 77・79・88・93・97・101・112・115・120・128・137
平安時代9世紀後半	H 85・94・96・98・111・114・116・117・124
平安時代10世紀前半	H 66・69・70・71・73・78・83・84・87・90・91・92・100・104 105・107・108・109・110・113・119・121・130・134
平安時代10世紀後半	H 82・102

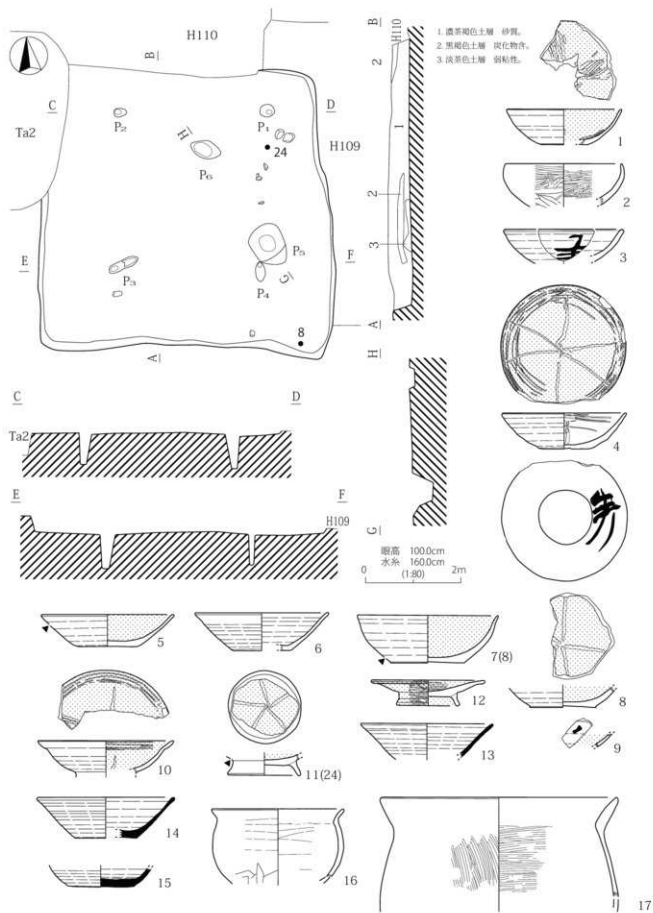
以上のように、古墳時代では6世紀代に、奈良時代では8世紀第Ⅱ・Ⅲ四半期に、平安時代では9～10世紀前半にピークが認められる。平安時代のピークについては金属器や文字資料の変化とも連動しており、この時期の西八日町遺跡の隆盛が垣間見れる。古墳時代6世紀代のピークは西八日町遺跡に限ったことではなく、隣接する一本柳遺跡群でも同様である。古墳時代前期から5世紀にかけ衰退あるいは消滅した集落が爆発的に増加している。奈良時代の増加は所謂計画集落と捉えることも可能かもしれない。そして、平安時代9～10世紀前半の集落規模の拡大、特に10世紀前半のそれが何に起因するのかは定かではないが、出土遺物からは公的な集落の匂いはあまり感じられない。しかし、朱墨の存在などからは文書の作成、訂正が行われていたようである。荘園だったのであろうか。いつれにせよ広大な西八日町遺跡の全容はまだ明らかとはなっていない。ここでの記述は推測でしかないが、傾向は提示出来たものと思う。

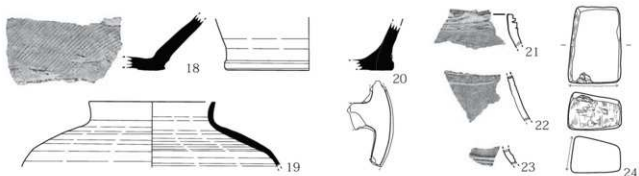


第146図 H109号竪穴建物

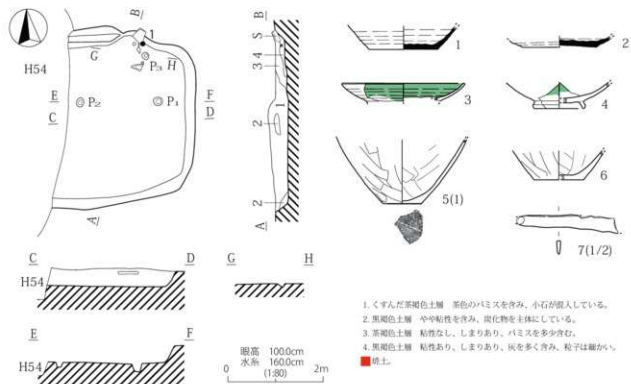


第147図 H110号竪穴建物





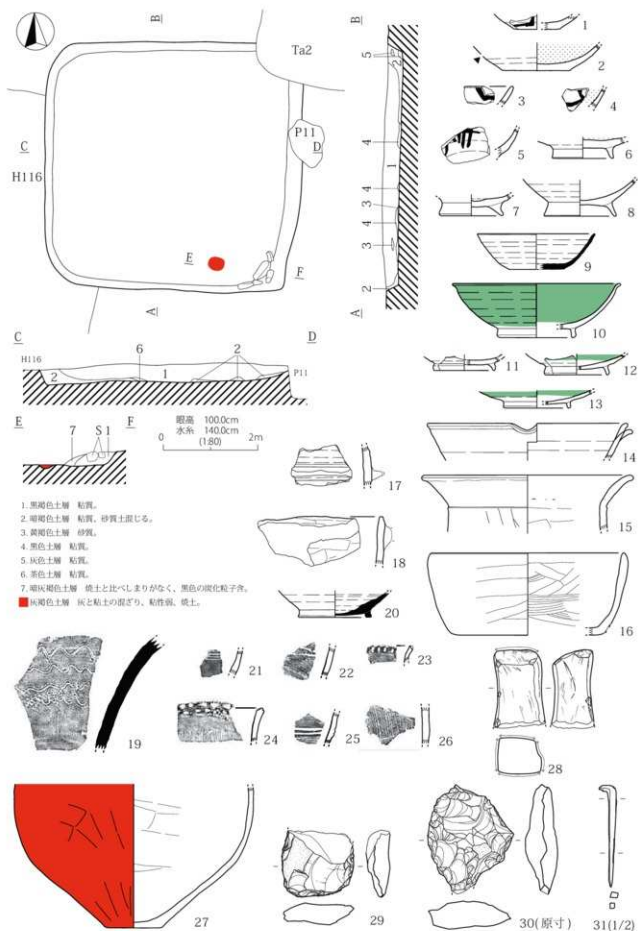
第 149 図 H111 号壁穴建物 (2)



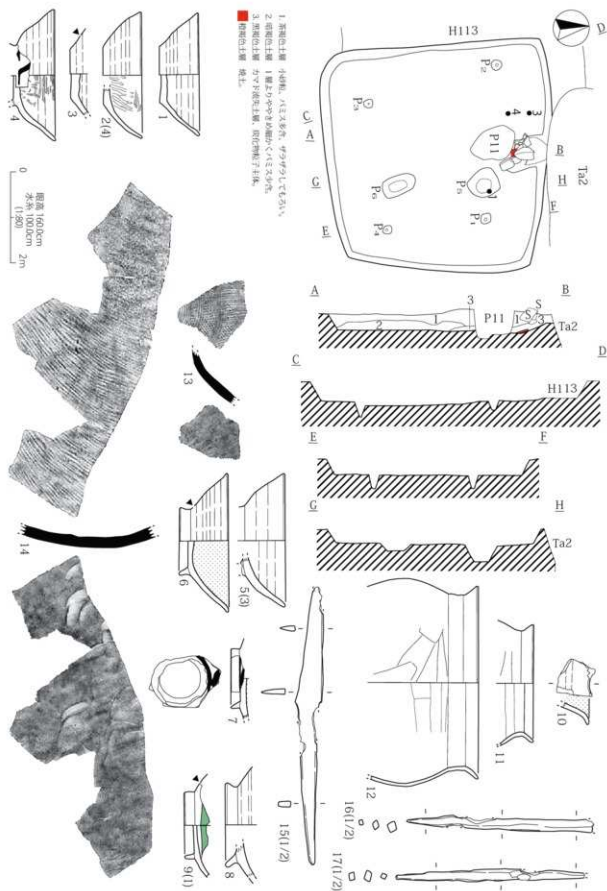
第 150 図 H112 号壁穴建物

引用・参考文献

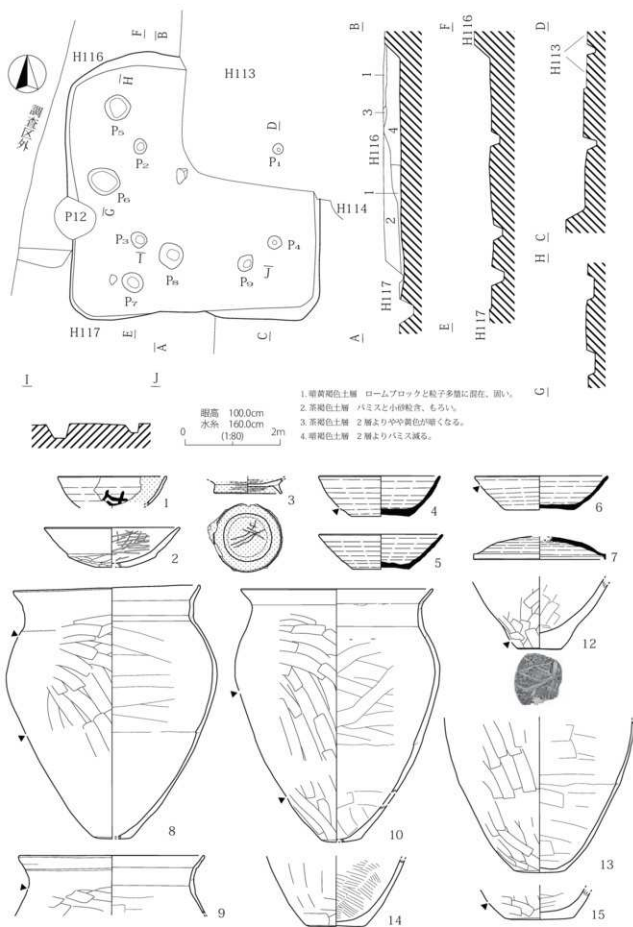
- | | | | |
|-------|---------------------------|---------------|-------------|
| 1987年 | 松本市赤木山遺跡Ⅱ | | 松本市教育委員会 |
| 1991年 | 東日本における稲作の受容 | | 東日本埋蔵文化財研究会 |
| 1999年 | 長野県の弥生土器 | | 長野県考古学会 |
| 2000年 | 墨書土器の研究 | | 平川 南 |
| 2003年 | 考古学資料大観Ⅰ | | 小学館 |
| 2004年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第117集 | 東五里田遺跡 | 佐久市教育委員会 |
| 2005年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第126集 | 聖原遺跡 - 第5分冊 - | 佐久市教育委員会 |
| 2006年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第134集 | 下信濃石遺跡 | 佐久市教育委員会 |
| 2010年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第172集 | 西八日町遺跡Ⅳ | 佐久市教育委員会 |
| 2010年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第173集 | 西八日町遺跡Ⅴ・Ⅵ | 佐久市教育委員会 |
| 2010年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第175集 | 東大門先遺跡Ⅱ | |
| | | 西八日町遺跡Ⅲ・Ⅶ | 佐久市教育委員会 |
| 2013年 | シナノにおける古墳時代社会の発展から律令器への展望 | | 西山克己 |



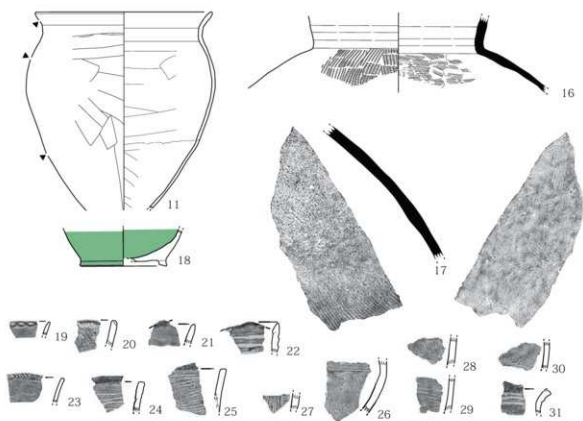
第151図 H113号整穴建物



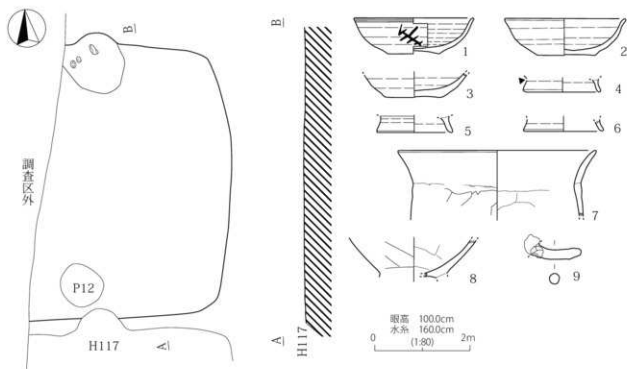
第152図 H114号竪穴建物



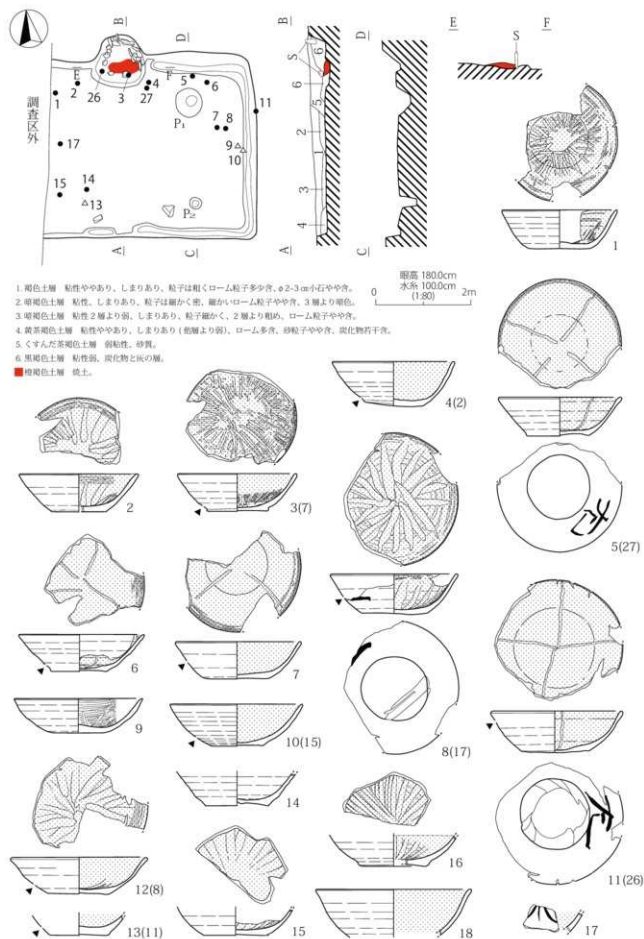
第153図 H115号竪穴建物(1)



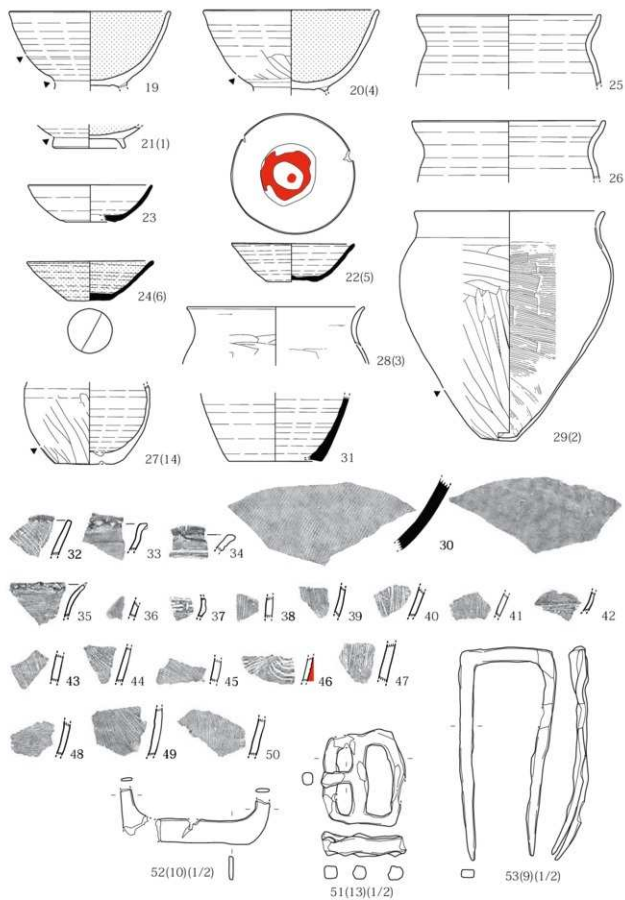
第 154 图 H115 号竪穴建物 (2)



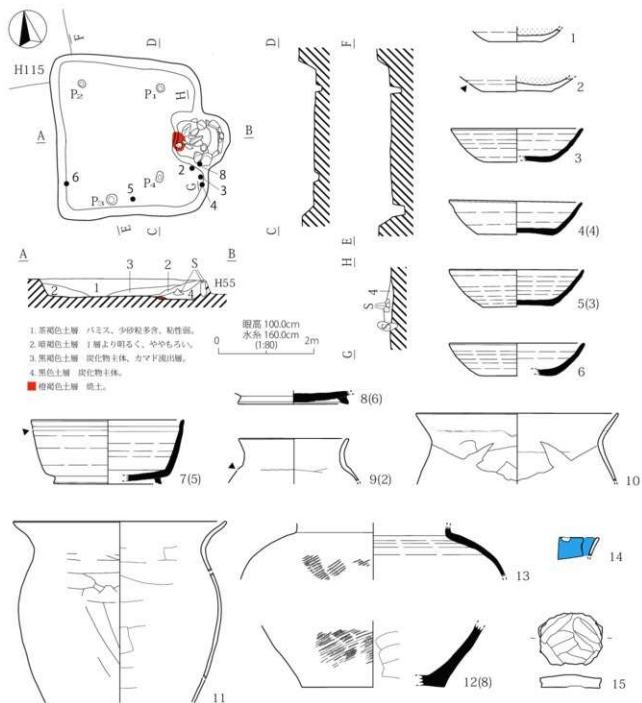
第 155 图 H116 号竪穴建物



第156図 H117号竪穴建物(1)

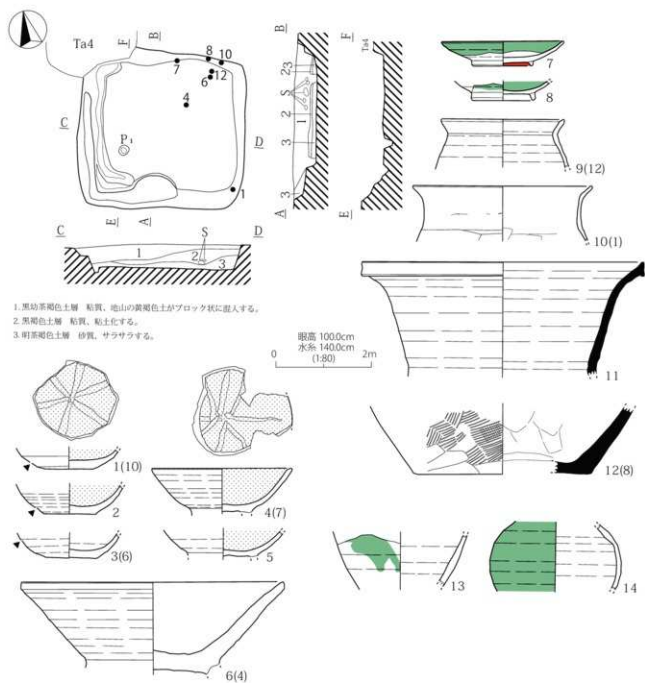


第 157 図 H117(2) 号竪穴建物

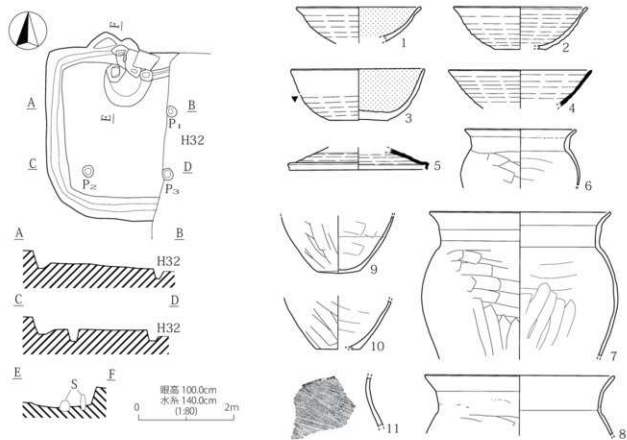


第 158 図 H118 号竪穴建物

- | | | | |
|--------|----------------------------|--|----------|
| 2014 年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 219 集 | 市道遺跡Ⅴ
平馬塚遺跡Ⅱ
北裏遺跡Ⅱ
宮浦遺跡Ⅰ
北畠遺跡Ⅲ | 佐久市教育委員会 |
| 2014 年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 227 集 | 西八日町遺跡Ⅶ | 佐久市教育委員会 |
| 2016 年 | 前方後円墳築造地域における弥生から古墳時代前期の集落 | | 小山岳夫 |
| 2017 年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 251 集 | 西八日町遺跡Ⅷ | 佐久市教育委員会 |
| 2019 年 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 260 集 | 西一本柳遺跡ⅩⅡ | 佐久市教育委員会 |



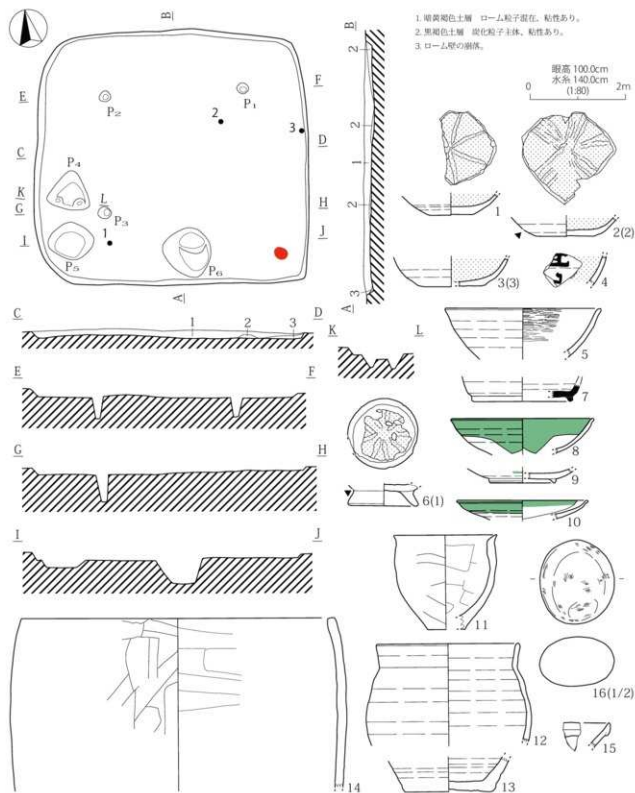
第 159 図 H119 号竪穴建物



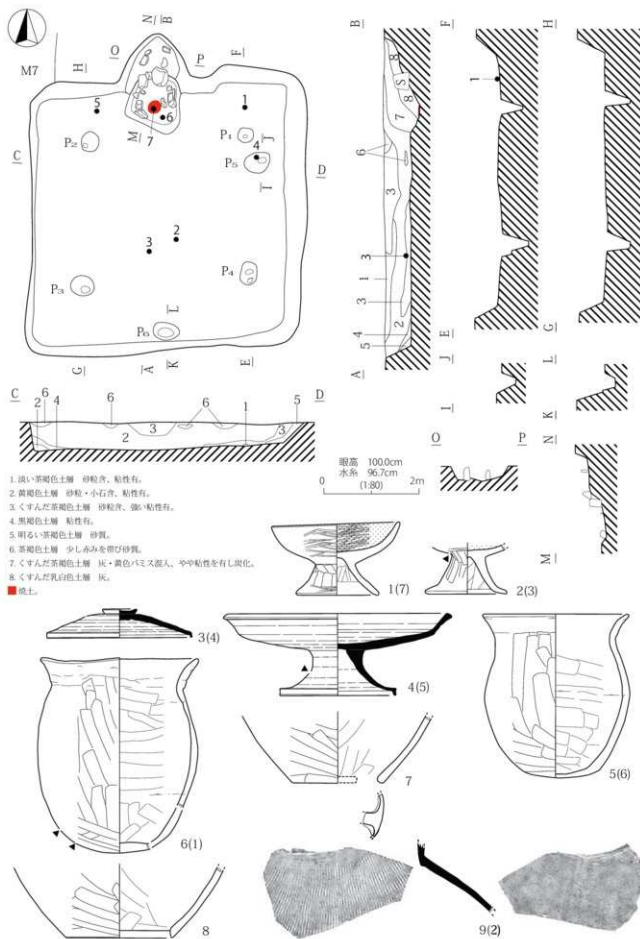
第 160 図 H120 号竪穴建物



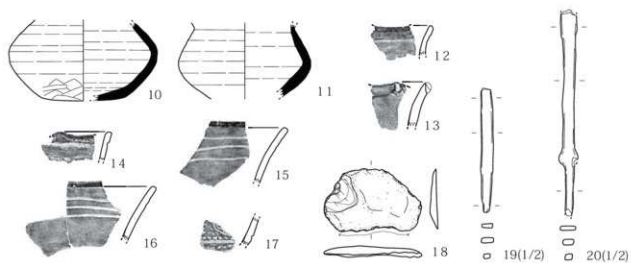
遺構の重複状態（調査区南端）



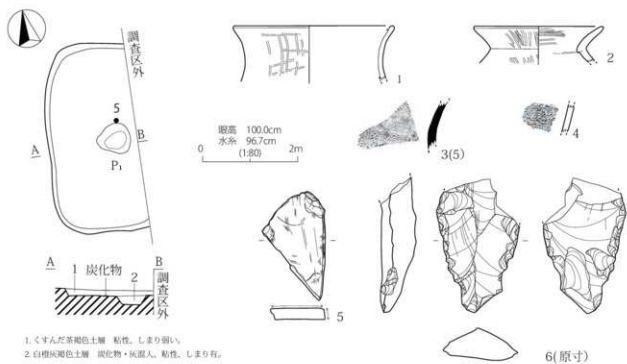
第 161 図 H121 号竪穴建物



第162図 H122号竪穴建物(1)

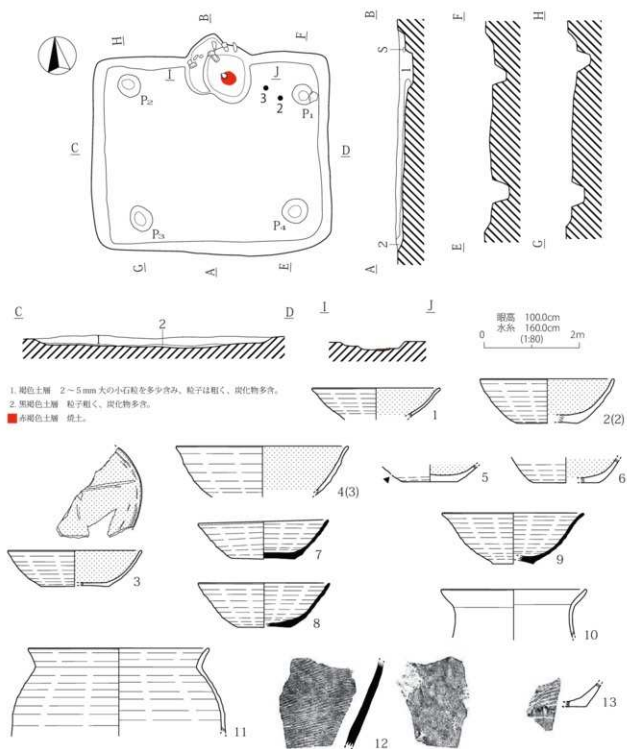


第163図 H122号竪穴建物(2)

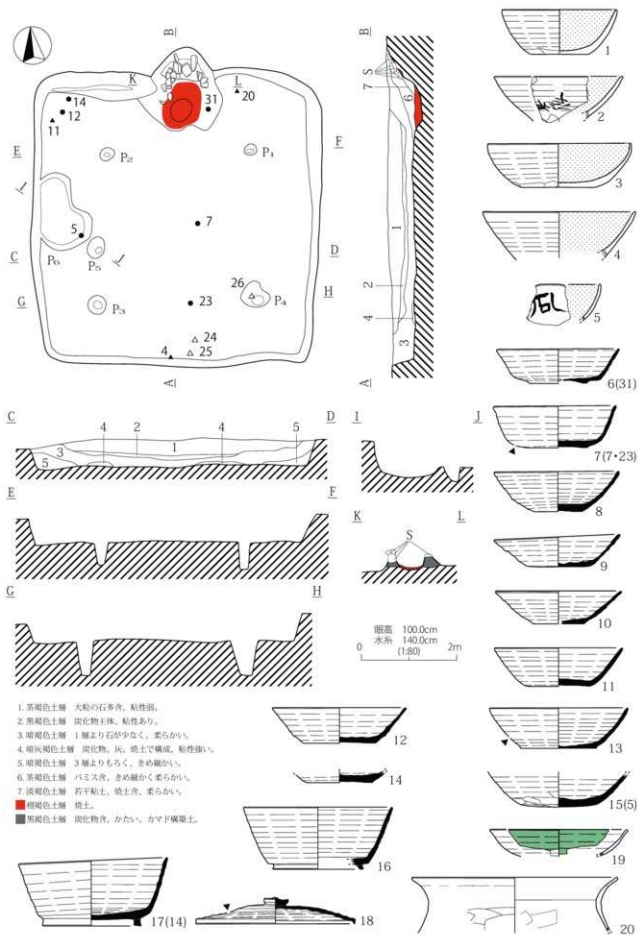


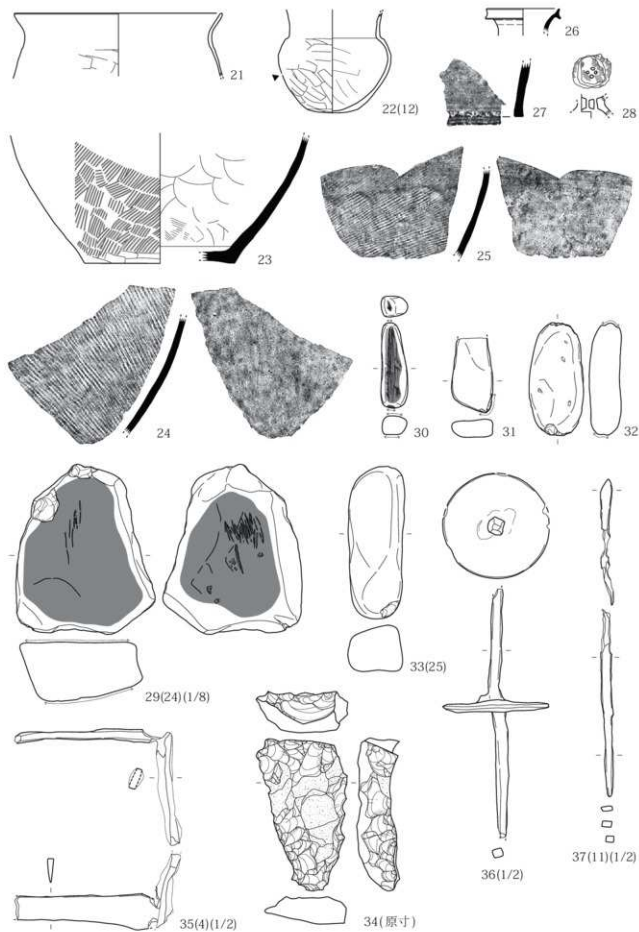
1. くすんだ茶褐色土層 粘性、しまり弱い。
2. 白褐色褐色土層 炭化物・灰質人。粘性、しまり有。

第164図 H123号竪穴建物

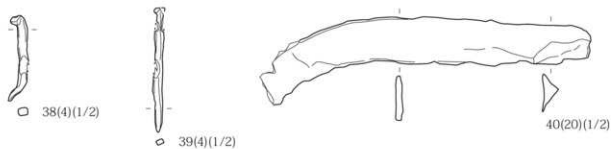


第165図 H124号竪穴建物

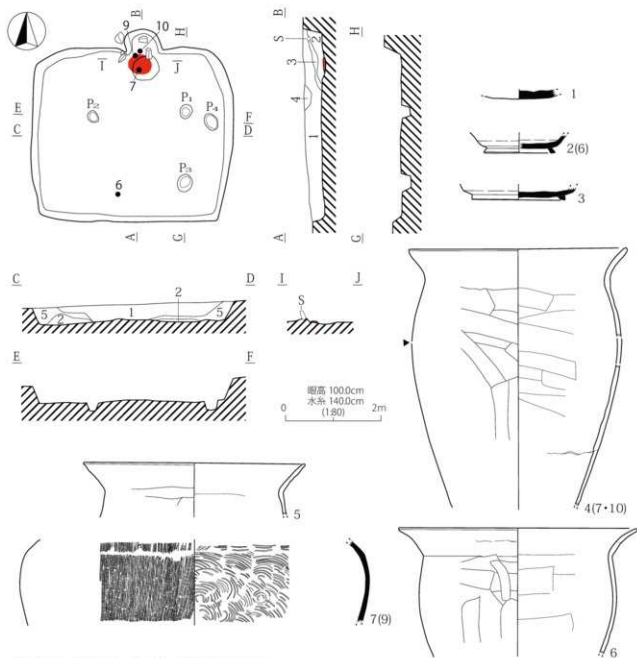




第 167 图 H125 号整穴建物 (2)



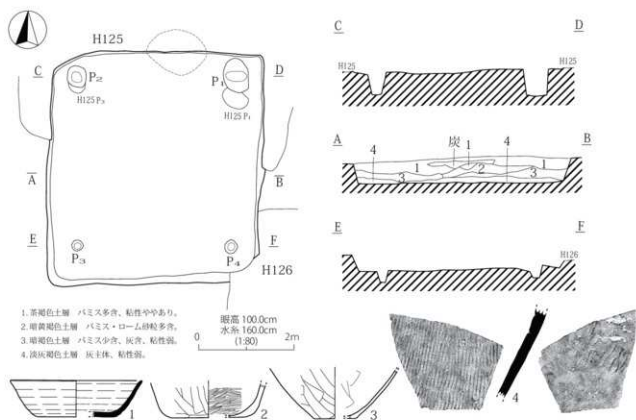
第 168 図 H125 号竪穴建物 (3)



1. 暗褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、炭化物多少含、粒子細かい。
2. 茶褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、ローム粒子多含、炭化物やや含、粒子細かい。
3. 黒褐色土層 粘性あり、しまりあり、炭土少含、粒子細かい。
4. 暗褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、炭化物多含、φ1mm 大小の小石粒を若干含。
5. 黄茶褐色土層 粘性ややあり、しまりあり、炭化物多少含、ローム粒子やや含。

■ 焼土。

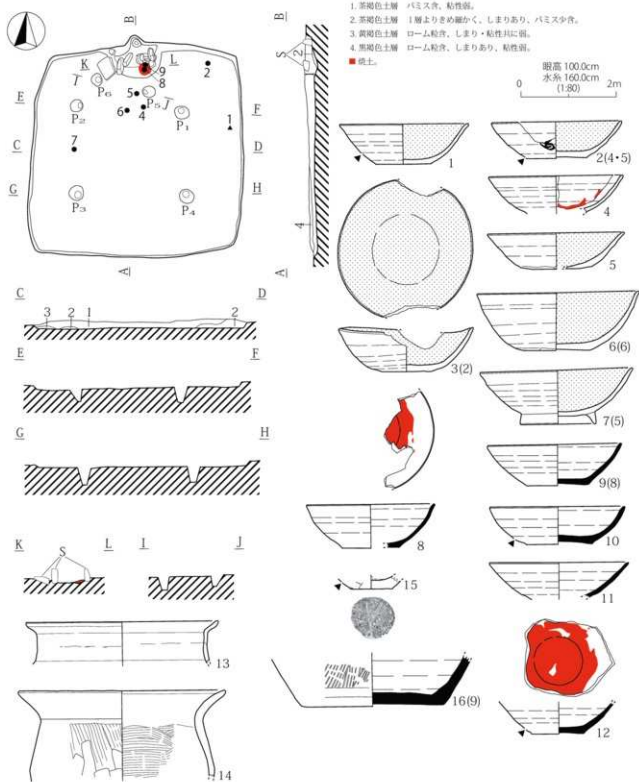
第 169 図 H126 号竪穴建物



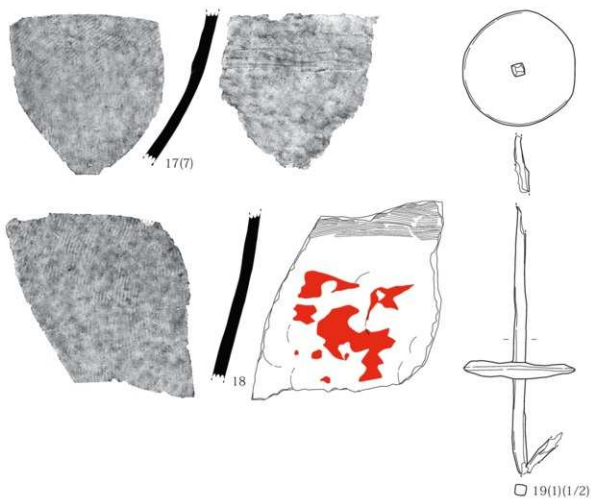
第170図 H127号竪穴建物



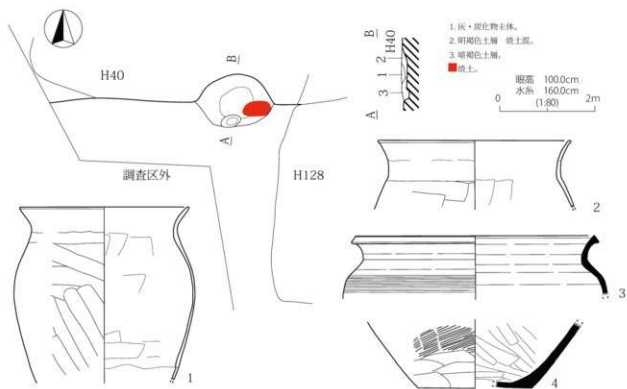
湯川河岸段丘端部の土層堆積状態



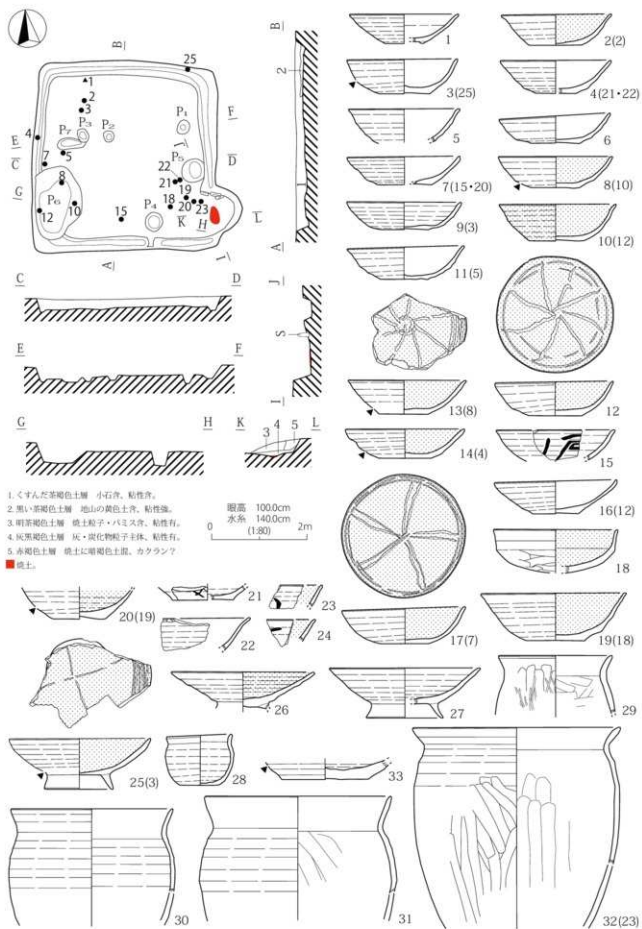
第171図 H128号竪穴建物(1)



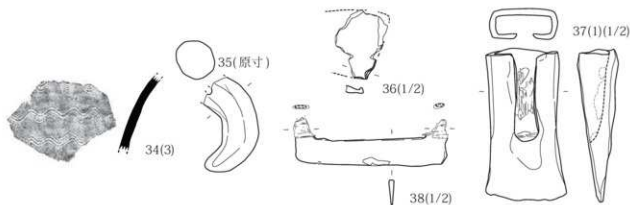
第 172 图 H128 号整穴建物 (2)



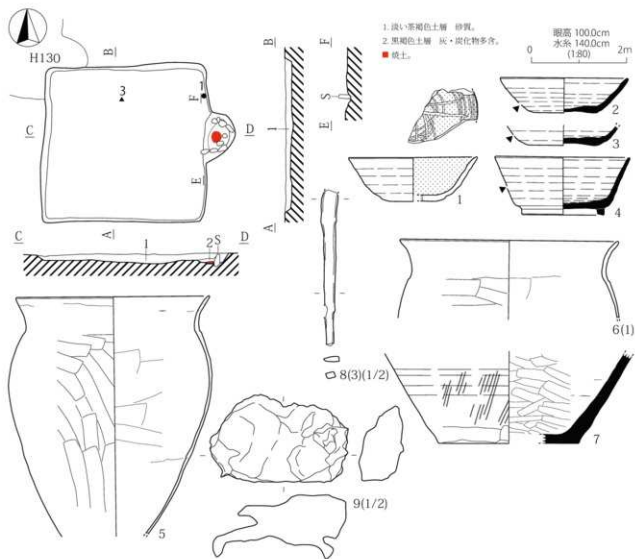
第 173 图 H129 号整穴建物



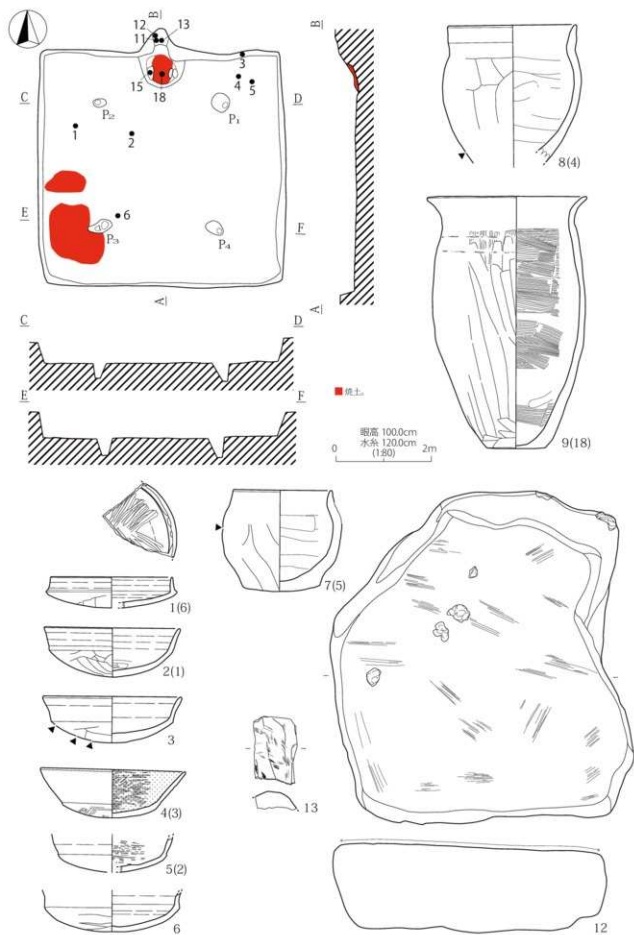
第174図 H130号竪穴建物(1)



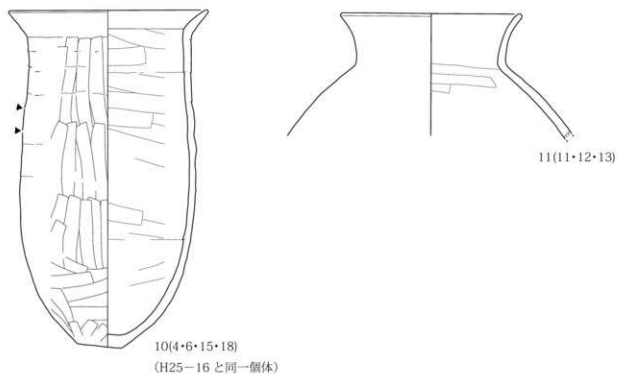
第175图 H130号竖穴建物(2)



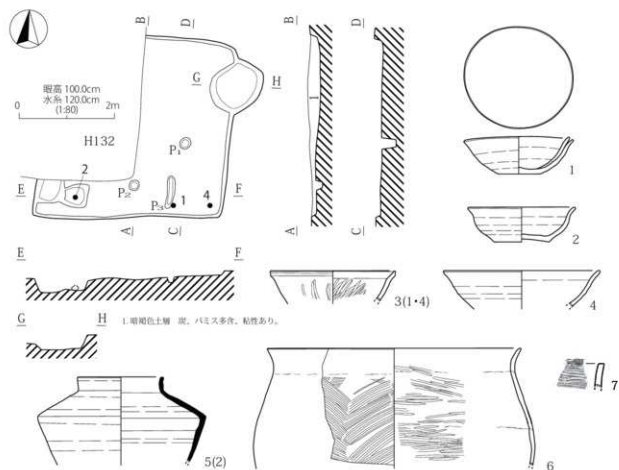
第176图 H131号竖穴建物



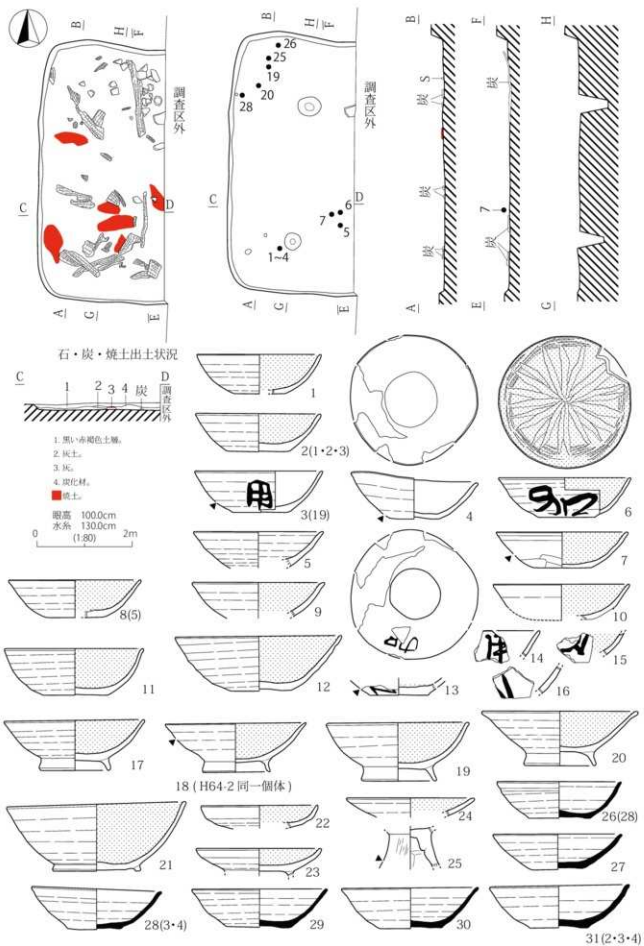
第177図 H132号竪穴建物(1)



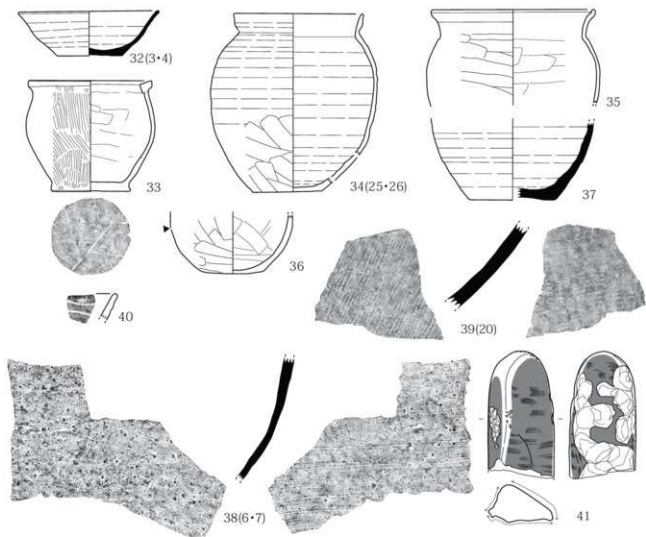
第 178 図 H132号竪穴建物(2)



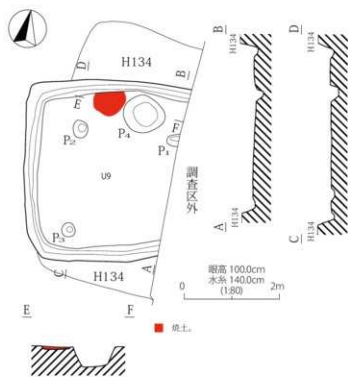
第 179 図 H133号竪穴建物



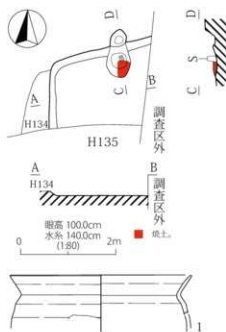
第180図 H134号竪穴建物(1)



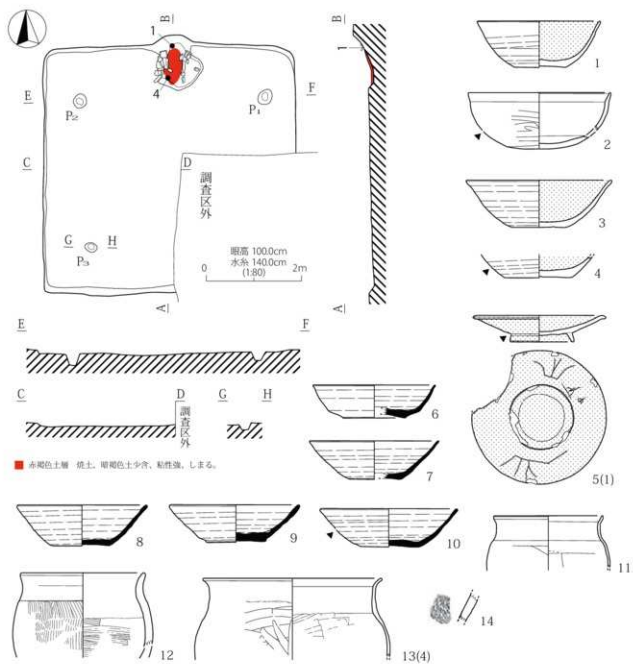
第 181 图 H134 号竖穴建物 (2)



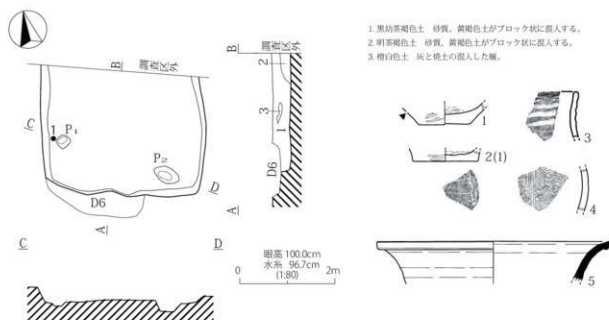
第 182 图 H135 号竖穴建物



第 183 图 H136 号竖穴建物



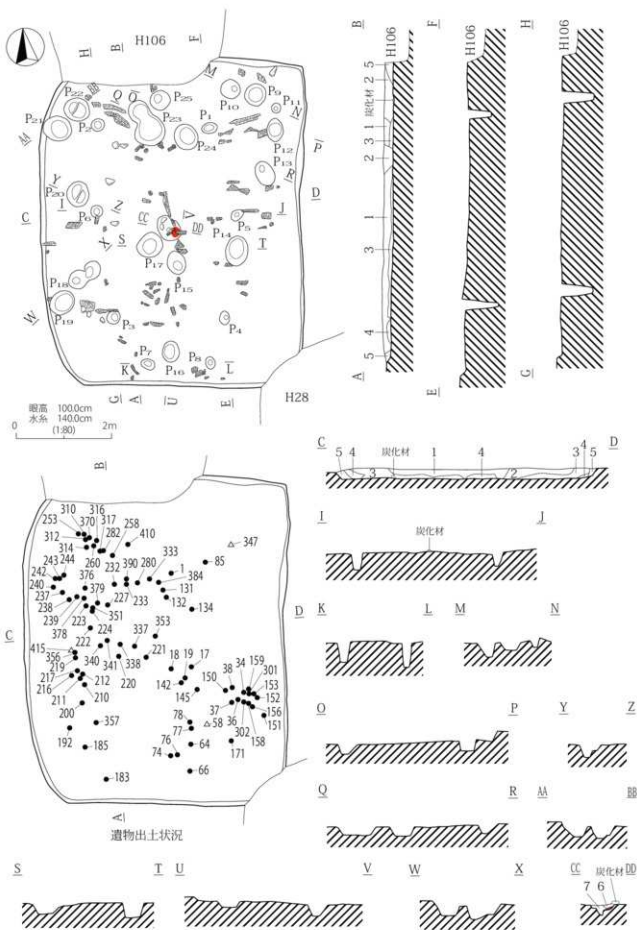
第 184 図 H137 号竪穴建物



第 187 図 Y2 号竪穴建物

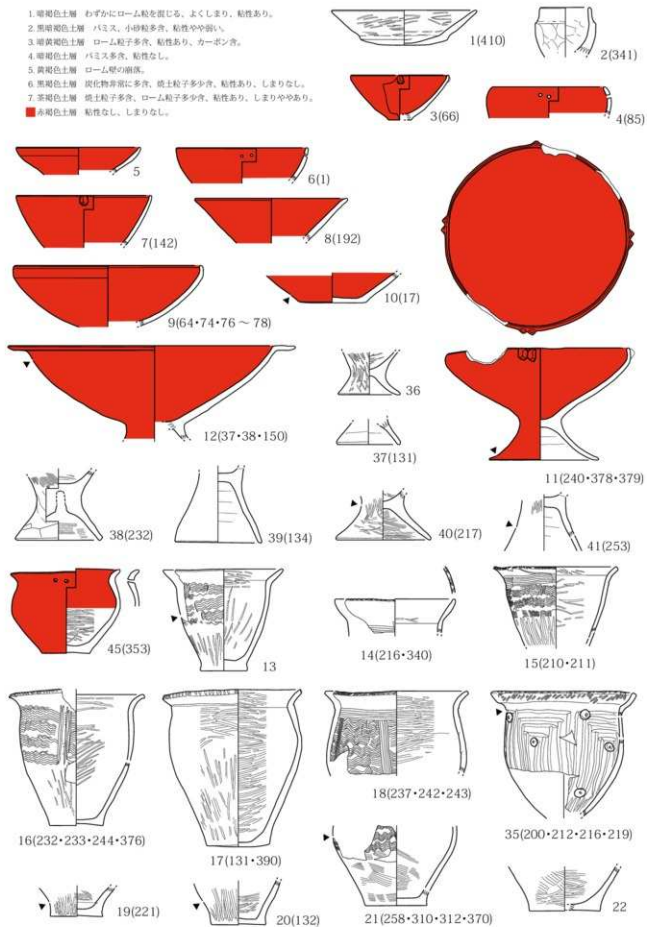


調査風景

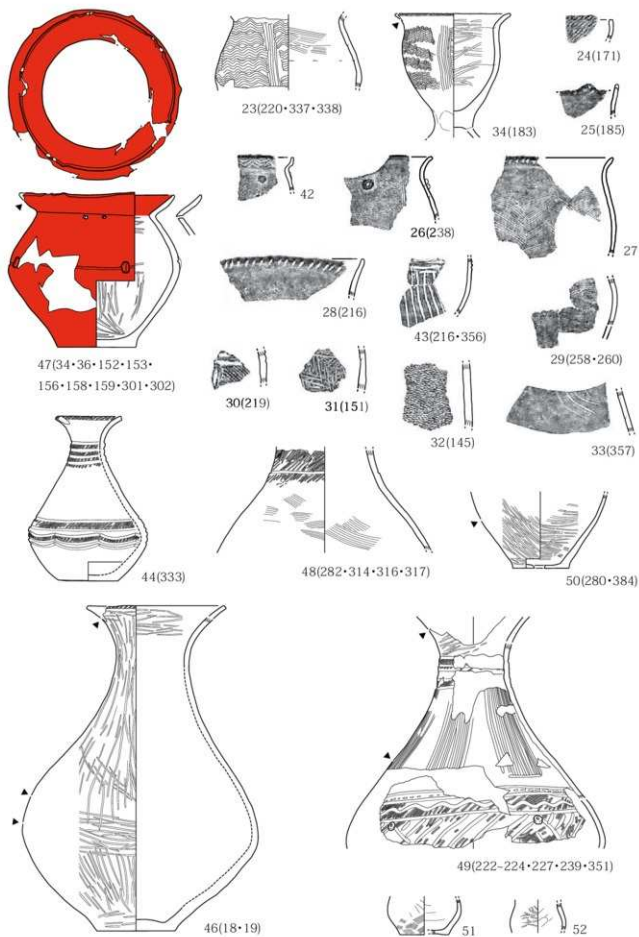


第 188 图 Y3 号整穴建物 (I)

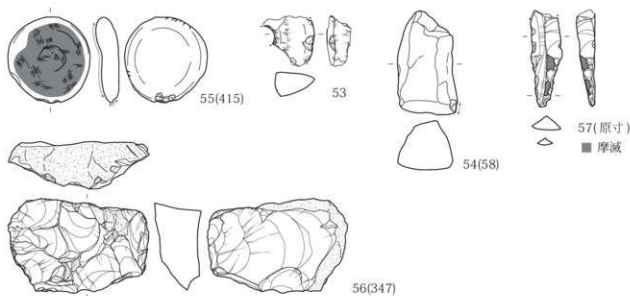
1. 暗褐色土層 わずかにローム粒を混じる、よくしまり、粘性あり。
2. 黒暗褐色土層 パミス、小砂粒多量、粘性やや弱い。
3. 暗黄褐色土層 ローム粒子多量、粘性あり、カーボン音。
4. 暗褐色土層 パミス多量、粘性なし。
5. 黄褐色土層 ローム粒の混在。
6. 黒褐色土層 炭化物非常に多量、焼土粒子多少含、粘性あり、しまりなし。
7. 茶褐色土層 焼土粒子多量、ローム粒子多少含、粘性あり、しまりややあり。
- 赤褐色土層 粘性なし、しまりなし。



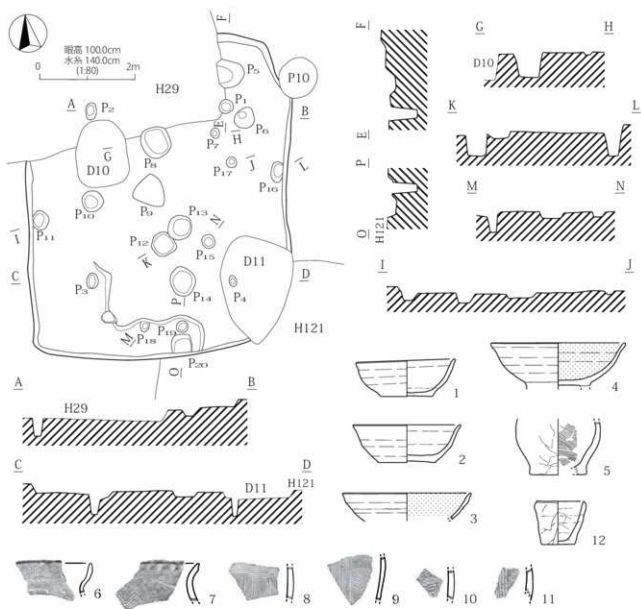
第 189 図 Y3 号竪穴建物 (2)



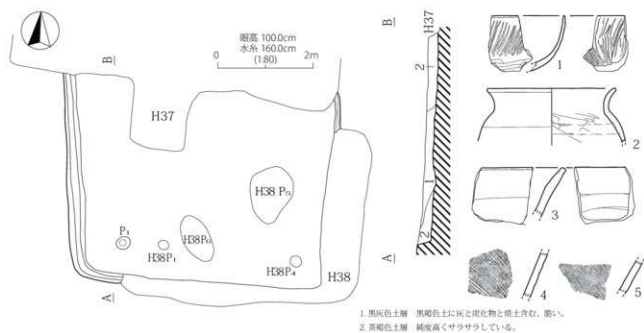
第190图 Y3号整穴建物(3)



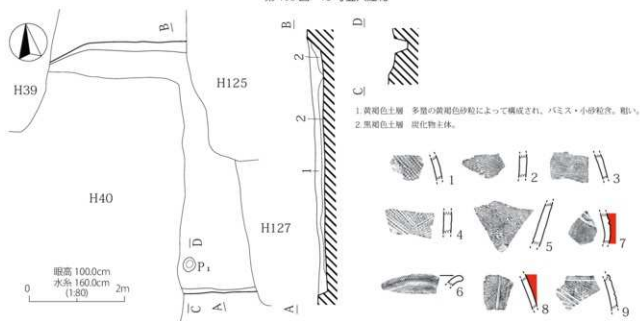
第 191 図 Y3号竪穴建物(4)



第 192 図 Y4号竪穴建物



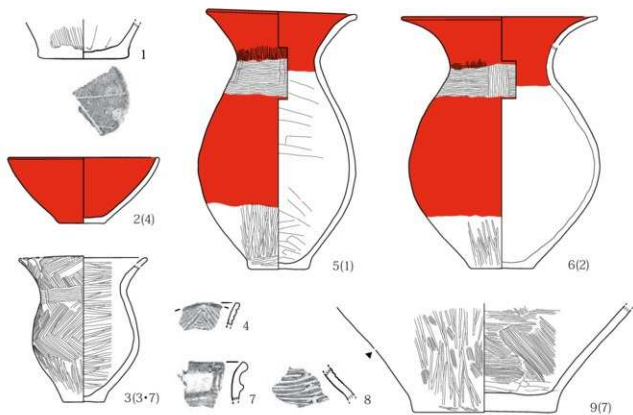
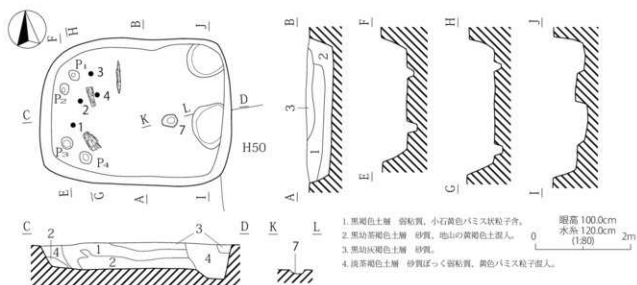
第193図 Y5号竪穴建物



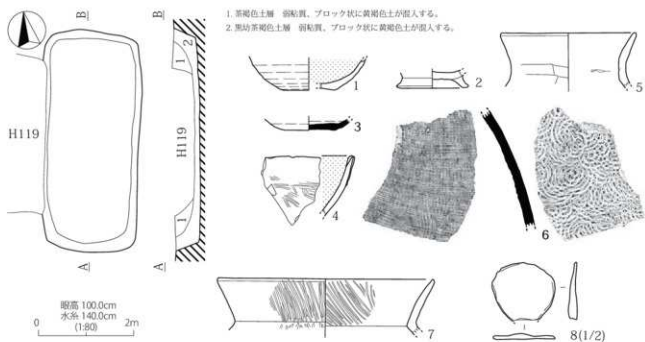
第194図 Y6号竪穴建物



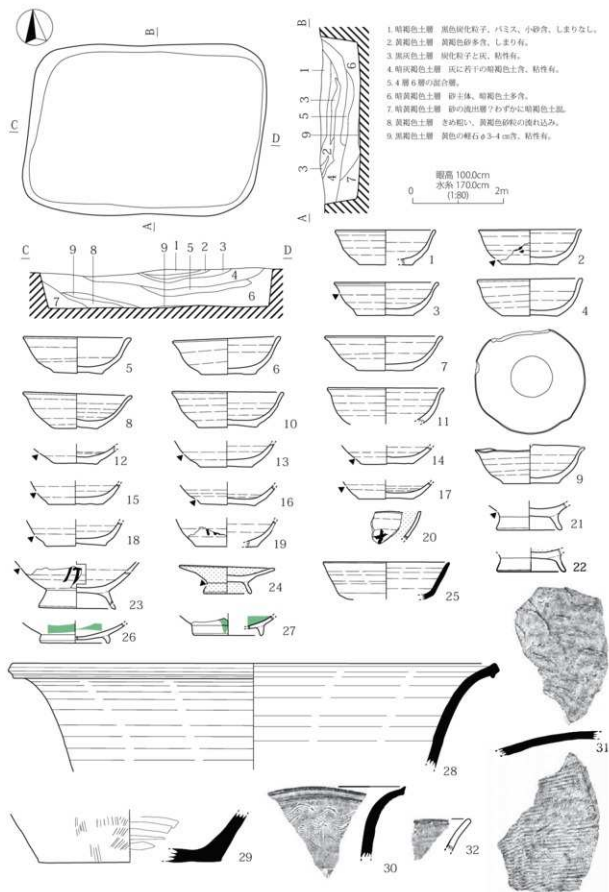
Y3号竪穴建物調査風景



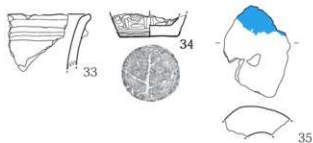
第195図 Y7号竪穴建物



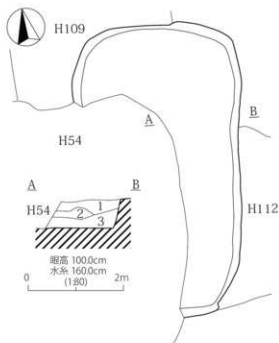
Y7号竪穴建物遺物出土状況



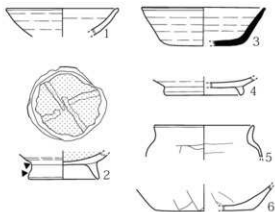
第 197 図 Ta2 号竪穴建物 (1)



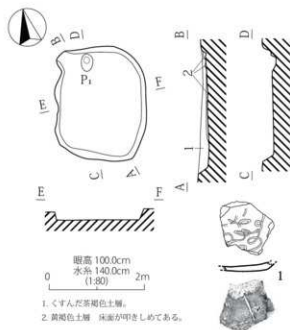
第198図 Ta2号壑穴建物(2)



1. くすんだ茶褐色土層 弱粘性、黄褐色土がブロック状に含。
2. 茶褐色土層 砂質、弱粘性、黄褐色土がブロック状に含。
3. 暗黒褐色土層 粘性が強く、黄褐色土がブロック状に含。

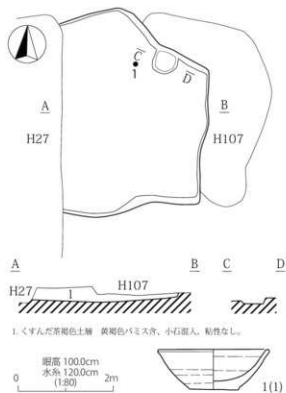


第199図 Ta3号壑穴建物



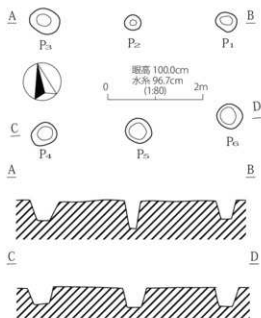
1. くすんだ茶褐色土層。
2. 黄褐色土層 床面が甲きしめてある。

第200図 Ta4号壑穴建物

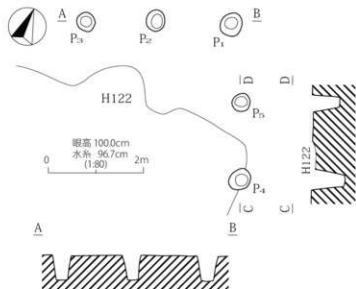


1. くすんだ茶褐色土層 黄褐色パミス片、小石混入、粘性なし。

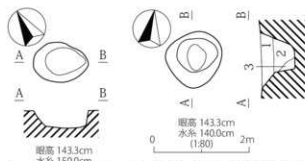
第201図 Ta5号壑穴建物



第202図 F1号掘立柱建物

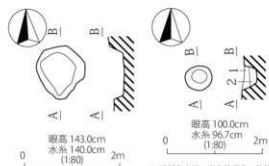


第203図 F2号掘立柱建物



第204図 D1号土坑

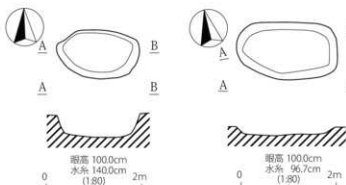
1. 暗褐色土層 若干小砂粒含、きめ細かく柔らかい。
2. 暗褐色土層 砂粒が大粒となり、粘性弱。
3. 暗褐色土層 暗褐色土にローム混在。



第206図 D3号土坑

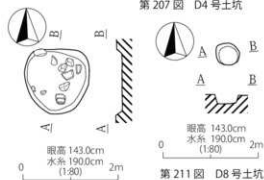
1. 暗褐色土層 炭化粒子含、粘性あり。
2. 暗褐色土層 1層に黄褐色土多含。

第205図 D2号土坑



第208図 D5号土坑

第209図 D6号土坑



第210図 D7号土坑

第211図 D8号土坑



第212図 D9号土坑

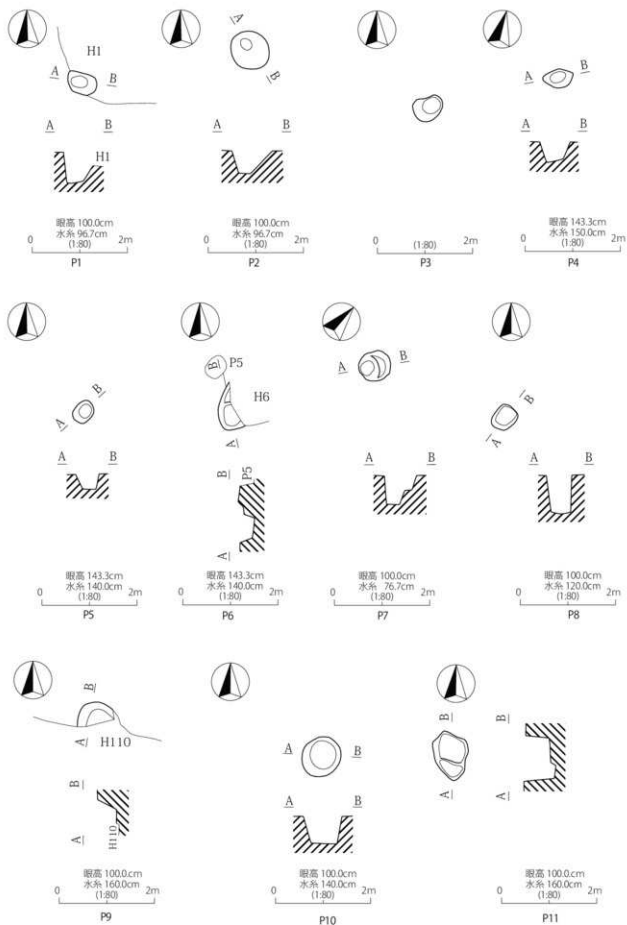
第213図 D10号土坑

1. 茶褐色土層 やや粘性有、黄色バミス含。
2. 暗茶褐色土層 1層より粘性強、黄色バミス含。

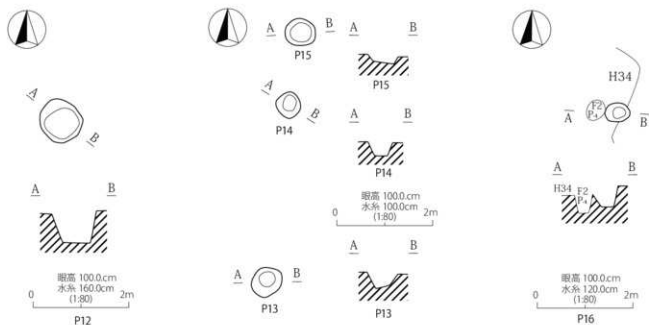


第214図 D11号土坑

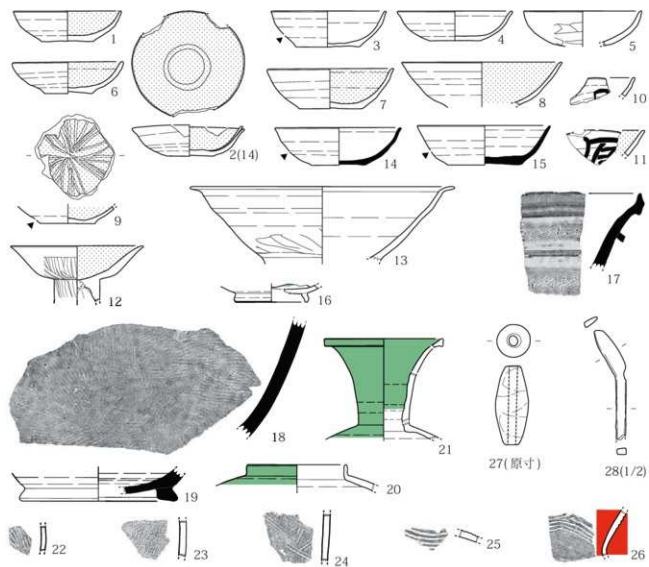
1. 茶褐色土層 粘性弱、小石・黄色バミス混入。



第 215 図 ビット (1)



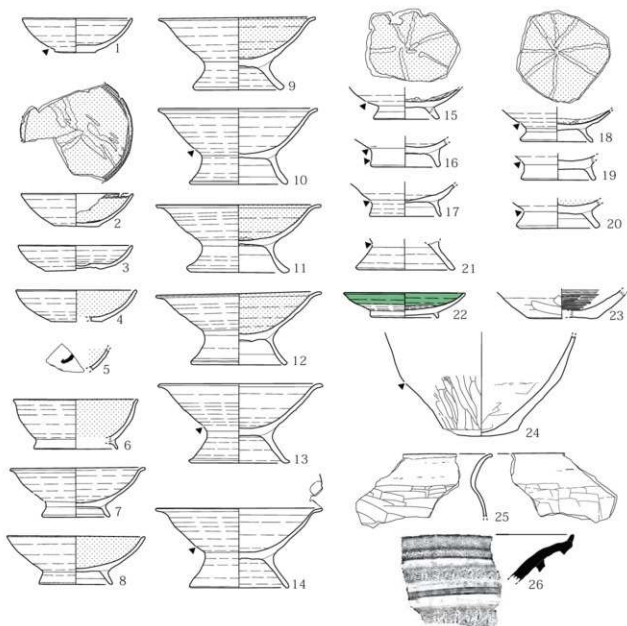
第 216 図 ビット (2)



第 217 図 M7 号溝址



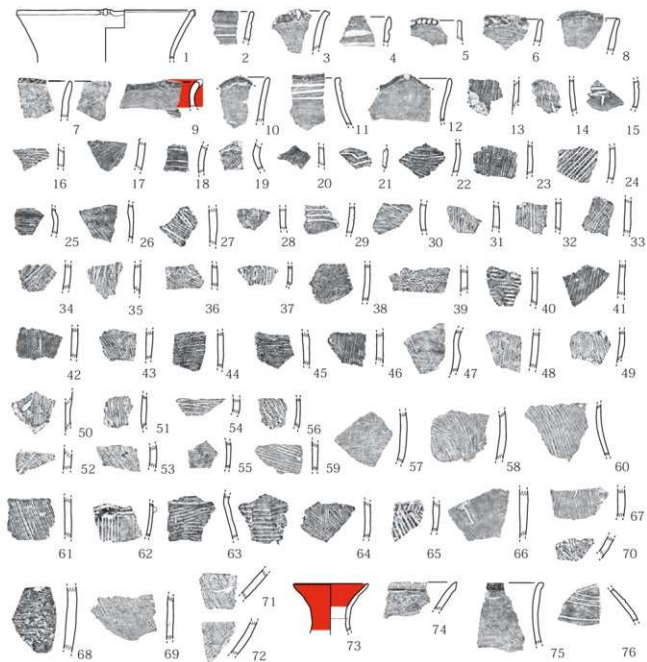
第218图 M8号遗址



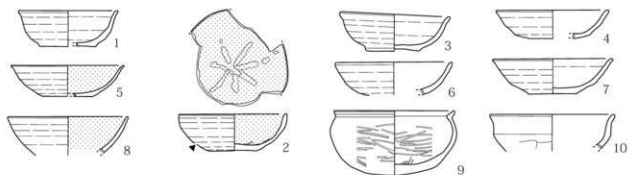
第219图 M9号遗址



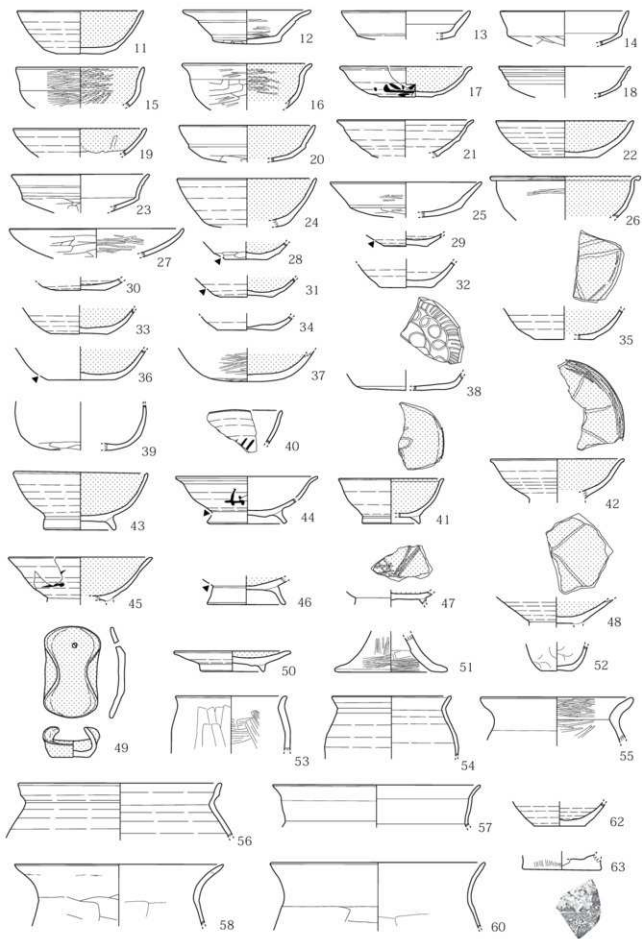
縄文土器



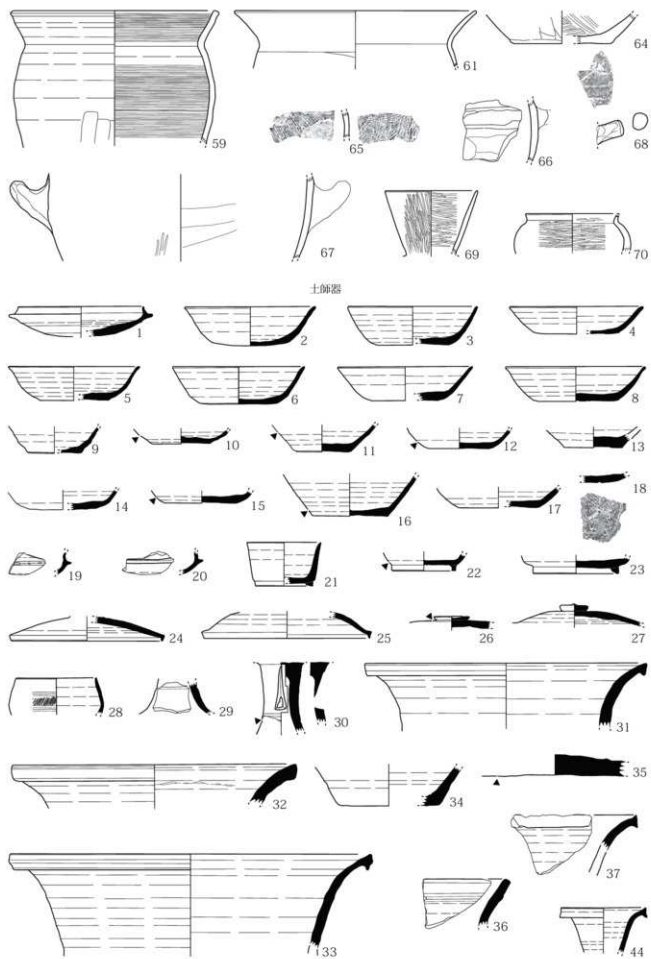
弥生土器



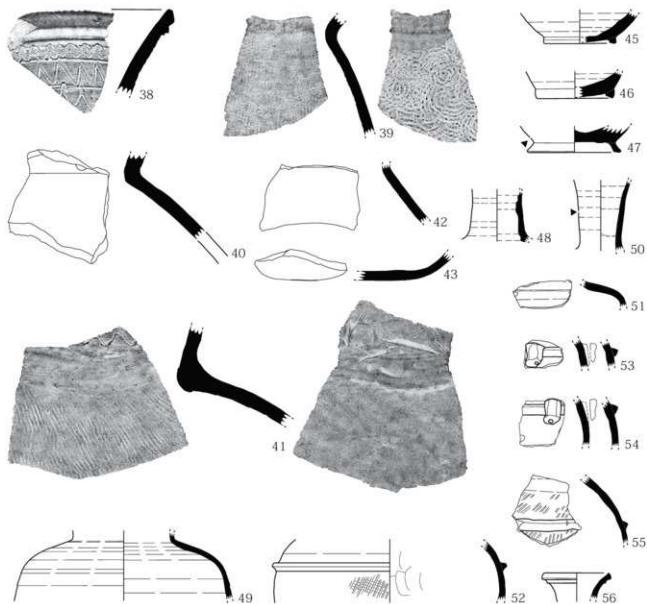
第 220 図 遺構外出土遺物 (1)



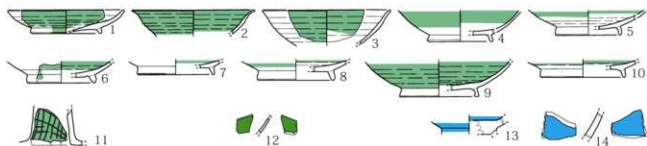
第 221 图 遺構外出土遺物 (2)



第 222 図 遺構外出土遺物 (3)



須恵器

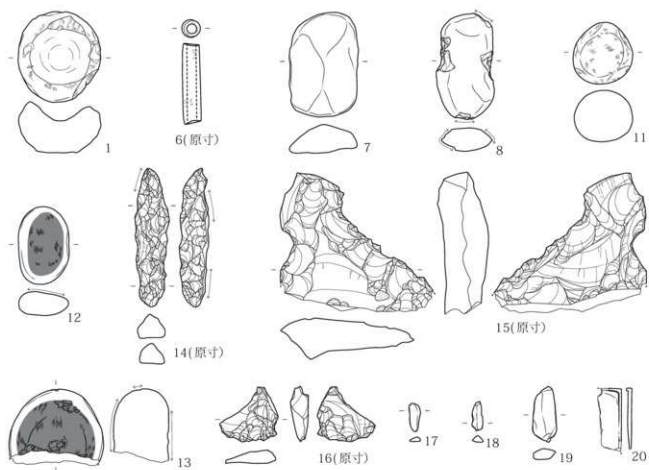


灰釉陶器、緑釉陶器、青磁

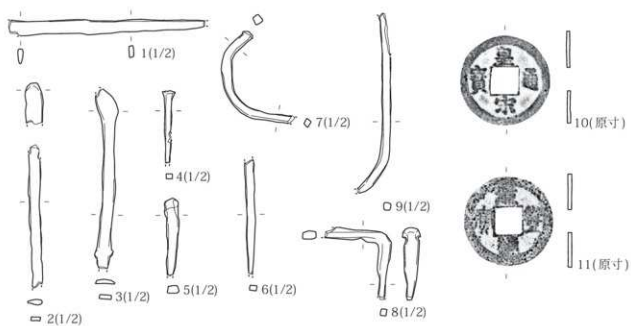


土製品

第 223 図 遺構外出土遺物(4)



石器・石製品

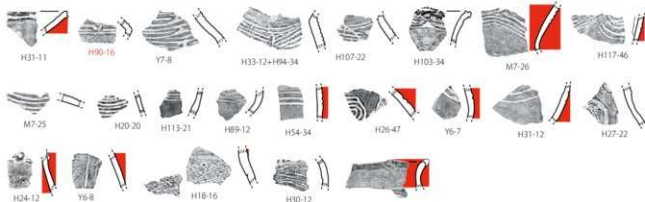


金銅器・金属製品

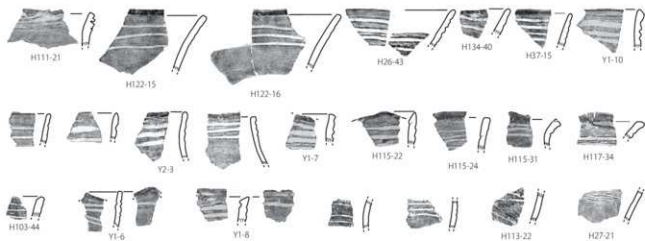
第 224 図 遺構外出土遺物 (5)



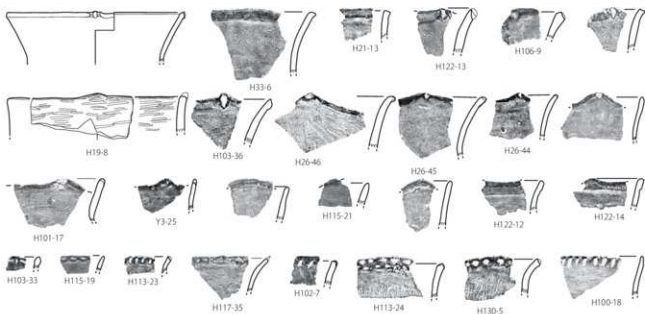
I 群



II 群



III 群

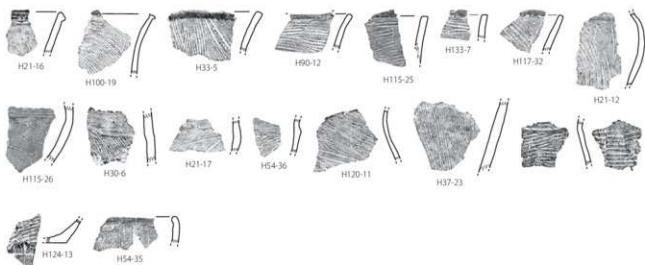


IV 群

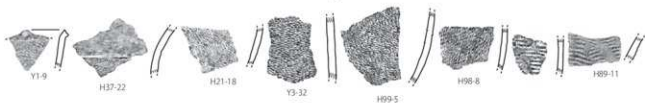
第 225 图 弥生时代前期土器分類圖 (1)



IV群



V群

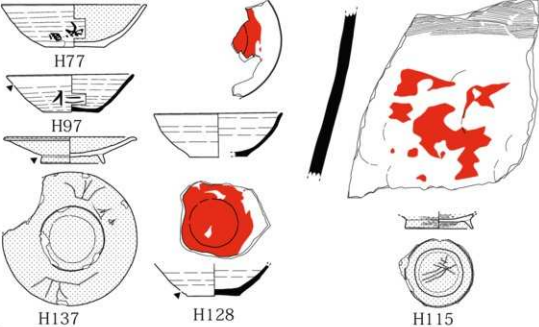


VI群



VII群



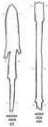


















第 225 圖 弥生時代前期土器分類圖 (2)

時代	内容
5 世紀後半	
6 世紀前半	 <p>H6 H8</p>
6 世紀後半	
7 世紀前半	 <p>H44</p>
7 世紀後半 ↳	
8 世紀第IV	
9 世紀前半	 <p>H77 H97 H128 H115</p>

第 226 図 出土文字資料集成図 (1)

時代	内容			
9 世紀後半				
	 H85			
	 H134	 H94		 H117
10 世紀前半				
	 H70	 H87	 H92	 H108
	 H71			 H66
		 H91		
	 H83	 H119	 H78	 H104

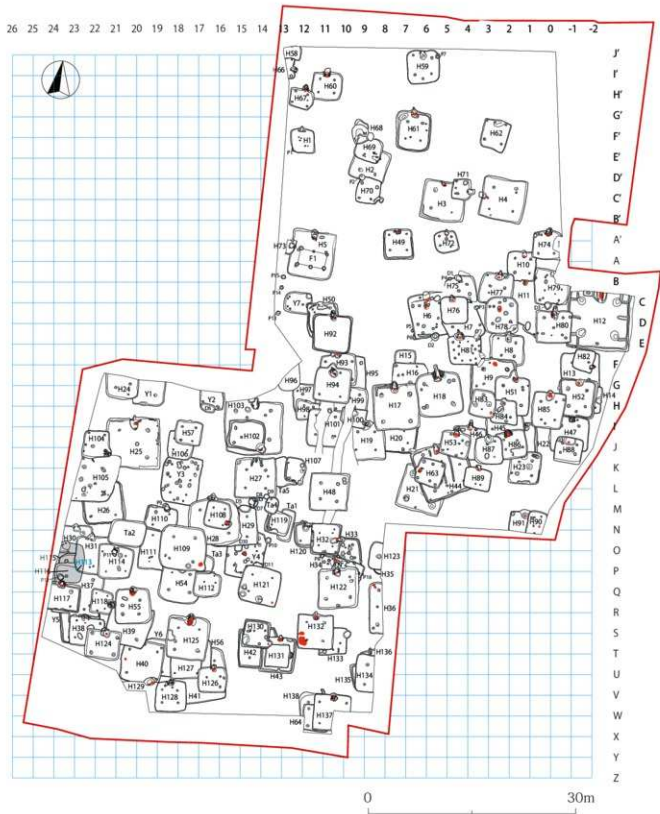
第 227 図 出土文字資料集成図 (2)

時代	内容	時代	内容	
5世紀後半	 H75	8世紀第II	 H49	
6世紀前半	 H5			 H60
6世紀後半				 H80
7世紀前半		8世紀第III	 H103	
7世紀半葉	 H12		 H74	
7世紀後半	 H18	8世紀第IV	 H125	
			 H59	
	 H45		 H131	
8世紀第I	 H51	9世紀前半	 H77	
			 H93	
			 H88	
	 H54		 H101	
	 H122		 H128	

第228図 出土金属器変遷図(1)

時代	内容
9世紀後半	<p>H94 H114 H85 H117</p>
10世紀前半	<p>H70 H71 H87 H107 H92 H130 H113 H92</p>
10世紀後半	<p>H82 H102</p>

第 229 図 出土金属器変遷図 (2)



第 230 图 全体图



第 231 図 西八日町道跡調査履歴

第1表 聖六建物の測定値(1)

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁高	面積	ピット	付風施設	備考	時期
H 1	—	N-3°-E	3.76	3.00	0.40	10.25	2	カマド	—	6世紀前半
H 2	—	N-18°-E	4.80	4.32	0.48	21.59	4	カマド	—	6世紀後半
H 3	H71に切られる	N-15°-E	5.80	5.36	0.56(30.79)	—	5	カマド	—	6世紀前半
H 4	—	N-71°-E	6.00	5.72	0.56	34.18	5	カマド	西カマド	6世紀前半
H 5	H73、F1に切られる	N-9°-E	6.92	6.00	0.60	38.30	5	カマド	—	6世紀前半
H 6	H7、75、76、D2、P5に切られる	N-9°-W	6.00	4.84	0.44	—	14	カマド	—	6世紀前半
H 7	H76、81に切られる	—	—	—	0.20	—	3	—	—	6世紀後半
H 8	H9、78に切られる	N-2°-E	4.56	4.52	0.50	17.81	4	カマド	—	6世紀前半
H 9	H51、81、83、84に切られる	N-0°-E	6.72	6.08	0.56	36.58	9	カマド	—	6世紀前半
H 10	H74、77、79に切られる	N-7°-E	4.08	4.00	0.52(14.96)	—	4	カマド、礎土	—	6世紀前半
H 11	H10、77~80に切られる	—	—	—	0.20	—	11	カマド、土坑	—	6世紀前半
H 12	H80に切られる	N-4°-E	—	—	0.52	—	5	カマド、周溝、間仕切り、貯蔵穴	—	7世紀中葉
H 13	H82、85に切られる	N-3°-W	5.44	5.12	0.24	—	4	カマド	カマド火床のみ現存	6世紀前半
H 14	H13、52に切られる	—	—	—	0.24	—	2	—	2層は本址を切る土坑	不明
H 15	H16に切られる	—	—	—	0.16	—	1	—	—	6世紀後半
H 16	H17、18に切られる	—	—	—	0.16	—	5	—	—	7世紀前半
H 17	H18に切られる	N-6°-W	6.72	6.48	0.40	39.53	4	カマド、周溝	—	7世紀中葉
H 18	—	N-10°-W	7.28	6.26	0.80	35.63	8	カマド	—	7世紀後半
H 19	H17、100、M7に切られる	—	—	—	0.52	—	4	カマド?	—	6世紀後半
H 20	H17、19に切られる	—	—	—	0.32	—	3	周溝	焼失住居	5世紀後葉~6世紀前葉
H 21	H44に切られる	—	—	—	0.60	—	0	—	—	6世紀前半
H 22	H23、45、85、86に切られる	—	—	—	0.35	—	4	—	—	6世紀後半
H 23	H86に切られ、H22を切る	N-3°-E	4.40	4.16	0.40	—	7	カマド、周溝	—	7世紀前半
H 24	—	—	—	—	0.60	—	3	—	—	6世紀後半
H 25	H104、105に切られる	N-30°-E	7.32	7.32	0.68	47.40	5	カマド、周溝	—	7世紀前半
H 26	H105、Ta2に切られる	N-0°-E	6.12	5.60	0.40	(30.0)	5	カマド、周溝	—	7世紀前半
H 27	Ta4、D8、9に切られ、Ta5を切る	N-0°-E	5.60	5.60	0.40	30.40	5	カマド	—	6世紀後半
H 28	H109に切られる	N-5°-W	7.08	7.00	0.80	41.10	4	カマド	—	6世紀後半
H 29	H28、D5に切られる	N-0°-E	—	—	0.52	—	2	カマド	カマド火床のみ現存	6世紀前半
H 30	H31、115、116に切られる	N-3°-E	—	—	0.24	—	2	カマド	—	6世紀前半
H 31	H113、114、116、Ta2に切られる	N-4°-E	—	—	0.40	—	1	カマド	—	6世紀後半
H 32	M7に切られる	N-81°-E	4.24	3.88	0.68	15.12	8	カマド、周溝	東カマド	6世紀前半
H 33	H32、34、122、F2に切られる	—	—	—	0.18	—	11	周溝	—	6世紀前半
H 34	H122、F2、F8、M7に切られる	—	—	—	0.28	—	5	カマド	—	不明
H 35	H123に切られる	—	—	—	0.60	—	4	周溝	—	7世紀前半

第2表 聖六塚遺跡測量表(2)

遺跡名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁跡高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H 36	—	N-32°-W	—	—	0.40	—	4	焼土	—	6世紀前半
H 37	H38を切り、H31、114～118に切られる	N-80°-W	8.00	6.56	0.60	45.30	10	築出前に貯蔵穴	—	6世紀後半
H 38	H37、124に切られる	N-0°-E	4.92	4.20	0.28	18.39	6	カマド	—	5世紀後葉～6世紀前葉
H 39	H40を切り、H55、118、124に切られる	N-11°-E	6.08	5.60	0.36	—	4	カマド	—	7世紀後半
H 40	H6を切り、H39、129に切られる	N-80°-W	5.76	5.60	0.24	—	6	カマド	西カマド	6世紀前半
H 41	H56、125～128に切られる	N-0°-E	8.00	7.52	0.32	—	4	カマド	—	6世紀前半
H 42	H129、130に切られる	—	5.36	5.09	0.24	—	2	厨溝	—	6世紀前半
H 43	H42を切り、H130、131に切られる	N-10°-E	5.04	4.80	0.40	20.03	5	カマド、厨溝	—	6世紀後半
H 44	H21を切り、H53、63、89に切られる	N-20°-W	7.76	7.76	0.56	50.19	10	カマド、厨溝	—	7世紀前半
H 45	H22を切り、H83～87に切られる	N-11°-W	5.20	4.72	0.52	—	7	カマド	—	7世紀後半
H 46	H53、87に切られる	N-6°-E	—	—	0.40	—	2	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 47	H52を切り、H47、85、88に切られる	N-7°-W	5.36	4.60	0.48	24.27	5	カマド	—	7世紀後半
H 48	—	N-87°-W	5.28	5.20	0.52	27.09	4	カマド	—	6世紀前半
H 49	—	N-0°-E	4.08	4.08	0.52	13.97	4	カマド、厨溝	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 50	H7を切り、H92に切られる	N-17°-W	4.64	4.52	0.36	—	7	カマド、厨溝	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 51	H9、45を切り、H83、84に切られる	N-5°-E	6.32	4.76	0.36	—	5	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 52	H13、14、47を切り、H85、H4に切られる	N-15°-E	5.16	4.40	0.36	22.63	6	カマド、厨溝	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 53	H44、46を切る	N-12.5°-E	4.20	3.92	0.44	12.51	8	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 54	H109、111、112に切られ、Ta3を切る	N-110°-E	5.84	5.44	0.12	30.68	4	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 55	H39を切り、H118に切られる	N-15°-W	4.92	4.84	0.32	22.51	5	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 56	H41を切り、H125、126、127に切られる	N-2°-W	—	—	0.52	—	4	カマド	—	不明
H 57	H106を切る	N-12°-E	3.56	3.04	0.36	10.70	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 58	H66に切られる	—	—	—	0.16	—	0	—	—	6世紀前半
H 59	H7に切られる	N-9°-W	4.60	4.48	0.28	19.86	5	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 60	H67に切られる	N-25°-E	4.16	4.00	0.52	14.30	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 61	—	N-13°-E	5.48	4.28	0.36	21.68	8	カマド、厨溝	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 62	—	N-13°-E	4.00	3.60	0.24	14.29	4	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 63	H21、44を切る	N-77°-W	3.88	3.64	0.36	13.08	6	カマド	西カマド	8世紀第Ⅳ四半期
H 64	H138を切り、H137に切られる	N-3°-E	4.12	3.40	0.20	—	6	カマド	—	8世紀第Ⅲ四半期
H 65	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H 66	H58を切る	N-89°-W	—	—	0.20	—	2	カマド	東カマド	10世紀前半
H 67	H60を切る	N-8°-E	3.24	2.48	0.40	7.43	5	カマド	—	8世紀第Ⅳ四半期
H 68	H69を切る	N-5°-W	3.00	1.60	0.48	—	—	—	倒木痕と思われる	不明
H 69	H2を切り、H68に切られる	N-82°-E	3.52	3.16	0.16	12.53	2	カマド	東カマド	10世紀前半
H 70	H2を切る	N-40°-W	3.64	3.36	0.14	11.15	4	カマド	東カマド	10世紀前半

第3表 第六遺物計測表(3)

遺物名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁高さ	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H 71	H3を切る	N-88°-W	2.76	2.28	0.28	6.33	3	カマド	東カマド	10世紀前半
H 72	—	N-3°-W	3.24	3.16	0.24	8.48	5	カマド	—	7世紀後半
H 73	H5を切る	N-64°-W	—	—	0.36	—	—	カマド	東カマド	10世紀前半
H 74	H10を切る	N-5°-E	4.12	4.04	0.44	—	5	カマド	—	8世紀第Ⅳ四半期
H 75	H6、7、96に切られる	N-2°-E	—	—	0.16	—	4	カマド	—	5世紀後半
H 76	H6、7、75を切る	N-8°-W	3.76	3.48	0.20	13.78	—	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H 77	H10、11を切り、H78に切られる	N-14°-E	4.52	4.16	0.40	19.08	6	カマド	H78との東南側が遺物跡とは逆転したが、遺物跡は修正していない。	9世紀前半
H 78	H8、77を切る	N-0°-E	5.12	4.40	0.48	20.79	11	礎石	H77との東南側が遺物跡とは逆転したが、遺物跡は修正していない。	10世紀前半
H 79	H10、11を切る	N-6°-E	4.80	4.76	0.28	—	9	—	—	9世紀前半
H 80	H11、12を切る	N-0°-E	4.88	4.32	0.32	21.17	7	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 81	H7、9を切る	N-16°-W	4.60	4.00	0.20	—	18	カマド	—	8世紀第Ⅳ四半期
H 82	H12を切る	N-84°-W	2.96	2.64	0.16	8.08	—	カマド	東カマド	10世紀後半
H 83	H9、45、51、84を切る	N-33°-W	3.64	3.36	0.32	11.50	3	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 84	H45、51を切り、H83に切られる	N-12°-E	3.68	3.48	0.40	11.93	3	カマド	—	10世紀前半
H 85	H22、47、52を切る	N-6°-E	5.20	4.32	0.30	21.12	6	カマド	—	9世紀後半
H 86	H22、23、45を切り、H87に切られる	N-12°-W	4.04	3.76	0.32	14.51	5	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H 87	H45、46、86を切る	N-5°-E	3.92	3.80	0.40	13.63	4	カマド	—	10世紀前半
H 88	H47を切る	N-9°-E	3.88	3.36	0.36	12.20	5	カマド	—	9世紀前半
H 89	H44を切る	N-10°-E	3.68	3.44	0.24	10.71	—	礎石2	—	8世紀第Ⅳ四半期
H 90	H91を切る	N-28°-W	—	—	0.12	—	4	礎石	—	10世紀前半
H 91	H90に切られる	N-25°-E	—	—	0.16	—	1	カマド	—	10世紀前半
H 92	H50を切る	N-10°-W	5.68	4.96	0.32	24.88	—	カマド	焼失住居	10世紀前半
H 93	H92、94に切られる	N-0°-E	(4.96)	(4.68)	0.24	—	3	カマド	—	9世紀前半
H 94	H93、97、99を切る	N-6°-E	5.48	4.96	0.44	22.99	3	カマド	—	9世紀後半
H 95	H93、94、99に切られる	—	—	—	0.40	—	3	—	—	6世紀後半
H 96	H97を切る	—	—	—	—	—	—	—	—	9世紀後半
H 97	H94、96、98に切られる	—	—	—	0.16	—	3	カマド	東カマド	9世紀前半
H 98	H97を切り、H101に切られる	—	—	—	0.40	—	3	—	H101との東南側が遺物跡とは逆転したが、遺物跡は修正していない。	9世紀後半
H 99	H93、95を切り、H94、100、101に切られる	—	(4.96)	(4.72)	0.40	—	10	—	—	不明
H 100	H99、101を切る	N-55°-W	3.40	2.48	0.24	—	—	カマド	東カマド	10世紀前半
H 101	H99を切り、H98、100に切られる	N-4°-E	5.16	5.00	0.50	(25.14)	6	—	H98との東南側が遺物跡とは逆転したが、遺物跡は修正していない。	9世紀前半
H 102	H103を切る	N-40°-W	4.84	3.84	0.30	16.74	3	カマド	東南隅カマド	10世紀後半
H 103	H102に切られる	N-5°-E	7.88	7.76	0.60	—	9	カマド	—	8世紀第Ⅳ四半期
H 104	H25、105を切る	N-82°-W	3.80	3.20	0.32	12.16	5	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H 105	H25、26を切り、H104に切られる	—	—	—	0.24	—	8	—	—	10世紀前半

第4表 第六遺物計測表(4)

遺物名	重複関係	主軸方位	最軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
H106 Y3 を切り、H57 に切られる		N-9°-E	3.84	3.36	0.60	13.06	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H107 Ta5 を切る		N-34°-W	3.40	2.56	0.20	7.61	5	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H108 H28 を切る		N-79°-W	3.64	3.52	0.32	12.14	4	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H109 H28、54、110、111 を切る		N-43°-W	6.52	6.04	0.32	37.34	5	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H110 Ta2、H109 に切られ、H111 を切る		N-10°-E	4.24	3.36	0.36	(13.21)	4	カマド、周溝	—	10世紀前半
H111 Ta2、H109、110 に切られ、H54 を切る		N-84°-W	5.88	5.60	0.36	—	6	—	—	9世紀後半
H112 H54 を切る		N-45°-E	—	0.36	—	—	—	—	H54より南側には遺構と推定しているが、詳細は不明である。	9世紀前半
H113 H31、Ta2、P11 に切られ、H114 を切る		N-74°-W	4.96	4.96	0.30	—	—	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H114 H31、113、Ta2 に切られ、H115 を切る		N-5°-E	4.72	4.52	0.36	20.55	6	カマド	—	9世紀後半
H115 H31、37、113、114、116、117、118 に切られる		—	(5.12)	5.00	0.36	—	9	—	—	9世紀前半
H116 H30、31、113、115 を切り、H117 に切られる		—	—	—	0	—	—	カマド	—	9世紀後半?
H117 H37、115、116、Y5 を切る		N-7.5°-E	—	3.48	0.32	—	2	カマド、周溝	—	9世紀後半
H118 H37、39、55、115 を切る		N-78°-W	2.96	2.68	0.36	8.27	4	カマド	東カマド	8世紀第Ⅳ四半期
H119 Ta1 を切り、Ta4 に切られる		N-17°-E	2.80	2.42	0.32	6.70	1	周溝	—	10世紀前半
H120 H32 に切られる		N-2°-E	—	—	0.36	—	3	カマド、周溝	H32より南側には遺構と推定しているが、詳細は不明である。	9世紀前半
H121 Y4 を切る		N-35°-W	5.60	5.16	0.20	27.59	6	カマド	東南隅カマド	10世紀前半
H122 H34 を切る		N-0°-W	5.28	5.18	0.60	27.69	6	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H123 H35 を切る		—	—	—	0.10	—	1	—	—	不明
H124 H38、39 を切る		N-10°-E	4.52	3.72	0.20	16.69	4	カマド	カマド通り替え	9世紀後半
H125 H56、127 を切る		N-60°-E	6.00	5.78	0.52	31.58	6	カマド、周溝	—	8世紀第Ⅳ四半期
H126 H41、56、127 を切る		N-0°-W	3.92	3.44	0.40	12.73	4	カマド	—	8世紀第Ⅰ四半期
H127 H41、56 を切り、H125、126 に切られる		N-35°-W	4.76	4.36	0.52	20.21	4	カマド	—	8世紀第Ⅱ四半期
H128 H41、129 を切る		N-0°-W	4.40	4.32	0.16	17.97	6	カマド	—	9世紀前半
H129 H40 を切り、H128 に切られる		—	—	—	0.00	—	—	カマド	—	8世紀第Ⅳ四半期
H130 H42、43 を切る		N-83°-E	3.80	3.72	0.24	10.92	7	カマド、周溝	東南隅カマド	10世紀前半
H131 H43 を切り、H130 に切られる		N-87°-W	3.18	3.12	0.20	10.36	—	カマド	東カマド	8世紀第Ⅳ四半期
H132 H133 を切る		N-2°-E	5.12	5.08	0.56	23.61	4	カマド	—	6世紀後半
H133 H132 に切られる		N-86°-E	3.86	3.76	0.22	—	3	カマド、掘削切り	—	不明
H134 H135、136 を切る		—	—	—	0.24	—	2	—	破失遺構	10世紀前半
H135 H134 に切られる		N-7°-W	—	—	0.32	—	4	カマド、周溝	—	不明
H136 H134、135 に切られる		N-7.5°-W	—	—	0.10	—	—	カマド	—	不明
H137 H64、138 を切る		N-7°-E	5.04	4.84	0.24	—	3	カマド	—	9世紀前半
H138 H64、137 に切られる		N-3°-E	—	—	0.52	—	2	カマド	—	6世紀前半
Y1 H24 に切られる		—	—	—	0.22	—	2	—	—	弥生中期粟林
Y2 D6 に切られる		—	—	—	0.40	—	2	—	—	弥生中期粟林

第5表 第六建物計測表(5)

遺構名	重複関係	主軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	ピット	付属施設	備考	時期
Y 3	H28, 106 に切られる	N-8°-E	6.80	5.29	0.20	-	25	姉	焼失遺構	弥生中期栗林
Y 4	H29, 121, D10, 11 に切られる	N-5°-E	-	5.28	0.20	-	20	姉	-	弥生中期栗林
Y 5	H37, 38 に切られる	-	-	0.28	-	-	1	周溝	-	不明
Y 6	H40, 125, 127 に切られる	-	-	-	0.32	-	1	-	-	弥生中期栗林
Y 7	H50 に切られる	N-97°-E	3.64	2.68	0.52	9.28	6	姉	土器敷付	弥生後期清水
Ta 1	H119 に切られる	N-9°-E	4.36	1.76	0.52	7.33	-	-	-	9 世紀後半
Ta 2	H26, 31, 110, 111, 114 を切る	N-97°-E	4.88	3.48	0.52	16.04	-	-	-	不明
Ta 3	H54, 109, 112 に切られる	N-97°-E	5.88	3.12	0.60	-	-	-	8 世紀第 I 四半期以前の所産	不明
Ta 4	H27, 119 を切る	N-13°-E	2.16	1.72	0.24	3.37	1	-	10 世紀前半以降の所産	不明
Ta 5	H27, 107 に切られる	-	-	-	-	-	1	-	6 世紀後半以前の所産	不明

第6表 垂立柱建物計測表

遺構名	重複関係	長軸方位	桁行長	梁間長	面積	柱径(窪)	桁行柱間寸法	梁間柱間寸法	備考	時期
F 1	H5 を切る	N-75°-W	8.60	5.30	45.58	-	4.20 ~ 4.40	-	6 世紀前半以降の所産	不明
F 2	H32, 33, 34 を切り、H122 に切られる	N-25°-W	3.40	3.10	-	-	1.70	1.50 ~ 1.70	5 世紀前半以降、8 世紀第 I 四半期以降の所産	不明

第7表 土坑計測表

遺構名	重複関係	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高	面積	備考	時期
D 1	H75 を切る	楕円形	N-56°-W	1.16	0.84	0.36	0.36	5 世紀後半以降の所産	不明
D 2	H6 を切る	円形	N-81°-E	1.18	1.16	0.70	0.16	6 世紀後半以降の所産	不明
D 3	H79 を切る	楕円形	N-6°-E	1.12	1.00	0.26	0.43	9 世紀前半以降の所産	不明
D 4	H52 を切る	楕円形	N-90°-E	0.56	0.50	0.28	0.07	8 世紀第 III 四半期以降の所産	不明
D 5	H29 を切る	楕円形	N-92°-E	1.72	1.04	0.48	0.95	6 世紀前半以降の所産	不明
D 6	Y2 を切る	楕円形	N-76°-W	2.12	1.24	0.18	1.37	弥生時代中期後半以降の所産	不明
D 7	-	円形	N-98°-E	1.36	1.32	0.12	1.18	-	不明
D 8	H27 を切る	円形	N-0°-E	0.52	0.48	0.20	0.12	6 世紀後半以降の所産	不明
D 9	H27, Ta4 を切る	円形	N-90°-E	0.80	0.76	0.12	0.36	6 世紀後半以降の所産	不明
D 10	Y4 を切り、H29 に切られる	長方形	N-3°-W	1.40	0.92	0.56	0.86	弥生時代中期後半以降、6 世紀前半以前の所産	不明
D 11	Y4 を切り、H121 に切られる	楕円形	N-0°-E	2.32	1.44	0.16	2.03	弥生時代中期後半以降、10 世紀前半以前の所産	不明

第8表 ビット計測表(1)

遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	遺構名	重複関係	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高
P 1	H1 に切られる	楕円形	0.60	0.44	0.64	P 4	H75 を切る	楕円形	0.60	0.40	0.44
P 2	H2, 70 を切る	円形	0.84	0.72	0.48	P 5	H6 に切られる	円形	0.48	0.44	0.32
P 3	H7 を切る	円形	0.68	0.44	-	P 6	H6 に切られる	楕円形	-	-	0.32

第9表 ビット計測表(2)

遺構名		重複関係		平面形態		長軸長・短軸長・壁残高		平面形態		重複関係		遺構名	
P7	H59 を切る	円形	—	円形	0.68	0.52	0.60	円形	H37、116 を切る	円形	—	P12	H37、116 を切る
P8	H32、34 を切る	円形	—	円形	0.52	0.44	0.80	円形	—	—	—	P13	—
P9	H110 に切られる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	P14	—
P10	Y4 を切る	円形	—	円形	0.84	0.80	0.60	円形	—	—	—	P15	—
P11	H114 を切る	楕円形	—	楕円形	0.96	0.56	0.68	楕円形	H34、F2 に切られる	楕円形	—	P16	H34、F2 に切られる

第10表 H1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量	重		成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		口径(長)	器高(厚)				
1	土師器	北式威型杯	12.0	11.1	—	ナデ	底部ケズリ	完全実測	No4、SNベルト		
2	土師器	北式威型杯	(12.2)	(3.5)	—	ナデ	底部ケズリ	完全実測・拓本	I区		
3	土師器	杯	12.9	12.2	5.4	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No1、5		
4	土師器	杯	12.9	—	5.5	ナデ	底部ミガキ	完全実測	No2		
5	土師器	杯	14.0	11.2	4.6	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	SNベルト		
6	土師器	鉢	(18.6)	—	(4.5)	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	I区		
7	土師器	鉢	10.6	4.8	7.4	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No1		
8	土師器	鉢	(12.1)	4.9	9.9	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全実測	No3、カマド		
9	土師器	鉢	—	5.5	(3.8)	ナデ	ケズリ	完全実測	カマド		
10	土師器	鉢	17.3	—	(17.4)	ナデ	ケズリ	完全実測	No6		
11	土師器	鉢	(22.6)	—	(26.0)	ナデ	ケズリ	完全実測	No1		
12	土師器	鉢	(16.4)	—	(8.7)	ナデ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全実測	カマド		

第11表 H2号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量	重		成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		口径(長)	器高(厚)				
1	土師器	杯	(11.9)	(6.0)	(4.1)	—	ロクロナデ	完全実測	覆土		
2	土師器	杯	(15.0)	(9.8)	(3.5)	—	ミガキ→黒色処理	完全実測	No1		
3	土師器	碗	(16.1)	—	(3.2)	—	ミガキ	完全実測	カマド		
4	土師器	碗	—	8.1	(3.2)	—	右側縁部切→白磁台	完全実測	覆土		
5	須恵器	杯	—	14.2	7.5	3.9	右側縁部切	完全実測	覆土		
6	須恵器	鉢	(11.8)	—	(8.7)	—	ハケス→ケズリ	完全実測	覆土		
7	土師器	鉢	(19.0)	—	(9.0)	—	ミガキ	完全実測	カマド		
8	土師器	鉢	(20.6)	—	(25.7)	—	ハケス→ケズリ	完全実測	No2		
9	土師器	鉢	—	(4.6)	(16.6)	—	ハケス、ナデ	完全実測	No3		
			—	(5.4)	(4.2)	—	ナデ	完全実測	覆土		

第12表 H3号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量	重		成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		口径(長)	器高(厚)				
1	土師器	杯	15.9	13.5	7.1	—	ミガキ	完全実測	カマド、H71		
2	土師器	杯	—	—	—	—	ミガキ	破片実測	カマド		

第13表 H3号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		重量等	内面		成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	重量			
3	杯	碗	(10.6)	—	—	筋軸	—	—	—	Ⅱ区
4	土師器	甕	(11.7)	5.5	8.5	ナデ	—	物軸	—	H71、H71床上
5	土師器	甕	(12.0)	—	(5.6)	ナデ	—	ケズリ	—	カマド
6	土師器	甕	(13.0)	—	(6.4)	ナデ	—	ケズリ	—	H71
7	土師器	甕	(14.7)	6.7	10.8	ナデ	—	ケズリ→ミガキ	—	カマド
8	土師器	甕	—	(6.8)	(6.5)	ナデ	—	ケズリ	—	No1
9	土師器	甕	—	—	(6.0)	ナデ	—	ケズリ	—	床
10	土師器	甕	—	—	(8.2)	ナデ	—	ケズリ→ミガキ	—	No1、床
11	赤土器	甕	10.5	—	(6.9)	—	—	ミガキ→赤形	—	覆土

第14表 H4号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	内面		成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	重量			
1	土師器	杯	(12.8)	—	5.1	—	—	ミガキ	—	Ⅰ区、Ⅱ区
2	土師器	杯	(13.8)	—	(4.9)	—	ミガキ→黒色処理	—	—	覆土
3	土師器	杯	(14.6)	(15.0)	4.9	—	—	ケズリ→ミガキ	—	覆土
4	土師器	杯	—	(12.8)	(6.5)	—	—	ミガキ	—	覆土
5	土師器	杯	—	(14.4)	(7.2)	—	—	ミガキ	—	Ⅰ区
6	土師器	甕	(12.8)	—	(5.5)	—	—	ナデ	—	覆土
7	土師器	甕	(14.6)	—	(5.5)	—	—	ケズリ	—	Ⅱ区
8	土師器	甕	(17.2)	—	(11.0)	—	ハケヌ	ナデ→ミガキ	—	覆土
9	土師器	甕	(18.0)	—	(15.6)	—	ナデ	ケズリ	—	Ⅱ区
10	土師器	甕	(18.4)	(6.0)	18.0	—	ナデ	ケズリ	—	Ⅰ区
11	土師器	甕	(22.0)	—	(6.7)	—	ナデ	ナデ	—	覆土
12	土師器	甕	—	(6.0)	(6.0)	—	ナデ	ケズリ	—	覆土
13	土師器	甕	—	(9.2)	(9.5)	—	ナデ	ケズリ	—	Ⅰ区
14	土師器	甕	—	—	(11.3)	—	ナデ	ケズリ	—	Ⅰ区
15	土師器	甕	(22.8)	—	(10.1)	—	ナデ→ミガキ	—	—	Ⅰ区
16	土師器	甕	—	(6.4)	(17.8)	—	ミガキ	—	—	Ⅱ区
17	土師器	甕	(26.0)	8.8	(25.9)	—	ナデ	ケズリ	—	Ⅱ区
18	須恵器	甕	(20.0)	—	(11.6)	—	口クロナデ	口クロナデ	—	覆土
19	須恵器	甕	—	—	—	—	口クロナデ	—	—	Ⅱ区
20	石器	磨石	(7.0)	(5.0)	(0.9)	(27.4)	楕円穴掘、正面に磨痕あり	楕円状文	—	Ⅱ区
21	石器	磨石	(9.5)	(6.4)	(0.6)	(61.2)	楕円穴掘、正面に磨痕あり	—	—	覆土

第15表 H5号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量等	内面		成形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	重量			
1	土師器	杯	(12.9)	(12.8)	3.6	—	ナデ	—	—	Ⅲ区
2	土師器	杯	(13.4)	(8.8)	3.8	—	ミガキ→黒色処理	—	—	カマド
3	土師器	杯	14.9	9.5	5.0	—	ミガキ→黒色処理	—	—	No13
4	土師器	杯	15.2	8.2	4.7	—	ミガキ→黒色処理	—	—	No25

第16表 H5 号野穴建物出土遺物総表(2)

No	器種	器形	法		重量等	内面		成形・調整		備考	出土層位
			口徑(長)底徑(短)	器高(厚)		器高(厚)	器高(厚)	外面	備考		
5	土師器	杯	15(6)	10(6)	<4.6>	三ガキ→黒色処理?	底部分ズリ→ミガキ	回転製陶	No23		Ⅰ区
6	土師器	杯	15(6)	12.7	4.3	三ガキ	底部分ズリ	完全製陶	No3		Ⅰ区
7	土師器	杯	16(0)	11.5	4.8	三ガキ→黒色処理	底部分ズリ→ミガキ	完全製陶	No22		Ⅰ区
8	土師器	杯	18(2)	12.0	5.0	三ガキ→黒色処理	底部分ズリ→ミガキ	完全製陶	覆土		Ⅰ区
9	土師器	高杯	12(2)	—	6.1	三ガキ→黒色処理	ミガキ	完全製陶	No16		Ⅰ区、Ⅲ区
10	土師器	高杯	16(1)	11.2	9.7	坏部ミガキ→黒色処理、体部ミガキ	ミガキ	完全製陶	No16		Ⅰ区、Ⅲ区
11	土師器	高杯	17.7	—	<14.8>	三ガキ→黒色処理、脚部ナデ、裾部ミガキ	ミガキ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
12	土師器	高杯	—	11.5	<14.3>	三ガキ→黒色処理	ナデ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
13	土師器	手捏	5(5)	4.0	4.3	ナデ	右回転糸切	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
14	土師器	杯	13(5)	5.9	5.1	ロクロナデ	回転ヘラ切り	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
15	須恵器	杯	15(0)	11.0	4.0	ロクロナデ	回転ヘラ切り→底部・周縁ナズリ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
16	須恵器	杯	—	15(4)	<3.0>	ロクロナデ	回転ヘラナズリ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
17	須恵器	蓋	11(2)	—	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
18	須恵器	蓋	17(8)	—	2.2	ロクロナデ	つまみ貼付	完全製陶	No8		Ⅲ区
19	土師器	壺	11(4)	5.1	7.4	ナデ	ナズリ→ミガキ	完全製陶	No2		Ⅲ区
20	土師器	壺	14(6)	6.4	16.4	ナデ→ミガキ	ナズリ→ミガキ、磨耗、糊纏	完全製陶	No18、26		Ⅲ区
21	土師器	甕	16(5)	6(7)	11.0	ナデ→ミガキ	ナズリ	完全製陶	No17、29、30		Ⅲ区
22	土師器	甕	17(6)	5.4	20.3	ナデ	ナズリ	完全製陶	No19		Ⅲ区
23	土師器	甕	17(6)	6.9	41.3	ナデ	ナズリ	完全製陶	No22、23、26、31、32、37		Ⅲ区
24	土師器	甕	18(0)	—	<9.7>	ナデ	ナデ	完全製陶	No21		Ⅲ区
25	土師器	甕	—	6.5	<5.9>	ナデ	ナデ	完全製陶	No4		Ⅲ区
26	土師器	甕	8.8	5.8	9.3	三ガキ	ミガキ	完全製陶	No20、カマド		Ⅲ区
27	土師器	甕	11(8)	—	<7.0>	ミガキ	ミガキ	完全製陶	覆土		Ⅲ区
28	土師器	甕	—	—	<9.2>	黒色処理	ミガキ	完全製陶	No14		Ⅲ区
29	土師器	甕	16(0)	3.3	12.4	ナデ	ナズリ	完全製陶	No1		Ⅲ区
30	土師器	甕	22(1)	3.1	16.4	ハケメ	ハケメ、ケズリ	完全製陶	No17、24		Ⅲ区
31	土師器	?	—	—	—	ナデ	ナデ	完全製陶	Ⅰ区		Ⅲ区
32	弥生土器	高杯	—	—	<4.8>	ハケメ	ミガキ、湯かじり	完全製陶	No18、26		Ⅲ区
33	弥生土器	甕	—	—	—	ハケメ	ハケメ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
34	弥生土器	甕	—	—	—	細文	ハケメ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
35	弥生土器	甕	—	—	—	細文	ハケメ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
36	弥生土器	甕	—	—	—	ヘラ削花線	ハケメ	完全製陶	Ⅲ区		Ⅲ区
37	鉄器	短須臈	<10.2>	<2.0>	<11.97>	先腫・基部欠損(縦穴・角周)	ハケメ	完全製陶	No10		Ⅲ区
38	鉄器	短須臈	<11.2>	<1.8>	<10.79>	同脚腫・基部先腫欠損(脚穴・台形周)	ハケメ	完全製陶	No9		Ⅲ区
39	鉄器	長須臈	<9.5>	<0.6>	<7.71>	頸部のみ残存?	ハケメ	完全製陶	No11		Ⅲ区
40	鉄器	長須臈	<11.4>	<1.0>	<9.59>	先腫・基部欠損、棘状周	ハケメ	完全製陶	No6		Ⅲ区

第17表 H6 号野穴建物出土遺物総表(1)

No	器種	器形	法		重量等	内面		成形・調整		備考	出土層位
			口徑(長)底徑(短)	器高(厚)		器高(厚)	器高(厚)	外面	備考		
1	土師器	杯	11(6)	11(6)	4.6	三ガキ	ミガキ	完全製陶	カマド		Ⅲ区
2	土師器	杯	12(0)	11.8	6.7	三ガキ	ミガキ、割書	完全製陶	No6、Ⅳ区		Ⅲ区

第18表 H6 号壁六建物出土遺物総覧表(2)

No	器種	器形	法		重量等	内面		外形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	内面	外面		
3	土師器	杯	12.2	12.3	6.0	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	完全表割	No8、床	
4	土師器	杯	12.8	11.4	5.0	—	ミガキ	ケズリ	回転表割	No1	
5	土師器	杯	13.8	丸底	6.1	—	暗文→ミガキ	ミガキ、ケズリ	完全表割	No5、Ⅳ区	
6	土師器	杯	14.0	12.6	5.0	—	ミガキ	ミガキ	回転表割	I区、Ⅳ区、EWベルト	
7	土師器	杯	14.8	丸底	5.8	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転表割	No9	
8	土師器	甕	15.0	—	7.0	—	ナデ	ケズリ	回転表割	I区、EWベルト	
9	土師器	甕	—	7.4	5.4	—	ナデ	ケズリ	回転表割	SNベルト	
10	土師器	甕	—	8.0	5.4	—	ナデ	ケズリ	完全表割	カムド	
11	石器	打製石片	9.0	5.1	1.0	<51.0>	縁部外損、刃部に磨減	ケズリ	完全表割	No4	
12	石器	敲石	16.1	7.6	7.0	1100.0	両端部に敲打痕、正面に擦痕	ケズリ	完全表割	I区、床直	

第19表 H7 号壁六建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法		重量等	内面		外形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	杯	13.8	13.2	3.6	—	暗文	ケズリ→ミガキ	回転表割	覆土	
2	土師器	有段口縁杯	15.8	15.8	3.0	—	割階	ケズリ→ミガキ	完全表割	No2	

第20表 H8 号壁六建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法		重量等	内面		外形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	杯	11.0	—	2.2	—	ナデ	ナデ	回転表割	Sベルト	
2	土師器	杯	12.8	10.4	4.4	—	暗文→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転表割	カムド	
3	土師器	杯	13.2	11.2	5.2	—	暗文	ケズリ	回転表割	カムド	
4	土師器	杯	13.8	12.4	3.7	—	ミガキ	ミガキ	回転表割	カムド、I区、EWベルト	
5	土師器	杯	14.0	11.2	4.1	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転表割	カムド、C3、D3	
6	土師器	甕	12.0	—	2.6	—	ナデ	ミガキ	回転表割	Ⅲ区、EWベルト	
7	土師器	甕	—	6.4	3.3	—	ナデ	ケズリ	回転表割	カムド	
8	石製品	白玉	1.6	1.8	0.7	2.79	孔φ0.20、成形途中か	—	完全表割	No3	
9	石製品	白玉	1.7	1.75	0.6	2.67	孔φ0.25	—	完全表割	No2	
10	石製品	白玉	1.8	1.8	0.7	3.89	孔φ0.25、正面に条痕(整形痕小)	—	完全表割	No1	

第21表 H9 号壁六建物出土遺物総覧表(1)

No	器種	器形	法		重量等	内面		外形・調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	杯	14.0	14.4	4.4	—	ミガキ	ミガキ	回転表割	Ⅱ区	
2	土師器	杯	14.6	14.9	3.5	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転表割	覆土	
3	須恵器	杯	13.2	—	2.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	床	
4	須恵器	杯蓋	—	—	1.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ→つまみ貼付	完全表割	覆土	
5	土師器	甕	21.8	—	18.8	—	ハケム、ナデ	ケズリ	完全表割	No11	
6	土師器	甕	—	5.4	7.2	—	ナデ	ケズリ	完全表割	SNベルト	
7	土師器	甕	—	8.5	4.5	—	ナデ	ケズリ、ハケム	完全表割	No2	

第22表 H9号竪穴建物出土遺物総覧表(2)

No	器種	器形	法		内面	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		外面	外面		
8	須臾器	帯	—	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	—	回転炭洲	SNベルト
9	土製品	土器片円盤	3.4	3.5	12.3	ミガキ	—	回転炭洲	覆土
10	石器	磨石	6.0	4.8	3.5	147.8	全体に磨り	完全炭洲	完全炭洲
11	石器	敲石	9.4	6.9	3.7	302.4	縁辺に敲打痕	完全炭洲	EWベルト
12	石器	敲石	11.4	6.6	4.2	354.4	正面・端部に敲打痕と条痕あり	完全炭洲	完全炭洲
13	石器	石鏝	6.2	6.7	1.9	95.0	周側に採り、縁辺に条痕、正面に磨滅あり	完全炭洲	完全炭洲

第23表 H10号竪穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法		内面	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		外面	外面		
1	土師器	杯	(14.2)	—	(3.3)	—	—	回転炭洲	IV区、B-067?
2	土師器	杯	(14.8)	(9.2)	—	ミガキ→黒色処理	—	回転炭洲	IV区
3	土師器	椀	14.5	4.2	20.4	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全炭洲	No6、7、12、I区、床、ガマド
4	土師器	武蔵罎	(21.5)	—	(16.9)	—	ケズリ	覆土	—
5	土師器	罎	(24.7)	(5.4)	(38.6)	—	ヨコナデ	完全炭洲	No2、4、5、7、9、10、11、I区、床、ベルト
6	土師器	罎	—	4.8	(7.9)	—	ナデ	回転炭洲	No2、床、ベルト
7	土師器	罎	—	(6.0)	(5.3)	—	ナデ	回転炭洲	No1
8	石器	磨・敲石	11.3	4.5	3.6	258.5	端部に敲打痕、正面に磨面	完全炭洲	II区

第24表 H11号竪穴建物出土遺物総覧表(1)

No	器種	器形	法		内面	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		外面	外面		
1	土師器	杯	(13.0)	—	4.9	—	ミガキ	回転炭洲	I区ベルト
2	土師器	杯	(13.0)	—	6.0	—	ケズリ→ミガキ	完全炭洲	No14
3	土師器	杯	(13.6)	(13.2)	(6.1)	—	ナデ、ミガキ	回転炭洲	ベルト
4	土師器	杯	(14.8)	—	(4.8)	—	ミガキ→黒色処理	回転炭洲	II区
5	土師器	杯	15.1	11.2	4.9	—	ミガキ→黒色処理	完全炭洲	No37、39、44、45、48、50、53、73、76、79
6	土師器	杯	15.8	10.6	5.2	—	ケズリ→ミガキ→黒色処理	完全炭洲	II区
7	土師器	杯	16.4	11.6	4.8	—	ケズリ→ミガキ	完全炭洲	No15～17、22、23、27、40、46
8	土師器	杯	16.6	11.9	4.7	—	ミガキ	完全炭洲	不明
9	土師器	杯	16.7	11.7	4.9	—	ケズリ→ミガキ	完全炭洲	No24、29、30、31、38、43
10	土師器	杯	16.7	13.1	5.6	—	ケズリ→ミガキ	完全炭洲	No5
11	土師器	罎	10.6	6.4	8.4	—	ケズリ	完全炭洲	ガマド前
12	土師器	罎	11.8	4.5	8.6	—	ケズリ→ミガキ	完全炭洲	No4
13	土師器	罎	(12.4)	—	(6.6)	—	ケズリ	回転炭洲	ベルト
14	土師器	罎	(13.4)	—	(6.5)	—	ケズリ	回転炭洲	I区
15	土師器	罎	(14.0)	—	(8.6)	—	ケズリ	回転炭洲	II区
16	土師器	罎	(15.6)	—	(8.6)	—	ナデ	完全炭洲	No3
17	土師器	罎	15.8	—	(27.5)	—	ハケメ→ケズリ	完全炭洲	No2

第 25 表 H11 号彫六建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	量			内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)					
18	土師器	甕	17.2	6.4	17.1	ハケメ→ケズリ	ハケメ	完全表割	No1, 58, 74, 90, 床、ベルト	
19	土師器	甕	18.8	—	(34.3)	ナデ	ケズリ	完全表割	No12, カマド	
20	土師器	甕	20.1	6.2	22.4	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全表割	No59, 60, 65, 67~69, 77, 84, 90	
21	土師器	壺	11.2	—	9.7	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全表割	南園土坑 No1	
22	土師器	甕	14.2	4.4	11.3	ナデ	ケズリ	完全表割	No10	
23	土師器	甕	15.6	4.2	11.0	ハケメ	ハケメ	完全表割	No9	
24	土師器	甕	16.7	3.6	10.8	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全表割	No8	
25	土師器	甕	18.2	6.0	9.6	ナデ	ケズリ	完全表割	No13	
26	土師器	甕	23.7	7.4	20.7	ハケメ→ミガキ	ハケメ	完全表割	No26, 32~34, 36, 49, 51, 52, 55, 57, 63, 66, 68, 78, 80, 81, 87	
27	須恵器	横瓶	—	—	(2.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	完全表割	I 区	
28	土製品	土器片円盤	3.8	3.9	0.8	13.5 ミガキ	ケズリ	完全表割	II 区	
29	土製品	土器片円盤	3.8	4.1	0.7	15.2 同心円黒点痕	ハケメ、平行項目	完全表割	III 区	
30	石器	磨石	5.3	3.8	4.0	29.0 全体に磨り、正面に糸痕	—	完全表割	No11	

第 26 表 H12 号彫六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量			内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)					
1	土師器	杯	(13.4)	(11.3)	(3.8)	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転表割	P2	
2	土師器	杯	(17.0)	(9.9)	(4.2)	ミガキ→黒色処理	底部ケズリ→ミガキ、磨耗	回転表割	II 区	
3	土師器	杯	—	—	—	ナデ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	磨片表割	II 区	
4	土師器	高杯	14.5	8.8	11.8	ケズリ	ケズリ	完全表割	No2	
5	土師器	高杯	—	(9.8)	(3.2)	ミガキ→黒色処理、脚部ケズリ→ナデ	ケズリ	回転表割	III 区	
6	土師器	高杯	—	(6.0)	(—)	ケズリ→ナデ	ミガキ→赤彩	完全表割	P1	
7	土師器	ミニチュア土壺	(6.0)	(4.6)	3.2	ナデ	ナデ	回転表割	I 区	
8	須恵器	環蓋	8.0	2.1	2.3	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、つまみ紐付	完全表割	No1	
9	土師器	鉢	(19.8)	(12.6)	8.4	ミガキ→黒色処理、磨耗	ケズリ、磨耗	回転表割	No15, カマド	
10	土師器	鉢	(13.4)	—	(10.5)	ミガキ	ミガキ	完全表割	II 区, C1・2Gr	
11	土師器	小平盤	(13.5)	5.0	9.7	ナデ	ハケメ、ケズリ→ミガキ	完全表割	No8	
12	土師器	甕	(14.4)	—	(16.8)	ナデ	ケズリ	回転表割	No10, ベルト	
13	土師器	甕	—	(6.0)	(3.5)	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転表割	ベルト	
14	土師器	甕	—	6.2	(3.8)	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全表割	I 区	
15	土師器	甕	—	(4.5)	(—)	ナデ	ミガキ	完全表割	No9	
16	土師器	甕	—	(19.1)	(—)	ナデ	ミガキ	回転表割	No9	
17	石器	飛行	(9.4)	(5.5)	(4.6)	(254.0) 上下欠損、紙面散り、正面・左側に糸痕、裏面は穴貫れも使用	—	完全表割	I 区	
18	石器	打製石片	(7.0)	(5.6)	(1.35)	(74.7) 下部欠損、摩滅部分あり	—	完全表割	I 区	
19	石製品	白玉	0.9	1.0	0.65	0.9 孔φ 0.25	—	完全表割	No13	
20	土器	磨石	4.5	3.4	3.9	65.7 全体に磨り	—	完全表割	I 区	
21	石器	磨石	(10.2)	(6.0)	(5.5)	(507.0) 破れあり？一部黒化、上下欠損、正面に磨面、横線あり	—	完全表割	覆土	
22	鉄器	刀子	(7.2)	(0.8)	(0.25)	(5.9) 両面欠損	—	完全表割	No7	
23	鉄器	鉄片	—	—	33.0	—	—	未表割	No6	

第27表 H13号影穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面		
1	土師器	杯	(15.3)	(4.8)	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	同底表測	I区
2	土師器	杯	17.2	11.2	5.0	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全表測	No4, I区, H82 I区
3	土師器	杯	(17.2)	(14.4)	(4.0)	ミガキ→黒色処理	ミガキ	ミガキ	ミガキ	同底表測	No7, カマ下, H82 カマ下
4	土師器	杯	(17.3)	(14.7)	6.7	ミガキ→黒色処理, 襷付帯	ミガキ→黒色処理	ミガキ, 襷付帯	ミガキ	完全表測	No8
5	土師器	高杯	(13.6)	(5.1)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	ケズリ	同底表測	I区
6	土師器	高杯	—	(8.0)	(5.7)	ケズリ→一部ミガキ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	同底表測	I区
7	土師器	小甕	(16.6)	4.6	8.1	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全表測	No7
8	土師器	甕	—	(12.2)	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	同底表測	I区
9	土師器	甕	(19.2)	—	(9.1)	胴部ナデ	胴部ミガキ	胴部ミガキ	胴部ミガキ	同底表測	I区, H82 N区
10	土師器	甕	(22.4)	—	(8.9)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	同底表測	No3
11	土師器	甕	(22.4)	—	(11.3)	一部ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	同底表測	I区
12	土師器	小甕	—	7.4	(8.7)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	完全表測	No4, I区
13	土師器	甕	—	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	同底表測	I区
14	土師器	甕	11.6	2.3	12.0	ナデ	ナデ	ハケメ	ハケメ	破片表測	I区
15	土師器	甕	(22.6)	—	(10.8)	ミガキ	ミガキ	ナデ, 焼成前穿孔	ナデ, 焼成前穿孔	完全表測	No5
16	土師器	甕	—	(9.5)	(4.4)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	同底表測	覆土
17	須器	甕	—	—	—	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	同底表測	覆土
18	土製品	土器片円盤	10.3	8.6	0.5	ミガキ→黒色処理	ミガキ	ミガキ	ミガキ	破片表測・拵本	No2
19	石製品	彫摩車	4.7	2.9	1.5	27.0孔φ0.7	—	—	—	完全表測	I区
20	石器	磨石	11.6	9.5	3.3	465.0正面に磨面	—	—	—	完全表測	No6

第28表 H14号影穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面		
1	土師器	杯	—	(7.0)	(0.8)	ミガキ→黒色処理	ケズリ	ケズリ	ケズリ	同底表測	覆土

第29表 H15号影穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面		
1	土師器	北式盛型杯	10.6	9.4	3.9	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全表測	No6
2	土師器	杯	12.8	9.4	4.8	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全表測	No2
3	土師器	杯	(14.0)	(12.0)	(5.6)	ミガキ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	同底表測	No6
4	土師器	甕	—	6.5	(8.0)	ナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全表測	No1

第30表 H16号影穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量	内面		外面		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面		
1	土師器	杯	—	13.5	11.1	4.4	—	放母状噴文	ケズリ	完全表測	No5
2	土師器	杯	15.2	11.7	4.8	ミガキ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全表測	No2
3	土師器	鉢	16.7	—	9.4	ナデ, 一部ハケメ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	完全表測	No1, 4

第 31 表 H16 号型六建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	量		成形・調整		備考	出土層位
			口徑(長)・底徑(短)	高さ(厚)	内面	外面		
4	土師器	罎	10.0)	(7.4)	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式測	No1
5	土師器	罎	14.0)	—	ナデ	ケズリ	回転式測	No6
6	土師器	罎	18.8)	—	ナデ	ケズリ	回転式測	覆土
7	土師器	罎	19.2)	—	ナデ	ケズリ	回転式測	Ⅱ区、カマド
8	土師器	罎	—	6.3	ハケメ	ケズリ	回転式測	カマド
9	土師器	罎	16.8)	6.9	ハケメ	ケズリ、ハケメ	回転式測	No4、5
10	赤土土器	罎	—	—	Lr(2) 蒸気車輪格条体	—	破片式測・拓本	覆土

第 32 表 H17 号型六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量		成形・調整		備考	出土層位
			口徑(長)・底徑(短)	高さ(厚)	内面	外面		
1	土師器	杯	13.7)	11.9	ナデ	ケズリ	完全式測	No5
2	土師器	有段口縁杯	13.9)	(11.8)	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	完全式測	Ⅰ区
3	土師器	高杯	15.0)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全式測	Ⅲ区
4	土師器	高杯	15.9)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全式測	G7、G8、G17、G18
5	土師器	高杯	17.0)	—	不明	ケズリ	完全式測	Ⅳ区、G7、G8、G17、G18
6	土師器	高杯	19.2)	—	ナデ→ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全式測	No4、Ⅰ区、カマド
7	土師器	高杯	—	(9.6)	ケズリ	ケズリ	回転式測	Ⅱ-7
8	土師器	高杯	—	(12.4)	ケズリ	ケズリ→ミガキ	完全式測	Ⅲ区
9	土師器	高杯	—	(4.3)	ミガキ	ハケメ、放射状ミガキ	完全式測	Ⅲ区、G7、H7
10	土師器	高杯	—	(5.5)	ケズリ	ミガキ→赤形	完全式測	No9
11	土師器	鉢	12.8)	5.6	ハケメ	ケズリ、ハケメ	回転式測	Ⅰ区
12	土師器	鉢	16.4)	—	放射状ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式測	Ⅲ区、G4、G5
13	土師器	罎	13.5)	(8.1)	ナデ	ケズリ、ハケメ	回転式測	Ⅱ区、H20Ⅰ区、Ⅱ区
14	土師器	罎	18.6)	—	ナデ	ケズリ	回転式測	No2、Ⅰ区
15	土師器	罎	19.9)	—	ナデ	ケズリ	完全式測	完全式測
16	土師器	罎	21.6)	—	ハケメ	ケズリ	完全式測	No4、Ⅳ区、カマド
17	土師器	罎	—	6.6	ケズリ、ハケメ、ミガキ	ケズリ	回転式測	Ⅳ区、カマド
18	土師器	罎	18.2)	—	ハケメ	ケズリ	回転式測	Ⅲ区、Ⅱ区、Ⅲ区、カマド
19	土師器	罎	—	(10.2)	ナデ	ミガキ	回転式測	G7、H7
20	土師器	罎	—	(4.2)	ケズリ	ケズリ→ミガキ	完全式測	覆土
21	須恵器	壺	—	(7.0)	口口ナデ	口口ナデ→ケズリ	回転式測	覆土
22	石製品	砥石	(9.0)	(6.6)	(4.2) (363.83)	上部欠損、砥面数 4、条痕有、正裏全面に削り其の使用痕	完全式測	No11
23	石製品	磨製石斧	(5.5)	1.4	(0.4) (3.38)	一部欠損、磨痕有、裏面欠損後も使用か?	完全式測	上層
24	石製品	磨製石鏃	(2.5)	(2.1)	(0.2) (1.65)	孔φ0.25、先端欠損、磨痕有	完全式測	No7
25	石製品	編物石	8.9	5.0	2.00	116.78 側面に削り、端部を使用痕	完全式測	床直
26	石製品	磨石	4.8	3.4	2.80	38.00 全体に削り	完全式測	Ⅳ区

第33表 H18号野穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	内面	外面		
1	土師器	北式威平埴	(11.2)	(10.6)	(3.2)	ナデ	ケズリ	回転・表割	II区	
2	土師器	埴	(14.2)	—	(6.0)	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転・表割	II区、EW・ベルト	
3	土師器	北式威平埴	(15.0)	—	5.0	ナデ	ケズリ	回転・表割	I区、II区	
4	須恵器	環	(13.8)	(8.2)	3.8	ロクロナデ	回転糸切	回転・表割	III区、EW・ベルト	
5	須恵器	鉢	(4.8)	(2.3)	—	ロクロナデ	回転糸切・回転ヘラケズリ、火摩蝕	回転・表割	II区	
6	土師器	鉢	(9.5)	5.3	8.0	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全表割	カマド、I区	
7	土師器	鉢	—	(7.0)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全表割	カマド、IV区	
8	土師器	罍	(21.0)	—	(27.6)	ナデ	ケズリ	回転・表割	カマド、I区、II区、IV区、ベルト	
9	土師器	罍	—	(5.0)	(1.8)	ナデ	ケズリ、木炭痕	回転・表割・拓本	SN・ベルト	
10	土師器	罍	—	6.7	(2.4)	ナデ	ナデ	完全表割	EW・ベルト	
11	土師器	罍	—	(7.4)	(4.9)	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転・表割	床	
12	土師器	罍	—	8.0	(3.1)	ハケメ	ケズリ	完全表割	ベルト	
13	土師器	罍	—	(19.5)	—	ハケメ	ケズリ	完全表割	カマド、I区、II区	
14	土師器	罍	—	—	(20.5)	ハケメ	ケズリ	回転・表割	カマド、I区、III区、SN・ベルト	
15	弥生土器	鉢	—	—	—	浮線文、ヘラミガキ	—	—	—	
16	弥生土器	罍	—	—	—	U(2) 漆糸黒線輪条体、赤彩	—	—	—	
17	土製品	土器片・土盤	3.8	4.1	0.7	—	ケズリ	破片・表割	I区、IV区	
18	土製品	土盤	5.6	1.9	1.7	ミガキ→黒色処理	ナデ	完全表割	No1	
19	石器	編物石	10.0	6.3	2.4	280.0	—	完全表割	No1	
20	石器	編物石	11.4	6.7	2.7	292.0	刃縁に使用痕	完全表割	IV区	
21	鉄器	長柄鏝	(8.8)	(0.8)	(0.4)	(5.63)	鏝身部欠損、角削	完全表割	E区	
22	鉄器	長柄鏝	(10.2)	(0.7)	(0.45)	(6.24)	鏝身部欠損、角削	完全表割	覆土	
23	鉄器	長柄鏝	(12.9)	(0.7)	(0.4)	(7.99)	鏝身部・基部欠損、角削	完全表割	No1	
24	木製品	胡櫛	—	—	—	炭化	—	未図化	覆土	

第34表 H19号野穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	内面	外面		
1	須恵器	環	(12.6)	(5.0)	(3.7)	ロクロナデ	回転糸切	回転・表割	覆土	
2	須恵器	鉢	—	(6.0)	(1.8)	火磨	回転ヘラ切り→ケズリ	完全表割	No1	
3	土師器	鉢	(20.0)	(17.0)	(7.0)	ハケナデ、ミガキ→黒色処理	底部ケズリ、ミガキ	回転・表割	覆土	
4	土師器	甕	(10.7)	6.6	(12.4)	ミガキ	ケズリ	完全表割	No3、II区、M7	
5	土師器	甕	(14.0)	—	(13.2)	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全表割	No5、No7、No8、II区、H16カマド	
6	土師器	甕	(13.7)	—	(8.5)	ミガキ	ミガキ	回転・表割	No7	
7	土師器	甕	—	7.0	(3.2)	ナデ	ミガキ、底部ケズリ	完全表割	No2	
8	弥生土器	甕	(19.0)	—	(4.2)	ミガキ、口唇部に突起部付	—	回転・表割	No2	
9	弥生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	破片・表割・拓本	II区	
10	弥生土器	甕	—	4.5	4.3	条痕文	—	破片・表割・拓本	II区	
11	石器	編物石	12.0	4.5	4.3	267.1	—	完全表割	IV区	
12	石器	磨石	8.0	6.5	2.3	137.9	正面に磨り面、溝痕あり	完全表割	IV区	

第 35 表 H20 号彫六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長寸)径(短寸)径(厚)	口径(長寸)径(短寸)径(厚)		内面	外面		
1	土師器	環	—	—	—	ミガキ	ミガキ	完全灰洲 No12, I区	
2	土師器	環	11.6	—	4.2	ミガキ	ミガキ	完全灰洲 I区	
3	土師器	環	12.3	—	5.5	ミガキ	ミガキ	完全灰洲	
4	土師器	環	12.7	—	5.8	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全灰洲	
5	土師器	環	12.8	—	4.7	ミガキ	ナデ	No18, I区, H17上層	
6	土師器	環	13.1	—	6.2	ナデ	ケズリ	完全灰洲 No8~10, I区	
7	土師器	環	13.3	—	6.2	ナデ	ミガキ	完全灰洲 I区	
8	土師器	環	13.4	—	5.2	ミガキ	ケズリ	完全灰洲 No2, I区	
9	土師器	環	13.7	—	7.2	ナデ	ミガキ	完全灰洲 No14, I区	
10	土師器	環	(13.8)	—	4.6	ナデ	ミガキ	完全灰洲 No4, No5, I区	
11	土師器	環	14.2	—	9.7	ナデ	ケズリ	完全灰洲 I区	
12	土師器	環	—	—	<6.8>	ナデ	ミガキ	完全灰洲 I区	
13	土師器	甕	14.5	—	8.6	ミガキ	ミガキ	完全灰洲 I区	
14	土師器	甕	(14.2)	—	<7.4>	ナデ	脚柱	完全灰洲 II区	
15	土師器	甕	(21.0)	—	5.7	ハケメ	ハケメ	完全灰洲 No18~20, II区, 床	
16	土師器	甕	9.2	—	<10.5>	口縁部ミガキ、体部ナデ	ミガキ	完全灰洲 I区, II区, IV区, 床	
17	土師器	甕	(9.3)	—	<10.6>	口縁部ミガキ、体部ナデ	ミガキ	完全灰洲 II区, 床, M7	
18	須置器	甕	28.3	—	6.8	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全灰洲 No17	
19	須置器	甕	—	—	<4.8>	口クロナデ	口クロナデ	破片灰洲 I区	
20	赤生土器	甕	—	—	—	口クロナデ	口クロナデ	破片灰洲・拓本 II区	
21	石器	二次加工のある刺片	3.9	2.8	1.0	8.1上端部と右縁辺に刺痕	半截竹管による沈嵌文	完全灰洲 II区	
22	石器	打製石斧	<5.5>	<4.7>	<1.3>	<41.3>	下部欠損、正原は削面か	完全灰洲 II区	
23	鉄滓	—	—	—	—	—	—	未図化	

第 36 表 H21 号彫六建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長寸)径(短寸)径(厚)	口径(長寸)径(短寸)径(厚)		内面	外面		
1	土師器	環	(15.6)	—	—	ナデ	ケズリ	回転灰洲	IV区
2	土師器	環	(19.0)	(15.0)	<5.7>	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転灰洲	覆土
3	土師器	高環	—	(11.8)	<3.5>	ケズリ	ミガキ	回転灰洲	IV区, H63
4	須置器	環蓋	(14.6)	—	5.2	口クロナデ	回転ヘラケズリ	回転灰洲	No8, No9
5	土師器	甕	(15.8)	—	<4.7>	ナデ	ケズリ	回転灰洲	皿区
6	土師器	甕	(18.6)	—	<11.7>	ナデ	ケズリ	回転灰洲	不明
7	土師器	甕	—	4.5	<4.4>	赤彩付着	ケズリ	完全灰洲	覆土
8	土師器	甕	—	(6.8)	<2.5>	ナデ	ケズリ	回転灰洲	IV区
9	土師器	甕	(21.4)	—	(8.3)	ハケメ、ケズリ→ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転灰洲	No3~5, 皿区
10	土師器	甕	16.2	—	<10.2>	ナデ	ミガキ、赤彩	完全灰洲	No6, No7
11	赤生土器	鉢	—	—	—	脚部沈嵌文	—	破片灰洲・拓本	IV区
12	赤生土器	鉢	—	—	—	条痕文	—	破片灰洲・拓本	IV区
13	赤生土器	鉢	—	—	—	皿文	—	破片灰洲・拓本	皿区
14	赤生土器	鉢	—	—	—	皿(2)底糸車輪跡条体	—	破片灰洲・拓本	皿区

第37表 H21号竪穴建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
15	赤土器	罎	—	—	—	—	—	破片表側・拓本	覆土
16	赤土器	罎	—	—	—	—	—	破片表側・拓本	Ⅳ区
17	赤土器	罎	—	—	—	—	—	破片表側・拓本	Ⅳ区
18	赤土器	罎	—	—	—	—	—	破片表側・拓本	Ⅳ区
19	石器	打製石斧	11.0	5.1	1.2	78.5	自然面残	完全表側	No2

第38表 H22号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	罎	(15.4)	(7.6)	(14.5)	—	ハケメ→ケズリ	回転表側	H22
2	土師器	罎	(15.8)	—	(10.3)	—	ケズリ	回転表側	No1
3	土師器	罎	(7.0)	(4.4)	—	—	ケズリ	回転表側	No1
4	土師器	甕	13.5	2.9	11.3	—	ハケメ→ケズリ→ミガキ	完全表側	No2
5	土師器	甕	—	(8.2)	(5.5)	—	ケズリ	回転表側	H22
6	須恵器	罎	—	—	—	—	平行削目	破片表側・拓本	カマド
7	須恵器	甕	(11.6)	—	(2.8)	—	ロクロナデ	回転表側	カマド

第39表 H23号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	(10.6)	—	4.5	—	ナデ	回転表側	Ⅱ区、Ⅲ区、EW-ベルト
2	土師器	杯	(12.2)	(9.8)	(4.1)	—	ミガキ	回転表側	Ⅲ区
3	土師器	有段口縁杯	(13.3)	11.1	4.7	—	ケズリ	完全表側	No2
4	土師器	杯	15.1	11.7	4.6	—	ミガキ→黒色処理	完全表側	P3
5	土師器	罎	(16.4)	—	(13.7)	—	ナデ	回転表側	Ⅰ区、Ⅳ区、カマド
6	土師器	罎	(23.8)	—	(9.8)	—	ハケメ→ミガキ	回転表側	Ⅲ区、Ⅳ区、NS-ベルト
7	土師器	罎	—	(7.2)	(11.7)	—	ナデ→ミガキ	回転表側	No1
8	土師器	罎	—	—	(18.4)	—	ハケメ→ミガキ	回転表側	Ⅲ区、ベルト
9	土師器	甕	(7.6)	(3.4)	8.4	—	ナデ	回転表側	Ⅲ区
10	土師器	甕	(17.0)	(5.2)	(11.3)	—	ナデ	回転表側	No1、Ⅱ区
11	土師器	甕	—	(7.2)	(8.6)	—	ハケメ→ミガキ	回転表側	Ⅰ区
12	須恵器	罎	—	(9.2)	(5.3)	—	当具痕	回転表側	Ⅲ区
13	石器	磨・敲石	9.5	4.8	3.5	176.4	正葉に磨面(断面あり)、両端部に敲打痕	完全表側	Ⅲ区

第40表 H24号竪穴建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法		量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	(12.0)	—	3.4	—	ナデ	回転表側	SN-ベルト
2	土師器	有段口縁杯	(14.0)	(11.7)	(4.2)	—	暗文	回転表側	覆土
3	土師器	甕	—	7.7	(3.3)	—	暗文、黒色処理	完全表側	SN-ベルト

第41表 H24号彫六建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	法			重量等	成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		内面	外面			
4	須臾器	高杯	—	—	(8.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転式削	覆土	
5	須臾器	高罐	—	—	(5.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全式削	覆土	
6	土師器	甕	(15.0)	—	(11.0)	—	ハケス→ミガキ	ケズリ	回転式削	SN・ベルト	
7	土師器	壺	—	(9.4)	6.6	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	完全式削	No1	
8	土師器	壺	—	—	(6.3)	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全式削	No2, SN・ベルト	
9	土師器	瓶	—	—	(8.5)	—	ナデ	ナデ	破片式削	SN・ベルト	
10	須臾器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	破片式削	破片式削・拓本	覆土	
11	須臾器	甕	—	—	—	—	当具類	平行項目	破片式削・拓本	覆土	
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩、甲形浮文貼付、L1(引)懸糸	破片式削・拓本	覆土	
13	弥生土器	壺	—	—	—	—	条組文	ミガキ・赤彩、甲形浮文貼付、L1(引)懸糸	破片式削・拓本	覆土	

第42表 H25号彫六建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法			重量等	成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		内面	外面			
1	土師器	北式鬮形杯	(10.4)	(10.2)	(2.7)	—	ナデ	ケズリ	回転式削	Ⅲ区	
2	土師器	有口縁杯	(13.0)	(10.4)	(3.1)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転式削	P4内	
3	土師器	杯	(13.8)	—	3.9	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転式削	Ⅲ区	
4	土師器	杯	(14.6)	—	(3.4)	—	ナデ	ケズリ	回転式削	No17、Ⅲ区	
5	土師器	杯	(15.0)	—	3.9	—	ナデ	ケズリ	回転式削	Ⅲ区	
6	土師器	杯	(15.8)	(10.2)	(4.2)	—	ミガキ	ミガキ	回転式削	No8	
7	土師器	耳皿	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	破片式削	Ⅲ区	
8	須臾器	杯	—	(6.6)	(1.7)	—	ロクロナデ	底面→周縁ケズリ	回転式削	覆土	
9	土師器	鉢	(15.8)	—	4.4	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式削	床	
10	土師器	甕	(18.1)	—	(33.9)	—	ナデ	ケズリ	完全式削	No20, No27, No30, Ⅰ区, Ⅱ区, カマド, NS・ベルト	
11	土師器	甕	(18.2)	—	(10.1)	—	ハケス	ハケス	完全式削	No15, Ⅰ区, カマド	
12	土師器	甕	(18.4)	—	(30.2)	—	ナデ	ケズリ	完全式削	No5, No22, No30, Ⅰ区, Ⅱ区, カマド, NS・ベルト	
13	土師器	甕	(18.6)	—	(7.7)	—	ナデ	ケズリ	完全式削	No31, 33	
14	土師器	甕	(19.0)	—	(10.2)	—	ナデ	ナデ	回転式削	No26	
15	土師器	甕	19.3	6.4	34.0	—	ナデ	ナデ 底部木炭痕	完全式削	No29, Ⅱ区, カマド	
16	土師器	甕	21.1	4.8	35.6	—	ナデ	ケズリ	完全式削	No7, H132-10 土同一個体	
17	土師器	甕	—	6.2	(19.2)	—	ハケス	ハケス→ケズリ	完全式削	No31～33, Y3, N59	
18	土師器	壺	(17.8)	7.7	(32.8)	—	口縁部ミガキ・体部ナデ	ケズリ→ミガキ	完全式削	No1～3	
19	土師器	壺	(20.4)	(9.4)	(8.2)	—	器面剥落	ケズリ→ミガキ	回転式削	Ⅰ、Ⅱ区	
20	土師器	瓶	(20.4)	—	(7.1)	—	ケズリ→ミガキ	ナデ	回転式削	Ⅲ区、床	
21	土師器	瓶	(31.4)	—	(15.8)	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式削	NS・ベルト	
22	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	破片式削	破片式削・拓本	P4内	
23	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	破片式削	破片式削・拓本	Ⅲ区	
24	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	破片式削	破片式削・拓本	Ⅰ区	
25	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	破片式削	破片式削・拓本	Ⅱ区	
26	弥生土器	壺	(14.4)	—	(6.4)	—	穴縁文	破片式削	破片式削・拓本	Ⅱ区	
27	弥生土器	壺	—	—	—	—	穴縁文	破片式削	破片式削・拓本	Ⅳ区	

第43表 H25号竪穴建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面		
28	赤土器	壺	—	—	—	—	—	—	—	Ⅲ区、庄
29	土製品	土器片円盤	3.1	3.3	0.6	—	6.7(赤土器片を加工)	破片欠損	—	EWベルト
30	土製品	土器片円盤	3.5	3.7	0.7	—	12.2(赤土器片を加工)	破片欠損	—	NSベルト

第44表 H26号竪穴建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	杯	(10.7)	5.5	3.9	—	ロクロナデ	回転糸切、黒書	完全欠損	カマド
2	土師器	杯	11.2	5.6	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全欠損	ケン
3	土師器	杯	(11.2)	(5.6)	3.7	—	ナデ	回転糸切	回転糸切	ケン
4	土師器	北記型杯	(11.4)	(10.2)	(3.6)	—	ナデ	ケズリ	回転糸切	No5
5	土師器	杯	(11.4)	(10.2)	4.2	—	黒色処理	ケズリ	回転糸切	Ⅲ区
6	土師器	杯	(11.8)	(12.0)	3.0	—	黒色処理	ケズリ	回転糸切	Ⅲ区
7	土師器	杯	(12.0)	—	(4.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全欠損	一丘
8	土師器	杯	12.3	5.7	3.5	—	ロクロナデ	回転糸切、黒書	完全欠損	ケン
9	土師器	杯	(12.4)	5.2	3.3	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全欠損	ケン
10	土師器	杯	13.1	5.9	3.9	—	前文→黒色処理	右回転糸切	完全欠損	覆土、H105
11	土師器	杯	(13.2)	(4.8)	4.7	—	ナデ	底部黒線ケズリ	回転糸切	ケン
12	土師器	北記型杯	(13.8)	(12.8)	(5.7)	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全欠損	Ⅲ区
13	土師器	杯	(14.4)	7.4	4.9	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全欠損	Ⅲ区
14	土師器	杯	(14.4)	—	(4.0)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転糸切	Ⅳ区
15	土師器	杯	(14.8)	(14.6)	(3.6)	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転糸切	Ⅲ区
16	土師器	杯	(16.6)	(8.8)	(3.5)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	完全欠損	一丘
17	土師器	杯	—	4.5	2.2	—	黒色処理	回転糸切	完全欠損	一丘
18	土師器	杯	—	(6.4)	(3.0)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転糸切	カマド
19	土師器	碗	14.5	—	(3.3)	—	ミガキ→黒色処理	高台欠損	完全欠損	ケン
20	土師器	碗	(14.6)	—	(4.5)	—	ロクロナデ	高台欠損	完全欠損	覆土、H105No2
21	土師器	高杯	—	(12.0)	(6.9)	—	環部ミガキ→黒色処理、脚部ケズリ	ケズリ→ミガキ	完全欠損	Ⅲ区
22	土師器	高杯	—	(13.4)	(12.2)	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	完全欠損	カマド
23	須恵器	杯	(14.4)	(7.2)	(4.3)	—	火漉	火漉、回転糸切	回転糸切	ケン
24	須恵器	有台杯	—	6.4	(1.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全欠損	Ⅳ区
25	須恵器	杯蓋	(12.8)	—	(3.8)	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転糸切	No2
26	須恵器	杯蓋	(14.8)	—	(4.3)	—	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	回転糸切	Ⅲ区
27	須恵器	杯蓋	(15.6)	—	(1.5)	—	火漉	火漉	回転糸切	ケン
28	須恵器	杯蓋	(17.0)	—	(3.2)	—	火漉	火漉	回転糸切	ケン
29	須恵器	碗	(15.0)	(7.6)	4.6	—	飾軸(つけ掛け)	飾軸(つけ掛け)	H20	ケン
30	土師器	鉢	13.9	9.0	11.4	—	ナデ	ケズリ	回転糸切	一丘
31	土師器	葉	(12.2)	—	(14.3)	—	ナデ	ケズリ	完全欠損	Ⅲ区
32	土師器	葉	(18.8)	—	(34.8)	—	ナデ	ケズリ	回転糸切	覆土、H105
33	土師器	葉	(20.4)	—	(20.2)	—	ナデ	ケズリ	回転糸切	カマド
34	土師器	葉	—	5.9	(3.9)	—	ナデ	ケズリ	完全欠損	Ⅳ区

第 45 表 H26 号野六建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法		量		成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(鼻)	底径(筒)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
35	土師器	甕	—	6.1	<5.6>	—	ナデ	ケズリ	完全灰黒	No1
36	土師器	甕	—	(8.0)	<22.0>	—	ハケメ	ハケメ	回転灰黒	II区
37	土師器	甕	(22.0)	—	<11.6>	—	ハケメ	ハケメ	回転灰黒	覆土、H105
38	土師器	甕	(26.0)	—	<12.6>	—	ハケメ	ハケメ	回転灰黒	H105No1、No23
39	須恵器	甕	—	—	<7.1>	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転灰黒	ケン
40	須恵器	甕	—	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転灰黒・朽本ケン	—
41	須恵器	甕	—	—	—	—	—	平削目	回転灰黒	一括
42	赤生土器	甕	4.2	1.8	3.3	—	—	—	回転灰黒	一括
43	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	回転灰黒	一括
44	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	回転灰黒	一括
45	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	回転灰黒	一括
46	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	回転灰黒	一括
47	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	回転灰黒	一括
48	赤生土器	三二チユア土器	4.2	1.8	3.3	—	—	—	回転灰黒	一括
49	石器	凹石	19.0	10.9	7.6	1740.0	—	—	完全灰黒	No7
50	石製品	臼	<30.4>	<15.6>	<16.6>	10100.0	—	—	完全灰黒	H26
51	石器	臼	<7.1>	<6.2>	<2.0>	140.0	下部欠損	—	完全灰黒	覆土
52	石器	臼	<8.5>	<3.8>	<2.1>	125.0	—	—	完全灰黒	覆土

第 46 表 H27 号野六建物出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法		量		成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(鼻)	底径(筒)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	環	—	(10.2)	<5.2>	—	ニガキ→黒色処理	ニガキ→黒色処理	回転灰黒	II区
2	土師器	環	—	4.4	<6.5>	—	粗いニガキ	粗いニガキ	回転灰黒	II区
3	土師器	環	(13.0)	(11.2)	<5.0>	—	ニガキ→黒色処理	底部ケズリ→ニガキ→黒色処理	回転灰黒	覆土
4	土師器	環	(13.9)	(9.6)	4.5	—	見込胎ナデ	底部ナデ、口縁に一条のヘラ削花線	回転灰黒	No5
5	土師器	環	14.0	12.4	4.5	—	ニガキ→黒色処理	ケズリ	回転灰黒	カマド
6	土師器	環	(14.4)	(11.8)	3.8	—	ニガキ→黒色処理	ケズリ	回転灰黒	No13、No21、No22、カマド
7	土師器	環	(15.0)	—	<3.7>	—	ニガキ	ニガキ	回転灰黒	No15
8	土師器	環	(15.4)	(8.6)	<4.5>	—	ニガキ	ニガキ	回転灰黒	No16
9	土師器	環	(16.2)	(13.8)	4.6	—	ニガキ	ニガキ	回転灰黒	No6
10	土師器	環	(17.4)	(10.8)	4.5	—	ニガキ	ニガキ	回転灰黒	カマド
11	土師器	有沈み鉢	—	—	—	—	黒色処理	ケズリ→黒色処理	破片灰黒	IV区
12	土師器	三二チユア高坏	—	—	<4.5>	—	ナデ	ナデ	回転灰黒	II区
13	土師器	鉢	(23.0)	—	<11.9>	—	ニガキ→黒色処理	ニガキ	回転灰黒	No7
14	土師器	甕	(17.4)	—	<3.0>	—	ニガキ→黒色処理	ニガキ、ケズリ	回転灰黒	覆土
15	土師器	甕	—	(7.2)	<12.5>	—	ナデ	ナデ	回転灰黒	No10、No12、カマド
16	土師器	甕	—	(7.0)	<4.3>	—	黒色処理	ケズリ	回転灰黒	No1
17	土師器	甕	—	(5.6)	<7.3>	—	ナデ	ニガキ	回転灰黒	I、II区、ペルト
18	土師器	甕	—	—	—	—	ナデ	ニガキ→赤彩	破片灰黒	No9、カマド
	土師器	甕	—	—	—	—	ナデ	ケズリ	破片灰黒	IV区

第47表 H27号野穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量		法		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長径)	底径(短径)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
19	赤生土器	裏	—	—	—	—	条目文	破片実測・拓本	覆土	No3
20	赤生土器	裏	—	—	—	—	条目文	破片実測・拓本	覆土	No7
21	赤生土器	裏	—	—	—	—	条目文、沈線文	破片実測・拓本	Ⅳ区	No10
22	赤生土器	裏	—	—	—	—	条目文、沈線文	破片実測・拓本	Ⅳ区	No8
23	石器	打製石片	<16.0>	<6.1>	<172.0>	片断欠損	—	完全実測	覆土	No19
24	石器	砥石	<8.6>	<4.3>	<197.0>	上部欠損、底面致4、高側に条痕行	—	完全実測	—	No19

第48表 H28号野穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量		法		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長径)	底径(短径)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	有段口縁杯	13.4	10.8	4.8	—	暗文・黒色処理	ケズリ	完全実測	No3
2	土師器	有段口縁杯	13.5	11.1	4.9	—	暗文・黒色処理	ケズリ	完全実測	No7
3	土師器	碗	13.8	—	<4.4>	—	ナデ→黒色処理	回転糸切→付高石、墨書	完全実測	No10
4	土師器	高杯	—	—	<4.3>	—	ナデ	ミガキ、通かし	回転実測	Ⅰ区
5	土師器	鉢	(21.8)	6.8	11.3	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	完全実測	Ⅳ区
6	土師器	鉢	(12.8)	(8.8)	13.7	—	ナデ	ハケメ→ミガキ	回転実測	No8
7	土師器	裏	(17.6)	—	<12.9>	—	ハケメ→ナデ	ハケメ→ケズリ	回転実測	No19
8	土師器	裏	(20.0)	—	<11.9>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	Ⅰ区、Ⅳ区
9	土師器	裏	20.8	4.3	39.0	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No15
10	土師器	裏	21.6	—	<28.1>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No1、2、4～6、Ⅱ区
11	土師器	裏	22.0	4.1	34.8	—	ナデ	ケズリ、木炭痕	完全実測・拓本	No19
12	土師器	裏	22.8	4.9	39.2	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No18
13	土師器	裏	(22.8)	5.2	36.1	—	ハケメの残るナデ	ケズリ→ナデ	完全実測	No17、カマド
14	土師器	裏	—	5.9	<5.4>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	Ⅲ区、Ⅳ区
15	土師器	高杯	(15.9)	5.9	(15.6)	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	Ⅱ区
16	赤生土器	高杯	—	—	<3.7>	—	坏部ミガキ→赤彩、脚部ナデ	ミガキ→赤彩	完全実測	No9
17	赤生土器	裏	—	—	—	—	波打口縁、押印跡帯	—	破片実測・拓本	Ⅱ区
18	石製品	軽石製品	4.9	5.3	2.0	16.9	—	—	完全実測	No7
19	石器	磨・砥石	9.5	4.6	2.3	148.0	—	—	完全実測	No4

第49表 H29号野穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	量		法		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長径)	底径(短径)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	杯	(12.3)	5.5	3.4	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	No8
2	土師器	杯	(12.4)	—	<3.3>	—	ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土
3	土師器	杯	(14.2)	(10.8)	(4.8)	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土
4	土師器	杯	(14.8)	—	<5.0>	—	ミガキ	ミガキ	回転実測	覆土
5	土師器	杯	—	7.3	<1.8>	—	ケズリ	ケズリ	完全実測	No16
6	土師器	杯	—	(14.9)	(4.7)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転実測	No1
7	土師器	手甲土器	7.6	5.6	7.0	—	ナデ(バンガウ残存)	ケズリ	完全実測	No6
8	吹輪陶器	碗	—	(7.2)	<1.9>	—	備輪	回転ヘラケズリ	回転実測	覆土

第50表 H29号彫六建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土部位
			口徑(長)	底徑(短)		内面	外面		
9	土師器	鉢	20.1	18.9	6.1	ミガキ	ケズリ→ミガキ	完全灰刷	No4
10	土師器	甕	(12.4)	—	(7.5)	ナデ	ハケメ→ケズリ	陶彩灰刷	甕土
11	土師器	甕	13.2	5.0	10.7	ナデ→黒色処理	ケズリ	完全灰刷	No11
12	土師器	甕	14.1	5.6	11.3	ナデ	ケズリ→絶縁後穿孔	完全灰刷	No18
13	土師器	甕	(20.4)	—	(9.0)	ナデ	ケズリ	陶彩灰刷	No5
14	土師器	甕	20.5	6.6	38.0	ナデ	ケズリ	完全灰刷	No13、No14、No15
15	土師器	甕	—	(4.8)	(2.3)	ナデ	ナデ	陶彩灰刷・拓本	甕土
16	土師器	甕	—	6.3	(6.1)	ナデ	ケズリ	完全灰刷	甕土
17	土師器	甕	—	(7.0)	(5.2)	ナデ	ケズリ	陶彩灰刷	甕土
18	土師器	甕	10.9	—	8.4	ナデ	ケズリ	完全灰刷	No7
19	土師器	甕	18.4	7.0	21.1	ケズリ→ミガキ	ケズリ	完全灰刷	No2
20	土師器	甕	—	—	—	L[R2] 陶文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
21	陶文土器	甕	—	—	—	R[R2] 陶文、硃陶文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
22	土製品	紡錘車	(6.7)	(3.7)	(0.7)	ミガキ(一部赤彩)	ミガキ(一部赤彩)	完全灰刷	No11
23	鉄製品	不明	(3.3)	(0.6)	(2.83)	—	—	完全灰刷	甕土

第51表 H30号彫六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土部位
			口徑(長)	底徑(短)		内面	外面		
1	土師器	甕(近海系)	(14.9)	—	17.5	ナデ	ハケメ	完全灰刷	No2
2	土師器	甕	(17.7)	—	(22.9)	ミガキ	ミガキ、ケズリ	完全灰刷	No6、No7
3	土師器	甕	—	(8.2)	(11.3)	ナデ	ナデ	陶彩灰刷	No1
4	須恵器	甕	—	—	—	当具裏	叩目	陶彩灰刷・拓本	No3
5	赤生土器	甕	—	—	—	口内部中央、条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
6	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
7	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
8	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
9	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
10	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
11	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
12	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
13	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
14	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
15	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
16	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
17	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
18	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
19	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
20	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
21	赤生土器	甕	—	—	—	条痕文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
22	赤生土器	甕	—	—	—	L[R2] 陶文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
23	赤生土器	甕(後期)	—	—	—	陶彩灰刷文	—	陶彩灰刷・拓本	甕土
24	赤生土器	甕(中期)	—	—	—	初突文、柳描波状文	—	陶彩灰刷・拓本	No4

第52表 H31号墓穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	法			重量等	成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		内面	外面			
1	土師器	杯	12.4	12.9	4.1	ナデ	ケズリ	完全灰洲	No2		
2	土師器	杯	—	(5.4)	(3.1)	ロクロナデ	糸切	回転灰洲	カマド		
3	須恵器	杯	13.0	7.6	3.8	ロクロナデ	右回転糸切、重傷痕、自然腐付着	完全灰洲	覆土、H15カマド		
4	須恵器	杯	13.4	5.5	3.8	火押	右回転糸切	回転灰洲	覆土		
5	土師器	裏	(24.0)	—	(12.6)	ハケメ	ハケメ→ケズリ	回転灰洲	カマド		
6	土師器	裏	—	9.6	(4.0)	ミガキ	ケズリ	完全灰洲	No1		
7	赤生土器	裏	—	—	—	器面削落	糸削文	破片灰洲・拓本	床		
8	赤生土器	裏	—	—	—	糸削文	—	破片灰洲・拓本	床		
9	赤生土器	裏	—	—	—	糸削文	—	破片灰洲・拓本	床		
10	赤生土器	裏	—	—	—	糸削文	—	破片灰洲・拓本	床		
11	赤生土器	壺	—	—	—	ミガキ→赤彩	ミガキ→赤彩、口唇部に花線	破片灰洲・拓本	カマド		
12	赤生土器	壺	—	—	—	ミガキ→赤彩	—	破片灰洲・拓本	覆土		
13	赤生土器	壺	—	—	—	沈線文	—	破片灰洲・拓本	覆土		

第53表 H32号墓穴建物出土遺物総覧表(1)

No	器種	器形	法			重量等	成形・調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		内面	外面			
1	土師器	杯	12.4	12.9	3.7	ナデ	ケズリ	完全灰洲	No1、9		
2	土師器	杯	(12.6)	(13.6)	4.4	ナデ	ケズリ	回転灰洲	No6		
3	土師器	杯	12.9	13.5	4.5	黒色処理	ケズリ	完全灰洲	カマド		
4	土師器	有段口縁杯	15.0	11.8	4.9	ナデ	ケズリ	完全灰洲	No2、4		
5	土師器	杯	(15.6)	—	(3.6)	ミガキ→黒色処理	墨書「東」	回転灰洲	覆土		
6	土師器	杯	—	—	—	ロクロナデ	墨書「東」	回転灰洲	覆土		
7	土師器	碗	—	7.1	(2.2)	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全灰洲	覆土		
8	土師器	高杯	—	(4.1)	—	ナデ	ハケメ、ケズリ	完全灰洲	覆土		
9	須恵器	杯	(13.0)	6.3	3.9	ロクロナデ	墨書「完」	完全灰洲	No3		
10	須恵器	杯	10.8	—	3.9	ロクロナデ	天井部回転ヘラケズリ	完全灰洲	No8		
11	土師器	鉢	(13.0)	6.4	7.2	摩耗	完全灰洲	完全灰洲	覆土		
12	土師器	鉢	(4.4)	(7.5)	—	ミガキ	回転灰洲	回転灰洲	皿区		
13	土師器	裏	(4.2)	7.6	14.4	ナデ	ケズリ	完全灰洲	No10		
14	土師器	裏	(17.9)	—	(33.3)	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全灰洲	No7		
15	土師器	裏	21.6	—	(18.4)	ハケメ	ハケメ→ケズリ	完全灰洲	No5、N区、カマド		
16	土師器	裏	—	6.7	5.2	ナデ	ケズリ	完全灰洲	カマド		
17	土師器	裏	—	(7.0)	(9.0)	ナデ	ケズリ	回転灰洲	No6		
18	土師器	壺	(12.9)	—	(8.5)	ナデ	ケズリ	完全灰洲	No11		
19	土師器	裏	(22.2)	—	(7.0)	ケズリ→黒色処理	ナデ	完全灰洲	No12		
20	須恵器	裏	56.6	—	(16.5)	ケズリ→ミガキ	ナデ	回転灰洲	皿区、床		
21	須恵器	裏	—	(13.0)	(6.3)	ケズリ	平行目目	回転灰洲、H94-27之同一個体	覆土		
22	須恵器	裏	—	(7.4)	—	ロクロナデ	平行目目	回転灰洲	覆土		
23	須恵器	裏	—	—	—	ロクロナデ	平行目目	回転灰洲	覆土		
24	須恵器	裏	—	—	(10.4)	ロクロナデ	平行目目、波状文	回転灰洲	覆土		

第54表 H32号野六建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面		
25	石器	凹石	14.0	10.5	6.4	695.0	凹径φ2.5、凹深0.8	完全土洲	Ⅱ区
26	石器	磨石	7.2	6.9	3.8	220.0	正面、裏面に磨面	完全土洲	Ⅱ区
27	石器	磨石	9.5	6.9	6.8	320.0	正面、裏面に磨面	完全土洲	南床
28	石器	磨・砥石	18.8	7.0	5.3	980.0	下部に砥打痕、全体滑らか	完全土洲	南床

第55表 H33号野六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	12.8	—	5.3	—	暗文	完全土洲	カマド
2	土師器	壺	(8.0)	—	(4.3)	—	ミガキ	回転土洲	覆土
3	土師器	壺	(18.2)	—	(6.9)	—	ミガキ	回転土洲	覆土
4	土師器	甕	(23.3)	—	(9.0)	—	ミガキ	回転土洲	覆土
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片土洲・朽木	覆土
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	無文	破片土洲・朽木	覆土
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片土洲・朽木	覆土
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片土洲・朽木	覆土
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片土洲・朽木	覆土
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片土洲・朽木	覆土
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	破片土洲・朽木	覆土
12	弥生土器	甕	—	—	—	—	条痕文、H94.34と組合、H107.22も同一個体	完全土洲	覆土
13	石器	PSSQ	2.1	1.8	0.5	2.1	黒曜石	完全土洲	覆土
14	石器	扁卵石	14.2	7.1	4.0	560.0	—	完全土洲	覆土

第56表 H34号野六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	口ク口甕	—	—	—	—	口ク口ナデ	破片土洲・朽木	覆土
2	弥生土器	壺	—	—	—	—	ナデ	R(L2) 暗文、沈線文	覆土

第57表 H35号野六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	量			成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	—	(12.1)	(5.2)	—	暗文	回転土洲	S区
2	土師器	甕	(20.4)	—	(12.8)	—	ナデ	ケズリ	S区
3	土師器	甕	—	(10.8)	(2.0)	—	ハケメ	ケズリ	覆土
4	土製品	紡染車	5.0	2.3	2.8	57.0	ミガキ→黒色処理、孔φ0.6	完全土洲	No1

第58表 H36号野穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		重量等	内面		
1	土師器	坏	(14.2)	(7.5)	<4.0>	—	ミガキ	ミガキ、ケズリ	回転式測	床
2	土師器	坏	(16.6)	(12.2)	<4.7>	—	ミガキ	ミガキ	回転式測	覆土
3	須恵器	坏	(14.4)	—	<1.6>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転式測	IV区
4	土師器	裏	(12.6)	(10.6)	<1.09>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転式測	ペルト
5	土師器	裏	(24.0)	—	<7.7>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	覆土
6	土師器	裏	—	(6.0)	<34.2>	—	ハケメ	ケズリ、ハケメ	回転式測	No1, No2, IV区
7	土師器	前	—	—	(8.4)	—	ナデ、ミガキ	ハケメ→ミガキ→赤形、顔部へラ描沈線	回転式測	ペルト
8	石器	磨・轂石	21.9	6.8	5.8	1460.0	洞面部に轂打痕・磨面3(擦痕有り)	—	完全式測	覆土

第59表 H37号野穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		重量等	内面		
1	土師器	坏	(13.3)	—	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全式測	No1
2	土師器	坏	(14.0)	—	<4.9>	—	黒色処理	ケズリ	回転式測	覆土
3	須恵器	坏	(12.0)	(13.9)	<4.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ、回転へラケズリ、刻磨	回転式測	覆土
4	土師器	裏	(19.0)	—	<23.2>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	覆土、H115カマド、H117
5	土師器	裏	(12.8)	(6.8)	<12.5>	—	黒色処理	ケズリ	回転式測	カマド、H57.5、H106カマド
6	土師器	武蔵裏	22.0	(6.0)	(28.8)	—	ナデ	ケズリ	回転式測	カマド、H57.6と同一個体
7	土師器	裏	—	(6.7)	(5.8)	—	ナデ	ケズリ	回転式測	覆土
8	土師器	裏	—	(7.3)	(5.6)	—	ナデ→ハケメ	ケズリ	回転式測	覆土
9	土師器	裏	—	—	<11.0>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	覆土
10	土師器	前	(16.1)	—	<3.2>	—	ナデ→ミガキ	ナデ、ミガキ	回転式測	覆土
11	土師器	前	—	(7.4)	(5.1)	—	ハケメ	ケズリ、ミガキ	回転式測	No2
12	須恵器	裏	—	—	(5.4)	—	ナデ	回転へラケズリ	回転式測	カマド、H57.8
13	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
14	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
15	弥生土器	裏	—	—	—	—	沈線文	破片式測・拓本	覆土	覆土
16	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
17	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
18	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
19	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
20	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
21	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
22	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
23	弥生土器	裏	—	—	—	—	条痕文	破片式測・拓本	覆土	覆土
24	石製品	白玉	1.0	1.15	0.5	0.78	上(2) 黒赤単輪磨茶基、縦位沈線	—	完全式測	覆土
25	石器	磨・轂石	9.6	8.9	6.3	800.0	全面に磨り	—	完全式測	覆土

第60表 H38号野六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内 面	外 面		
1	土師器	杯	(13.1)	—	<5.0>	ミガキ	ミガキ	回転式割	No6
2	土師器	杯	(14.8)	—	<4.3>	ミガキ→赤彩	ケズリ、外面割釦	回転式割	覆土
3	土師器	杯	(15.3)	—	<5.9>	ミガキ	ケズリ	回転式割	覆土
4	土師器	杯	—	—	<3.2>	黒色処理	磨盤	破片式割	覆土
5	土師器	高杯	(20.8)	—	<5.7>	ミガキ	ミガキ	回転式割	覆土
6	土師器	高杯(脚)	—	(14.0)	<7.1>	ケズリ	ミガキ	完全式割	No4
7	須置器	鉢	13.7	6.1	4.0	—	火押、回転系切	完全式割	No1、H124 Ⅱ区
8	土師器	鉢	(13.5)	—	<14.5>	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転式割	No7
9	土師器	罎	(13.0)	—	<8.0>	ナデ	ケズリ	回転式割	覆土
10	土師器	罎	(13.0)	—	<13.1>	ナデ	ケズリ	完全式割	No25、No27、No29、30、34
11	土師器	罎	(13.0)	—	<11.8>	ナデ	ハナデ	完全式割	No10
12	土師器	罎	(14.4)	(7.3)	(13.7)	ナデ	ケズリ	回転式割	No8、No9
13	土師器	罎	(6.9)	—	<14.0>	ケズリ、ミガキ	ミガキ	回転式割	No13
14	土師器	罎	(15.7)	—	<11.1>	ナデ	ケズリ	完全式割	No5
15	土師器	罎	(20.0)	—	<5.6>	ナデ	ケズリ	回転式割	覆土
16	土師器	罎	—	(9.3)	<14.8>	ナデ	ケズリ	完全式割	No11
17	土師器	罎	(30.2)	(8.5)	(27.7)	ナデ	ミガキ	回転式割	YG 床
18	須置器	罎	—	(7.2)	<6.9>	ナデ	ケズリ	回転式割	No12
19	弥生土器	罎	—	—	—	—	柔直文	破片式割・拓本 床	—
20	弥生土器	罎	—	—	<7.4>	ナデ	代敷文	破片式割・拓本 覆土	—
21	弥生土器	罎	—	—	—	—	代敷文	破片式割・拓本 床	—
22	弥生土器	罎	—	—	—	—	—	破片式割・拓本 床	—
23	土製品	土鍋	—	—	—	—	—	完全式割	覆土
24	石器	編物石	17.9	6.1	3.7	680.0	—	完全式割	No17
25	石器	磨・穀石	13.1	10.6	5.6	1063.0	—	完全式割	No16

第61表 H39号野六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内 面	外 面		
1	土師器	高杯	—	—	<7.4>	ケズリ	ミガキ	完全式割	S 区
2	土師器	罎	(21.8)	—	<14.8>	ナデ	ケズリ	回転式割	No2、H55 床土
3	土師器	罎	—	(6.2)	<8.8>	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転式割	No1
4	土師器	罎	(9.0)	—	<3.6>	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	回転式割	S 区

第62表 H40号野六建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内 面	外 面		
1	土師器	杯	13.1	13.0	4.2	—	ミガキ→赤彩	完全式割	No1
2	土師器	杯	(14.6)	—	<3.6>	—	ミガキ	回転式割	覆土
3	土師器	鉢	(16.2)	—	<7.1>	—	ミガキ	回転式割	覆土
4	土師器	鉢	18.2	5.8	<32.4>	—	ケズリ→ミガキ	完全式割	覆土

第63表 H40号竪穴建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
5	土師器	壺	(21.2)	<26.0>	ミガキ→赤彩	ハケメ→ミガキ→赤彩	回転・表割	No3	
6	土師器	壺	—	<2.1>	ミガキ	ミガキ	完全・表割	覆土	
7	陶文土器	深鉢	—	—	早期閉口押型文	—	破片・表割・柘本	No2	
8	石器	使用痕のある剥片	7.9	4.9	48.0	—	破片・表割	覆土	

第64表 H41号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	(10.4)	(7.2)	<2.5>	ナデ	ケズリ	回転・表割	覆土
2	土師器	杯	(12.8)	—	<3.6>	ミガキ	ケズリ、ミガキ	回転・表割	覆土
3	土師器	杯	(13.3)	(11.0)	<3.5>	ナデ	ケズリ	回転・表割	覆土
4	土師器	壺	(22.7)	—	<8.5>	ハケメ	ハケメ、ミガキ	回転・表割	覆土

第65表 H42号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	(8.9)	4.3	3.5	ミガキ→黒色処理	ミガキ→黒色処理	完全・表割	I区
2	土師器	杵状杯	(12.3)	5.1	3.2	ロクロナデ	回転・糸切	完全・表割	No1
3	土師器	杯	(12.7)	6.9	3.3	ロクロナデ	黒磨、回転・糸切	完全・表割	覆土
4	土師器	裏	(18.9)	—	<10.9>	ナデ	ナデ	回転・表割	II区
5	土師器	裏	—	6.7	3.5	ナデ	ケズリ	完全・表割	II区
6	土師器	壺	—	—	<2.2>	ハケメ	ケズリ→ミガキ	破片・表割	I区
7	石器	台石	37.4	22.4	8.6	10000.0	底面敷1	完全・表割	覆土

第66表 H43号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	須臾器	有台杯	—	(10.0)	<1.7>	ロクロナデ	底面回転・ハラケズリ→付高台	回転・表割	II区
2	土師器	裏	19.2	10.4	27.1	ナデ	ケズリ	完全・表割	No5
3	土師器	裏	(21.0)	4.8	35.9	ナデ	ケズリ	完全・表割	No4
4	土師器	裏	—	4.1	<6.5>	ナデ	ケズリ、木炭痕	完全・表割・柘本	No5、I区
5	土師器	裏	—	—	<14.8>	ナデ	ケズリ	完全・表割	I区、カマド
6	土師器	部	(12.4)	—	<12.7>	ナデ	ケズリ	完全・表割	No3
7	石器	打製石斧	12.8	7.4	2.7	335.0	—	完全・表割	カマド
8	石製品	白玉	1.0	1.0	0.75	1.11	孔φ0.3	完全・表割	No1
9	石製品	白玉	1.0	1.15	0.8	1.08	孔φ0.35	完全・表割	No2

第 67 表 H44 号野六建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	口径(長)底径(短)脚高(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土部位
1	土師器	有段口縁杯	(12.0) (9.8)	(4.9)	—	ケズリ	回転式調	I区、H21W区
2	土師器	杯	(13.4)	(3.9)	—	ケズリ	回転式調	II区
3	土師器	杯	(13.6)	(2.0)	(3.0)	ミガキ→黒色処理	回転式調	I区
4	土師器	有段口縁杯	(14.0)	(1.4)	(4.6)	ナデ	回転式調	I区
5	土師器	有段口縁杯	(14.0)	(2.0)	(5.1)	ミガキ→赤彩の文様	完全式調	I区、T34
6	土師器	杯	(14.0)	(2.8)	(4.1)	ケズリ	完全式調	II区
7	土師器	有段口縁杯	(14.6)	(1.8)	(3.9)	ケズリ	回転式調	I区、IV区、SNベルト
8	土師器	有段口縁杯	(14.7)	(2.2)	(3.5)	—	回転式調	No2、II区
9	土師器	杯	(15.0)	(1.2)	(4.7)	—	回転式調	床
10	土師器	杯	(15.2)	(1.4)	(4.4)	ケズリ、ミガキ→黒色処理	回転式調	II区、15
11	土師器	杯	(15.3)	(3.3)	(3.3)	ケズリ、ミガキ	回転式調	II区
12	土師器	杯	(15.4)	(1.5)	(4.4)	ミガキ	回転式調	SNベルト
13	土師器	杯	(16.8)	(9.0)	(3.8)	ケズリ	完全式調	II区
14	土師器	杯	(17.9)	(1.8)	(6.7)	ミガキ→放射状暗文	完全式調	床、H21No5
15	土師器	杯	(19.0)	(1.2)	(4.1)	ケズリ	完全式調	No21
16	土師器	杯	—	(6.0)	(2.5)	回転糸切	回転式調	II区
17	土師器	碗	—	—	—	ケズリ	備付式調	—
18	土師器	碗	(8.0)	(3.7)	—	回転糸切→付高台	回転式調	床
19	土師器	高杯	—	14.4	(16.9)	ミガキ	完全式調	No23～25、床、礎土
20	土師器	高杯	—	—	(5.0)	ミガキ	完全式調	IV区、H63 1区
21	土師器	高杯	—	(8.8)	—	ミガキ	完全式調	No3
22	須恵器	杯	(15.0)	(9.6)	(4.1)	切り履し→ケズリ、火押	回転式調	I区
23	土師器	罍	(7.2)	(8.0)	(4.9)	ケズリ	回転式調	I区
24	土師器	罍	(23.0)	(5.4)	—	ミガキ	回転式調	II区
25	土師器	罍	—	(8.4)	(3.3)	ケズリ	完全式調	No12、H63床
26	土師器	罍	—	(8.6)	(5.4)	ケズリ、ミガキ	回転式調	II区、SNベルト
27	土師器	罍	(15.6)	(5.2)	—	ナデ	完全式調	SNベルト
28	土師器	罍	—	(7.0)	(2.3)	ケズリ、ナデ	完全式調	No6
29	土師器	罍	(17.8)	—	(13.1)	ケズリ→ミガキ、孔φ2.8	完全式調	No7、No9、II区
30	須恵器	罍	9.8	—	(9.8)	ヘラ描文様、下半部回転ヘラケズリ	完全式調	IV区、H63 1区
31	須恵器	罍	—	(6.0)	—	ナデ	回転式調	IV区
32	土製品	土器片円盤	3.8	3.9	0.7	11.0ミガキ	完全式調	I区
33	土製品	土器片円盤	4.1	4.0	1.3	18.0ナデ	完全式調	礎土
34	土製品	土器片円盤	4.3	4.2	1.0	23.0ハケメ	完全式調	No11
35	土製品	土器片円盤	6.6	6.8	0.8	35.0黒色処理	完全式調	I区
36	土製品	丸玉	1.8	1.9	1.9	5.34孔φ0.3～0.5、黒色処理	完全式調	礎土
37	石器	台石	(7.0)	13.2	5.3	107.20正面が使用面、磨蝕あり	完全式調	No14
38	石製品	白玉	(0.7)	0.8	(0.55)	(0.47)孔φ0.3、一部欠損	完全式調	カマド
39	石製品	白玉	(0.8)	0.8	(0.5)	(0.55)孔φ0.3、一部欠損	完全式調	カマド
40	石器	編物石	14.3	6.6	3.9	420.0端部に使用痕	完全式調	I区
41	石器	磨・殺石	5.0	3.9	2.6	64.3正面に擦面、端部に殺打痕	完全式調	礎土

第71表 H46号彫六建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等		
11	須臾器	罎	—	—	—	—	—	破片状態
12	石製品	罎白	18.0	18.9	(8.8)	2.95	乳φ 12.1, 二次加工, 裏面凹×3 平行叩目	完全状態 No1

第72表 H47号彫六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等		
1	土師器	杯	14.3	—	5.5	—	ケズリ	No15
2	土師器	杯	—	(7.0)	(1.0)	—	ケズリ, 朝昔	完全状態 No15
3	土師器	高杯	(12.6)	—	(4.4)	—	ミガキ	完全状態 No16, カマド, SN-ベルト
4	須臾器	鉢	10.1	6.0	3.6	—	回転ヘラ切り→底面周縁ケズリ	No12
5	土師器	鉢	—	—	(3.6)	—	ケズリ→ミガキ	完全状態 No11, No14
6	土師器	罎	(20.5)	—	(27.8)	—	ケズリ→ミガキ	No4, No14, No18, Ⅱ区, カマド, SN-ベルト
7	土師器	罎	(21.2)	—	(13.0)	—	ケズリ→ミガキ	回転状態 Ⅰ区, Ⅱ区, SN-ベルト
8	土師器	罎	22.1	—	(20.7)	—	ケズリ	No25, カマド
9	土師器	罎	(22.4)	—	(15.0)	—	ケズリ	完全状態 Ⅱ区, Ⅲ区, カマド, BW-ベルト
10	土師器	罎	23.5	—	(33.6)	—	ケズリ	完全状態 No6, Ⅰ区, Ⅱ区
11	土師器	罎	—	(5.4)	(29.6)	—	ケズリ	回転状態 No7, Ⅱ区, Ⅲ区, カマド
12	土師器	罎	—	—	(12.1)	—	ケズリ	カマド
13	土師器	罎	—	—	(19.0)	—	ケズリ	Ⅰ区, SN, BW-ベルト
14	土師器	罎	(18.0)	—	(17.5)	—	ケズリ→ミガキ	回転状態 No2, Ⅲ区, SN-ベルト
15	土師器	罎	(22.2)	—	(7.4)	—	ミガキ, ナデ	回転状態 No10
16	土師器	罎	—	(11.8)	(19.5)	—	ハケキ	カマド, SN-ベルト
17	須臾器	罎	—	—	(12.0)	—	平行叩目	回転状態 No9
18	石器	磨石	—	(8.8)	(4.0)	(59.0)	裏面欠損, 正面に斬面	完全状態 Ⅱ区

第73表 H48号彫六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	杯	(13.2)	(12.4)	(4.0)	—	ナデ	ケズリ	回転状態 Ⅳ区, Ⅴ区, Ⅵ区	
2	土師器	杯	(14.2)	(12.8)	4.8	—	ナデ	ケズリ	回転状態 No5	
3	土師器	杯	(14.8)	(10.0)	4.0	—	ミガキ	ケズリ	回転状態 Ⅲ区	
4	土師器	杯	(15.0)	(12.6)	4.3	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ, ミガキ	回転状態 Ⅰ区, Ⅳ区, Ⅴ区, Ⅵ区, Ⅶ区	
5	土師器	杯	(15.0)	(12.6)	4.3	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ, ケズリ	回転状態 トレンチWE, Ⅲ区	
6	土師器	杯	(15.6)	(8.8)	(3.2)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ, ケズリ	回転状態 トレンチWE, Ⅳ区	
7	土師器	杯	16.0	9.4	4.4	—	ミガキ	ミガキ	完全状態 No8, No9, Ⅲ区, Ⅵ区	
8	土師器	杯	(16.8)	(10.8)	3.8	—	磨耗	ミガキ, ケズリ	回転状態 Ⅲ区	
9	土師器	ミニチュア土器	2.5	4.0	2.4	—	ナデ	ナデ	完全状態 No11	
10	土師器	鉢	17.3	13.9	9.1	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ, ミガキ	完全状態 No3, No4, Ⅵ区	

第74表 H48号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
11	土師器	鉢	口径(長) 19.8	底径(短) 17.2	重量等 (6.2)	ミガキ	ケズリ、ミガキ	回転灰洲	トレンチWE、Ⅲ区
12	土師器	甕	口径(長) 14.0	底径(短) 6.5	—	ナデ	ケズリ	回転灰洲	Ⅳ区
13	土師器	甕	口径(長) 14.0	底径(短) 5.3	10.7	ナデ	ケズリ	完全灰洲	No6、No7
14	土師器	甕	口径(長) 17.4	底径(短) 12.0	—	ナデ	ケズリ	回転灰洲	Ⅰ区、Ⅱ区、床、トレンチNS、SN、ベルト
15	土師器	甕	口径(長) 5.0	底径(短) 12.6	—	ナデ	ケズリ	回転灰洲	Ⅰ区、Ⅳ区
16	土師器	甕	口径(長) 13.6	底径(短) 26.4	—	ミガキ	ケズリ、把手貼付	回転灰洲	Ⅲ区、Ⅳ区、床、トレンチWE
17	陶土器	把手	—	—	—	—	辻線、編文、後刷	破片灰洲	覆土

第75表 H49号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	口径(長) 14.8	底径(短) 9.8	3.8	ミガキ	ケズリ	回転灰洲	No12
2	須恵器	杯	口径(長) 13.0	底径(短) 7.0	4.1	ロクロナデ	動土発切	回転灰洲	Ⅲ区
3	須恵器	杯	口径(長) 13.4	底径(短) 2.5	—	ロクロナデ	ケズリ	回転灰洲	カマド
4	須恵器	杯	口径(長) 14.4	底径(短) 6.9	4.1	ロクロナデ	回転ヘラ切り、刷書	完全灰洲・拓本	No7
5	須恵器	杯	口径(長) 14.5	底径(短) 7.5	4.1	ロクロナデ	回転灰切	完全灰洲	No3
6	須恵器	杯	口径(長) 6.0	底径(短) 2.8	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転灰洲	Ⅲ区、EWベルト
7	須恵器	有台杯	口径(長) 12.0	底径(短) 4.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転灰洲	床
8	須恵器	甕	口径(長) 21.4	底径(短) 8.8	5.2	ナデ	刷書	回転灰洲	No3
9	土師器	甕	口径(長) 8.8	底径(短) 3.5	—	ミガキ	ケズリ	完全灰洲	No5、Ⅱ区
10	須恵器	甕	口径(長) 21.4	底径(短) 6.3	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全灰洲	覆土
11	須恵器	甕	口径(長) 21.4	底径(短) 20.7	—	ハケズ、ナデ	平日	完全灰洲	No6
12	須恵器	甕	口径(長) 21.4	底径(短) 20.7	—	ハケズ、ナデ	平日	完全灰洲	No1、Ⅲ区、Ⅱ区、カマド
13	須恵器	甕	口径(長) 21.4	底径(短) 20.7	—	ハケズ、ナデ	刷書	完全灰洲	No1、Ⅲ区、Ⅱ区、カマド
14	須恵器	甕	口径(長) 21.4	底径(短) 20.7	—	ハケズ、ナデ	刷書	完全灰洲	No1、Ⅲ区、Ⅱ区、カマド
15	須恵器	甕	口径(長) 21.4	底径(短) 20.7	—	ハケズ、ナデ	刷書	完全灰洲	No1、Ⅲ区、Ⅱ区、カマド
16	土師器	土器片団盤	口径(長) 3.7	底径(短) 3.1	0.4	5.3	青海成文	破片灰洲・拓本	Ⅲ区
17	鉄器	刀子	口径(長) 5.1	底径(短) 0.3	3.56	両面欠損	平日	破片灰洲・拓本	Ⅳ区
18	鉄器	刀子	口径(長) 3.2	底径(短) 0.4	3.80	両面欠損	平日	破片灰洲・拓本	Ⅰ区
19	鉄器	長円鏝	口径(長) 3.7	底径(短) 0.7	1.89	両面欠損	刷書	完全灰洲	Ⅳ区

第76表 H50号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	口径(長) 15.6	底径(短) 10.0	4.6	—	ケズリ	回転灰洲	床、カマド、Y7サブトレ
2	土師器	杯	口径(長) 15.6	底径(短) 7.1	5.4	—	ミガキ、ケズリ	完全灰洲	覆土
3	土師器	杯	口径(長) 17.0	底径(短) 2.8	—	放物陶文	ケズリ	回転灰洲	床
4	須恵器	杯	口径(長) 14.4	底径(短) 8.6	4.0	ナデ	回転ヘラ切り	回転灰洲	床、カマド
5	須恵器	有台杯	口径(長) 12.2	底径(短) 3.2	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転灰洲	覆土
6	須恵器	杯蓋	口径(長) 14.4	底径(短) 1.7	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→つまみ貼付	回転灰洲	覆土
7	土師器	小型甕	口径(長) 9.4	底径(短) 3.8	—	ナデ	体部ケズリ	回転灰洲	カマド

第77表 H50号彫六建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量		内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	高さ(厚)					
8	土師器	小型罎	(9.6)	—	ナデ	ナデ	回転状調	カマド	
9	土師器	口ケロナデ	(17.4)	(6.4)	口ケロナデ	口ケロナデ	回転状調	覆土	
10	土師器	口ケロナデ	(22.6)	(16.0)	ナデ	ケズリ	回転状調	覆土	
11	土師器	武蔵罎	—	(4.5)	ナデ	ケズリ	完全状調	覆土	
12	土師器	罎	(32.0)	(7.0)	ミガキ半→黒色処理	ミガキ半	回転状調	覆土	
11	土師器	罎	(24.5)	—	ナデ	ケズリ	回転状調	覆土	
13	須恵器	罎	—	—	当具痕→ナデ	罎目	破片状調・拓本	覆土	
14	石器	砥石	9.6	5.0	3.5	257.5	底面磨6、正面、右側、裏面に各痕	完全状調	覆土
15	石器	敷石	19.5	9.3	6.0	1691.0	端部に縦打痕、全体に滑らか(磨りか不明)	完全状調	覆土
16	石器	剥片	3.6	2.0	0.9	4.7	加工痕、使用痕なし	完全状調	覆土

第78表 H51号彫六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量		内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	高さ(厚)					
1	土師器	畿内系陶文杯	(15.0)	(13.6)	(4.8)	—	ケズリ	回転状調	No2
2	土師器	畿内系陶文杯	(16.0)	(10.0)	(4.7)	—	ケズリ	回転状調	No4, I区床
3	土師器	杯	(18.0)	(5.6)	(5.4)	—	ミガキ	完全状調	No5, カマド, EWベルト
4	須恵器	杯	12.9	7.8	3.0	—	口ケロナデ	完全状調	No10
5	須恵器	杯	(14.0)	7.7	(5.0)	—	ナデ	完全状調	SNベルト、H8皿区
6	土師器	武蔵罎	(15.4)	—	(8.3)	—	ケズリ	回転状調	I区床、カマド
7	土師器	武蔵罎	(24.4)	—	(10.5)	—	ケズリ	回転状調	No1, I区、カマド
8	須恵器	罎	—	(7.8)	(11.7)	—	ナデ	回転状調	No3, No12, II区、カマド
9	須恵器	罎	—	(12.6)	(5.0)	—	ナデ	回転状調	No8
10	須恵器	罎	—	—	—	—	ナデ	破片状調	カマド
11	須恵器	罎	—	—	(4.0)	—	ナデ	回転状調	SNベルト
12	鉄器	刀子	(4.5)	(1.0)	(0.4)	(5.13)	頭部へラ直線文	完全状調	I区

第79表 H52号彫六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	量		内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	高さ(厚)					
1	土師器	杯	(13.6)	(5.4)	—	口ケロナデ	回転状調	No1	
2	土師器	環蓋	(7.0)	(2.3)	—	ナデ	回転状調	I区	
3	須恵器	杯	(13.4)	(8.0)	5.0	—	口ケロナデ	回転状調	I区, II区
4	須恵器	杯	13.6	9.2	3.6	—	火漕	完全状調	No5
5	須恵器	杯	14.2	7.4	3.7	—	火漕	完全状調	No9
6	須恵器	杯	(14.4)	(8.0)	4.4	—	底部→周縁へケズリ、火漕	完全状調	No3
7	須恵器	有台杯	13.8	9.3	4.5	—	口ケロナデ	完全状調	No4
8	土師器	罎	(18.2)	—	(4.8)	—	ケズリ	回転状調	床
9	土師器	罎	(20.4)	—	(7.9)	—	ケズリ	回転状調	II区、床
10	土師器	罎	(22.0)	—	(8.0)	—	ケズリ	回転状調	No2, III区、IV区、床
11	土師器	罎	(22.0)	—	(10.7)	—	ケズリ	回転状調	床、カマド

第80表 H52号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
12	土師器	罍	(250)	—	(7.1)	ナデ	ケズリ	回転・表割	Ⅱ区
13	土師器	罍	—	(4.0)	(4.8)	ナデ	ケズリ	回転・表割	Ⅱ区
14	土師器	罍	—	4.9	(2.6)	ナデ	ケズリ	完全表割	Ⅱ区
15	須恵器	罍	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片表割・拓本	カマド
16	土製品	土割片円盤	—	3.6	3.9	16.0	ナデ	完全表割	No13
17	土製品	丸玉	0.9	0.8	0.8	<0.53>・孔φ0.1、一部欠損、ナデ	—	完全表割	No11
18	土製品	丸玉	0.9	0.85	<0.7>	孔φ0.1、一部欠損、ナデ	—	完全表割	No11
19	石製品	砥石	<4.3>	<2.0>	<1.7>	<18.29>上部欠損、砥面5、上部に凹形の使用痕	—	完全表割	ベルト

第81表 H53号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	(12.2)	—	(3.0)	放母状叩文	回転糸切	回転・表割	Ⅱ区
2	土師器	有段口縁杯	(14.2)	(11.2)	<4.6>	ナデ	ケズリ	回転・表割	覆土
3	須恵器	杯	(13.2)	(7.8)	3.5	火漣	火漣、ヘラ切り	完全表割	No2
4	須恵器	杯	(13.4)	5.2	3.6	ロクロナデ	ヘラケズリ→付高台	完全表割	No4
5	須恵器	有台杯	(13.6)	(9.2)	3.9	ロクロナデ	ケズリ	回転・表割	No5
6	土師器	武蔵罍	(14.6)	—	(6.1)	ナデ	ケズリ	回転・表割	カマド
7	土師器	武蔵罍	(26.4)	—	<18.9>	ナデ	ケズリ	回転・表割	Ⅱ区、Ⅳ区
8	土師器	武蔵罍	—	(5.2)	<4.2>	ナデ	ケズリ	回転・表割	カマド
9	須恵器	罍	(24.0)	—	(6.5)	ナデ	ナデ	回転・表割	Ⅳ区
10	須恵器	罍	—	—	—	当具痕→ナデ	平行叩目	破片表割・拓本	No3
11	縄文土器	漆鉢	—	—	—	穴縁、編文	—	回転・表割	Ⅱ区
12	鉄器	刀子	<6.5>	<1.1>	<0.3>	<4.99>向面欠損	—	完全表割	Ⅰ区

第82表 H54号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	口径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	(10.8)	(7.6)	3.1	叩文(段状・螺旋)	ケズリ	回転・表割	Ⅱ区
2	土師器	杯	(14.5)	(10.2)	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ	回転・表割	覆土
3	土師器	杯	(14.6)	—	<4.4>	ミカギキ→黒色処理	ケズリ	回転・表割	Ⅱ区、Ⅲ区
4	土師器	杯	—	—	—	黒書	—	破片表割	Ⅱ区
5	須恵器	杯	(12.8)	(8.6)	4.4	ロクロナデ	回転・ヘラケズリ	回転・表割	Ⅱ区
6	須恵器	杯	(13.0)	(6.8)	4.7	ロクロナデ	回転・ヘラ切り→ヘラケズリ	回転・表割	Ⅱ区
7	須恵器	杯	(13.0)	(8.0)	(3.7)	—	回転・ヘラ切り、火漣	回転・表割	カマド
8	須恵器	杯	(13.6)	7.5	3.9	ロクロナデ	回転・ヘラ切り→ナデ	完全表割	Ⅱ区
9	須恵器	杯	(14.4)	(8.4)	4.3	火漣	ヘラケズリ、火漣	回転・表割	Ⅱ区
10	須恵器	杯	(15.0)	(6.6)	3.9	ロクロナデ	回転・ヘラ切り	回転・表割	Ⅱ区
11	須恵器	杯	(15.0)	(6.8)	<4.2>	ロクロナデ	回転・ヘラ切り	回転・表割	Ⅱ区
12	須恵器	杯	—	(8.0)	<2.4>	ロクロナデ	回転・ヘラ切り→付高台	回転・表割	Ⅱ区、Ⅲ区
13	須恵器	有台杯	(9.6)	(6.0)	3.4	ロクロナデ	付高台	回転・表割	Ⅱ区

第 83 表 H54 号野六建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法		量		成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考		
14	須臾器	有台杯	(10.2)	(7.0)	5.1	—	ロクロナデ	付高台、自然偏	回転式割	庄	
15	須臾器	有台杯	(14.6)	(10.0)	3.9	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り→付高台	回転式割	S区	
16	須臾器	杯蓋	(12.0)	(6.0)	2.8	—	ロクロナデ	回転ヘラナデナリ→つまみ取付	回転式割	II区	
17	須臾器	杯蓋	(14.6)	—	(2.5)	—	ロクロナデ	回転ヘラナデナリ	回転式割	床	
18	須臾器	杯蓋	(15.4)	—	(3.1)	—	ロクロナデ	ケズリ	回転式割	床、S区、床	
19	土師器	甕	(13.2)	—	(5.6)	—	ナデ	ケズリ	回転式割	床	
20	土師器	甕	(13.8)	—	(4.1)	—	ナデ	ケズリ	回転式割	N区、床	
21	土師器	甕	(15.0)	—	(4.7)	—	ナデ	底部→樹棘ヘラケズリ	回転式割	N区、床	
22	土師器	ロクロ口甕	(17.8)	—	(8.8)	—	ロクロナデ	ケズリ	回転式割	床	
23	土師器	甕	(18.0)	—	(9.7)	—	ナデ	ケズリ	回転式割	カマド	
24	土師器	甕	(21.0)	—	(11.3)	—	ナデ	ケズリ	回転式割	No3、II区、床	
25	土師器	甕	(21.2)	—	(16.7)	—	ナデ	ケズリ	回転式割	No3、床	
26	土師器	甕	(23.1)	—	(30.3)	—	ミガキ	ミガキ	回転式割	N区、S区、H109	
27	土師器	甕	(24.0)	—	(8.5)	—	ナデ	ケズリ	回転式割	No15、カマド	
28	須臾器	甕	(25.4)	—	(12.1)	—	ナデ	ケズリ	回転式割	No2、No4、No10	
29	須臾器	甕	(25.6)	—	(6.2)	—	当具線→ナデ	平行目目	回転式割	No7、II区、床	
30	須臾器	甕	(27.0)	—	(6.6)	—	ロクロナデ	ハケム	回転式割	No2	
31	須臾器	甕	(27.6)	—	(11.7)	—	同心円文当具線	平行目目	回転式割	No2、S区、床	
32	須臾器	甕	—	(10.0)	(6.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転式割	S区	
33	須臾器	甕	(26.6)	—	(6.8)	—	ナデ	ナデ	回転式割	N区	
34	弥生土器	甕	—	—	—	—	沈線文、条線文、赤彩	—	破片瓦割・石本	N区	
35	弥生土器	甕	—	—	—	—	条線文	—	破片瓦割・石本	II区	
36	弥生土器	甕	—	—	—	—	条線文	—	破片瓦割・石本	床	
37	石製品	砥石	(7.8)	(5.3)	(4.5)	(235.5)	上部欠損、砥面数5、正面に櫛状の使用痕、右側に条痕顯著	完全式割	覆土		
38	石器	PSSQ	3.3	2.7	1.6	7.1	上面からの跡磨痕	完全式割	II区		
39	石器	二次加工のある剥片	(2.4)	(1.9)	(0.5)	(2.1)	下部欠損、側切に二次加工痕	完全式割	S区		
40	石器	刀子	(4.4)	(1.3)	(0.4)	(6.8)	下部の劣残存	完全式割	N区		
41	鉄器	刀子	(6.2)	(1.1)	(0.4)	(5.6)	両端欠損	完全式割	床		
42	鉄器	匙形鍔	(10.5)	(0.8)	(0.5)	(11.3)	基部欠損	完全式割	床		
43	鉄製品	不明	(9.0)	(0.8)	(0.5)	(12.6)	両端欠損、折れ曲がる	完全式割	N区		

第 84 表 H 55 号野六建物出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法		量		成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考		
1	土師器	杯	(11.8)	—	6.2	3.6	ロクロナデ	回転糸切	完全式割	I区	
2	土師器	杯	(11.8)	(6.5)	4.9	—	ロクロナデ	回転糸切	回転式割	I区	
3	土師器	杯	(12.0)	—	(3.2)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転式割	I区	
4	土師器	杯	(12.4)	6.4	3.8	—	ロクロナデ	回転糸切	完全式割	I区	
5	土師器	杯	—	5.9	(2.2)	—	ロクロナデ	回転糸切	完全式割	I区	
6	土師器	杯	—	6.2	(3.2)	—	ロクロナデ	回転糸切	完全式割	I区	
7	須臾器	杯	(14.5)	(8.6)	(4.5)	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転式割	III区	
8	須臾器	杯	(14.6)	(8.4)	(4.0)	—	ロクロナデ	回転ヘラ切り	回転式割	No3	

第85表 H55号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法	量	成形・調整		備考	出土層位
					内面	外面		
9	須臾器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(6.0) (2.2)	—	—	—	—
10	須臾器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(7.6) (1.9)	—	—	—	—
11	須臾器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	7.7 (1.3)	—	—	—	—
12	須臾器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	8.0 (2.0)	—	—	—	—
13	須臾器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	9.2 (1.9)	—	—	—	—
14	須臾器	有台坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(16.9) (10.6) 6.4	—	—	—	—
15	須臾器	坏蓋	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (3.2)	—	—	—	—
16	土師器	武藏饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	(10.7) — (4.9)	—	—	—	—
17	土師器	武藏饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	(13.0) — (4.9)	—	—	—	—
18	土師器	武藏饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	(25.0) — (7.3)	—	—	—	—
19	土師器	饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	(35.4) — (12.3)	—	—	—	—
20	須臾器	饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	(36.4) — (7.1)	—	—	—	—
21	須臾器	砥石	口径(長)底径(短)器高(厚)	(13.3) (6.1)	<461.0>	底面2、正面には糖上の環痕。	—	—

第86表 H56号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	成形・調整		備考	出土層位
					内面	外面		
1	須臾器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(7.4) (1.4)	—	—	—	—
2	土師器	武藏饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	(20.0) — (5.2)	—	—	—	—

第87表 H57号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	成形・調整		備考	出土層位
					内面	外面		
1	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(7.0) (4.8) (3.9)	—	—	—	—
2	土師器	藏内系陶文坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	13.7 9.1 3.4	—	—	—	—
3	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(4.2) — (4.5)	—	—	—	—
4	須臾器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(13.4) 9.4 (4.4)	—	—	—	—
5	土師器	饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	(12.8) (6.8) (12.1)	—	—	—	—
6	土師器	武藏饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	22.0 (6.0) (28.8)	—	—	—	—
7	土師器	武藏饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	22.0 — (6.4)	—	—	—	—
8	須臾器	饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	— — (3.4)	—	—	—	—
9	須臾器	饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	— — (3.4)	—	—	—	—

第88表 H58号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	成形・調整		備考	出土層位
					内面	外面		
1	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(13.0) (5.6) 3.6	—	—	—	—
2	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	(15.4) (10.2) (3.7)	—	—	—	—
3	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (10.3) (1.8)	—	—	—	—
4	須臾器	饗	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (5.8) (4.6)	—	—	—	—
5	土師器	罎	口径(長)底径(短)器高(厚)	— — (2.4)	—	—	—	—

第89表 H59号彫六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成 形 調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	杯	(13.8)	(6.8)	5.0	—	—	—	—	—
2	土師器	杯	(15.3)	9.3	4.9	—	—	—	—	—
3	土師器	杯	—	(6.2)	(1.3)	—	—	—	—	—
4	土師器	杯	—	(6.4)	(2.2)	—	—	—	—	—
5	土師器	杯	—	(7.4)	(1.4)	—	—	—	—	—
6	土師器	高杯	—	(8.4)	(1.9)	—	—	—	—	—
7	須恵器	杯	12.7	5.7	4.2	—	—	—	—	—
8	須恵器	杯	(14.0)	—	(2.2)	—	—	—	—	—
9	須恵器	杯	—	(6.8)	(2.5)	—	—	—	—	—
10	土師器	武蔵罍	(23.8)	—	(8.0)	—	—	—	—	—
11	土師器	武蔵罍	(24.6)	—	(10.5)	—	—	—	—	—
12	土師器	武蔵罍	(24.8)	—	(5.2)	—	—	—	—	—
13	土師器	武蔵罍	(25.2)	—	(12.0)	—	—	—	—	—
14	須恵器	罍	—	(10.8)	(8.3)	—	—	—	—	—
15	石製品	砥石	3.8	3.2	1.8	—	—	—	—	—
16	石製品	磐石製品	7.3	5.7	3.1	—	—	—	—	—
17	鉄製品	角軸?	13.2	0.5	0.5	—	—	—	—	—

第90表 H60号彫六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成 形 調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	畿内系陶文杯	(12.8)	(7.6)	3.7	—	—	—	—	—
2	須恵器	杯	(13.9)	6.5	4.4	—	—	—	—	—
3	須恵器	杯	(14.4)	(8.0)	3.8	—	—	—	—	—
4	土師器	鉢	(13.2)	—	(7.0)	—	—	—	—	—
5	土師器	武蔵罍	(22.2)	—	(11.6)	—	—	—	—	—
6	土師器	武蔵罍	22.3	—	(28.5)	—	—	—	—	—
7	土師器	武蔵罍	(22.6)	—	(6.2)	—	—	—	—	—
8	土師器	武蔵罍	22.7	—	(9.7)	—	—	—	—	—
9	土師器	武蔵罍	(23.4)	—	(14.2)	—	—	—	—	—
10	土師器	武蔵罍	(26.0)	—	(15.0)	—	—	—	—	—
11	須恵器	罍	(18.6)	—	7.7	—	—	—	—	—
12	須恵器	罍	—	—	—	—	—	—	—	—
13	石器	扁形石	11.4	5.8	3.8	—	—	—	—	—
14	石器	扁形石	12.6	4.4	3.1	—	—	—	—	—
15	鉄器	刀子	(8.9)	1.2	(0.25)	—	—	—	—	—

第91表 H61号彫六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成 形 調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内 面	外 面		
1	土師器	畿内系陶文杯	(14.0)	(13.0)	(3.0)	—	—	—	—	—
2	土師器	畿内系陶文杯	14.5	8.5	4.3	—	—	—	—	—

第92表 H61号野穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量			内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	器底(厚)					
3	土師器	畿内系陶文杯	(16.0)	(15.2)	(3.1)	螺旋陶文	ケズリ	回転・灰洲	II区、IV区	
4	土師器	畿内系陶文杯	(16.0)	—	(3.7)	ミガキ	ナデ	回転・灰洲	II区	
5	土師器	畿内系陶文杯	—	9.3	(2.4)	螺旋陶文	ケズリ	完全灰洲	II区	
6	土師器	杯	(13.4)	(7.4)	4.2	ロクロナデ	回転・ヘラ切り	回転・灰洲	III区	
7	須恵器	杯	(13.6)	(8.8)	4.2	ロクロナデ	回転・ヘラ切り	回転・灰洲	III区	
8	須恵器	杯	(14.8)	7.9	5.6	ロクロナデ	回転・ヘラ切り	完全灰洲	IV区	
9	土師器	口ワロ裏	—	(4.8)	(9.5)	ナデ	底部～周縁ケズリ	回転・灰洲	I区、III区	
10	土師器	武藏裏	—	(5.6)	(2.7)	ロクロナデ	ケズリ	回転・灰洲	IV区	
11	土師器	武藏裏	—	—	—	ナデ	ナデ	破片・灰洲	覆土	
12	須恵器	裏	—	—	—	当具痕→ナデ	平行目目	破片・灰洲、柁本1区	覆土	
13	須恵器	裏	—	—	—	当具痕→ナデ	平行目目	破片・灰洲、柁本1区	覆土	
14	須恵器	裏	—	—	—	当具痕→ナデ	平行目目	破片・灰洲、柁本No2	覆土	
15	須恵器	横底	—	—	—	当具痕→ナデ	平行目目	破片・灰洲、柁本No3	覆土	
16	石器	砥石	(9.1)	<3.1>	<178.0>	上部欠損、砥面4、正面に条痕、正裏と下側にに織打	平行目目	完全灰洲	No7	
17	石器	台石	41.4	23.9	17.3	22600.0 正面の短側面、磨蝕あり	—	完全灰洲	No8	
18	鉄器	刀子	(8.1)	1.2	0.4	<5.61> 刃部欠損	—	完全灰洲	No6	

第93表 H62号野穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量			内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	器底(厚)					
1	土師器	杯	—	—	—	放埴陶文	ケズリ	破片・灰洲、柁本1区	—	
2	土師器	杯	14.3	10.2	4.3	ナデ	回転・ヘラケズリ、朝書「×」	完全灰洲、柁本No2、II区	—	
3	須恵器	杯	(15.6)	—	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転・灰洲	III区	
4	須恵器	杯蓋	(18.6)	—	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転・灰洲	III区	
5	土師器	武藏裏	(12.8)	6.8	<14.4>	ナデ	ケズリ	回転・灰洲	I区、カマド	
6	土師器	武藏裏	(19.6)	—	(8.5)	ナデ	ケズリ	回転・灰洲	No5、No7、カマド	
7	土師器	武藏裏	—	6.1	<11.4>	ナデ	ケズリ	完全灰洲	No1	
8	須恵器	裏	—	—	—	当具痕→ナデ	平行目目	破片・灰洲、柁本1区	—	
9	弥生土器	裏	—	—	—	条痕文、朝目	—	破片・灰洲、柁本EWベルト	—	
10	石器	砥石	(9.3)	(8.4)	<3.1>	<331.0> 上部欠損、砥面4、左側に条痕	—	完全灰洲	No3	
11	鉄器	刀子	(4.4)	(0.95)	(0.3)	<2.4> 両面欠損	—	完全灰洲	No4	

第94表 H63号野穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	量			内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	器底(厚)					
1	土師器	杯	(13.8)	(12.0)	(3.5)	ミガキ	ケズリ	回転・灰洲	SNベルト	
2	土師器	有段口縁杯	(14.2)	(11.2)	(4.0)	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転・灰洲	I区、H44 IV区	
3	土師器	有段口縁杯	(14.4)	(13.0)	(3.6)	ミガキ→黒色処理	ケズリ→黒色処理	回転・灰洲	覆土、H44 III区	
4	土師器	畿内系陶文杯	—	(7.9)	<1.3>	螺旋陶文	底部～周縁ヘラケズリ	回転・灰洲	I区	
5	須恵器	杯	(12.8)	(14.8)	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転・灰洲	覆土	
6	須恵器	杯	(14.0)	—	<3.9>	火押	底部～周縁ヘラケズリ、火押	回転・灰洲	I区	
7	須恵器	杯	14.1	8.8	3.6	火押	回転・ヘラ切り、火押	完全灰洲	覆土、H44 I区	

第95表 H63号彫六建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	量		内面	成形調整		備考	出土単位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		重量等	外面		
8	須臾器	杯	(15.0)	(3.9)	—	火漉	回転ヘラ切り、火漉	回転表割	I区
9	須臾器	高杯	—	(5.1)	—	紋リ	ヘラ描比線、胴部スリット有	回転表割	II区
10	土師器	武蔵罍	(20.4)	—	ナデ	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド
11	土師器	武蔵罍	(19.0)	—	ナデ	ナデ	ケズリ	回転表割	I区、III区、IV区、カマド
12	土師器	武蔵罍	(17.4)	—	ナデ	ナデ	ケズリ	回転表割	I区、III区、カマド
13	土師器	武蔵罍	(21.6)	(3.4)	(25.5)	ナデ	ケズリ	回転表割	II区、カマド、SNベシト
14	土師器	罍	—	—	ナデ	ナデ	ケズリ、刻書	破片表割・拵木	IV区
15	土師器	罍	—	(6.0)	(3.2)	ミガキ	ケズリ、孔φ(5.4)	回転表割	覆土
16	土師器	罍	(22.6)	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	拵木 覆土
17	須臾器	罍	—	—	—	ナデ	平行叩目	破片表割・拵木 覆土	II区
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	縄文→ヘラ描比線	完全表割	覆土
19	土製品	土器片円盤	4.7	4.2	0.7	17.2ナデ	ナデ	完全表割	覆土
20	石器	台石	29.3	27.4	10.3	1530.0	使用面1、擦痕残る	完全表割	覆土
21	石器	円石	7.2	5.5	5.2	102.6	凹φ2.9、凹深0.7、正面一部欠損	完全表割	覆土
22	石器	磨石	(4.0)	(2.8)	(0.6)	(11.0)	片割欠損、正裏に摺り面	完全表割	I区

第96表 H64号彫六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	量		内面	成形調整		備考	出土単位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		重量等	外面		
1	土師器	杯	(13.0)	—	<3.3>	—	ケズリ	回転表割	覆土
2	土師器	碗	(14.9)	7.0	5.2	—	ケズリ→付高台	完全表割	覆土、H134-18同一個体
3	須臾器	杯	(12.0)	—	(2.9)	—	ロクロナデ	回転表割	覆土
4	須臾器	杯	(13.1)	7.4	4.9	—	回転ヘラ切り→刻書	完全表割・拵木	No2
5	須臾器	杯	—	6.0	(2.6)	—	ロクロナデ	回転表割	No2
6	須臾器	杯	—	8.0	(1.0)	—	回転ヘラ切り→ケズリ	完全表割	カマド
7	須臾器	有台杯	13.2	9.4	3.9	—	ヘラ切り→ケズリ→付高台	完全表割	No4
8	土師器	罍	(17.7)	—	(7.2)	—	ナデ	回転表割	覆土
9	土師器	武蔵罍	—	5.8	(4.7)	—	ケズリ	回転表割	II区
10	弥生土器	罍	—	—	—	—	縄文	破片表割・拵木 覆土	II区

第97表 H66号彫六建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	量		内面	成形調整		備考	出土単位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)		重量等	外面		
1	土師器	杯	(11.4)	(4.9)	3.2	—	ナデ	回転表割	覆土
2	土師器	杯	(11.7)	5.1	3.5	—	ロクロナデ	完全表割	No1
3	土師器	杯	12.5	4.9	3.9	—	暗文→黒色処理	完全表割	No1
4	土師器	杯	(12.5)	6.6	(3.4)	—	黒色処理	完全表割	No1
5	土師器	杯	(12.6)	5.0	3.9	—	ロクロナデ	完全表割	No1
6	土師器	杯	(12.6)	(5.5)	(3.7)	—	ロクロナデ	完全表割	No1
7	土師器	碗	14.7	7.2	5.5	—	回転表割→付高台	完全表割	No2
8	土師器	碗	—	(6.9)	(3.5)	—	回転表割→付高台	完全表割	No3

第99表 H66号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	口径(長)底径(短)器高(厚)重量等	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
9	土師器	鉢	20.5) — (12.0)	ナデ、ミガキ	ロクロナデ、ケズリ	ロクロナデ、ケズリ	完全表割	覆土
10	土師器	ロクロ口裏	24.2) — (10.1)	ナデ	ナデ	ロクロナデ、ケズリ	完全表割	No1、カマド
11	須恵器	壺	— —	—	乾用筒?、当具直→ナデ	平行四角	破片表割、粘土	No4

第99表 H67号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(長)底径(短)器高(厚)重量等	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	杯	12.2) (5.6)	ロクロナデ	—	—	—	No1
2	須恵器	杯蓋	— (2.0)	火押	—	—	—	No2
3	土師器	武蔵罍	11.0) — (4.9)	ナデ	—	—	—	カマド
4	土師器	ロクロ口裏	13.4) — (5.5)	ナデ	—	—	—	カマド
5	土師器	武蔵罍	14.0) — (12.1)	ナデ	—	—	—	床、カマド
6	土師器	武蔵罍	19.4) — (13.7)	ナデ	—	—	—	床直、カマド
7	土師器	武蔵罍	— (7.0)	ナデ	—	—	—	No3、床直
9	須恵器	壺	— (3.1)	ロクロナデ	—	—	—	床直

第100表 H68号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(長)底径(短)器高(厚)重量等	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	碗	— 7.5) (2.9)	—	—	—	—	No1
2	須恵器	罍	— —	ミガキ→黒色処理	—	—	—	破片表割、粘土
3	須恵器	壺	— (4.1)	—	—	—	—	覆土
4	鉄製品	釵	<6.2> <0.6>	ロクロナデ	—	—	—	No2

第101表 H69号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(長)底径(短)器高(厚)重量等	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	杯	11.9) 4.3) 3.8)	ロクロナデ→黒色処理	—	—	—	No10
2	土師器	杯	11.9) 5.0) 3.5)	ロクロナデ	—	—	—	No1、I区、カマド
3	土師器	杯	11.9) 5.5) 4.3)	ロクロナデ	—	—	—	No6
4	土師器	杯	12.0) 6.0) 3.2)	ロクロナデ	—	—	—	No3
5	土師器	杯	12.2) — (3.4)	ロクロナデ	—	—	—	IV区
6	土師器	杯	12.8) 6.1) 3.6)	暗文→黒色処理	—	—	—	No8
7	土師器	杯	13.8) 5.6) 4.6)	ミガキ→黒色処理	—	—	—	No5、II区
8	土師器	杯	15.2) — (3.7)	ロクロナデ	—	—	—	IV区
9	土師器	碗	14.3) 7.1) 6.5)	暗文→黒色処理	—	—	—	完全表割
10	土師器	碗	26.0) — (15.0)	ロクロナデ	—	—	—	I区、II区
11	灰輪高器	碗	12.8) (5.8)	—	—	—	—	No4、II区
12	灰輪高器	碗	14.0) — (2.6)	—	—	—	—	No7
13	土師器	ロクロ口裏	9.1) 5.9) 8.7)	ロクロナデ	—	—	—	No2、II区、カマド内

第 102 表 H70 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			重量等	成 形、調 整			備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		内 面	外 面			
1	土師器	杯	(10.5)	5.4	4.0	—	ロクロナデ	黒墨、回転糸切	完全糸割	覆土	
2	土師器	杯	11.0	5.4	3.6	—	ミガキ→端文→黒色処理	ヘラケズリ	完全糸割	No7	
3	土師器	杯	11.4	5.4	4.2	—	ミガキ→端文→黒色処理	ヘラケズリ、黒書	完全糸割	No5	
4	土師器	杯	11.4	6.0	3.4	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全糸割	No3	
5	土師器	杯	11.4	6.1	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全糸割	No8、Ⅱ区	
6	土師器	杯	(11.5)	(5.8)	3.2	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転糸割	Ⅲ区	
7	土師器	杯	(12.3)	(4.4)	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転糸割	Ⅱ区	
8	土師器	杯	—	(2.8)	—	—	黒書	黒書	破片糸割	Ⅰ区	
9	土師器	碗	13.7	—	4.5	—	黒色処理	右回転糸切→付高台	完全糸割	No1、Ⅲ区	
10	灰輪器	碗	—	(5.6)	—	—	軸	右回転糸切、軸	回転糸割	覆土	
11	土師器	口付壺	—	3.8	(9.8)	—	ハナメ	ハナメ	回転糸割	覆土	
12	須恵器	甕	—	—	(4.6)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片糸割	Ⅰ区	
13	須恵器	甕	—	—	—	—	当具破→ナデ	平行叩目	破片糸割・拓本	Ⅳ区	
14	鉄器	刀子	<2.6>	<1.0>	<0.4>	<2.3>	刃部の現存	—	完全糸割	No13	

第 103 表 H71 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			重量等	成 形、調 整			備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		内 面	外 面			
1	土師器	杯	(11.2)	—	5.4	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ、朝書「×」	回転糸割	No7	
2	土師器	杯	11.5	5.9	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全糸割	No4	
3	土師器	杯	(11.5)	6.2	4.1	—	ロクロナデ	右回転糸切、黒書	完全糸割	No2	
4	土師器	杯	11.6	5.8	3.7	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全糸割	No6	
5	土師器	杯	(11.7)	5.6	3.8	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全糸割	No1	
6	土師器	杯	12.5	5.8	3.6	—	黒色処理	右回転糸切	完全糸割	No5	
7	土師器	杯	(12.8)	—	(2.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸割	P1、床土、NSベルト	
8	土師器	杯	13.4	—	5.6	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全糸割	No2、No6、No7	
9	土師器	杯	14.0	—	5.2	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全糸割	カマド	
10	土師器	杯	—	—	—	—	ナデ	黒書	破片糸割	カマド	
11	土師器	碗	—	—	(1.7)	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転糸割	No3	
12	土師器	碗	—	—	(3.2)	—	ロクロナデ	付高台、黒書	破片糸割	EW-ベルト、H3 M区	
13	灰輪器	甕	—	8.1	(3.2)	—	軸	回転ヘラケズリ→付高台→軸	完全糸割	EW-ベルト、H3 M区	
14	土師器	甕	18.6	—	(15.2)	—	ナデ	ケスリ→ミガキ、摩耗	完全糸割	No3、EWベルト、H3 M区、床、カマド	
15	土師器	口付壺	—	(6.1)	(2.6)	—	ロクロナデ	回転糸割、外周回転ヘラケズリ	回転糸割	P1	
16	土師器	甕	—	—	—	—	ナデ	平行叩目	破片糸割・拓本	覆土	
17	右器	打製石斧	<5.0>	<5.8>	<1.3>	<47.6>	刃部残存、裏面に使用痕	—	完全糸割	覆土	
18	鉄器	刀子	<8.6>	<1.2>	<0.4>	<10.0>	刃部断裂欠損	—	完全糸割	No10	
19	鉄製品	角軸	(6.5)	(0.6)	(0.5)	(4.1)	両端欠損	—	完全糸割	No9	

第104表 H72号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	甕	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(16.8) (7.8) (26.0) —	ハケス、ナデ	ケズリ→ミガキ		回転・表割	No1~5、床
2	土師器	甕	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(8.6) (12.5) —	ハケス、ナデ	ケズリ→ミガキ		回転・表割	覆土

第105表 H73号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	11.6 6.6 3.5 —	ロクロナデ	右回転糸切		完全表割	No3
2	土師器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	12.2 6.1 3.9 —	ロクロナデ	右回転糸切		完全表割	No2
3	土師器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— 5.9 (3.0) —	ロクロナデ	右回転糸切		完全表割	No1
4	土師器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (6.0) (2.7) —	ロクロナデ	右回転糸切		完全表割	No5
5	土師器	碗	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	14.7 8.3 6.2 —	黒色処理	右回転糸切→付高台		完全表割	No7、カマド
6	弥生土器	鉢	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— — — —	浮線文、ハメラミガキ			破片表割・柱本	覆土

第106表 H74号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	畿内系陶文杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (6.0) (1.8) —	暗文(放射+螺旋)			回転・表割	Ⅲ区
2	土師器	畿内系陶文杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (7.6) (2.0) —	暗文(放射+螺旋)		底部→周縁ヘラケズリ	回転・表割	SNベルト
3	土師器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— — — —	ナデ		ケズリ	破片表割	Ⅱ区
4	土師器	畿内系陶文杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— — — —	暗文(放射+螺旋)		不明	破片表割	SNベルト
5	須恵器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(13.5) (8.0) (4.0) —	ロクロナデ	ケズリ		回転・表割	V区、カマド
6	須恵器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(14.2) 6.5 (3.9) —	ロクロナデ	静止糸切		完全表割	Ⅰ区
7	土師器	有台鉢	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (12.0) (1.7) —	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台		回転・表割	Ⅲ区
8	土師器	武蔵羹	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(13.2) — (10.3) —	ナデ	ケズリ		回転・表割	Ⅰ区、Ⅱ区、SNベルト
9	土師器	武蔵羹	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(22.0) — (5.5) —	ナデ	ケズリ		回転・表割	覆土
10	土師器	武蔵羹	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (6.0) (8.1) —	ナデ	底部→周縁ヘラケズリ		回転・表割	Ⅳ区
11	土師器	台付羹	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (7.0) (1.7) —	ナデ	底部→周縁ヘラケズリ		回転・表割	Ⅱ区
12	須恵器	碗	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (12.2) (10.5) (1.4) (21.9) —	当具跡→ナデ	平行凹目		回転・表割	Ⅲ区
13	石器	磨石	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(7.9) (0.8) (0.3) (5.17) —	右側面以外欠損、磨面1			完全表割	覆土
14	石器	長頸鍋	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— — — —				完全表割	覆土

第107表 H75号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(13.4) (13.8) (5.9) —	ミガキ→黒色処理			回転・表割	覆土
2	土師器	杯	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(4.0) (13.4) (6.1) —	ミガキ	ケズリ→ミガキ		回転・表割	No1
3	土師器	裏	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(14.4) — (10.3) —	ハケス	ケズリ		回転・表割	No3
4	土師器	台付羹	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	— (10.7) (5.9) —	ナデ	ケズリ		回転・表割	No2
5	土師器	甕	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(16.0) — (6.1) —	ミガキ	ミガキ		回転・表割	覆土
6	鉄器	刀子	口徑(長) 底徑(短) 器高(厚) 重量等	(6.2) (1.1) (0.4) (6.55) —	凹端欠損			完全表割	No4

第 108 表 H76 舟型六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土鈴器	杯	(14.4)	15.5	5.4	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	完全表割	No5、床、H7
2	須臾器	杯	(13.0)	(9.4)	3.9	ロクロナデ	回転ヘラ切	回転表割	覆土
3	須臾器	杯	(15.2)	(6.6)	4.7	ロクロナデ	回転ヘラ切、回転ヘラケズリ	回転表割	柵本 No1
4	杖輪陶器	皿	—	(8.0)	<2.0>	腐蝕	付腐台、腐蝕	回転表割	床
5	須臾器	裏	—	—	—	同一内出貝類	平打目	破片表割	柵本 床
6	土器	編物石	14.9	5.2	32.10	—	—	完全表割	No2

第 109 表 H77 舟型六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土鈴器	杯	(14.4)	7.2	3.6	ミガキ→黒色処理	糸切→底部→回転ヘラケズリ、刻書	完全表割	No1
2	土鈴器	杯	(14.6)	(7.4)	(4.0)	ミガキ→黒色処理	底部→周縁ヘラケズリ	回転表割	I区、IV区
3	土鈴器	杯	15.4	6.3	4.5	ミガキ→黒色処理	底部→周縁ヘラケズリ、墨書「西永」	完全表割	No2
4	須臾器	杯	(12.6)	(6.0)	(3.6)	火澤	回転糸切	回転表割	IV区
5	須臾器	杯	(12.6)	(6.8)	3.8	ロクロナデ	回転糸切、火澤	回転表割	I区、IV区、ベルト
6	須臾器	杯	(12.8)	(7.0)	(3.9)	火澤	右回転糸切、火澤	回転表割	III区、ベルト
7	須臾器	杯	(13.0)	(7.0)	(4.1)	ロクロナデ	右回転糸切	回転表割	No19
8	須臾器	杯	(13.4)	(7.0)	3.7	火澤	右回転糸切、火澤	完全表割	I区、IV区
9	須臾器	杯	(13.7)	6.2	3.9	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	カマド、ベシト
10	須臾器	杯	14.0	6.0	3.8	火澤	右回転糸切、火澤	完全表割	No1
11	土鈴器	杯	—	(5.4)	(2.2)	火澤	右回転糸切、火澤	回転表割	II区
12	土鈴器	杯	—	(9.0)	(3.3)	火澤	ヘラケズリ、火澤	回転表割	IV区
13	須臾器	有台杯	14.4	—	(5.0)	火澤	火澤	完全表割	No8
14	須臾器	有台杯	(15.8)	7.7	4.3	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全表割	No3
15	須臾器	有台杯	—	5.8	(2.6)	火澤	回転ヘラケズリ→付高台、火澤	完全表割	ベルト
16	須臾器	有台杯	—	(6.2)	(2.2)	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全表割	IV区
17	須臾器	有台杯	—	(8.0)	(2.1)	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転表割	IV区
18	須臾器	環蓋	(16.8)	—	(3.1)	火澤	回転ヘラケズリ、火澤	回転表割	No6
19	土鈴器	裏	(17.8)	—	(7.3)	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転表割	I区
20	土鈴器	武蔵蓋	(18.6)	—	(5.8)	ナデ	ケズリ	回転表割	覆土
21	土鈴器	裏	—	(6.4)	(4.0)	ナデ	ナデ	回転表割	IV区
22	土鈴器	裏	—	(7.0)	(3.6)	ナデ	糸切	回転表割	I区
23	須臾器	裏	(28.0)	—	(5.0)	ナデ	糸切	回転表割	I区
24	須臾器	裏	—	—	(5.0)	ナデ	ロクロナデ	回転表割	II区
25	須臾器	裏	—	—	(6.2)	ナデ	ロクロナデ	回転表割	II区
26	須臾器	裏	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	No5
27	須臾器	蓋	—	(5.38)	(5.3)	ロクロナデ	彫削痕状文	破片表割	No5
28	土製品	土盤	(3.6)	(2.0)	(1.8)	ロクロナデ	回転糸切→付高台	回転表割	ベルト
29	土製品	土盤	4.6	1.9	11.60	ナデ	ナデ	完全表割	No13
30	土製品	土盤	5.9	2.1	19	16.50	ナデ	完全表割	No13
31	石器	砥石	(17.6)	(6.8)	(5.6)	(940.0)	上部欠損、正面敲打痕、右側条痕、砥面数 4	完全表割	No12
32	石器	磨石	(7.5)	(4.4)	(2.3)	(152.5)	上部欠損、磨面 3	完全表割	床
33	石器	刀子	(8.6)	(1.2)	(0.35)	(7.2)	四角欠損	完全表割	No14

第110表 H78号竪穴建物出土遺物報告表

No	器種	器形	口径(長)底径(短)底高(厚)重量等	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	杯	11.1 6.1 3.6	ロクロナデ	右回転糸切		完全灰洲	No8
2	土師器	杯	11.6 4.2 3.8	ロクロナデ	右回転糸切		完全灰洲	No2
3	土師器	杓状杯	11.7 3.9 4.0	ロクロナデ	右回転糸切		完全灰洲	No10
4	土師器	杯	(11.9) 6.4 4.6	底付筒	右回転糸切		完全灰洲	No8
5	土師器	杯	12.0 6.0 3.8	ロクロナデ	右回転糸切		完全灰洲	No13
6	土師器	杯	(13.5) 5.0 3.6	墨書	右回転糸切		完全灰洲	覆土
7	土師器	杯	11.1 4.5	黒色陶理	ケズリ		焼出灰洲	カマド
8	土師器	杯	—	—	墨書		完全灰洲	No6
9	土師器	碗	12.2 7.2 4.7	暗文、黒色陶理	回転糸切→付高台		完全灰洲	No23, No24, カマド
10	土師器	碗	(13.9) 7.0 5.0	ロクロナデ	右回転糸切→付高台		完全灰洲	No19
11	土師器	碗	14.3 7.2 6.1	放射状暗文、黒色陶理	付高台、墨書		完全灰洲	カマド
12	土師器	碗	— (4.0)	ロクロナデ	右回転糸切→付高台		完全灰洲	覆土
13	須恵器	杯	— (8.0) (0.9)	ロクロナデ	右回転糸切		完全灰洲	No18
14	土製品	手捏	2.3	ナデ	ナデ		完全灰洲	No1
15	灰輪陶器	碗	13.2 6.2 4.1	施釉	回転ヘラ切り→付高台、施釉		完全灰洲	No14, No22
16	灰輪陶器	碗	15.8 7.6 5.3	施釉	右回転糸切→付高台、施釉		完全灰洲	覆土
17	灰輪陶器	碗	16.8 7.6 5.7	施釉	右回転糸切→付高台、施釉		完全灰洲	覆土
18	灰輪陶器	碗	— (7.8) (1.8)	施釉	付高台、施釉		完全灰洲	No15
19	灰輪陶器	皿	(13.7) 6.9 2.5	施釉	付高台、施釉		完全灰洲	覆土
20	緑輪陶器	碗	(12.2) — (2.5)	施釉	施釉		完全灰洲	覆土
21	土師器	裏	(14.0) — (11.2)	ナデ	ナデ		完全灰洲	覆土
22	土師器	ロク口甕	(21.8) — (12.6)	ナデ	ナデ		完全灰洲	覆土
23	土師器	ロク口甕	— (7.4) (5.4)	ナデ	底部～周縁ケズリ		完全灰洲	覆土
24	土師器	羽釜	— (3.7)	ナデ	ナデ		完全灰洲	覆土
25	土師器	壺	— 4.5 (2.7)	ロクロナデ	右回転糸切、底部～周縁ケズリ→ミゾナ		完全灰洲	No15
26	須恵器	裏	— (14.0)	ロクロナデ	平行項目		完全灰洲	No5
27	須恵器	裏	—	当具取→ナデ	平行項目		完全灰洲	No11
28	須恵器	裏	—	当具取→ナデ	平行項目		完全灰洲	覆土
29	土製品	碧玉	0.8 0.8 2.3 1.86	—	—		完全灰洲	覆土
30	土製品	土鑊	3.9 1.5 1.5 8.51	ナデ	ナデ		完全灰洲	Ⅲ区
31	石器	砥石	12.0 6.0 1.2 83.4	下刃を刃部とする砥石として使用(底面2、正面面に条線)			完全灰洲	No9
32	石製品	軽石製品	7.3 4.6 3.8 40.89	中央に掛り状の加工?全体に磨			完全灰洲	覆土
33	石器	磨石	4.3 4.3 3.5 88.0	全体に磨			完全灰洲	No20
34	石器	磨石	6.7 4.5 3.2 142.3	全体に磨			完全灰洲	覆土
35	真原料	磨石	10.1 7.6 1.9 174.9	—	—		完全灰洲	No16

第 111 表 H79 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口徑(長)底徑(短)	器高(厚)		内面	外面		
1	土師器	杯	(12.1)	—	<3.7>	—	ミガキ	回転表割	EW-ベルト、H80No8
2	土師器	杯	—	(8.0)	(2.2)	—	ナデ→暗文(放射・螺旋)	回転表割	覆土
3	土師器	杯	—	(8.6)	(3.1)	—	黒色処理	回転表割	IV区
4	土師器	杯	—	—	<3.0>	—	火傷、器蓋	破片表割	IV区
5	須恵器	杯	(13.0)	6.9	3.2	—	火傷	完全表割	No7
6	須恵器	有台杯	(15.6)	9.0	7.0	—	回転糸切、火傷	完全表割	I区、EW-ベルト
7	須恵器	有台杯	(16.1)	(8.9)	6.4	—	回転糸切→付高付	完全表割	I区、EW-ベルト
8	須恵器	杯蓋	(18.6)	—	2.6	—	天井部回転へラケズリ、つまみ取付	回転表割	覆土、B0
9	土師器	武蔵饗	(21.4)	—	(8.7)	—	ケズリ	回転表割	No4
10	土師器	武蔵饗	(25.3)	—	<10.3>	—	ケズリ	回転表割	No9
11	須恵器	長頸壺	—	—	(9.0)	—	ロクロナデ	回転表割	No6
12	須恵器	磨石	—	—	(2.8)	—	ナデ	破片表割	I区
13	石器	磨石	—	—	<9.7>	<2.4>	<96.2>片離欠損、正源に磨面	完全表割	覆土

第 112 表 H80 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口徑(長)底徑(短)	器高(厚)		内面	外面		
1	土師器	杯	—	—	—	—	暗文状ミガキ	破片表割	IV区
2	須恵器	杯	(14.1)	8.1	4.0	—	ナデ	回転へラ切り→ケズリ	II区、IV区
3	須恵器	杯	(14.1)	9.7	3.8	—	火傷	ケズリ、火傷	完全表割
4	須恵器	杯	(14.4)	(6.6)	3.9	—	ナデ	回転へラ切り	No7、I区
5	須恵器	杯	(14.4)	10.2	3.7	—	ナデ	回転へラ切り→ケズリ	II区
6	須恵器	杯	(14.6)	(10.2)	4.6	—	ナデ	回転へラ切り→ケズリ	完全表割
7	須恵器	杯	—	6.8	(1.2)	—	ナデ	回転へラ切り	I区
8	須恵器	有台杯	—	10.4	(1.3)	—	ナデ	回転へラケズリ→付高付	完全表割
9	土師器	裏	(13.0)	—	(5.8)	—	ナデ	ケズリ	IV区
10	土師器	裏	(14.8)	—	(4.6)	—	ナデ	ケズリ	回転表割
11	土師器	裏	(14.8)	—	(6.6)	—	ケズリ	ナデ	No8
12	土師器	裏	(21.0)	—	(5.5)	—	ナデ	ケズリ	回転表割
13	土師器	武蔵饗	—	6.0	(3.0)	—	ナデ	底部→周縁ケズリ	No11
14	土師器	武蔵饗	—	(6.2)	(6.0)	—	底部→周縁ケズリ	ナデ	回転表割
15	土師器	壺	(33.0)	—	<16.4>	—	ミガキ	回転表割	II区
16	須恵器	裏	—	—	—	—	叩目	ミガキ、摩耗	回転表割
17	須恵器	裏	—	—	—	—	叩目	破片表割・拵木	No10、No11
18	石器	台石	(23.9)	<13.6>	(6.5)	<3420.0>	陶器欠損、使用面 2	完全表割	IV区
19	石器	台石	26.3	22.7	9.0	8400.0	陶器使用面 1	完全表割	覆土
20	鉄製品	鈎鎌鎌	(27.2)	(0.8)	(0.8)	<48.2>	円板φ6(5.0)、最大厚0.6、円盤部、軸先端欠損	完全表割	覆土

第 113 表 H81 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		重量等	内面	外面		
1	土師器	杯	(13.0)	—	(6.0)	—	ナデ	ケズリ	—	回転表測	No3
2	須恵器	杯	—	(7.4)	(2.4)	—	ナデ	回転糸切	—	回転表測	Ⅲ区
3	須恵器	杯	—	(9.1)	(2.5)	—	ナデ	回転糸切→ケズリ	—	回転表測	I区
4	須恵器	有台杯	(13.2)	—	(3.5)	—	ナデ	ナデ	—	回転表測	Ⅱ区
5	須恵器	有台杯	—	(11.4)	(1.3)	—	ナデ	回転糸切→白高台	—	回転表測	Ⅲ区
6	須恵器	杯蓋	(13.0)	—	(1.4)	—	ナデ	ナデ	—	回転表測	Ⅱ区
7	土師器	武甕	(22.0)	—	(8.1)	—	ナデ	ケズリ	—	回転表測	Ⅱ区
8	土師器	武甕	—	(5.0)	(5.5)	—	ナデ	ケズリ	—	回転表測	Ⅱ区
9	須恵器	甕	—	(18.0)	(3.7)	—	当具痕	平付口目	—	回転表測	覆土
10	須恵器	段頭部	—	—	(13.0)	—	ナデ	ケズリ	—	回転表測	I区、Ⅱ区、Ⅳ区
11	須恵器	鉢	—	—	—	—	沈埋文	—	—	破片表測・拓本	覆土
12	須恵器	鉢	—	—	—	—	L12) 黒赤単輪筋茶体	—	—	破片表測・拓本	覆土
13	土製品	裂口	—	—	—	—	外径(4.3)、内径(1.2)、先端部	—	—	完全表測	Ⅱ区
14	鉄製品	輪	(5.0)	(0.6)	(0.8)	(16.2)	片削欠損、正裏に側面	—	—	完全表測	カマド

第 114 表 H82 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			量	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		重量等	内面	外面		
1	土師器	杯	(15.2)	(9.2)	(3.9)	—	ミガキ	ミガキ	—	回転表測	Ⅲ区
2	土師器	鉢	(20.2)	—	(6.6)	—	ケズリ→ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	—	回転表測	Ⅳ区
3	土師器	甕	(33.8)	8.0	(26.6)	—	ナデ	ケズリ	—	完全表測	I区、Ⅳ区、H13
4	土師器	甕	—	5.9	(4.4)	—	ナデ	ナデ	—	完全表測	No3
5	土師器	羽釜	(20.8)	—	(11.2)	—	ナデ	ナデ	—	回転表測	No7
6	土師器	羽釜	(21.8)	—	(11.5)	—	ナデ	ナデ	—	回転表測	Ⅳ区
7	土師器	台付甕	(8.0)	—	(7.4)	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	—	完全表測	No6、カマド
8	土製品	人形土器	—	(5.0)	(5.5)	—	胎、赤生陶代後期?	—	—	完全表測	I区
9	鉄器	空引金具	5.3	2.9	0.4	15.59	—	—	—	完全表測	覆土

第 115 表 H83 号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			量	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)		重量等	内面	外面		
1	土師器	杯	10.4	4.8	3.8	—	ナデ	右回転糸切→ケズリ	—	完全表測	No5
2	土師器	杯	10.7	5.0	3.7	—	ナデ	右回転糸切	—	完全表測	No2
3	土師器	杯	10.7	5.4	3.8	—	ナデ	右回転糸切	—	完全表測	No11
4	土師器	杯	11.0	4.8	3.3	—	ナデ	右回転糸切・甕書	—	完全表測	No4
5	土師器	杯	11.1	4.8	3.8	—	ナデ	右回転糸切	—	完全表測	No3
6	土師器	杯	11.7	5.0	3.8	—	ナデ	右回転糸切	—	完全表測	No15
7	土師器	杯	11.9	4.5	4.2	—	ナデ	右回転糸切	—	完全表測	No16
8	土師器	杯	12.7	5.5	4.2	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切・甕書	—	完全表測	No12、I区
9	土師器	杯	13.1	5.3	4.1	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	—	完全表測	No9、I区
10	土師器	杯	—	—	(3.2)	—	—	甕書	—	破片表測	No12

第116表 H83号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量		内面	外面	備考	出土部位
			口径(長)・底径(短)	器高(厚)				
11	土師器	碗	14.2	<4.7>	ナデ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全表割	No13
12	土師器	碗	15.6	5.3	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台、黒色処理	完全表割	No6、1区
13	土師器	碗	—	<4.6>	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全表割	覆土
14	須恵器	杯	13.0	6.6	ナデ	回転糸切	完全表割	No7、1区
15	須恵器	杯	—	<1.7>	ナデ	回転ヘラ切り	完全表割	覆土
16	須恵器	杯	(7.5)	5.4	ナデ	回転ヘラ切り→粗磨	回転表割	1区
17	須恵器	有台杯	(10.6)	<1.1>	ナデ	回転糸切→付高台	回転表割	床
18	土師器	裏	(20.6)	<20.3>	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド
19	土師器	裏	—	(11.3)	ナデ	ケズリ	回転表割	No8
20	須恵器	裏	—	(23.1)	ナデ	タタキ	回転表割	覆土
21	須恵器	帯	—	6.3	ナデ	底部→周縁ケズリ	回転表割	覆土
22	須恵器	長頸壺	—	<5.0>	ナデ	ナデ	完全表割	1区
23	鉄製品	金具	<3.5>	<1.9>	<4.0>	片割欠損	完全表割	覆土

第117表 H84号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量		内面	外面	備考	出土部位
			口径(長)・底径(短)	器高(厚)				
1	土師器	杯	(11.8)	—	<3.3>	ロクロナデ	回転表割	覆土
2	土師器	杯	(13.0)	(5.9)	<4.1>	ロクロナデ	回転表割	覆土
3	土師器	杯	—	5.0	<3.3>	回転糸切、黒書	完全表割	覆土
4	土師器	杯	—	—	<3.0>	黒書	破片表割	覆土
5	土師器	碗	15.0	—	<5.0>	回転糸切→付高台(高台欠損)	完全表割	覆土
6	土師器	碗	—	5.5	<2.4>	回転糸切→付高台	完全表割	覆土
7	土師器	碗	—	7.4	<2.1>	回転糸切→付高台	完全表割	覆土
8	須恵器	杯	(12.4)	(6.2)	4.1	火磨	回転表割	覆土
9	須恵器	杯	(12.6)	—	4.3	右回転糸切、火磨	完全表割	No3
10	須恵器	杯	—	5.4	<3.0>	回転糸切	完全表割	覆土
11	須恵器	杯	—	5.8	<1.2>	回転糸切	完全表割	覆土
12	須恵器	有台杯	—	6.2	<4.2>	回転糸切→付高台	完全表割	覆土
13	須恵器	有台杯	—	(10.8)	<2.4>	回転ヘラケズリ→付高台	回転表割	覆土
14	灰陶器	碗	—	7.6	<2.9>	回転ヘラケズリ→付高台	完全表割	No2
15	土師器	ロクロノデ	(19.3)	—	(8.6)	ロクロナデ	回転表割	覆土
16	須恵器	長頸壺	—	—	<7.6>	ロクロナデ	回転表割	No1

第118表 H85号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	量		内面	外面	備考	出土部位	
			口径(長)・底径(短)	器高(厚)					
1	土師器	杯	(12.1)	(6.5)	4.3	灰付着	回転表割	カマド	
2	土師器	杯	(12.9)	5.0	4.2	ミガキ→黒色処理	回転糸切	床	
3	土師器	杯	(12.9)	5.7	4.0	ミガキ→黒色処理、放射状暗文	黒書「卒」	完全表割	覆土
4	土師器	杯	(12.9)	6.0	4.8	暗文	回転糸切	回転表割	No6

第 119 表 H85 号竪穴建物出土土物調査表 (7)

No	器種	器形	口径(壘)底径(箱)器高(磨)	重量等	内面	成形調整外面	備考	出土層位
5	土師器	杯	(13.0) (6.8)	5.2	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転糸切	No1
6	土師器	杯	(13.9) (8.0)	3.7	ミガキ→黒色処理	回転糸切	回転糸切	No4
7	土師器	杯	(14.1) (5.6)	4.6	ミガキ→黒色処理	静止糸切	回転糸切	I区、III区、カマド
8	土師器	杯	— (7.2)	<2.0>	黒色処理、放射状暗文	ケズリ	回転糸切	覆土
9	土師器	杯	— (7.2)	<2.1>	ミガキ→黒色処理	筆書	回転糸切	床
10	土師器	杯	—	—	ミガキ→黒色処理	黒墨「百」	破片表側	カマド
11	土師器	杯	—	—	ミガキ→黒色処理	黒墨「百」	破片表側	床
12	土師器	杯	—	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	破片表側	IV区
13	土師器	碗	(15.3) (7.9)	(5.4)	ミガキ→黒色処理	付高台	回転糸切	床
14	土師器	碗	—	<3.1>	ロクロナデ	黒色処理、付高台	回転糸切	IV区
15	須置器	有台杯	—	(5.8)	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全糸切	床
16	須置器	碗	—	6.9	ロクロナデ	つまみ貼付	完全糸切	覆土
17	須置器	杯蓋	—	<1.7>	ロクロナデ	ケズリ	回転糸切	カマド
18	土師器	武蔵護	(13.6)	<8.3>	—	ケズリ	回転糸切	カマド、No3、4、14
19	土師器	口ク口蓋	(19.6)	<26.5>	当具縁→ハケメ→ナデ	ケズリ	完全糸切	カマド、No1、3、5-8、11、12、III区
20	土師器	口ク口蓋	20.9	<26.4>	当具縁→ナデ	ケズリ	完全糸切	カマド
21	土師器	口ク口蓋	—	(2.2)	当具縁→ナデ	ケズリ	回転糸切	カマド
22	土師器	武蔵護	—	(4.0)	ナデ	ケズリ	回転糸切	カマド
23	土師器	裏	—	(8.2)	当具縁→ナデ→黒色処理	タタキ	回転糸切	覆土
24	土師器	口ク口蓋	—	—	ロクロナデ	タタキ	破片表側・拓本	III区
25	土師器	裏	—	—	当具縁→ナデ	タタキ	破片表側・拓本	III区
26	須置器	裏	—	—	青油跡	平行目目	破片表側・拓本	カマド
27	須置器	筒	(8.7)	<3.0>	—	平行目目	破片表側・拓本	カマド
28	石器	編物石	9.8	6.6	280.0 正裏、縁辺に快り有	ロクロナデ	回転糸切	III区
29	石器	磨	(3.4)	<2.5>	(48.4) 四脚欠損	ロクロナデ	完全糸切	覆土

第 120 表 H86 号竪穴建物出土土物調査表

No	器種	器形	口径(壘)底径(箱)器高(磨)	重量等	内面	成形調整外面	備考	出土層位	
1	土師器	杯	13.2	4.4	4.1	—	—	完全糸切	No7、H87
2	土師器	畿内系陶文杯	—	(7.8)	<1.4>	—	底面→周縁手持ちヘラケズリ	回転糸切	床
3	須置器	有台杯	(16.6)	(12.1)	3.9	—	回転ヘラケズリ→付高台	回転糸切	No8
4	土師器	鉢	(13.0)	—	(5.8)	—	ケズリ	回転糸切	I区、IV区
5	土師器	武蔵護	(22.0)	—	(6.1)	—	ケズリ	回転糸切	II区
6	土師器	口ク口蓋	(22.6)	(9.2)	24.7	—	タタキ→ケズリ	回転糸切	No5
7	土師器	武蔵護	—	(6.0)	(16.0)	—	タタキ	回転糸切	No1、No2、床
8	土師器	裏	—	6.2	<4.0>	—	ミガキ	完全糸切	床
9	須置器	裏	29.3	—	(11.7)	—	ロクロナデ	完全糸切	No14
10	須置器	瓶行	(7.3)	<3.8>	<2.5>	(91.0)	底面欠4、下部欠損	完全糸切	No4
11	石器	石核	2.7	3.6	1.6	<11.55>	—	完全糸切	III区

第 121 表 H87 号整六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	12.7	5.7	4.1	黒色処理	右回転糸切	完全灰洲	No.1
2	土師器	杯	13.0	5.0	4.6	ロクロナデ	回転糸切	回転灰洲	I区
3	土師器	杯	13.0	6.0	4.2	暗文→黒色処理	右回転糸切、墨書	完全灰洲	No6, EWヘルト
4	土師器	杯	13.3	5.7	4.2	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、墨書「田」	I区	I区
5	土師器	杯	13.4	5.7	4.2	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全灰洲	I区、IV区、床
6	土師器	杯	13.6	—	<4.1>	ロクロナデ	底部→回転ヘラケズリ	回転灰洲	I区
7	土師器	杯	14.4	6.0	4.3	ミガキ	墨書	回転灰洲	I区
8	土師器	杯	16.0	—	<3.4>	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	完全灰洲	カマド
9	土師器	杯	17.2	—	<4.1>	暗文	右回転糸切	完全灰洲	カマド
10	土師器	杯	—	5.5	<2.6>	ロクロナデ	右回転糸切	完全灰洲	I区
11	土師器	杯	—	5.6	<3.9>	ミガキ	右回転糸切、底部→回転ヘラケズリ	完全灰洲	I区
12	土師器	杯	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片灰洲	覆土
13	土師器	杯	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片灰洲	覆土
14	土師器	碗	14.5	5.8	5.8	ミガキ→黒色処理	右回転糸切→付高台	完全灰洲	No5, III区, EW
15	土師器	碗	—	7.0	<2.1>	ミガキ→黒色処理	右回転糸切、高台欠損	完全灰洲	SNヘルト
16	土師器	碗	—	—	<1.4>	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全灰洲	IV区
17	土師器	皿	12.6	5.8	3.0	ミガキ→黒色処理	付高台	回転灰洲	SNヘルト
18	須器器	杯	—	5.2	<1.9>	火障	回転糸切	回転灰洲	覆土
19	吹瓶器器	碗	—	7.6	<2.6>	ロクロナデ、蓋軸	右回転糸切→付高台、蓋軸	回転灰洲	IV区
20	土師器	ロクロナデ	13.8	—	<12.9>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転灰洲	IV区
21	土師器	武蔵蓋	17.6	—	<12.0>	ナデ	ケズリ	回転灰洲	II区、カマド
22	土師器	武蔵蓋	20.0	—	<18.4>	ナデ、ハケメ	ケズリ	回転灰洲	No8 ~ 10, II区
23	土師器	武蔵蓋	22.2	—	<8.4>	ハケメ	ケズリ	回転灰洲	No3
24	土師器	ロクロナデ	23.4	—	<23.3>	当具組→ナデ	タタキ→ケズリ	回転灰洲	No9, I区
25	須器器	罍	29.8	—	<3.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転灰洲	IV区
26	須器器	罍	—	—	—	当具組	平行単位	破片灰洲・拓本	SNヘルト
27	須器器	罍	—	—	—	当具組	平行単位	破片灰洲・拓本	覆土
28	右器	粉海軍	—	8.0	6.1	162.0	ヘラケズリ、軽石	完全灰洲	No12
29	鉄器	刀子	<6.8>	<0.8>	<0.3>	<8.05>	—	完全灰洲	床
30	鉄器	刀子	<9.9>	<1.1>	<0.2>	<8.79>	—	完全灰洲	No13
31	鉄製品	不明	<9.4>	<1.0>	<0.5>	<20.82>	—	完全灰洲	No11

第 122 表 H88 号整六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	12.8	6.2	4.0	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全灰洲	No4
2	土師器	碗	16.4	—	<3.9>	ミガキ→黒色処理	墨書	回転灰洲	H47
3	土師器	碗	—	7.6	<3.3>	ミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	回転灰洲	I区、III区
4	土師器	碗	—	7.7	<1.9>	ミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	完全灰洲	No10
5	須器器	杯	13.4	—	<4.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転灰洲	H47
6	須器器	杯	13.8	6.1	4.0	ロクロナデ	右回転糸切	完全灰洲	No2

第 123 表 H88 号竪穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位	
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重量等			内面
7	須臾器	环	(138)	—	(3.7)	—	ロクロナデ	—	同転実測	No7
8	須臾器	环	(146)	(6.8)	4.6	—	煤付着	右回転糸切、黒書	同転実測、1/10目?	H47
9	須臾器	环	(4.8)	(1.8)	—	—	ロクロナデ	右回転糸切	同転実測	H47
10	須臾器	环	(6.2)	(6.2)	—	—	ロクロナデ	同転実測→片高台	同転実測	H47
11	片口鉢	碗	(15.0)	(2.9)	—	—	陶軸	—	同転実測	覆土
12	土師器	片口鉢	(24.0)	(7.9)	—	—	ミカヅキ→黒色処理	ケズリ	同転実測	床
13	土師器	武蔵羹	(14.4)	(4.8)	—	—	ナデ	ケズリ	同転実測	I区
14	土師器	武蔵羹	(19.4)	(6.4)	—	—	ナデ	ケズリ	同転実測	H47
15	土師器	武蔵羹	(19.6)	(6.4)	—	—	ナデ	ケズリ	同転実測	No6、H47
16	土師器	武蔵羹	(20.2)	3.9	25.9	—	ナデ	ケズリ	完全実測	No5、H47
17	土師器	武蔵羹	(21.4)	—	(6.3)	—	ナデ	ケズリ	同転実測	H47 III区
18	土師器	武蔵羹	(22.0)	—	(5.3)	—	ナデ	ケズリ	同転実測	H47
19	土師器	武蔵羹	(22.0)	(5.0)	(4.5)	—	ナデ	ケズリ	同転実測	H47 床
20	土師器	武蔵羹	(7.0)	(5.4)	—	—	ナデ	ケズリ	同転実測	H47
21	須臾器	羹	—	15.4	(7.1)	—	ロクロナデ	ケズリ	同転実測	H47
22	須臾器	羹	(17.2)	—	(8.2)	—	当具痕→ナデ、器面出滑	器行項目	同転実測	I区
23	須臾器	甕	—	—	—	—	ロクロナデ	—	同転実測	カマド
24	鉄器	鉄鏝	(12.0)	(3.3)	(0.4)	(19.04)	—	—	完全実測	No1

第 124 表 H89 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位	
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重量等			内面
1	土師器	甕内系陶文杯	—	—	—	—	陶文(螺旋+放射)	ケズリ	破片実測	覆土
2	須臾器	环	(14.0)	(7.6)	(3.8)	—	火押	同転糸切、火押	同転実測	I区
3	須臾器	环	(8.6)	(1.3)	—	—	ロクロナデ	同転ヘラ切り	同転実測	カマド
4	土師器	武蔵羹	(20.0)	(13.7)	—	—	ナデ	ヘラケズリ	同転実測	No2、II区、カマド、WE-ベルト
5	土師器	武蔵羹	(20.5)	(6.4)	—	—	ナデ	ヘラケズリ	同転実測	No1、カマド、WE-ベルト
6	土師器	武蔵羹	(20.9)	(10.4)	—	—	ナデ	ヘラケズリ	同転実測	No4、カマド
7	土師器	武蔵羹	(20.0)	(13.9)	—	—	ナデ	ヘラケズリ	同転実測	No2、II区、カマド、ベルト
8	土師器	武蔵羹	(21.1)	(26.0)	—	—	ナデ	ヘラケズリ	同転実測	No2、II区、カマド、ベルト
9	土師器	武蔵羹	(23.0)	(8.1)	—	—	ナデ	ヘラケズリ	同転実測	No3、カマド、ベルト
10	須臾器	羹	—	—	—	—	当具痕→ナデ	目目	同転実測	破片実測・拓本 No4
11	赤生土器	羹	—	—	—	—	LR21 陶文	—	同転実測	破片実測・拓本、ベルト
12	赤生土器	甕	—	—	—	—	沈殿文	—	同転実測	破片実測・拓本、II区

第 125 表 H90 号竪穴建物出土遺物観察表 (1)

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位	
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重量等			内面
1	土師器	环	(12.1)	(4.9)	3.6	—	黒色処理	同転糸切	完全実測	No4
2	土師器	环	(12.2)	(5.8)	(4.1)	—	陶文→黒色処理	同転糸切	同転実測	No5
3	土師器	环	(12.3)	5.0	4.3	—	黒色処理	右回転糸切、黒書	完全実測	No2
4	土師器	环	(12.3)	5.6	3.0	—	黒色処理	同転糸切	完全実測	No1

第126表 H90 号第六建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考		
5	土師器	坏	12.7	5.4	3.6	—	黒色処理	回転糸切	完全表測	覆土
6	土師器	坏	—	4.2	3.1	—	黒色処理	右回転糸切	完全表測	覆土
7	土師器	坏	—	(6.4)	(2.9)	—	黒色処理	回転糸切	完全表測	覆土
8	土師器	碗	(15.0)	—	(3.9)	—	ミガキ→暗文→黒色処理	ロクロナデ	完全表測	No3
9	灰輪四部	碗	—	—	—	—	焦輪	焦輪	回転表測	覆土
10	土師器	ロクロ裏	—	(6.2)	(3.3)	—	当具痕→ナデ	ヘラケズリ	回転表測	I区
11	須臾器	裏	—	—	—	—	当具痕→ナデ	平行目目	—	—
12	赤生土器	裏	—	—	—	—	条痕、波状口縁	—	—	—
13	赤生土器	裏	—	—	—	—	条痕	—	—	—
14	赤生土器	裏	—	—	—	—	条痕	—	—	—
15	赤生土器	裏	—	—	—	—	L1(2) 燃染車輪結糸体	—	—	—
16	赤生土器	壺	—	—	—	—	浮彫文、L1(R2) 蘭文、ハラミガキ	—	—	—
17	土製品	不明	(2.5)	(0.9)	(0.8)	—	—	—	—	—

第127表 H91 号第六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考		
1	土師器	坏	12.1	6.2	3.8	—	暗文→黒色処理	右回転糸切、書畫「吉」	完全表測	No1
2	土師器	坏	13.1	6.5	4.7	—	ロクロナデ	—	完全表測	No5
3	土師器	坏	13.2	(6.2)	(3.8)	—	ロクロナデ	書畫、ケズリ	回転表測	No4、カマド
4	土師器	坏	13.6	(7.4)	2.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転表測	カマド
5	土師器	坏	13.8	—	(3.3)	—	黒色処理	書畫「東」	回転表測	覆土
6	土師器	坏	14.1	6.0	4.2	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全表測	カマド
7	土師器	坏	14.8	—	(3.1)	—	黒色処理	書畫「東」	回転表測	カマド
8	土師器	坏	17.0	(12.0)	(4.2)	—	ミガキ	—	—	—
9	土師器	坏	(6.0)	(3.4)	—	—	黒色処理	—	—	—
10	土師器	坏	—	(2.2)	(2.2)	—	ロクロナデ	底部→周縁手持ちヘラケズリ	回転表測	カマド
11	須臾器	有台坏	—	(8.0)	(2.3)	—	ロクロナデ	回転糸切、底部→周縁手持ちヘラケズリ	回転表測	覆土
12	土師器	ロクロ裏	13.6	—	(8.8)	—	ナデ	回転糸切→付台高	回転表測	床
13	須臾器	裏	—	(17.0)	(11.6)	—	当具痕→ナデ	ケズリ	回転表測	No13

第128表 H 92 号第六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考		
1	土師器	坏	12.5	6.3	4.3	—	ナデ→暗文→黒色処理	回転糸切→底部→周縁ヘラケズリ	完全表測	No3
2	土師器	坏	(12.7)	6.2	4.2	—	黒色処理	回転糸切	回転表測	床
3	土師器	坏	(12.8)	(6.0)	(3.1)	—	黒色処理	回転糸切	回転表測	No12、II区
4	土師器	坏	(12.8)	6.0	3.6	—	黒色処理	回転糸切	回転表測	No17
5	土師器	坏(片口)	(12.8)	(6.4)	3.8	—	暗文→黒色処理	回転糸切	完全表測	I区
6	土師器	坏	13.0	5.5	3.7	—	煤付層	右回転糸切、覆付層	完全表測	No27、No30
7	土師器	坏	(13.0)	(6.0)	(3.7)	—	暗文→黒色処理	回転糸切	回転表測	カマド

第129表 H 92号野穴遺物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	口径(長)底径(短)底高(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位	
8	土師器	杯	(13.0)	6.3	3.5	回転糸切	回転糸割	No9, No38	
9	土師器	杯	(13.2)	(5.4)	4.3	回転糸切	回転糸割	カマド	
10	土師器	杯	(13.2)	6.0	4.2	回転糸切	回転糸割	I, II区	
11	土師器	杯	(13.3)	4.4	3.3	底部→周縁へラケズリ	回転糸割	カマド	
12	土師器	杯	(13.5)	5.2	4.2	黒色処理	回転糸割	No2	
13	土師器	杯	(13.6)	6.9	3.9	暗文→黒色処理	回転糸割	II区, 床	
14	土師器	杯	(13.7)	6.2	3.7	口クロナデ	完全糸割	No25	
15	土師器	杯	(13.7)	6.3	4.1	ミガキ→黒色処理	回転糸割	No15, II区	
16	土師器	杯	(14.0)	6.0	3.4	黒色処理	回転糸割	I区, 床	
17	土師器	杯	(14.0)	(6.6)	3.9	口クロナデ	回転糸割	No9, No36	
18	土師器	杯	14.0	6.6	4.1	暗文→黒色処理	完全糸割	No23, No24	
19	土師器	杯	—	(2.2)	—	草書	破片糸割	I区	
20	土師器	杯	—	(3.4)	—	ミガキ→黒色処理	破片糸割	I区	
21	土師器	杯	—	—	—	ミガキ→黒色処理	破片糸割	III区	
22	土師器	杯	—	—	—	草書	破片糸割	IV区	
23	土師器	杯	—	—	—	草書	破片糸割	II区	
24	土師器	杯	—	—	—	口クロナデ	破片糸割	I区	
25	土師器	杯	—	—	—	草書	破片糸割	III区	
26	土師器	杵状腕	14.8	7.1	5.6	黒色処理	完全糸割	No1	
27	土師器	腕	15.9	6.5	5.0	黒色処理	完全糸割	No4, II区	
28	土師器	腕	(15.9)	—	(5.4)	暗文→黒色処理	完全糸割	No22, No35	
29	土師器	皿	(13.0)	5.4	2.3	回転糸切→付高台	回転糸割	II区, 床	
30	土師器	高杯	—	(9.2)	(5.2)	黒色処理	回転糸割	IV区	
31	須恵器	杯	—	(6.4)	(1.5)	口クロナデ	回転糸割	I区	
32	須恵器	杯	—	(7.2)	(2.0)	口クロナデ	回転糸割	床	
33	須恵器	有台杯	—	(7.6)	(1.6)	口クロナデ	回転糸割	I区	
34	須恵器	皿	(10.2)	(5.6)	2.9	施釉	回転糸割	I区	
35	須恵器	碗	—	—	—	施釉	回転糸割	II区	
36	土師器	小型口口口口	(6.4)	5.0	5.6	口クロナデ	回転糸割	II区, 床	
37	土師器	口口口口	(14.4)	8.0	14.6	口クロナデ	回転糸割	No27, No30	
38	土師器	口口口口	(17.8)	(11.9)	19.2	口クロナデ	回転糸割	No37, II区, III区, カマド	
39	土師器	小型口口口口	—	—	—	口クロナデ	破片糸割	覆土	
40	須恵器	裏(中変型)	—	—	—	ナケヌ	破片糸割	I区	
41	須恵器	裏	—	—	—	ナケヌ	破片糸割・拓本	床	
42	石器	砥石	(7.8)	(3.9)	2.5	122.66	平行状線面に磨痕液状文	完全糸割	床
43	石器	砥石	9.9	5.9	3.7	251.90	上部欠損, 砥面数4	No31	
44	石器	凹・磨石	9.1	(7.9)	6.0	598.03	—	No28	
45	石製品	石製模造品	(7.1)	(5.2)	(0.7)	(29.45)	—	完全糸割	覆土
46	石製品	白玉	1.3	1.3	0.7	(1.65)	一部欠損	No26	
47	石器	磨・敲石	5.6	5.2	4.3	160.77	質の武石, 黒曜石	完全糸割	床
48	石器	磨・敲石	12.3	5.6	3.2	421.22	覆土層	完全糸割	No16

第130表 H 92号第六建物出土遺物観察表(3)

No	器種	器形	法			重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		内面	外面			
49	石器	板石	12.4	5.0	2.2	236.16			完全未測	床	
50	石器	板石	30.2	23.2	8.4	7200.0	脱熱処理、上面中央に銀付着		完全未測	覆土	
51	石製品	石鏝	3.3	2.0	1.1	5.48	黒曜石		完全未測	I区	
52	鉄器	刀子	<7.8>	<1.1>	<0.3>	<5.57>			完全未測	No21	
53	鉄器	鉄鏝	<6.1>	<3.1>	<0.7>	<7.57>			完全未測	No39	
54	鉄器	鉄鏝	<8.3>	<2.5>	<0.7>	<15.82>			完全未測	No29	
55	鉄製品	不明	<4.0>	<0.8>	<0.3>	<3.69>			完全未測	No18	
56	銅製品	碗	<8.2>	<3.2>	<1.0>	<13.24>	銅碗を二次加工		完全未測	No32	

第131表 H 93号第六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法			重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		内面	外面			
1	土師器	碗	—	<10.0>	<3.8>	—	黒色処理	黒色処理	回転未測	皿区	
2	須恵器	杯	12.1	4.8	4.0	—	ロクロナ子	右回転糸切	完全未測	覆土	
3	須恵器	杯	14.0	5.4	4.0	—	ロクロナ子	右回転糸切	完全未測	I区、IV区	
4	須恵器	杯	—	6.2	<1.9>	—	ロクロナ子	右回転糸切	完全未測	覆土	
5	土師器	裏	15.0	—	<4.2>	—	ナ子	ケズリ	完全未測	No1	
6	土師器	裏	—	4.5	<2.3>	—	ナ子	ケズリ	完全未測	カマド	
7	土師器	楕圓	—	—	<12.2>	—	ナ子	ナ子	回転未測	No4	
8	須恵器	裏	39.6	—	<5.6>	—	ロクロナ子	ロクロナ子	回転未測	H95	
9	弥生土器	裏	—	—	—	—	穴縁文		破片未測・柱本	覆土	
10	鉄器	刀子	<10.1>	<1.0>	<0.3>	<6.10>	両端穴楕		完全未測	No5、カマド	

第132表 H 94号第六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法			重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)		内面	外面			
1	土師器	杯	13.3	5.9	4.1	—	黒色処理	回転糸切	完全未測	No6、I区	
2	土師器	杯	<14.5>	<6.3>	<5.1>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	皿区、カマド		
3	土師器	杯	<15.0>	—	<3.8>	—	ミガキ→黒色処理	黒書「仁」	回転未測	No13、I区	
4	土師器	杯	<15.0>	—	<4.3>	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナ子	回転未測	I区、IV区	
5	土師器	杯	—	—	—	—	ロクロナ子	刻書	覆土		
6	土師器	不明	—	—	—	—	ロクロナ子	刻書	破片未測	I区	
7	土師器	碗	<12.6>	<7.0>	<5.3>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台、ミガキ→黒色処理	完全未測	No6	
8	土師器	碗	<15.5>	—	<5.2>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全未測	皿区、EWベルト	
9	土師器	皿	<23.2>	—	<4.8>	—	ミガキ→黒色処理	黒書「加」	回転未測	IV区、SNベルト	
10	土師器	皿	<12.7>	—	<2.4>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全未測	No7	
11	土師器	皿	<13.3>	<6.3>	<3.3>	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全未測	EWベルト	
12	須恵器	杯	12.7	5.9	3.8	—	ミガキ	回転糸切	完全未測	IV区	
13	須恵器	杯	<13.3>	5.9	4.6	—	ロクロナ子	回転糸切	完全未測	皿区、皿区、EWベルト	
14	須恵器	杯	<14.0>	5.8	4.3	—	ロクロナ子	回転糸切	完全未測	I区、IV区	
15	須恵器	杯	14.2	6.6	4.2	—	ロクロナ子	回転糸切	完全未測	皿区	

第 133 表 H 94 号野穴遺物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
16	須臾器	杯	—	(14.9)	—	—	場巻	回転炭素	Ⅲ区
17	須臾器	杯蓋	—	(1.2)	—	—	つまみ取付	完全炭素	No11
18	須臾器	杯蓋	—	(2.7)	—	—	回転ヘラケズリ、つまみ取付	回転炭素	Ⅱ区、Ⅳ区
19	土師器	口ケロナデ	(5.2)	(9.5)	—	—	ケズリ	破片炭素	No21、カマド
20	土師器	口ケロナデ	—	(16.9)	—	—	ケズリ	完全炭素	No8、Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区、Ⅴ区、Ⅵ区
21	土師器	口ケロナデ	—	(18.9)	—	—	ケズリ	回転炭素	Ⅳ区
22	土師器	武蔵蓋	(19.5)	(7.1)	—	—	ナデ	回転炭素	No25
23	土師器	口ケロナデ	(24.6)	(7.7)	—	—	ナデ	完全炭素	No19、26、Ⅲ区、カマド、EWベルト
24	土師器	口ケロナデ	—	4.6	(16.8)	—	ケズリ	完全炭素	Ⅰ区
25	土師器	口ケロナデ	—	6.3	(3.5)	—	回転炭素	回転炭素	Ⅳ区
26	土師器	瓶	—	(4.4)	(3.5)	—	ケズリ	回転炭素	Ⅰ区
27	須臾器	裏	(56.6)	—	(16.5)	—	底面炭化文、扇走化粧文	回転炭素	Ⅱ区、Ⅴ区
28	須臾器	裏	(18.8)	(7.3)	—	—	底面一周縁ヘラケズリ、ミゾキ	回転炭素	No6、SNベルト
29	須臾器	凸部文付四耳蓋	—	(11.5)	(2.6)	—	口ケロナデ	回転炭素	Ⅱ区
30	須臾器	皿	—	(7.7)	(1.9)	—	口ケロナデ、転用履	回転炭素	No20
31	須臾器	皿	—	—	—	—	縁輪	回転炭素	No17
32	弥生土器	甕	—	—	—	—	Li(2) 器糸車輪絡条体	破片炭素・拓本	Ⅰ区
33	弥生土器	甕	—	—	—	—	Li(2) 器糸車輪絡条体	破片炭素・拓本	Ⅲ区
34	弥生土器	甕	—	—	—	—	化粧文、H33-12と接合、H107-22と同一個体	破片炭素・拓本	Ⅱ区
35	石器	扁物石	10.1	6.1	1.9	134.1	同様に決り	完全炭素	No5
36	石器	角打	(6.7)	(1.2)	(0.3)	(8.68)	同部、先端欠損	完全炭素	No4
37	鉄製品	角打	(5.3)	(0.5)	(0.35)	(8.65)	先端部欠損	完全炭素	No4

第 134 表 H 95 号野穴遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	—	(8.8)	(3.2)	—	黒色処理	回転炭素	N区
2	須臾器	杯	—	(6.0)	(2.6)	—	口ケロナデ	右回転糸切	回転炭素
3	須臾器	杯	—	—	—	—	口ケロナデ	墨書	破片炭素
4	須臾器	杯蓋	—	(2.8)	—	—	口ケロナデ	回転ヘラケズリ	完全炭素
5	土師器	裏	(20.2)	—	(11.5)	—	ハケメ	ケズリ	回転炭素
6	土師器	裏	(20.2)	—	(12.0)	—	ナデ	ケズリ	回転炭素
7	土師器	裏	(20.6)	—	(9.3)	—	ナデ	ケズリ	回転炭素
8	土師器	裏	(18.0)	—	(6.0)	—	ミゾキ	ナデ	回転炭素
9	土師器	甕	(22.4)	—	(8.1)	—	ハケメ、ミゾキ	ケズリ	回転炭素
10	土師器	甕	—	4.8	(2.7)	—	刺落	ナデ、孔φ2.5	完全炭素
11	須臾器	裏	—	—	—	—	当具痕→ナデ	完全炭素	破片炭素・拓本
12	須臾器	裏	—	—	—	—	当具痕→ナデ	完全炭素	破片炭素・拓本
13	弥生土器	裏	—	—	—	—	Li(2) 器糸車輪絡条体	破片炭素・拓本	Ⅱ区
14	石製品	磨石	1.3	1.4	0.8	2.13	滑石、孔φ0.25	完全炭素	Ⅱ区
15	石器	磨石	(10.6)	(4.8)	(2.8)	(128.0)	下部裏面欠損	完全炭素	Ⅱ区

第135表 H 96号影六遺物出土遺物調査表

No	器種	形状	法		成形調整		外面	備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等			
1	土師器	碗	(12.8)	—	(4.5)	—	ロクロナデ	回転式調	No10
2	須恵器	有台杯	—	(1.4)	—	—	回転糸切→付蓋台	回転式調	No6
3	須恵器	裏	(18.8)	—	(7.6)	—	平行四角→ロクロナデ	回転式調	No5
4	須恵器	裏	—	—	—	当兵痕→ナデ	平行四角	破片実測・拓本	No9
5	灰釉陶器	長頸壺	—	—	(6.8)	—	筒袖	回転式調	No2

第136表 H 97号影六遺物出土遺物調査表

No	器種	形状	法		成形調整		外面	備考	出土部位	
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等				
1	土師器	杯	10.6	—	10.9	5.2	ミガキ	完全式調	覆土	
2	土師器	有段口縁杯	12.4	—	13.3	7.6	ケズリ	完全式調	カマド	
3	土師器	高杯	—	—	(5.1)	—	ミガキ、透かし有	破片実測	覆土	
4	須恵器	杯	13.1	—	5.2	3.5	火障	完全式調	覆土	
5	須恵器	杯	(13.5)	—	(4.0)	—	ロクロナデ	右回転糸切、火障	No1	
6	須恵器	杯	(13.6)	—	5.8	(2.8)	ロクロナデ	右回転糸切、壺蓋「仁」	回転式調	床
7	須恵器	杯	(14.2)	—	(3.7)	—	ロクロナデ	壺蓋「仁」	回転式調	床
8	土師器	裏	(12.8)	—	(8.8)	—	ナデ	器面割落	カマド	
9	土師器	武段裏	—	—	4.6	(2.9)	ナデ	ケズリ	完全式調	No3、カマド
10	土師器	皿	—	—	(5.8)	(2.8)	ナデ	ケズリ、孔φ(3.4)	回転式調	覆土

第137表 H 98号影六遺物出土遺物調査表

No	器種	形状	法		成形調整		外面	備考	出土部位	
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等				
1	土師器	杯	—	(6.2)	(2.0)	—	ミガキ	回転式調	覆土	
2	須恵器	杯	14.0	—	6.0	4.1	ロクロナデ	右回転糸切、底唇～周縁へケズリ	覆土	
3	須恵器	杯	14.4	—	6.2	3.9	ロクロナデ	右回転糸切、壺蓋「仁」	No1	
4	須恵器	杯蓋	—	—	(1.6)	—	ロクロナデ	回転式調	覆土	
5	土師器	裏	—	—	11.0	(5.3)	ナデ	つまみ貼付	覆土	
6	土師器	裏	—	—	(3.9)	—	ナデ	ミガキ、木炭痕	回転式調・拓本	覆土
7	土師器	裏	—	—	8.0	(4.5)	器面割落	ミガキ	回転式調	覆土
8	赤土土器	裏	—	—	—	—	Lr(2) 器面割落	磨耗	回転式調	覆土
							Lr(2) 黒赤黒輪格茶鉢		破片実測・拓本	覆土

第138表 H 99号影六遺物出土遺物調査表

No	器種	形状	法		成形調整		外面	備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等			
1	土師器	杯	—	—	5.0	(1.5)	—	完全式調	覆土
2	土師器	碗	14.8	—	7.4	5.2	ミガキ→黒色処理	完全式調	覆土
3	緑釉陶器	裏	—	—	—	—	回転糸切→付蓋台	破片実測	覆土
4	須恵器	裏	—	—	—	—	ロクロナデ、筒袖	破片実測	覆土
5	赤土土器	裏	—	—	—	—	当兵痕	破片実測・拓本	覆土
6	赤土土器	裏	—	—	—	—	Lr(2) 黒赤黒輪格茶鉢	破片実測・拓本	覆土
7	赤土土器	裏	—	—	—	—	Lr(2) 黒赤黒輪格茶鉢	破片実測・拓本	覆土

第 139 表 H 100 野野六建物出土遺物調査表

No	器種	形状	法			量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	环	12.1	5.0	3.6	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	完全灰洲		カマド		
2	土師器	环	12.3	5.2	3.6	—	黒色処理	右回転糸切	完全灰洲		No2		
3	土師器	环	12.3	6.4	3.6	—	暗文→黒色処理	回転糸切、帯書、煤付着	完全灰洲		No9		
4	土師器	环	(12.4)	5.7	3.2	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全灰洲		No13、カマド		
5	土師器	环	12.6	5.2	3.5	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全灰洲		覆土		
6	土師器	环	12.6	5.4	3.6	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全灰洲		No7		
7	土師器	环	—	5.8	(2.9)	—	暗文→黒色処理	回転糸切、煤付着	完全灰洲		S 側		
8	土師器	碗	14.4	8.1	5.0	—	黒色処理	回転糸切→付高台	完全灰洲		No10		
9	土師器	碗	15.3	8.5	5.5	—	黒色処理	回転糸切→付高台	完全灰洲		No1		
10	土師器	碗	(15.0)	—	(4.7)	—	ミガネ	付高台	回転灰洲		N 側		
11	土師器	碗	—	(7.4)	(1.9)	—	ミガネ→黒色処理	付高台	回転灰洲		覆土		
12	土師器	皿	(17.8)	(5.0)	3.1	—	暗文→黒色処理	回転糸切、周縁回転ヘラケズリ	完全灰洲		H95		
13	土師器	高杯	—	(11.1)	(7.6)	—	ナデ	ミガネ	完全灰洲		H99E 側		
14	須恵器	环	(17.8)	—	(5.8)	—	ロクロナデ	回転糸切、火罨	回転灰洲		カマド、S 側		
15	板陶器	碗	(21.2)	—	(5.7)	—	筋輪	回転ヘラケズリ、筋輪	回転灰洲		カマド、M7		
16	土師器	口付口蓋	—	—	(15.4)	—	当具部→ナデ	ケズリ	回転灰洲		カマド		
17	土師器	壺	(14.4)	(12.0)	(21.9)	—	当具部→ナデ	底部→周縁ヘラケズリ、平行四辺	回転灰洲		覆土		
18	赤土器	壺	—	—	—	—	口内部分刻目、条痕	—	破片灰洲・拓本		覆土		
19	赤土器	壺	—	—	—	—	条痕	—	破片灰洲・拓本		覆土		

第 140 表 H 101 野野六建物出土遺物調査表

No	器種	形状	法			量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考				
1	土師器	环	(12.6)	5.3	3.9	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全灰洲		IV区		
2	土師器	环	(12.6)	(6.2)	3.1	—	ミガネ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全灰洲		IV区		
3	土師器	环	—	6.0	(1.7)	—	黒色処理	右回転糸切	完全灰洲		IV区		
4	須恵器	环	(9.6)	—	(4.2)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転灰洲・拓本		II区		
5	須恵器	环	12.8	6.2	3.5	—	火罨	右回転糸切、火罨	完全灰洲		No5		
6	須恵器	有台杯	(14.5)	7.2	5.6	—	火罨	—	完全灰洲		I区		
7	須恵器	环	—	5.9	(2.1)	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全灰洲		No4、I区、II区		
8	須恵器	环	(18.2)	—	(1.3)	—	ロクロナデ	ケズリ	完全灰洲		No6		
9	土師器	裏	(10.4)	4.9	8.5	—	ナデ	ケズリ	完全灰洲		No6、H99		
10	土師器	裏	(13.2)	—	(5.6)	—	ナデ	ケズリ	完全灰洲		No6、H99		
11	土師器	裏	(19.2)	—	(9.2)	—	ナデ	ケズリ	回転灰洲		I区、M7		
12	土師器	裏	(22.2)	—	(8.6)	—	ナデ	ナデ	回転灰洲		No12、II区、H98、M7		
13	土師器	裏	—	3.1	(7.6)	—	ナデ	ナデ	完全灰洲		No2、I区		
14	土師器	壺	—	(4.6)	(5.2)	—	ナデ	ケズリ	完全灰洲		No7		
15	土師器	壺	—	4.5	(5.3)	—	ナデ	底部→周縁ヘラケズリ	完全灰洲		覆土		
16	須恵器	壺	(6.6)	—	(2.8)	—	ロクロナデ	—	完全灰洲		II区		
17	赤土器	裏	—	—	—	—	波打口縁、液面部に黒り	ロクロナデ	完全灰洲		破片灰洲・拓本		
18	石製	砥石	(7.3)	(6.3)	(2.36)	—	(236.5) 上面外れた後も砥石として使用、使用面 5	—	完全灰洲		I区、II区		
19	石製品	石製製造品	(5.2)	(3.0)	(0.6)	(1.1)	未製品	—	完全灰洲		II区		
20	鉄器	刀予	(16.0)	(1.6)	(0.4)	(14.4)	側に木質残存	—	完全灰洲		No13		

第 141 表 H 102 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	外面		
1	土師器	杯	9.4	6.2	2.3	—	右回転糸切	完全実測	No1
2	土師器	杯	—	(5.4)	(1.9)	—	回転糸切	回転実測	Ⅳ区
3	土師器	杯	—	8.0	(3.0)	—	底部→周縁ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区
4	須恵器	杯	14.0	7.0	4.0	—	火押	回転実測	Ⅱ区
5	須恵器	杯	—	7.4	(1.9)	—	ロクロナデ	回転実測	Ⅰ区
6	須恵器	罎	—	—	(8.9)	—	ロクロナデ	Ⅳ区	Ⅳ区
7	須生土器	罎	—	—	—	—	口脣割目	破片実測・拓本	ベソト
8	須生土器	罎	—	—	—	—	L1(2) 懸糸車輪格条体	破片実測・拓本	Ⅰ区
9	須生土器	罎	—	—	—	—	L1(2) 懸糸車輪格条体	破片実測・拓本	Ⅳ区
10	須生土器	罎	—	—	—	—	L1(2) 懸糸車輪格条体	破片実測・拓本	Ⅳ区
11	須生土器	罎	—	—	—	—	中前後半粟林式、脚面段状文、重下文	破片実測・拓本	Ⅳ区
12	須生土器	罎	—	—	—	—	L1(2) 懸糸車輪格条体	完全実測	No2
13	石器	砥石	(7.5)	(6.1)	(6.0)	(355.54)	上下欠損、砥面数4、正面に砥石の使用痕	完全実測	No3
14	鉄器	匙頭	(8.4)	(0.7)	(0.5)	(5.93)	両端欠損	完全実測	No4
15	鉄製品	鋭具	5.1	4.3	0.7	23.78	断面跡あり	完全実測	覆土
16	灰製品	不明	3.7	3.1	0.3	6.35	—	完全実測	Ⅳ区

第 142 表 H103 号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	外面		
1	土師器	北式罐型杯	(13.9)	—	(3.8)	—	ケズリ	回転実測	カマド
2	土師器	畿内系陶文杯	16.4	—	(4.1)	—	ケズリ	回転実測	Ⅰ区、Ⅱ区
3	土師器	畿内系陶文杯	—	—	—	—	ケズリ	破片実測	床
4	土師器	杯	—	—	—	—	ケズリ、ミガキ	破片実測	床
5	土師器	杯	(13.5)	(6.8)	(3.9)	—	黒色処理	破片実測	カマド内
6	須恵器	杯	(13.8)	(6.7)	(3.8)	—	回転糸切、火押	完全実測	Ⅳ区、ベルト
7	須恵器	杯	(13.8)	(8.4)	(3.8)	—	回転糸切、火押	回転実測	床
8	須恵器	杯	(13.9)	(8.4)	(4.3)	—	回転ヘラ切	回転実測	覆土
9	須恵器	杯	(14.0)	(8.0)	(3.9)	—	回転ヘラ切、火押	回転実測	床
10	須恵器	杯	14.1	6.4	3.8	—	回転ヘラ切	完全実測	覆土
11	須恵器	杯	(6.7)	(1.0)	(6.7)	—	回転糸切	完全実測	No5
12	須恵器	杯	—	7.0	(2.7)	—	回転糸切、火押	完全実測	覆土
13	須恵器	杯	—	(8.0)	(1.0)	—	回転ヘラ切、火押	回転実測	Ⅱ区
14	須恵器	杯	—	—	—	—	回転ヘラ切、割目	破片実測	カマド
15	須恵器	有台杯	(14.3)	(8.7)	(4.8)	—	有高台	回転実測	床
16	須恵器	杯	(13.9)	—	(2.0)	—	天井部回転ヘラケズリ	回転実測	床
17	須恵器	杯蓋	(14.5)	—	(3.3)	—	天井部回転ヘラケズリ、つまみ取付、黒書	完全実測	No7
18	須恵器	杯蓋	(15.9)	—	(2.4)	—	天井部回転ヘラケズリ、火押	回転実測	覆土
19	須恵器	杯蓋	16.7	—	3.3	—	天井部回転ヘラケズリ、つまみ取付	完全実測	No8
20	須恵器	杯蓋	(10.7)	—	(1.9)	—	無軸	回転実測	Ⅱ区

第143表 H103号第六層出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	口径(長)底径(短)幅高(厚)	重量等	内面	外面	成形調整	備考	出土層位
22	灰陶磁器	碗 or 皿	—	(7.2)	(1.3)	—	付高台	回転美調	Ⅱ区
23	青磁	碗	—	—	—	施地	—	破片美調	Ⅱ区
24	土師器	裏	(13.5)	—	(6.1)	ナテ	ケズリ	完全美調	No4
25	土師器	武蔵裏	(21.0)	(5.3)	(26.0)	ナテ	ケズリ	完全美調	No6, 床, カマド内
26	土師器	武蔵裏	(21.6)	—	(8.8)	ナテ	ケズリ	回転美調	カマド内
27	土師器	武蔵裏	—	(5.2)	(4.8)	ナテ	ケズリ	回転美調	Ⅱ区
28	土師器	武蔵裏	—	(7.0)	(5.7)	ナテ	ケズリ	回転美調	Ⅱ区
29	須恵器	裏	(21.2)	—	(4.0)	ロクロナテ	ロクロナテ	回転美調	カマド
30	須恵器	裏	—	—	(7.5)	—	ロクロナテ	回転美調	Ⅱ区
31	須恵器	裏	—	—	—	—	平首四目	破片美調・拓本	Ⅱ区
32	赤土器	鉢	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
33	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
34	赤土器	裏	—	—	—	口唇部に沈線, 刻目	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
35	赤土器	鉢	—	—	—	沈線文, 口唇部に沈線文	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
36	赤土器	裏	—	—	—	口唇部に刻目, R1(2) 黒赤, 赤彩	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
37	赤土器	裏	—	—	—	口唇部に刻目?	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
38	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
39	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
40	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
41	赤土器	裏	—	—	—	条痕文	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
42	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
43	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
44	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
45	赤土器	裏	—	—	—	R1(2) 黒赤車輪格条体	—	破片美調・拓本	Ⅱ区
46	石器	打製石斧	(7.0)	(6.6)	(2.0)	(111.0)	基部欠損, 刃部に磨減痕	完全美調	Ⅱ区
47	石器	打製石斧	(5.3)	(4.9)	(1.2)	(49.0)	下部欠損, 使用痕有り	完全美調	Ⅱ区
48	石器	打製石	—	—	—	—	—	完全美調	Ⅱ区
49	石器	素材	3.8	2.6	0.8	8.0	石製物品の素材	完全美調	Ⅱ区
50	石器	刀子	(4.1)	(0.9)	(0.3)	(2.82)	両端欠損	完全美調	Ⅱ区
51	石器	刀子	(7.9)	(1.0)	(0.4)	(7.44)	両端欠損, 木質残る	完全美調	Ⅱ区
52	石器	刀子	(3.9)	(1.0)	(0.3)	(2.73)	両端欠損, 同一個体	完全美調	Ⅱ区
53	石器	刀子	(3.6)	(0.8)	(0.25)	(1.51)	両端欠損, 同一個体	完全美調	Ⅱ区

第144表 H104号第六層出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	口径(長)底径(短)幅高(厚)	重量等	内面	外面	成形調整	備考	出土層位
1	土師器	杯	(11.8)	4.3	3.5	—	ロクロナテ	完全美調	Ⅱ区, カマド
2	土師器	杯	(11.8)	5.5	3.7	—	右回転系切	完全美調	Ⅱ区, 床
3	土師器	杯	(12.2)	5.4	3.7	—	胎文付へろ描文字「令」→黒色処理	回転美調	No7
4	土師器	杯	(12.2)	6.2	(3.4)	—	右回転系切	回転美調	Ⅲ区
5	土師器	杯	12.3	6.0	3.8	—	右回転系切	完全美調	No2

第 145 表 H104 号影六建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	測定法		重量等	成形調整			出土部位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面	備考	
6	土師器	杯	(12.4)	5.8	3.7	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	床
7	土師器	杯	(12.8)	5.7	4.2	ミガキ→黒色処理	回転糸切	完全表割	I区、カマド、H25
8	土師器	杯	(13.0)	6.0	(4.1)	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	回転表割	No9、IV区
9	土師器	杯	(6.0)	(6.0)	(21.0)	ミガキ→黒色処理	素書	回転表割	I区、II区
10	土師器	杯	—	—	—	暗文→黒色処理	素書	破片表割	II区
11	土師器	碗	—	6.4	(3.6)	暗文→黒色処理	付高台	完全表割	No6
12	土師器	碗	—	7.2	(2.8)	ミガキ→黒色処理	回転ヘラケズリ→付高台	完全表割	No4
13	土師器	碗	—	7.8	(2.4)	ミガキ→暗文→黒色処理	付高台	完全表割	No5、H47
14	土師器	碗	—	8.6	(2.8)	ナデ	回転ヘラケズリ→付高台	完全表割	III区
15	須恵器	右台杯	—	(11.8)	(1.7)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転表割	覆土
16	灰釉陶器	碗	(16.0)	—	(3.8)	施釉	施釉	完全表割	IV区
17	灰釉陶器	碗	—	8.2	(2.4)	施釉	施釉	完全表割	No1
18	灰釉陶器	碗	(8.4)	—	(2.0)	施釉	施釉	回転表割	II区
19	土師器	ロクロ口裏	(21.2)	—	(9.1)	ナデ	ナデ	回転表割	III区、H105
20	土師器	ロクロ口裏	—	9.3	(2.8)	ハケメ	ナデ	完全表割	No3、II区
21	須恵器	壺	—	—	—	当目取→ナデ	平行目目	破片表割・拵本	IV区
22	須恵器	壺	—	8.9	(3.5)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	完全表割	カマド
23	灰釉陶器	壺	—	(13.2)	(13.0)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台、下半部回転ヘラケズリ	回転表割	床

第 146 表 H105 号影六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	測定法		重量等	成形調整			出土部位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面	備考	
1	土師器	杯	11.1	5.9	3.9	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No5
2	土師器	杯	11.1	6.1	4.0	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	覆土
3	土師器	杯	11.5	5.8	4.0	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No9
4	土師器	杯	11.5	6.2	4.0	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	覆土
5	土師器	杯	11.8	6.2	3.9	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No27
6	土師器	杯	12.0	5.0	2.6	ロクロナデ	回転糸切	回転表割	No20
7	土師器	杯	15.6	7.4	4.6	ミガキ→黒色処理	ヘラケズリ	完全表割	No2
8	土師器	碗	11.9	6.8	5.8	ナデ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全表割	H25
9	土師器	碗	(13.6)	—	(4.1)	ロクロナデ	回転糸切、高台穴掘	完全表割	No8
10	土師器	碗	14.1	(7.2)	5.2	ナデ→黒色処理	高台穴掘	完全表割	覆土
11	土師器	碗	14.2	—	(4.9)	ナデ→黒色処理	高台穴掘、素書「？」	完全表割	No17
12	土師器	碗	(14.4)	7.9	6.2	ナデ	回転糸切→付高台	完全表割	H26
13	土師器	碗	(15.1)	(7.8)	6.1	ロクロナデ	回転糸切→付高台	完全表割	No1
14	土師器	碗	—	7.9	(2.0)	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全表割	覆土
15	須恵器	杯	(13.8)	6.5	3.8	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No3
16	灰釉陶器	碗	(13.2)	6.8	4.5	施釉	回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉	回転表割	覆土
17	灰釉陶器	碗	(16.6)	7.8	5.7	施釉	回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉	完全表割	No6
18	灰釉陶器	皿	11.8	5.3	2.2	施釉	右回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉	完全表割	No4
19	灰釉陶器	皿	14.2	6.7	3.5	施釉	右回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台、施釉、輪花	完全表割	覆土

第146表 H105号第六建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法	口径(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	成形調整	備考	出土層位
20	土師器	罍	法	(11.0)	(6.6)	<12.5>	ナデ	ハケメ	ハケメ	回転皮剥	No3, No22, カマド
21	土師器	罍	法	(16.4)	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転皮剥	No11
22	須恵器	罍	—	—	—	—	当具痕	—	—	破片皮剥・粘土	覆土
23	須恵器	罍	—	—	8.3	<7.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	平行叩目	回転皮剥	覆土
24	須恵器	罍	—	—	(4.4)	(5.5)	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転皮剥	覆土
25	須恵器	罍	—	—	(1.1)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	回転皮剥	覆土
26	灰輪陶器	罍	—	—	8.3	<7.0>	ロクロナデ	回転ヘラケズリ・付高台・輪軸	回転ヘラケズリ・付高台・輪軸	回転皮剥	覆土
27	灰輪陶器	罍	—	—	(8.8)	<10.1>	ロクロナデ	—	—	回転皮剥	No12
28	石器	磨・砥石	法	7.8	6.4	3.8	236.5 断面1・縁刃に鋭打痕	—	—	完全皮剥	覆土
29	石器	磨・砥石	法	(8.6)	(10.8)	(4.3)	(478.0) 上部欠損・断面2・端部に鋭打痕	—	—	完全皮剥	覆土
30	石器	石核	法	(4.2)	(7.6)	(2.1)	(63.2) 頁岩・下部欠損	—	—	完全皮剥	覆土

第147表 H106号第六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	口径(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	成形調整	備考	出土層位
1	土師器	畿内系陶文杯	法	(14.6)	(7.8)	<4.1>	放射暗文	ケズリ	ケズリ	回転皮剥	カマド
2	土師器	畿内系陶文杯	—	—	—	—	暗文(放射・螺旋)	ケズリ	ケズリ	破片皮剥	覆土
3	土師器	武蔵罍	法	(23.2)	—	<11.6>	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転皮剥	カマド・H57
4	土師器	武蔵罍	法	(25.0)	—	<8.7>	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転皮剥	No1
5	土師器	罍	—	—	6.9	(5.4)	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全皮剥	覆土
6	土師器	罍	—	—	9.0	<1.2>	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全皮剥	覆土
7	須恵器	罍	—	—	(12.8)	<13.0>	ナデ	平行叩目	平行叩目	回転皮剥	No4
8	須恵器	罍	—	—	—	—	当具痕	—	—	破片皮剥・粘土	覆土
9	弥生土器	磨石	法	—	—	—	波面部円縁	—	—	破片皮剥・粘土	覆土
10	石器	磨石	法	(5.7)	(2.4)	<2.5.0>	(25.0) 下部欠損・全体に磨痕	—	—	完全皮剥	覆土

第148表 H107号第六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法	口径(長)底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	成形調整	備考	出土層位
1	土師器	杯	法	(11.4)	(4.5)	4.0	—	—	—	回転皮剥	Ⅱ区
2	土師器	杯	法	(12.0)	(5.1)	3.7	暗文→黒色処理	右回転糸切	右回転糸切	完全皮剥	No9, SN・ヘルト
3	土師器	杯	法	(12.0)	(5.5)	3.6	暗文→黒色処理	右回転糸切	右回転糸切	完全皮剥	No10, Ⅱ区
4	土師器	杯	法	(12.2)	(4.9)	3.5	ミガキ→端文→黒色処理	右回転糸切	右回転糸切	完全皮剥	Ⅱ区, SN・ヘルト
5	土師器	杯	法	(12.3)	(5.5)	3.8	ロクロナデ	—	—	完全皮剥	床
6	土師器	杯	法	(12.4)	(6.1)	3.4	ロクロナデ	—	—	完全皮剥	N土坑
7	土師器	杯	法	(12.5)	(5.1)	4.2	ロクロナデ	—	—	完全皮剥	No2, Ⅳ区
8	土師器	杯	法	(12.6)	(6.0)	3.9	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	右回転糸切	完全皮剥	Ⅱ区
9	土師器	杯	法	(13.0)	(6.6)	4.7	黒色処理	右回転糸切	右回転糸切	完全皮剥	Ⅰ区, Ⅳ区
10	土師器	杯	法	—	4.5	(1.5)	ロクロナデ	—	—	完全皮剥	Ⅱ区
11	土師器	杯	法	—	6.5	(2.2)	ロクロナデ→黒色処理	右回転糸切	右回転糸切	完全皮剥	破片皮剥・粘土
12	土師器	杯	法	—	—	—	ロクロナデ	—	—	破片皮剥	Ⅲ区

第 148 表 H107 号影穴遺物出土遺物調査表 (2)

No	器種	器形	量		成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	内 面	外 面		
13	土師器	杯	—	—	—	—	—	—
14	土師器	碗	14.2	(5.1)	黒色処理→ナデ	黒色	破片残留	SN ベルト
15	土師器	碗	15.6	8.3	ナデ→黒色処理	付高台、書書	完全表割	No13、N 十坑
16	土師器	碗	—	6.5	ミガキ→黒色処理	付高台	完全表割	S 十坑、N 十坑
17	土師器	碗	—	7.5	ミガキ→黒色処理	付高台	完全表割	No19
18	土師器	碗	(16.4)	(8.8)	—	付高台→橋脚(つけがけ)	完全表割	N 十坑
19	土師器	口付口裏	—	(6.0)	ナデ	付高台→橋脚(つけがけ)	完全表割	II 区、SN ベルト
20	須恵器	壺	—	(12.6)	ロクロナデ	ケズリ→付高台	完全表割	IV 区
21	須恵器	壺	—	—	—	—	完全表割	No10
22	赤土土器	壺	—	—	祝麻文、H33.12、H94.34 と同一個体	—	破片残留・拓本	SN ベルト、III 区
23	赤土土器	壺	—	—	ハナズ、ミガキ、書文1IR2)、顔色沈滞、染林式	—	破片残留・拓本	I 区
24	鉄器	刀子	<10.8>	<1.3>	<12.55> 両面欠損	—	完全表割	No6
25	鉄器	刀子	<11.0>	<1.7>	<14.42> 両面欠損	—	完全表割	No8
26	鉄製品	不明	5.2	3.3	12.68 板状の突起	—	完全表割	No1

第 149 表 H108 号影穴遺物出土遺物調査表 (1)

No	器種	器形	量		成 形、調 整		備 考	出土層位	
			口径(長)底径(短)	器高(厚)	内 面	外 面			
1	土師器	杯	(11.2)	(5.4)	ナデ	—	—	—	
2	土師器	杯	(11.3)	5.0	3.3	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	破土
3	土師器	杯	11.4	5.2	3.3	煤付器	右回転糸切	完全表割	破土
4	土師器	杯	11.9	4.4	3.7	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No19
5	土師器	杯	(11.9)	5.2	3.7	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	破土
6	土師器	杯	(12.0)	(5.4)	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全表割	III 区
7	土師器	杯	(12.0)	(6.0)	3.5	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全表割	No14、IV 区
8	土師器	杯	(12.0)	—	(2.6)	ナデ	右回転糸切	完全表割	III 区
9	土師器	杯	12.1	5.1	2.9	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	III 区
10	土師器	杯	12.1	5.4	3.3	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	床
11	土師器	杯	(12.3)	5.9	3.4	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No8、床
12	土師器	杯	12.3	6.7	3.4	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	I 区
13	土師器	杯	(12.4)	(5.4)	3.8	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No1
14	土師器	杯	12.5	5.7	3.9	黒色処理	右回転糸切	完全表割	No18
15	土師器	杯	12.7	5.4	4.3	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全表割	No6
16	土師器	杓状杯	12.7	5.5	3.3	黒色処理	右回転糸切、書書	完全表割	No3
17	土師器	杓状杯	13.0	6.0	3.3	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	破土
18	土師器	杓状杯	(13.0)	5.2	3.7	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No10、I 区
19	土師器	杓状杯	—	(6.9)	4.1	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	No7
20	土師器	杯	—	(8.0)	(3.9)	陶文→黒色処理	ケズリ	完全表割	No16
21	土師器	杯	—	—	—	ミガキ→黒色処理	—	完全表割	III 区
22	土師器	碗	(14.8)	6.2	5.4	ミガキ→黒色処理	—	完全表割	No9、No12
23	土師器	碗	(15.7)	7.6	4.9	—	—	完全表割	No21
24	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
25	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
26	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
27	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
28	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
29	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
30	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
31	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
32	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
33	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
34	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
35	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
36	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
37	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
38	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
39	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
40	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
41	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
42	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
43	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
44	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
45	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
46	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
47	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
48	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
49	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
50	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
51	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
52	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
53	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
54	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
55	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
56	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
57	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
58	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
59	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
60	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
61	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
62	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
63	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
64	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
65	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
66	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
67	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
68	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
69	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
70	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
71	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
72	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
73	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
74	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
75	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
76	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
77	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
78	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
79	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
80	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
81	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
82	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
83	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
84	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
85	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
86	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
87	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
88	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
89	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
90	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
91	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
92	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
93	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
94	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
95	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
96	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
97	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
98	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
99	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
100	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
101	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
102	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
103	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
104	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
105	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
106	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
107	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
108	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
109	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
110	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
111	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
112	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
113	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
114	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
115	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
116	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
117	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
118	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
119	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
120	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
121	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
122	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
123	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
124	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
125	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
126	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
127	土師器	碗	—	—	—	—	—	—	—
128	土師器	碗	—	—	—				

第150表 H108号第六遺物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	量			成形調整			出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面	備考	
24	鉢	鉢	(13.6)	(7.0)	3.8	飾輪	付高台、飾輪、輪花	No20	
25	土師器	口付口裏	—	(5.8)	—	当具痕→ナナ	下半部ケズリ	I区、カマド	
26	須恵器	裏	—	(21.6)	(6.4)	当具痕→ナナ	平行項目	I区	
27	須恵器	裏	—	—	—	当具痕→ナナ	平行項目	III区	
28	須恵器	裏	—	—	—	当具痕→ナナ	平行項目	No22	
29	須恵器	裏	—	—	—	当具痕→ナナ	平行項目	破片表側・柘本	
30	灰輪陶器	底	(12.1)	(7.2)	(16.9)	飾輪	回転糸切→付高台、飾輪	完全表側・柘本	
31	石製品	磨石	(12.1)	(7.5)	(1.2)	(146.3)	削切欠損、磨面1	No13、No17	

第151表 H109号第六遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	量			成形調整			出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面	備考	
1	土師器	環	(13.0)	(4.6)	3.3	暗文→黒色処理	回転糸切	III区	
2	土師器	環	—	(5.6)	(2.1)	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	III区	
3	土師器	環	—	(6.9)	(1.5)	ミガキ→黒色処理	回転糸切→ヘラケズリ	III区	
4	土師器	碗	—	(7.9)	(2.2)	ミガキ→黒色処理	付高台	No3	
5	土師器	碗	—	—	(2.6)	ロクロナナ	付高台	III区	
6	土師器	碗	—	(4.2)	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	III区	
7	須恵器	環	—	(5.4)	(2.5)	火押	ヘラケズリ、火押	No1	
8	須恵器	環	—	(8.0)	(3.1)	—	回転糸切、火押	III区	
9	須恵器	有台球	—	(10.6)	(2.7)	ロクロナナ	回転糸切→付高台	II区	
10	須恵器	蓋	—	—	(1.8)	回転(つけ外付)	回転ヘラケズリ→付高台、飾輪(つけ外付)	III区	
11	灰輪陶器	碗	—	(6.6)	(1.8)	飾輪(つけ外付)	回転ヘラケズリ→付高台	III区	
12	灰輪陶器	碗	—	(8.5)	(1.9)	—	回転ヘラケズリ→付高台	III区	
13	灰輪陶器	碗	—	—	—	飾輪	破片表側	III区	
14	灰輪陶器	碗	—	(9.0)	(1.7)	—	付高台→飾輪	III区	
15	土師器	ロク口裏	(11.3)	(5.0)	—	ロクロナナ	ロクロナナ	III区	
16	土師器	ロク口裏	(21.2)	(9.6)	—	ロクロナナ	ロクロナナ	III区、H111	
17	土師器	蓋	(14.9)	(6.4)	—	ナナ→ミガキ	ミガキ	No4	
18	須恵器	凸帯文付四耳蓋	—	—	—	ロクロナナ	凸帯、耳部付	III区	
19	須恵器	蓋	—	—	—	L12) 懸糸系軸絡糸体	—	III区	
20	鉄器	刀子	(6.7)	(2.0)	(0.3)	(9.6)	四角火押	IV区	
							完全表側	IV区	

第152表 H110号第六遺物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	量			成形調整			出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	内面	外面	備考	
1	土師器	環	11.6	6.0	3.9	—	回転糸切	完全表側	
2	土師器	環	(13.0)	(7.0)	3.4	ナナ→黒色処理	回転糸切	No5	
3	土師器	環	13.5	5.2	4.5	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全表側	
4	土師器	環	(15.0)	—	5.0	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	I区、H109、H111	
5	土師器	環	(15.6)	—	(5.0)	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	III区、H109、H111	
							完全表側	III区	

第153表 H112号窖穴遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(長)底径(短) 高さ(厚) 重量等	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	須臾器	坏	— 7.2 (2.5)	ロクロナデ	—	右回転糸切・火埴	回転製調	覆土
2	須臾器	坏	— 7.8 (1.2)	ロクロナデ・火埴	—	右回転糸切・火埴	完全製調	覆土
3	炊飯陶器	碗	(13.0)	—	—	—	—	—
4	炊飯陶器	碗	— 5.2 (2.8)	—	—	—	—	—
5	土師器	武蔵蓋	— 4.0 (6.8)	ナデ	—	付高台・施釉	回転製調	覆土
6	土師器	武蔵蓋	— 5.2 (3.1)	ナデ	—	ケズリ・底部にヘラ記号	回転製調	No1
7	鉄器	刀子	(5.4) (0.8) (0.2)	(3.4) 両端穴損	—	ケズリ	完全製調	覆土

第154表 H113号窖穴遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(長)底径(短) 高さ(厚) 重量等	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	— 5.0 (1.4)	ロクロナデ	—	黒書	回転製調	I区
2	土師器	坏	— 7.2 (2.8)	ミガキ牛→黒色処理	—	ヘラケズリ	完全製調	II区
3	土師器	坏	—	ミガキ牛→黒色処理	—	黒書	破片製調	I区
4	土師器	坏	—	ミガキ牛→黒色処理	—	黒書	破片製調	II区
5	土師器	坏	—	ロクロナデ	—	—	—	I区
6	土師器	碗	(6.6) (2.2)	ミガキ牛→黒色処理	—	回転糸切→付高台	回転製調	II区
7	土師器	碗	6.8 (2.3)	ロクロナデ	—	右回転糸切→付高台	完全製調	II区
8	土師器	碗	— 7.8 (3.9)	ロクロナデ	—	回転ヘラケズリ→付高台	回転製調	II区
9	須臾器	坏	12.6 5.8 3.8	火埴	—	火埴	回転製調	II区
10	炊飯陶器	碗	18.0 8.4 5.8	—	—	—	—	II区
11	炊飯陶器	碗	— 6.6 1.7	ロクロナデ	—	回転ヘラケズリ→付高台	—	覆土
12	炊飯陶器	碗	(7.0) (2.2)	—	—	—	—	—
13	炊飯陶器	碗 or 皿	(7.2) (1.9)	—	—	回転ヘラケズリ→付高台・施釉	回転製調	EWヘルト
14	土師器	片口鉢	21.4	ナデ	—	ナデ	回転製調	覆土
15	土師器	片	22.6	ナデ	—	ケズリ	回転製調	II区
16	土師器	十編	(16.2) (8.8)	ハケナデ	—	ヘラナデ	回転製調	II区
17	土師器	羽釜	—	ナデ	—	ナデ	破片製調	I区
18	土師器	羽釜	—	ナデ	—	ナデ	破片製調	カマド
19	須臾器	壺	—	ナデ	—	—	—	—
20	須臾器	壺	— 7.8 2.7	ロクロナデ	—	—	—	—
21	弥生土器	壺	—	—	—	—	—	—
22	弥生土器	鉢	—	—	—	—	—	—
23	弥生土器	罎	—	—	—	—	—	—
24	弥生土器	罎	—	—	—	—	—	—
25	弥生土器	鉢	—	—	—	—	—	—
26	弥生土器	罎	—	—	—	—	—	—
27	弥生土器	罎	— 6.2 (15.0)	ナデ	—	—	—	—
28	石製	砥石	(8.4) (5.5) (4.3) (325.0)	下部穴損	—	—	—	—
29	石製	打製石片	(7.1) (7.6) (2.3) (154.0)	上部穴損	—	—	—	—
30	石製	石鏝	(2.9)	4.3 先端穴損	—	—	—	—
31	鉄製品	角釘	5.4 0.5 0.3	3.38	—	—	—	—

第 155 表 H114 号第六遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	环	(13.7)	(6.3)	<4.4>	ロクロナデ	回転糸切	回転糸切	回転糸切	覆土
2	土師器	环	(14.0)	(6.2)	<4.3>	ミガキ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	No4
3	土師器	环	—	5.6	<1.9>	—	回転糸切	—	完全糸切	覆土
4	土師器	碗	(14.6)	—	<4.8>	ミガキ	轆轤	轆轤	回転糸切	覆土
5	土師器	碗	(14.8)	—	<4.9>	ロクロナデ	ナデ→付高台	ナデ→付高台	完全糸切	No3
6	土師器	碗	(15.3)	(7.2)	<5.4>	ミガキ→黒色処理	ナデ→付高台	付高台・轆轤	回転糸切	覆土
7	土師器	碗	—	(6.5)	<1.9>	ミガキ→黒色処理	—	ナデ→付高台	回転糸切	覆土
8	土師器	碗	—	(9.0)	<3.4>	—	—	—	完全糸切	No1
9	灰釉陶器	碗	—	7.1	<2.8>	轆轤(つけがけ)	轆轤(つけがけ)	付高台・轆轤(つけがけ)	完全糸切	覆土
10	土師器	片口鉢	—	—	—	ミガキ→黒色処理	—	—	回転糸切	覆土
11	土師器	武蔵裏	(13.0)	—	<3.7>	ナデ	平行四辺	平行四辺・カキメ	回転糸切	カマド
12	土師器	武蔵裏	(21.3)	—	<12.0>	ナデ	ナデ	—	回転糸切	覆土
13	須恵器	裏	—	—	—	—	—	—	回転糸切	カマド
14	須恵器	裏	—	—	—	当具組→ナデ	—	—	回転糸切	覆土
15	鉄器	刀子	<15.2>	1.5	<17.23>	一部欠損	—	—	完全糸切	II区
16	鉄製品	角釘	<10.3>	<0.6>	<8.75>	頭部欠損	—	—	完全糸切	覆土
17	鉄製品	角軸	<10.4>	<0.7>	<9.08>	上部欠損	—	—	完全糸切	覆土

第 156 表 H115 号第六遺物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(厚)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	环	(11.6)	—	<3.1>	ミガキ→黒色処理	—	—	回転糸切	覆土
2	土師器	环	(14.4)	(9.4)	(4.2)	ミガキ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	回転糸切	カマド
3	土師器	碗	—	7.0	<1.6>	ミガキ→黒色処理	付高台、ヘラケズリ	付高台、ヘラケズリ	完全糸切	カマド
4	須恵器	环	(12.9)	6.0	4.3	火押	右回転糸切	右回転糸切	完全糸切	カマド
5	須恵器	环	(13.2)	(6.0)	(3.7)	—	右回転糸切	右回転糸切	完全糸切	覆土
6	須恵器	环	(14.1)	7.2	3.6	—	—	—	完全糸切	II区
7	須恵器	環蓋	(13.6)	—	<2.4>	—	—	—	完全糸切	カマド、H113M区、H31床
8	土師器	武蔵裏	19.7	4.0	26.6	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全糸切	カマド、H31床
9	土師器	武蔵裏	19.7	—	(6.1)	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全糸切	M区、カマド
10	土師器	武蔵裏	20.3	4.2	26.8	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全糸切	覆土
11	土師器	武蔵裏	20.4	—	<22.9>	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全糸切	覆土
12	土師器	裏	—	4.8	(7.4)	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転糸切	覆土
13	土師器	武蔵裏	—	(5.2)	<16.0>	ナデ	ケズリ	ケズリ	回転糸切	覆土
14	土師器	武蔵裏	—	(6.2)	(7.1)	ハケメ	ケズリ	ケズリ	完全糸切	覆土
15	土師器	裏	—	7.2	(3.3)	ナデ	ケズリ	ケズリ	完全糸切	カマド
16	須恵器	裏	—	—	(8.7)	—	—	—	回転糸切	覆土
17	須恵器	裏	—	—	—	当具組→ナデ	平行四辺	平行四辺	回転糸切	覆土
18	灰釉陶器	皿	—	(9.8)	(4.2)	轆轤	轆轤	付高台→付高台・轆轤	回転糸切	覆土
19	弥生土器	裏	—	—	—	口唇部損傷(縄文原形?)	—	—	回転糸切	カマド
20	弥生土器	裏	—	—	—	条組文	—	—	回転糸切	覆土

第157表 H115号第六遺物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面		
21	弥生土器	甕	-	-	(6.7)	(3.8)	-	右回転糸切	完全美測	覆土
22	弥生土器	甕	-	-	(12.7)	(5.6)	-	右回転糸切・黒書	完全美測	覆土
23	弥生土器	甕	-	-	12.8	6.0	3.9	右回転糸切	完全美測	覆土
24	弥生土器	甕	-	-	(2.2)	(6.7)	(4.1)	右回転糸切	完全美測	覆土
25	弥生土器	甕	-	-	(2.6)	(5.8)	(4.1)	右回転糸切	完全美測	覆土
26	弥生土器	甕	-	-	(1.2)	(6.7)	(4.1)	右回転糸切	完全美測	覆土
27	弥生土器	甕	-	-	(1.3)	(7.8)	(1.3)	右回転糸切	完全美測	覆土
28	弥生土器	甕	-	-	(7.9)	(1.7)	-	右回転糸切	完全美測	覆土
29	弥生土器	甕	-	-	8.3	(1.3)	-	右回転糸切	完全美測	覆土
30	弥生土器	甕	-	-	(2.10)	-	(7.0)	ケズリ	回転美測	覆土
31	弥生土器	甕	-	-	-	-	(3.9)	ケズリ、台付	回転美測	覆土

第158表 H116号第六遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(1.2)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	覆土
2	土師器	坏	12.8	6.0	3.9	-	-	右回転糸切	完全美測	覆土
3	土師器	坏	(2.2)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	覆土
4	土師器	碗 or 皿	-	-	(7.8)	(1.3)	-	右回転糸切	完全美測	覆土
5	土師器	碗 or 皿	-	-	(7.9)	(1.7)	-	右回転糸切	完全美測	覆土
6	土師器	碗 or 皿	-	-	8.3	(1.3)	-	右回転糸切	完全美測	覆土
7	土師器	甕	(2.10)	-	(7.0)	-	-	ケズリ	回転美測	覆土
8	土師器	甕	-	-	-	-	(3.9)	ケズリ、台付	回転美測	覆土
9	土師器	把手	6.0	1.1	1.1	-	-	ケズリ	完全美測	覆土

第159表 H117号第六遺物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等	内面	外面		
1	土師器	坏	(1.2)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	回転美測	カマド
2	土師器	坏	(2.6)	(5.8)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	カマド
3	土師器	坏	(1.2)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	No7
4	土師器	坏	(1.3)	(7.8)	(1.3)	-	-	右回転糸切	完全美測	No2
5	土師器	坏	13.1	6.6	4.1	-	-	右回転糸切・黒書「左」	完全美測	No27
6	土師器	坏	(1.3)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	E側
7	土師器	坏	(1.3)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	カマド、E側
8	土師器	坏	(1.3)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	No17
9	土師器	坏	(1.3)	(6.7)	(4.1)	-	-	右回転糸切	完全美測	カマド
10	土師器	坏	(1.4)	(7.0)	(4.4)	-	-	右回転糸切	完全美測	No15
11	土師器	坏	(1.4)	(7.0)	(4.4)	-	-	右回転糸切→ケズリ	完全美測	No26、カマド
12	土師器	坏	(1.4)	(7.0)	(4.4)	-	-	右回転糸切→ケズリ	完全美測	No8
13	土師器	坏	(1.6)	(6.5)	3.9	-	-	右回転糸切	完全美測	No11

第 160 表 H117 号影六遺物出土遺物調査表 (2)

No	器種	器形	法	口径(長)底径(短)脚高(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
14	土鈴器	杯	—	(6.8)	(3.4)	ロクロナデ	回転糸切	回転糸割	カマド
15	土鈴器	杯	—	(6.8)	(2.7)	暗文→黒色処理	動止糸切	回転糸割	カマド
16	土鈴器	杯	—	(7.4)	(3.2)	暗文→黒色処理	回転糸切	回転糸割	E 側
17	土鈴器	杯	—	—	—	右ナデ→黒色処理	書畫	破片美割	E 側
18	土鈴器	碗	(16.5)	—	4.9	三ナデ→黒色処理	ロクロナデ	回転糸割	E 側
19	土鈴器	碗	(17.5)	—	(8.3)	三ナデ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全糸割	カマド
20	土鈴器	碗	(19.0)	—	(8.9)	三ナデ→黒色処理	回転糸切→付高台	完全糸割	カマド
21	土鈴器	碗	—	7.8	(2.4)	三ナデ→黒色処理	底面→周縁→ラケズリ	完全糸割	No4, カマド
22	須恵器	杯	13.4	5.6	4.2	目込彫→朱墨、火澤	右回転糸切	完全糸割	No5、E 側
23	須恵器	杯	(13.4)	(5.4)	4.0	ロクロナデ	回転糸切	回転糸割	カマド
24	須恵器	杯	13.6	4.8	4.3	黒色処理	左回転糸切→黒色処理、底部に刻畫	完全糸割	No6
25	土鈴器	ロクロ口裏	(20.0)	—	(7.7)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸割	カマド
26	土鈴器	ロクロ口裏	(21.0)	—	(6.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸割	E 側
27	土鈴器	ロクロ口裏	—	7.4	(8.6)	ロクロナデ	回転糸切→ラケズリ	完全糸割	No14
28	土鈴器	武蔵鏡	(19.2)	—	(6.2)	ナデ	ケズリ	回転糸割	No3
29	土鈴器	武蔵鏡	(20.6)	3.7	24.9	ハケ目	底面→周縁→ラケズリ	完全糸割	No2、カマド、E 側
30	須恵器	壺	—	—	—	当目縁→ナデ	平行目目	破片美割・拓本	カマド
31	須恵器	壺	—	10.0	(7.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸割	カマド
32	赤生土器	鉢	—	—	—	条直文	破片美割・拓本	E 側	
33	赤生土器	鉢	—	—	—	口唇部押捺、ハラミカ斗	破片美割・拓本	E 側	
34	赤生土器	鉢	—	—	—	口唇部レンズ状、夜敷文	破片美割・拓本	E 側	
35	赤生土器	鉢	—	—	—	口唇部に小突起、口唇部周文彫体押捺	破片美割・拓本	E 側	
36	赤生土器	鉢	—	—	—	条直文	破片美割・拓本	E 側	
37	赤生土器	碗?	—	—	—	条直文	破片美割・拓本	E 側	
38	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
39	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
40	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
41	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
42	赤生土器	鉢	—	—	—	ハズ冊文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
43	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
44	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
45	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
46	赤生土器	碗	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
47	赤生土器	鉢	—	—	—	沈線文、外面赤彩	破片美割・拓本	E 側	
48	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
49	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
50	赤生土器	鉢	—	—	—	柳葉文、条直文	破片美割・拓本	E 側	
51	鉄製品	鍔具	5.3	4.5	1.0	(23.90)	一部欠損	完全糸割	No13
52	鉄製品	平引金具	(6.1)	(1.3)	(0.2)	(9.53)	両端欠損	完全糸割	No10
53	鉄製品	鍔	11.6	5.3	0.8	(30.50)	一部欠損	完全糸割	No9

第161表 H118号第六遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)					
1	土師器	杯	—	5.6	1.4	—	回転糸切	完全表割	覆土
2	土師器	杯	—	7.6	1.5	—	回転糸切	完全表割	覆土
3	須恵器	杯	(14.0)	(7.2)	(3.6)	—	回転糸切	完全表割	覆土
4	須恵器	杯	(14.1)	8.0	3.5	—	右回転糸切	完全表割	No4
5	須恵器	杯	(14.3)	7.4	3.9	—	右回転糸切、火割	完全表割	No3
6	須恵器	杯	(14.3)	(8.5)	(3.4)	—	ロクロナデ	完全表割	覆土
7	須恵器	有台杯	(16.2)	11.3	6.8	—	付高台	完全表割	No5
8	須恵器	有台杯	—	11.6	1.3	—	付高台	完全表割	No6
9	土師器	武蔵羹	11.6	—	(4.3)	—	ケズリ	完全表割	No2
10	土師器	武蔵羹	(21.4)	—	(7.2)	—	ケズリ	完全表割	覆土
11	土師器	武蔵羹	(22.6)	—	(19.3)	—	ケズリ	回転表割	覆土
12	須恵器	裏	—	(15.1)	(6.7)	—	平行四目	回転表割	No8、カマド
13	須恵器	短須恵	—	—	(5.3)	—	平行四目	回転表割	覆土、H395
14	青磁	碗	—	—	—	—	—	破片表割	覆土
15	赤土器	土器片母腹	5.5	6.7	1.3	—	ケズリ	完全表割	覆土

第162表 H119号第六遺物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)					
1	土師器	杯	—	5.2	(2.1)	—	右回転糸切	完全表割	No10
2	土師器	杯	—	5.5	(3.1)	—	右回転糸切	完全表割	I区
3	土師器	杯	—	5.6	(2.7)	—	右回転糸切、煤付着	完全表割	No6
4	土師器	碗	(14.8)	—	(4.7)	—	回転糸切→付高台	回転表割	No7、Ta1
5	土師器	碗	—	(2.7)	—	—	回転糸切、高台穴指	完全表割	皿区
6	土師器	盤	(27.8)	—	(9.7)	—	付高台	回転表割	No4
7	灰輪陶器	皿	12.9	6.5	2.6	—	ナデ→轆轤	完全表割	Ta1
8	灰輪陶器	皿	—	(6.8)	(2.0)	—	ナデ→轆轤	回転表割	皿区
9	土師器	武蔵羹	(13.0)	—	(5.1)	—	ケズリ	回転表割	No12
10	土師器	武蔵羹	(19.0)	—	(5.8)	—	ケズリ	回転表割	No1、Ta1
11	須恵器	裏	(29.6)	—	(12.0)	—	ロクロナデ	回転表割	IV区、H107
12	須恵器	裏	—	(18.8)	(7.1)	—	平行四目、底部→周縁ケズリ	回転表割	No8
13	灰輪陶器	碗	—	—	(5.5)	—	回転ヘラケズリ→轆轤	回転表割	I区、Ta1
14	灰輪陶器	碗	—	—	(6.9)	—	ナデ→轆轤	回転表割	I区

第163表 H120号第六遺物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)					
1	土師器	杯	(13.2)	—	(3.7)	—	煤付着	回転表割	カマド
2	土師器	杯	(14.2)	(5.4)	—	—	回転糸切	回転表割	カマド
3	土師器	杯	(14.2)	6.2	5.5	—	右回転糸切、煤付着	完全表割	カマド
4	須恵器	杯	(15.2)	—	(3.9)	—	ロクロナデ	回転表割	覆土

第 164 表 H121 号第六建物出土遺物調査表(2)

No	器種	器形	量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	内面	外面	重量等		
5	須臾器	蓋	(14.2)	—	(2.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	覆土	
6	土師器	武蔵鏡	(11.8)	—	(5.9)	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド	
7	土師器	武蔵鏡	(19.2)	—	(15.4)	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド	
8	土師器	武蔵鏡	(20.2)	—	(6.3)	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド	
9	土師器	武蔵鏡	—	4.5	(6.1)	ナデ	ケズリ	完全表割	カマド	
10	土師器	武蔵鏡	—	(4.6)	(5.2)	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド	
11	赤土器	壺	—	—	—	条痕	—	破片表割・拓本	カマド	

第 165 表 H121 号第六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	内面	外面	重量等		
1	土師器	杯	—	(4.8)	(2.1)	—	右回転糸切	回転表割	I区	
2	土師器	杯	—	6.2	(2.0)	—	暗文→黒色処理	完全表割	No2	
3	土師器	杯	—	(7.2)	(3.0)	—	黒色処理	回転表割	No3, SN-ベルト	
4	土師器	杯	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	破片表割	I区	
5	土師器	碗	(16.5)	—	(5.1)	—	ロクロナデ	回転表割	SN-ベルト	
6	土師器	碗	—	7.0	(2.3)	—	暗文→黒色処理	完全表割	No1	
7	須臾器	有台杯	—	(10.4)	(2.6)	—	付高台	回転表割	IV区	
8	灰釉陶器	碗	(15.1)	—	(3.7)	—	施釉	回転表割	II区	
9	灰釉陶器	碗	—	(6.8)	(1.5)	—	—	回転表割	II区	
10	灰釉陶器	皿	(13.9)	—	(2.0)	—	施釉	回転表割	I区	
11	土師器	環(把手付?)	(10.9)	(3.9)	(10.0)	—	ナデ	回転表割	床、Q12, Q13	
12	土師器	ロクロノデ	(15.3)	—	(10.4)	—	ロクロナデ	回転表割	I区, Q12, Q13	
13	土師器	ロクロノデ	—	(9.3)	(3.7)	—	ロクロナデ	回転表割	I区	
14	土師器	羽釜	(33.1)	—	(17.9)	—	ナデ	回転表割	II区~IV区, EV-ベルト	
15	白磁	碗	—	—	—	—	玉縁	破片表割	覆土	
16	石器	磨石	4.5	4.0	2.6	56.4	全体に磨り	完全表割	II区	

第 166 表 H122 号第六建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	量			成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	内面	外面	重量等		
1	土師器	高杯	13.6	8.8	7.5	—	ケズリ→ミガキ	完全表割	No7	
2	土師器	高杯	—	8.7	(5.2)	—	ケズリ→ミガキ	完全表割	No3	
3	須臾器	所盛	(14.8)	—	3.2	—	回転ベラケズリ	完全表割	No4	
4	須臾器	高盤	23.2	(12.2)	8.7	—	ロクロナデ, つまみ足付	完全表割	No5	
5	土師器	鉢	15.5	8.0	17.4	—	ケズリ	完全表割	No6, カマド	
6	土師器	鉢	16.8	—	20.8	—	ケズリ	完全表割	No1	
7	土師器	瓶	—	(9.6)	(6.6)	—	ケズリ, 須臾器破	回転表割	I区	
8	土師器	瓶	—	(11.4)	(7.5)	—	ケズリ	回転表割	I区	
9	須臾器	鉢	—	—	—	—	平行項目	破片表割・拓本	No2	
10	須臾器	壺	—	9.0	(8.3)	—	底部→周縁ケズリ	回転表割	I区, IV区	

第 167 表 H122 号野穴建物出土遺物観察表 (2)

No	器種	器形	法		量	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
11	須臾器	甕	—	—	<7.7>	—	—	—	—	回転美洲 I区、IV区
12	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	破片美洲・拓本 II区
13	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	破片美洲・拓本 I区
14	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	破片美洲・拓本 III区
15	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	破片美洲・拓本 覆土
16	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	破片美洲・拓本 ベルト
17	赤生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	破片美洲・拓本 III区
18	石器	横刃両石器	10.3	6.6	1.0	7.00	自然面残る、下刃に使用痕	—	—	完全美洲 I区
19	鉄器	長頭鏃	<6.6>	<0.7>	<0.3>	<5.17>	上部欠損、角潤?	—	—	完全美洲 IV区
20	鉄器	長頭鏃	<10.9>	<1.0>	<0.4>	<8.43>	四面欠損、方形潤?	—	—	完全美洲 IV区

第 168 表 H123 号野穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	甕	(17.0)	—	<5.6>	—	割落	—	—	回転美洲 III区
2	土師器	甕	13.7	—	<3.9>	—	ミガキ	—	—	回転美洲 III区
3	須臾器	甕	—	—	—	—	ロクロナ子	—	—	破片美洲・拓本 No5
4	赤生土器	甕	—	—	—	—	車輪絡糸体 R(12)	—	—	破片美洲・拓本 III区
5	石器	磨石	11.5	6.7	1.2	117.4	正面と右側に磨痕	—	—	完全美洲 覆土
6	石器	加工面のある剥片	<3.5>	<2.2>	<0.85>	<5.2>	黒曜石、上部欠損、両面に二次加工	—	—	完全美洲 III区

第 169 表 H124 号野穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	杯	(13.6)	—	<3.1>	—	ナ子→黒色処理	—	—	回転美洲 I区
2	土師器	杯	(14.2)	6.3	4.7	—	ミガキ→黒色処理	—	—	回転美洲 No2、床
3	土師器	杯	(14.2)	7.2	3.8	—	ミガキ→黒文→黒色処理	—	—	回転美洲 I、II区
4	土師器	杯	(18.2)	—	<5.2>	—	ミガキ→黒色処理	—	—	回転美洲 No3、III区、EW ベルト
5	土師器	杯	—	5.8	(1.8)	—	ミガキ→黒色処理	—	—	完全美洲 III区
6	土師器	杯	—	6.8	(2.6)	—	ミガキ→黒色処理	—	—	回転美洲 カマド
7	須臾器	杯	13.8	6.6	4.0	—	ロクロナ子	—	—	完全美洲 H129N
8	須臾器	杯	14.0	5.6	4.7	—	ロクロナ子	—	—	回転美洲 I区
9	須臾器	杯	15.0	4.2	5.4	—	ロクロナ子	—	—	回転美洲 I区
10	土師器	武蔵罎	(15.4)	—	<5.1>	—	ナ子	—	—	回転美洲 カマド
11	土師器	ロクノ口罎	(19.2)	—	<9.0>	—	ロクロナ子	—	—	回転美洲 I区
12	須臾器	甕	—	—	—	—	当具痕→ナ子	—	—	破片美洲・拓本 II区
13	赤生土器	甕	—	—	—	—	条痕文	—	—	破片美洲・拓本 II区

第170表 H125号影六津物出土遺物調査表

No	器種	器形	法	口径(長)	底径(短)	器高(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
1	土師器	杯	(12.2)	6.2	4.8	—	ミガキ→黒色処理	回転ヘラ切り、底部周縁ヘラケズリ	回転皮割	—	Ⅱ区、ベルト
2	土師器	杯	13.6	—	(4.5)	—	ミガキ→黒色処理	墨書	回転皮割	—	Ⅰ区
3	土師器	杯	15.2	7.8	4.7	—	ミガキ→黒色処理	回転ヘラ切り、底部周縁ヘラケズリ	完全皮割	—	覆土
4	土師器	杯	16.2	—	(4.9)	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転皮割	—	Ⅱ区
5	土師器	杯	—	—	—	—	ミガキ→黒色処理	墨書	破片皮割	—	覆土
6	須恵器	杯	13.0	6.0	3.7	—	火澤	回転糸切、火澤	完全皮割	—	No31、Ⅰ区、カマド
7	須恵器	杯	(13.0)	6.1	4.5	—	火澤	右回転糸切、火澤	完全皮割	—	No17、No23、ベルト
8	須恵器	杯	13.3	5.0	4.3	—	ロクロナデ	回転糸切、ヘラ記号?	完全皮割	—	Ⅱ区
9	須恵器	杯	13.3	6.7	3.2	—	ロクロナデ	回転糸切→ケズリ	完全皮割	—	Ⅱ区
10	須恵器	杯	13.4	5.4	3.5	—	火澤	ヘラ切り→ケズリ、火澤	回転皮割	—	覆土
11	須恵器	杯	(13.6)	(6.4)	4.1	—	火澤	回転糸切、火澤	回転皮割	—	Ⅱ、Ⅳ区
12	須恵器	杯	14.2	(7.6)	3.8	—	火澤	右回転糸切、火澤	回転皮割	—	Ⅱ区、ベルト
13	須恵器	杯	14.7	8.0	4.3	—	火澤	右回転糸切、火澤	完全皮割	—	Ⅰ区
14	須恵器	杯	—	6.9	(1.3)	—	火澤	右回転糸切、火澤	完全皮割	—	Ⅱ区
15	須恵器	杯	—	8.2	(3.5)	—	火澤	底部周縁ヘラケズリ、火澤	回転皮割	—	No5
16	須恵器	有台杯	(15.8)	(9.4)	6.6	—	火澤	付高台	回転皮割	—	Ⅰ区
17	須恵器	有台杯	(15.8)	10.2	7.0	—	ロクロナデ	付高台	完全皮割	—	No14
18	須恵器	杯蓋	16.2	2.6	2.8	—	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	完全皮割	—	Ⅱ区
19	灰釉陶器	罎	14.6	—	(2.8)	—	陶輪	陶輪	回転皮割	—	覆土
20	土師器	武蔵罎	21.8	—	(5.7)	—	ナデ	ケズリ	回転皮割	—	カマド
21	土師器	武蔵罎	22.0	—	(6.7)	—	ナデ	ケズリ	回転皮割	—	Ⅰ区、カマド、ベルト
22	土師器	武蔵罎	—	5.4	(10.6)	—	ナデ	ケズリ	完全皮割	—	No12
23	須恵器	罎	—	15.8	(13.5)	—	当具線→ナデ	平行目目	回転皮割	—	覆土
24	須恵器	罎	—	—	—	—	当具線→ナデ	平行目目	破片皮割・粘本	—	Ⅱ区
25	須恵器	罎	—	—	—	—	当具線→ナデ	平行目目	破片皮割・粘本	—	Ⅱ区、カマド
26	須恵器	罎	7.6	—	(2.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転皮割	—	ベルト
27	須恵器	罎	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片皮割・粘本	—	カマド
28	土師器	罎	—	—	(2.1)	—	ナデ	ロクロナデ	完全皮割、穿孔4ヶ	—	Ⅰ区
29	土師器	台石	36.3	29.5	12.5	18100	使用面2、正裏に糸痕	ハケメ	完全皮割	—	No24
30	石器	磨石	9.0	2.9	2.1	82.0	磨面4	—	完全皮割	—	Ⅱ区
31	石器	磨石	(7.9)	(4.4)	(2.0)	(126.0)	上部欠損、曲面に縦打痕	—	完全皮割	—	Ⅰ区
32	石器	磨石	12.0	5.8	3.3	268.0	両端部に縦打痕	—	完全皮割	—	覆土
33	石器	磨石	16.2	6.0	5.0	742.0	両端部に縦打痕	—	完全皮割	—	No25
34	石器	加工面のある磨片	(14.0)	1.9	0.5	(25.21)	両端欠損、正裏に二次加工、黒曜石	—	完全皮割	—	同一層
35	鉄器	切縁車輪	(13.3)	(0.5)	(0.5)	(40.10)	両端欠損、円板径φ5.6、厚0.2	—	完全皮割	—	覆土
36	鉄器	長頸罎	(6.7)	(0.6)	(0.2)	(3.38)	—	—	完全皮割	—	No4
37	鉄器	角釘	(9.9)	(0.5)	(0.3)	(6.29)	同一個体、角面か?	—	完全皮割	—	No11
38	鉄製品	角釘	4.5	0.5	0.4	(3.96)	短欠損	—	完全皮割	—	No4
39	鉄製品	角釘	(6.0)	(0.4)	(0.3)	(2.73)	部欠損	—	完全皮割	—	No4
40	鉄製品	不明	(1.7)	(2.5)	(0.8)	(96.84)	欠損あり	—	完全皮割	—	No20

第171表 H126号影六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量		成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等		
1	須臾器	杯	—	7.0	<10>	—	回転ヘラ切り	完全表割	カマド
2	須臾器	有台杯	—	(7.4)	(1.9)	—	回転ヘラケズリ→付高台	回転表割	No6
3	須臾器	有台杯	—	(9.7)	(1.4)	—	回転糸切→回転ヘラケズリ→付高台	回転表割	覆土
4	土師器	武藏蓋	(23.0)	—	<27.5>	—	ケズリ	完全表割	No7, No10, 1区、カマド
5	土師器	武藏蓋	(23.4)	—	<5.3>	—	ケズリ	回転表割	1区～田区
6	土師器	武藏蓋	(25.0)	—	<13.2>	—	ケズリ	回転表割	1区
7	須臾器	甕	—	—	<8.6>	—	平行叩目	回転表割	No9, 1区、田区、カマド

第172表 H127号影六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	量		成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等		
1	須臾器	杯	(14.0)	(3.6)	(3.9)	—	回転ヘラケズリ	回転表割	カマド
2	土師器	鉢	—	(8.0)	<3.5>	—	ケズリ	回転表割	ペルト
3	土師器	武藏蓋	—	(4.6)	<5.1>	—	ケズリ	回転表割	ペルト
4	須臾器	甕	—	—	—	—	平行叩目	破片表割・拓本	覆土

第173表 H128号影六建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	量		成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	器高(厚)	器高(厚)	重量等		
1	土師器	杯	(13.7)	6.0	4.3	—	右回転糸切	完全表割	覆土
2	土師器	杯	(13.8)	6.3	3.9	—	右回転糸切・墨書	完全表割	No4, No5
3	土師器	杓状杯	14.2	5.4	4.7	—	回転糸切	完全表割	No2
4	土師器	杯	(14.2)	—	<4.0>	—	ロクロナデ	回転表割	覆土
5	土師器	杯	(14.4)	(5.2)	3.8	—	底部～底部周縁ケズリ	回転表割	カマド
6	土師器	杯	17.2	7.0	6.4	—	底部～底部周縁ケズリ	完全表割	No6
7	土師器	杯	16.2	8.0	5.9	—	回転糸切→付高台	完全表割	No5
8	須臾器	甕	(13.6)	(6.2)	4.6	—	回転糸切	回転表割	カマド
9	須臾器	杯	14.2	6.5	4.5	—	右回転糸切	完全表割	No8
10	須臾器	杯	(14.3)	7.0	4.0	—	右回転糸切	完全表割	カマド
11	須臾器	杯	(14.8)	—	<3.7>	—	ロクロナデ	回転表割	カマド
12	須臾器	杯	—	5.6	<3.2>	—	右回転糸切・墨書・火漕	完全表割	カマド
13	土師器	武藏蓋	(20.4)	—	<4.5>	—	ケズリ	回転表割	覆土
14	土師器	甕	(22.0)	—	<9.2>	—	ハケメ→ケズリ	回転表割	覆土
15	土師器	甕	—	4.5	(1.4)	—	木葉痕	完全表割・拓本	覆土
16	須臾器	甕	—	(15.2)	(5.3)	—	底部～底部周縁ケズリ	回転表割	No9
17	須臾器	甕	—	—	—	—	叩目	破片表割・拓本	No7
18	須臾器	甕	—	—	—	—	叩目・転用脱	破片表割・拓本	覆土
19	須臾器	勸摩車	<14.1>	<0.6>	<46.38>	—	凹板φ 6.0, 最大厚0.2, 両端欠損	完全表割	No1

第 174 表 H129 号野六津物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土部位
			口徑(長)	底徑(短)		内面	外面		
1	土師器	甕	(18.0)	—	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド	
2	土師器	甕	(20.4)	—	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド	
3	土師器	甕	(25.2)	—	口クロナデ	カキメ	回転表割	覆土	
4	須臾器	甕	—	(12.0)	当具根→ナデ	ケズリ、平円凹目	回転表割	覆土	

第 175 表 H130 号野六津物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土部位
			口徑(長)	底徑(短)		内面	外面		
1	土師器	杯	(11.6)	(4.0)	—	口クロナデ	回転糸切	P5	
2	土師器	杯	11.7	5.5	3.3	ミガキ→黒色処理	回転糸切	完全表割 No2	
3	土師器	杯	(11.8)	5.3	3.7	ナデ	右回転糸切	完全表割 No25	
4	土師器	杯	(11.8)	(4.4)	(3.5)	ナデ	回転糸切	回転表割 No21、No22	
5	土師器	杯	(11.8)	—	—	口クロナデ	口クロナデ	回転表割 I区、IV区	
6	土師器	杯	11.8	5.2	2.9	ナデ	右回転糸切	完全表割 P6	
7	土師器	杯	11.9	5.8	3.0	ナデ	右回転糸切	完全表割 No15、No20	
8	土師器	杯	(12.0)	5.1	3.3	黒色処理	右回転糸切	完全表割 No10、IV区、P6	
9	土師器	杯	12.2	5.2	2.9	口クロナデ	右回転糸切	完全表割 No3	
10	土師器	杯	12.4	5.7	3.9	黒色処理	右回転糸切	完全表割 No12、III区、床	
11	土師器	杯	12.5	5.0	3.4	ナデ	右回転糸切	完全表割 No5	
12	土師器	杯	12.5	5.6	3.7	—	右回転糸切	完全表割 No8、P6	
13	土師器	杯	(12.5)	5.2	3.6	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全表割 No4	
14	土師器	杯	12.6	(5.6)	3.1	黒色処理	右回転糸切	完全表割 覆土	
15	土師器	杯	(12.6)	—	(3.2)	口クロナデ	書畫	回転表割 覆土	
16	土師器	杯	13.0	4.8	3.9	ナデ	右回転糸切	完全表割 No12、カマド	
17	土師器	杯	13.1	5.1	3.7	ミガキ→暗文→黒色処理	右回転糸切	完全表割 No7	
18	土師器	杯	(13.2)	(12.6)	(4.6)	黒色処理	ヘツケズリ	回転表割 覆土	
19	土師器	杯	15.4	6.2	5.0	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	完全表割 No18、カマド、床	
20	土師器	杯	—	5.4	(3.1)	黒色処理	右回転糸切	完全表割 No19	
21	土師器	杯	—	(6.4)	(1.5)	口クロナデ	回転表割、書畫	回転表割 EWベルト	
22	土師器	杯	—	—	(3.4)	ナデ	口クロナデ	破片表割 SNベルト	
23	土師器	杯	—	—	—	ミガキ→黒色処理	書畫	破片表割 SNベルト	
24	土師器	杯	(15.0)	7.1	5.4	ミガキ→黒色処理	書畫	完全表割 覆土	
25	土師器	碗	(15.2)	—	(3.9)	ミガキ→暗文→黒色処理	高台欠損	完全表割 No3	
26	土師器	碗	(16.0)	(8.0)	(5.3)	黒色処理	高台欠損	回転表割 覆土	
27	土師器	碗	—	—	—	口クロナデ	回転表割→付高台	回転表割 覆土	
28	土師器	口ク口裏	7.0	4.1	5.3	口クロナデ	右回転糸切	完全表割 II区	
29	土師器	裏	(12.0)	—	(6.2)	ヘラ	ケズリ→ミガキ	回転表割 P6、IV区、床	
30	土師器	口ク口裏	(17.2)	—	(12.3)	当具根→口クロナデ	口クロナデ	回転表割 I区、II区	
31	土師器	口ク口裏	(19.8)	—	(13.2)	当具根→ナデ	口クロナデ	回転表割 I区、II区	
32	土師器	口ク口裏	(22.0)	—	(21.3)	当具根→ナデ	ヘラケズリ	回転表割 No23、P4、床	
33	土師器	甕	—	—	9.2	口クロナデ	底部→周縁ケズリ	完全表割 覆土	

第176表 H130号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)						
34	須臾器	罎	(2.5)	(1.5)	(3.40)	ナデ		縹抽出状文	完全表割・拓本	No3
35	土製品	勾玉	(2.5)	(1.5)	(3.40)	孔φ0.2)			完全表割	床
36	鉄器	釵	(3.5)	(2.5)	(6.18)	基部の残存			完全表割	No1
37	鉄器	鉄斧	8.1	4.3	2.0	124.38	内部に木質塊		完全表割	No1
38	鉄器	釵	8.2	2.4	0.3	(15.3)	一部欠損、木質塊		完全表割	覆土

第177表 H131号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)						
1	土師器	杯	(13.6)	(5.0)	(4.7)	ミガキ半→暗文→黒色処理		ロクロナデ	回転表割	Ⅲ区
2	須臾器	杯	(13.6)	6.7	3.6	ロクロナデ		右回転糸切	完全表割	カマド
3	須臾器	杯	—	7.5	(2.1)	火鑪		右回転糸切、火鑪	完全表割	覆土
4	須臾器	有台杯	(14.3)	8.7	6.2	ロクロナデ		回転ヘラケズリ→付高台	完全表割	カマド
5	土師器	武蔵罎	(20.5)	—	(25.2)	ナデ		ケズリ	完全表割	Ⅰ区～Ⅲ区、カマド
6	土師器	武蔵罎	(23.2)	—	(8.1)	ナデ		ケズリ	回転表割	No1
7	須臾器	罎	—	(14.8)	(9.6)	ナデ		平行叩目、底部→周縁ケズリ	完全表割	Ⅱ区、カマド
8	鉄器	長頭釵	(8.2)	0.8	0.5	(8.62)	両端欠損、角面片丹		完全表割	No3
9	鉄製品	鉄埋	7.3	4.7	3.4	137.7			完全表割	Ⅱ区

第178表 H132号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)						
1	土師器	杯	(12.9)	(13.9)	(3.2)	—		ケズリ	回転表割	No6
2	土師器	北武蔵型杯	(14.5)	(13.1)	(5.2)	ナデ		ケズリ	完全表割	No1、カマド
3	土師器	杯	(14.7)	(12.9)	(4.9)	ナデ		ケズリ	完全表割	床
4	土師器	杯	(15.4)	(10.4)	(5.1)	ミガキ半→黒色処理		ミガキ	完全表割	No3
5	土師器	杯	—	(11.5)	(3.8)	—		全体的に磨耗している	回転表割	No2、Ⅱ区
6	土師器	杯	—	(14.3)	(4.2)	ナデ		ケズリ	回転表割	Ⅰ区
7	土師器	罎	(10.5)	8.1	(10.7)	ナデ		ケズリ	完全表割	No5
8	土師器	罎	(13.7)	—	(14.5)	ナデ		ケズリ	完全表割	No4、Ⅰ区
9	土師器	罎	14.8	6.2	26.8	—		底部→周縁ハケム→ナデ	完全表割	No18、カマド
10	土師器	罎	21.1	4.8	35.6	ナデ		ケズリ	完全表割	No4、No6、No15、No18、H25-16と同一体
11	土師器	罎	(19.2)	—	(13.2)	ナデ		全体的に磨耗している	回転表割	No11～No13、カマド
12	石器	台石	35.5	32.2	9.0	17500.0			完全表割	覆土
13	石器	磨石	(7.3)	(4.6)	(2.1)	(97.0)		全面欠損、擦痕あり	完全表割	Ⅳ区

第 179 表 H133 号影六建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	杵状环	116 (13.2)	4.6 (4.2)	—	右回転糸切	完全表割	覆土	
2	土師器	环	(11.4)	(5.8)	—	回転糸切	回転表割	覆土	
3	土師器	环	(13.3)	—	(3.2)	ミガキ	完全表割	No1, No4	
4	土師器	环	(16.6)	—	(3.9)	ロクロナデ	回転表割	覆土	
5	須恵器	短頸壺	9.1	(9.1)	—	ロクロナデ	完全表割	No2	
6	赤生土器	甕	(26.8)	<12.4>	—	縦羽状の彫刻斜走文、中筒後平梨林式	回転表割	覆土	
7	赤生土器	甕	—	—	—	縦文	破片表割・拓本	覆土	

第 180 表 H134 号影六建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土部位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	环	(13.2)	(5.6)	—	回転糸切	回転表割	II区	
2	土師器	环	13.3	6.9	4.0	右回転糸切	完全表割	No1 ~ No3	
3	土師器	环	(13.6)	6.1	4.4	右回転糸切、墨書「用」	完全表割	No19	
4	土師器	杵状环	13.7	5.4	4.3	回転糸切、墨書「加」	完全表割	II区床	
5	土師器	环	(13.8)	—	(3.7)	ロクロナデ	回転表割	覆土、H136	
6	土師器	环	14.0	5.5	4.2	墨書「加」	完全表割	覆土	
7	土師器	环	(14.0)	6.3	3.8	ミガキ→黒色処理	II区床	—	
8	土師器	环	(14.0)	(6.4)	(4.0)	底割~周縁ケズリ	回転表割	No5、床	
9	土師器	环	(14.0)	—	(3.6)	回転糸切	回転表割	覆土	
10	土師器	环	(14.4)	—	(3.9)	ロクロナデ	回転表割	床	
11	土師器	环	14.8	6.9	4.9	右回転糸切、周縁回転ケズリ	完全表割	覆土	
12	土師器	环	17.7	6.5	5.8	右回転糸切	完全表割	覆土	
13	土師器	环	—	6.3	<1.9>	右回転糸切、墨書	完全表割	覆土	
14	土師器	环	—	—	—	墨書「用」	破片表割	II区床	
15	土師器	环	—	—	—	墨書	II区床	—	
16	土師器	环	—	—	—	墨書	破片表割	覆土	
17	土師器	碗	14.9	7.6	5.3	ケズリ→付高台	破片表割	覆土	
18	土師器	碗	(14.9)	7.0	5.2	ケズリ→付高台	完全表割	覆土	
19	土師器	碗	15.2	8.0	6.2	ケズリ→付高台	完全表割	床、H64-2同一個体	
20	土師器	碗	(16.6)	(7.6)	5.7	回転糸切→付高台	完全表割	覆土	
21	土師器	碗	19.0	9.4	7.1	回転糸切→付高台	回転表割	覆土	
22	土師器	皿	(12.4)	—	(2.4)	回転ヘラケズリ→付高台	完全表割	覆土	
23	土師器	皿	13.3	—	(2.9)	ロクロナデ	回転表割	II区	
24	土師器	皿	13.6	—	(2.0)	ロクロナデ	完全表割	覆土	
25	土師器	高环	—	—	(4.2)	ロクロナデ	完全表割	カマド	
26	須恵器	环	13.2	6.5	3.9	右回転糸切	完全表割	No28	
27	須恵器	环	13.7	5.7	3.8	右回転糸切	完全表割	覆土	
28	須恵器	环	13.8	5.8	4.3	右回転糸切	完全表割	No3、No4	
29	須恵器	环	14.4	6.8	4.1	右回転糸切	完全表割	覆土	
30	須恵器	环	14.5	6.5	4.3	右回転糸切	完全表割	II区床	

第181表 H134号第六建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法	量	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
31	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	14.8 6.2 4.5	—	—	右回転糸切	完全表割	No2 ~ No4
32	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	14.9 6.9 4.8	—	—	右回転糸切	完全表割	No3、No4
33	土師器	甲成平裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	13.1 8.4 11.8	—	ナデ	ハケメ	完全表割	床
34	土師器	口クハ裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (13.8)	—	ナデ	回転糸切、下半部ケズリ	完全表割	No25、No26、床
35	土師器	武蔵裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (17.4)	—	ナデ	ケズリ	回転表割	床
36	土師器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (6.6)	—	ナデ	ケズリ	完全表割	覆土
37	須恵器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (9.0)	—	ハケメ	回転表割	破片表割・拓本	No6、No7
38	須恵器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	—	—	当具痕→ナデ	ロクロナデ	破片表割・拓本	No20
39	須恵器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	—	—	—	叩目	破片表割	床
40	須恵器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	—	—	—	—	—	—
41	石器	磨・敲石	法	口径(長)底径(短)器高(厚)	<13.5> <7.0>	<4.0>	下部欠損、正面一底黒化、裏面敲打又は擦熱跡、使用面3	完全表割	—

第182表 H136号第六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	口クハ裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (19.2)	—	—	ケズリ	回転表割	覆土

第183表 H137号第六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	13.1 5.5 4.9	—	—	底面→周縁ケズリ	完全表割	カマド
2	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	15.0 7.4 6.0	—	見込部ナデ	底面→周縁ケズリ	回転表割	覆土、H64
3	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	15.4 5.6 5.0	—	—	底面→周縁ケズリ	回転表割	カマド
4	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (7.2)	<2.3>	—	回転糸切	完全表割	カマド
5	土師器	皿	口径(長)底径(短)器高(厚)	14.2 6.8 2.8	—	—	ミガキ→黒色処理、朝番「馬の籠」?	完全表割	No1、カマド、B区
6	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	13.0 6.6 3.9	—	—	ミガキ→黒色処理、火槽	回転表割	覆土
7	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	13.7 5.6 4.1	—	—	右回転糸切	回転表割	カマド
8	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	13.8 6.3 4.3	—	—	右回転糸切	完全表割	カマド
9	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	13.9 6.4 4.0	—	—	右回転糸切	完全表割	カマド、床
10	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	14.6 6.2 4.1	—	—	右回転糸切	回転表割	カマド、床
11	土師器	武蔵裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (5.5)	—	ナデ	ケズリ	回転表割	カマド、H64カマド
12	土師器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (13.2)	—	ハケメ	ケズリ	回転表割	カマド、H138
13	土師器	武蔵裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (19.0)	—	ナデ	ケズリ	回転表割	No4、カマド
14	須恵器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	—	—	—	—	破片表割・拓本	カマド

第184表 H138号第六建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成形調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	12.7 6.2 4.4	—	—	回転糸切	完全表割	No1
2	土師器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	14.6 6.0 4.0	—	—	回転糸切	完全表割	覆土
3	須恵器	坏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (2.7)	—	—	ロクロナデ	回転表割	覆土
4	土師器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (17.2)	—	—	ケズリ→ミガキ	回転表割	覆土
5	土師器	裏	口径(長)底径(短)器高(厚)	— (5.0)	<2.6>	—	ケズリ	回転表割	覆土

第 185 表 Y1 号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
1	弥生土器	甕	(22.0)	—	(7.9)	ナデ	繩筒状土文、口唇部縄文(RL2)	回転式割	No3 ~ No5	
2	弥生土器	甕	(23.4)	—	(13.8)	ミガキ	繩筒状土文、口唇部縄文、口唇部縄文(RL2)	回転式割	No1、II区	
3	弥生土器	甕	—	(8.2)	(5.2)	ナデ	ミガキ	回転式割	I区、II区、H24	
4	弥生土器	台付甕	—	(7.6)	(2.9)	ナデ	ハナメ、穿孔2ヶ	回転式割	II区	
5	弥生土器	甕	—	—	(10.0)	ナデ	頸部縄文(RL2)、沈線、ミガキ	回転式割	I区、II区	
6	弥生土器	甕	—	—	—	剥落	沈線文、波状口縁	破片実測、拓本	II区	
7	弥生土器	甕	—	—	—	沈線文	沈線文、波状口縁	破片実測、拓本	II区	
8	弥生土器	甕	—	—	—	波状文(串輪部条体L(2))、押捺文、波状口縁	沈線文	破片実測、拓本	II区	
9	弥生土器	甕	—	—	—	沈線文、ミガキ	沈線文	破片実測、拓本	II区	
10	弥生土器	甕	—	—	—	波状文(串輪部条体L(2))	波状文	破片実測、拓本	I区	
11	弥生土器	甕	—	—	—	波状文(串輪部条体L(2))	波状文	破片実測、拓本	I区	
12	弥生土器	甕	—	—	—	柔直文	波状文	破片実測、拓本	覆土	

第 186 表 Y2 号竪穴建物出土遺物調査表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
1	須臾器	甕	(24.6)	—	(4.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転式割	覆土	
2	弥生土器	甕	—	5.4	(2.3)	底部一周縁ミガキ	—	完全式割	No1	
3	弥生土器	甕	—	(7.0)	(1.2)	木槌跡	—	回転式割、拓本	覆土	
4	弥生土器	甕	—	—	—	ハナ指沈線	—	破片実測、拓本	覆土	
5	弥生土器	甕	—	—	—	繩筒状土文、頸部直線文	—	破片実測、拓本	覆土	

第 187 表 Y3 号竪穴建物出土遺物調査表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整			備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	(15.4)	9.2	3.7	ハナミガキ	—	回転式割	No410	
2	土師器	ニ・チュアノ器?	5.4	—	(5.0)	ナデ	—	回転式割	No341	
3	弥生土器	鉢	(10.4)	(2.4)	(4.8)	ミガキ→赤彩、突起あり	—	回転式割	No66	
4	弥生土器	鉢	(11.8)	—	(3.0)	ミガキ→赤彩、穿孔2ヶ	—	回転式割	No85	
5	弥生土器	鉢	(13.2)	—	(2.7)	ミガキ→赤彩	—	III区		
6	弥生土器	鉢	(14.0)	—	(3.5)	ミガキ→赤彩、穿孔2ヶ	—	回転式割	No1	
7	弥生土器	鉢	(14.0)	—	(5.3)	ミガキ→赤彩、突起あり	—	回転式割	No142	
8	弥生土器	鉢	16.2	—	(4.3)	ミガキ→赤彩	—	回転式割	No192	
9	弥生土器	鉢	(20.2)	—	(6.4)	ミガキ→赤彩	—	回転式割	No64、No74、No76 ~ No78	
10	弥生土器	甕	—	7.1	(3.2)	ミガキ→赤彩	—	完全式割	No17、II区	
11	弥生土器	甕	19.2	11.4	11.9	底部ミガキ→赤彩、脚部ナデ	—	完全式割	No240、No378、No379	
12	弥生土器	甕	(31.2)	—	(9.9)	ミガキ→赤彩	—	完全式割	No37、No38、No150	
13	弥生土器	甕	12.7	4.8	10.8	—	—	完全式割	覆土	
14	弥生土器	甕	12.8	—	(3.6)	—	—	完全式割	No216、No340、II区	
15	弥生土器	甕	(13.1)	—	(8.3)	—	—	完全式割	No210、No211	
16	弥生土器	甕	(14.3)	5.6	14.5	—	—	完全式割	No32、No33、No34、No36	

第 188 表 Y3 号窖穴遺物出土遺物群表(2)

No	器種	器形	口径(長)・底径(短)	高さ(厚)・重量等	内面	成形調整	備考	出土層位
17	弥生土器	甕	14.7	6.6	ミガキ	ミガキ、頭部へろ指状痕、口唇部凸出	完全灰調	No131、No390
18	弥生土器	甕	(15.2)	8.7	ミガキ	佛指状文、佛指垂下文、佛指割線文、口唇部凸出(RL2)	回転灰調	No237、No242、No243
19	弥生土器	甕	—	5.5 (3.1)	ハケム	ミガキ	完全灰調	No221
20	弥生土器	甕	—	5.6 (4.7)	ハケム	佛指状文、下部ハケム	完全灰調	No238、No310、No312、No370、H29
21	弥生土器	甕	—	6.4 (8.5)	ハケム	佛指状文、ミガキ	回転灰調	IK
22	弥生土器	甕	—	7.4 (4.7)	ハケム	佛指状文、口唇部ハケム	完全灰調	No220、No337、No338
23	弥生土器	甕	—	—	ハケム	口唇部ハケム	佛指状文・拵本	No171
24	弥生土器	甕	—	—	ハケム	佛指状文、佛指垂下文、貼付文	佛指状文・拵本	No185
25	弥生土器	甕	—	—	ハケム	波状口縁、波状頸部に孔	佛指状文・拵本	No238
26	弥生土器	甕	—	—	ハケム	佛指状文、佛指垂下文、貼付文	佛指状文・拵本	No238
27	弥生土器	甕	—	ハケム→ミガキ	口唇部凸出	佛指状文、佛指垂下文、貼付文	佛指状文・拵本	覆土
28	弥生土器	甕	—	ハケム	口唇部凸出	佛指状文	佛指状文・拵本	No216
29	弥生土器	甕	—	ハケム	佛指状文	佛指状文・拵本	佛指状文・拵本	No258、No260、H25
30	弥生土器	甕	—	ハケム	沈線文、凸文(RL2)	佛指状文・拵本	佛指状文・拵本	No219
31	弥生土器	甕	—	ミガキ	各痕	佛指状文・拵本	佛指状文・拵本	No151
32	弥生土器	甕	—	ミガキ	佛指状文(RL2)	佛指状文・拵本	佛指状文・拵本	No145
33	弥生土器	甕	—	ナデ	佛指状文	佛指状文	佛指状文・拵本	No357
34	弥生土器	台付甕	12.1	<13.1>	ミガキ	佛指状文、佛指垂下文、ナデ、口唇部凸出(RL2)	完全灰調	No183
35	弥生土器	台付甕	15.3	<13.2>	ミガキ	佛指状文、佛指垂下文、口唇部凸出(RL2)、下部ミガキ	完全灰調	No200、No212、No216、No218、No219
36	弥生土器	台付甕	—	6.4 (4.5)	杯部ミガキ、脚部ナデ	ミガキ	完全灰調	覆土
37	弥生土器	台付甕	—	6.6 (2.7)	ナデ	ハケム、ナデ、ケズリ	完全灰調	No131
38	弥生土器	台付甕	—	8.8 (7.4)	杯部ミガキ、脚部ハケム	ハケム、ナデ、ケズリ	完全灰調	No232
39	弥生土器	台付甕	—	9.2 (7.8)	ナデ	ナデ	完全灰調	No134
40	弥生土器	台付甕	—	9.8 (5.2)	杯部ミガキ、脚部ハケム	ミガキ	完全灰調	No253
41	弥生土器	台付甕	—	<6.0>	ナデ	佛指状文、貼付文、口縁部へろ指山形文	完全灰調	No217
42	弥生土器	台付甕	—	<6.0>	ミガキ	コノ字重ね文	完全灰調	IV区
43	弥生土器	台付甕	—	—	ミガキ	へろ指状痕、へろ指連筋文、凸文(RL2)	佛指状文・拵本	No216、No356
44	弥生土器	甕	7.0	6.3 17.4	ナデ	ナデ	完全灰調	No333
45	弥生土器	甕	11.6	5.0 9.0	ミガキ→赤彩	甕孔2ヶ所4個	完全灰調	No359
46	弥生土器	甕	14.7	8.2 (34.3)	口縁ミガキ、体部ナデ	ミガキ、口唇部凸出(RL2)	完全灰調	No18、No19、III区
47	弥生土器	甕	(16.3)	8.2 16.4	ミガキ、口縁ミガキ→赤彩	頸部凸出(RL2)、沈線、体部ハケム	完全灰調	No34、No36、No132、No153、No156、No158、No159、No201、No302
48	弥生土器	甕	—	<10.5>	ハケム	頸部凸出(RL2)、沈線、体部ハケム	完全灰調	No282→284、287、289、351、IK
49	弥生土器	甕	—	<24.5>	ナデ、割線	ミガキ、へろ指状痕、貼付文、割線文、佛指状文、佛指垂下文、貼付文	完全灰調	No280、No384
50	弥生土器	甕	—	5.9 (3.7)	ハケム、ミガキ	ミガキ	完全灰調	IV区
51	弥生土器	ミニチュア土器	—	5.0 (1.8)	ナデ	ナデ、ハケム	回転灰調	覆土
52	弥生土器	ミニチュア土器	—	<2.8>	ナデ	ナデ	回転灰調	覆土
53	石器	環状石片	(5.3)	(5.4)	(2.5)	(5.5)内径(2.3)、外径(10.7)、約1/6厚	完全灰調	No58
54	石器	購物石	11.0	6.3	5.3	489.0端部に使用痕	完全灰調	No415
55	石器	磨・飛行	9.2	8.6	2.3	198.0磨面1、端部に敲打痕、縁辺に条痕	完全灰調	No347
56	石器	石核	14.8	10.1	4.8	774.0打面互削は自然面	完全灰調	覆土
57	石器	石鏟	(2.5)	(0.85)	(0.5)	(0.72)黒曜石、上部欠損、先端部摩滅痕か	完全灰調	覆土

第 189 表 Y4 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	環	10.5	5.4	4.0	—	口クロナデ	完全灰濁	D10
2	土師器	環	11.4	(6.0)	4.0	—	口クロナデ	回転灰濁	覆土
3	土師器	環	13.6	—	(2.8)	—	ミガキ→黒色処理	回転灰濁	II区
4	土師器	碗	14.2	—	(4.6)	—	黒色処理	回転灰濁	床
5	弥生土器	甕	—	(6.0)	(5.6)	—	ナデ	回転灰濁	I区
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	磨片灰濁・拓本	II区
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	磨片灰濁・拓本	I区
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	磨片灰濁・拓本	II区
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	磨片灰濁・拓本	I区
10	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	磨片灰濁・拓本	覆土
11	弥生土器	甕	—	—	—	—	ナデ	磨片灰濁・拓本	床
12	弥生土器	ミニチュア土器	5.0	3.5	4.6	—	輪痕	完全灰濁	床

第 190 表 Y5 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	環	—	—	—	—	陶文状へラミガキ	磨片灰濁	覆土
2	土師器	甕	13.6	—	(5.8)	—	ナデ	回転灰濁	床
3	土師器	甕?	—	—	—	—	ナデ	磨片灰濁	覆土
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	染直文	磨片灰濁・拓本	覆土
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	染直文	磨片灰濁・拓本	床

第 191 表 Y6 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	弥生土器	甕	—	—	—	—	縄文(R12)、へら描灰線文	磨片灰濁・拓本	H125
2	弥生土器	甕	—	—	—	—	縄文(R12)	磨片灰濁・拓本	H40
3	弥生土器	甕	—	—	—	—	磨片灰濁	磨片灰濁・拓本	H127、ベルト
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	磨片灰濁	磨片灰濁・拓本	H127、ベルト
5	弥生土器	甕	—	—	—	—	磨片灰濁	磨片灰濁・拓本	H40
6	弥生土器	甕	—	—	—	—	磨片灰濁	磨片灰濁・拓本	H40
7	弥生土器	甕	—	—	—	—	磨片灰濁	磨片灰濁・拓本	H125、I区
8	弥生土器	甕	—	—	—	—	磨片灰濁	磨片灰濁・拓本	H125、I区
9	弥生土器	甕	—	—	—	—	磨片灰濁	磨片灰濁・拓本	H129、カムド

第 192 表 Y7 号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	鉢	—	(9.6)	(3.9)	—	ハケメ	回転灰濁・拓本	覆土
2	弥生土器	鉢	16.0	4.9	7.0	—	ミガキ→赤彩	完全灰濁	No4
3	弥生土器	甕	13.6	4.4	15.5	—	磨片灰濁	完全灰濁	No3、No7
4	弥生土器	甕	—	—	—	—	波状口縁、波頭部に孔、半張首智による枕線文	磨片灰濁・拓本	I区

第193表 Y7号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	口径(長)底径(短) 器高(厚) 重量等	成形調整		備考	出土層位
				内面	外面		
5	赤生土器	壺	口径(長)16.0 底径(短)6.4 器高(厚)27.4	ミガキ→赤形	ミガキ→赤形、頭部曲出縁柱文(2連止2段)、曲出縁柱文	完全美測	No1
6	赤生土器	壺	口径(長)20.8 底径(短)6.6 器高(厚)26.7	口縁部ミガキ→赤形、体部刺腫	ミガキ→赤形、頸部丁字文	完全美測	No2
7	赤生土器	壺	—	凸部文	—	破片美測・拓本	Ⅳ区
8	赤生土器	壺	—	乳線文	—	破片美測・拓本	Ⅳ区
9	赤生土器	壺	—	ハケメ	ハケメ→ミガキ	破片美測・拓本	No7

第194表 T1号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	口径(長)底径(短) 器高(厚) 重量等	成形調整		備考	出土層位
				内面	外面		
1	土師器	杯	— (5.4) (3.3) —	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転美測	H139
2	土師器	碗	— (6.7) (1.9) —	ロクロナデ	付高台	回転美測	覆土
3	須恵器	杯	— (7.0) (1.3) —	ロクロナデ	—	回転美測	覆土
4	土師器	片口鉢	— (14.4) — (5.9) —	ミガキ→黒色処理	ミガキ	破片美測	覆土
5	土師器	壺	— — —	ナデ	ケズリ→ナデ	回転美測	H139
6	須恵器	壺	— — —	—	肩行目目→ハケメ	破片美測	覆土
7	土師器	壺	(23.0) — (5.9) —	ミガキ	—	回転美測	H139
8	須恵器	不明	(3.1) (3.3) (0.5) (7.42)	下部欠損?	ミガキ	完全美測	覆土

第195表 T2号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	口径(長)底径(短) 器高(厚) 重量等	成形調整		備考	出土層位
				内面	外面		
1	土師器	杯	(11.1) (6.0) (3.9) —	ロクロナデ	回転糸切	回転美測	Ⅳ区
2	土師器	杯	(11.4) 6.3 3.9 —	ロクロナデ	右回転糸切、黒書	完全美測	Ⅳ区
3	土師器	杯	(11.7) 6.3 3.7 —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	覆土
4	土師器	杯	11.7 6.0 4.0 —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	灰層
5	土師器	杯	12.0 6.0 4.0 —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	Ⅳ区
6	土師器	杯	12.0 6.2 4.0 —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	Ⅳ区
7	土師器	杯	12.1 5.8 3.8 —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	Ⅳ区
8	土師器	杯	12.2 5.0 3.9 —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	Ⅳ区
9	土師器	杯	12.4 6.2 4.4 —	ロクロナデ	右回転糸切、輪花	完全美測	覆土
10	土師器	杯	12.5 6.7 4.0 —	ロクロナデ	右回転糸切	回転美測	Ⅳ区
11	土師器	杯	(12.8) — (3.9) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	灰層
12	土師器	杯	— 5.1 (1.9) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	覆土
13	土師器	杯	— 5.9 (2.6) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	覆土
14	土師器	杯	— 5.9 (1.8) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	灰層
15	土師器	杯	— 6.1 (2.3) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	灰層
16	土師器	杯	— 6.2 (2.0) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	灰層
17	土師器	杯	— 6.2 (1.8) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	Ⅳ区
18	土師器	杯	— 6.6 (2.7) —	ロクロナデ	右回転糸切	完全美測	覆土
19	土師器	杯	— (7.0) (2.9) —	ロクロナデ	黒書	完全美測	灰層
20	土師器	杯	— — —	ミガキ→黒色処理	黒書	破片美測	覆土

第 196 表 Ta2 号整穴建物出土遺物総覧表 (2)

No	器種	器形	量		成形調整		備考	出土部位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等	内面	外面		
21	土鈴器	碗	—	6.9 (3.0)	—	右回転糸切→付高台	完全表割	灰層
22	土鈴器	碗	—	7.2 (2.6)	—	回転糸切→付高台	完全表割	灰層
23	土鈴器	皿	—	8.9 (5.2)	—	回転糸切→付高台、墨習	完全表割	IV区、灰層
24	土鈴器	皿	10.7 (14.1)	5.1 (3.0)	—	回転糸切→付高台、三刀半→黒色処理	完全表割	覆土
25	須臾器	杯	—	—	4.1 (—)	ロクロナデ	—	II区
26	灰釉陶器	碗	—	7.3 (2.2)	—	付高台、漆袖	回転表割	覆土
27	灰釉陶器	碗	—	7.8 (2.2)	—	付高台、漆袖	回転表割	IV区
28	須臾器	罎	53.8 (—)	—	11.7 (—)	ロクロナデ	回転表割	覆土
29	須臾器	罎	—	22.0 (5.4)	—	当目組→ナデ	回転表割	覆土
30	須臾器	罎	—	—	—	平行付目	—	覆土
31	須臾器	樹皿	—	—	—	漆伏文	—	覆土
32	弥生土器	罎	—	—	—	突帯文	—	覆土
33	弥生土器	罎	—	—	—	木槌頭、祝願文	—	覆土
34	弥生土器	壺	—	6.1 (2.5)	—	—	完全表割	I区
35	土製品	羽口	—	—	—	先端部ノ口付着	完全表割	I区

第 197 表 Ta3 号整穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	量		成形調整		備考	出土部位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土鈴器	杯	11.9 (—)	—	2.8 (—)	ロクロナデ	—	覆土
2	土鈴器	碗	—	7.2 (2.8)	—	削文→黒色処理	回転糸切→付高台	覆土
3	須臾器	杯	12.9 (—)	—	4.1 (—)	ロクロナデ	—	覆土
4	灰釉陶器	碗	—	7.9 (1.9)	—	見込内滑	回転ヘラケズリ→付高台	覆土
5	土鈴器	武蔵罎	10.6 (—)	—	3.4 (—)	ナデ	—	覆土
6	土鈴器	武蔵罎	—	10.4 (2.7)	—	ナデ	—	覆土

第 198 表 Ta4 号整穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	量		成形調整		備考	出土部位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土鈴器	機内茶器文杯	—	—	—	螺旋削文	—	覆土
						へう記号	—	覆土

第 199 表 Ta5 号整穴建物出土遺物総覧表

No	器種	器形	量		成形調整		備考	出土部位
			口径(長) 底径(短) 器高(厚)	重量等	内面	外面		
1	土鈴器	杯	11.8 (—)	5.3 (4.3)	—	回転糸切	—	No1
						完全表割	—	

第200表 M7号溝出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	外面	備考	出土層位
1	土防器	杯	口径(素)底径(箱) 高さ(厚) (11.4) (5.6) 3.2	—	黒色処理	右回転糸切	回転糸割	覆土
2	土防器	料状杯	11.9 5.0 3.3	—	黒色処理	右回転糸切	完全糸割	No.14
3	土防器	杯	(12.1) 6.7 3.8	—	ロクロナ子	右回転糸切	完全糸割	覆土
4	土防器	北武蔵型杯	(12.2) (5.4) 3.2	—	ロクロナ子	ヘラケズリ	回転糸割	覆土
5	土防器	杯	(12.5) (11.6) (3.7)	—	ナデ	ケズリ	完全糸割	覆土
6	土防器	杯	12.7 5.0 3.9	—	黒色処理	右回転糸切	完全糸割	覆土
7	土防器	杯	13.4 6.7 4.3	—	ミガネ→黒色処理	右回転糸切	完全糸割	覆土
8	土防器	杯	(17.0) — (4.6)	—	暗文→黒色処理	切り離し後ヘラケズリ	完全糸割	覆土
9	土防器	杯	— — 5.8 (1.8)	—	ロクロナ子→黒色処理	墨書	破片糸割	覆土
10	土防器	杯	— — —	—	ロクロナ子→黒色処理	墨書	破片糸割	覆土
11	土防器	杯	— — —	—	ミガネ→黒色処理	墨書	破片糸割	覆土
12	土防器	高杯	(14.0) — (5.9)	—	ミガネ→黒色処理	ケズリ	回転糸割	覆土
13	土防器	高麗	(28.0) — (7.9)	—	ロクロナ子	ケズリ	回転糸割	覆土
14	須臾器	杯	(13.4) 5.8 4.0	—	ロクロナ子	右回転糸切	完全糸割	覆土
15	須臾器	杯	(14.0) 8.0 4.2	—	ロクロナ子、火押	右回転糸切、火押	完全糸割	覆土
16	須臾器	碗	— (7.6) (1.8)	—	飾輪	付高台	回転糸割	覆土
17	須臾器	碗	— — —	—	ロクロナ子	飾輪破状文、ヘラ指状線文	破片糸割、柘木覆土	覆土
18	須臾器	碗	— — —	—	写兵頭→ナデ	平行四角	回転糸割	覆土
19	須臾器	碗	(16.8) — (2.8)	—	ロクロナ子	付高台	回転糸割	覆土
20	須臾器	短頸壺	(10.4) — (3.4)	—	ロクロナ子	飾輪	回転糸割	覆土
21	須臾器	長頸壺	(12.4) — (10.7)	—	ロクロナ子	飾輪	回転糸割	覆土
22	弥生土器	罎	— — —	—	縄文(RUL2)	—	破片糸割、柘木覆土	覆土
23	弥生土器	罎	— — —	—	甲輪格条体(0.12)	—	破片糸割、柘木覆土	覆土
24	弥生土器	罎	— — —	—	各指文	—	破片糸割、柘木覆土	覆土
25	弥生土器	罎	— — —	—	半蔵官管による沈線文	—	破片糸割、柘木覆土	覆土
26	弥生土器	罎	— — —	—	半蔵官管による沈線文、内外赤彩	—	破片糸割、柘木覆土	覆土
27	土製品	土押	— 2.1 0.85	—	孔径φ 0.4	—	完全糸割	覆土
28	鉄器	長頸鐵	(5.8) 0.8 (0.3)	<5.59>	頸部欠損、片刃	—	完全糸割	覆土

第201表 M8号溝出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	外面	備考	出土層位
1	土防器	杯	口径(素)底径(箱) 高さ(厚) 12.4 5.3 3.3	—	ミガネ→黒色処理	右回転糸切	完全糸割	覆土
2	土防器	杯	(12.4) (6.5) (3.5)	—	暗文→黒色処理	右回転糸切	回転糸割	覆土
3	土防器	杯	(12.7) (5.2) (3.6)	—	黒色処理	右回転糸切	回転糸割	覆土
4	土防器	杯	— 5.2 1.3	—	ロクロナ子	右回転糸切	完全糸割	覆土
5	灰輪陶器	皿	— (6.1) (1.8)	—	飾輪	飾輪、付高台	回転糸割	覆土

第 202 表 M9 号溝出土土器観察表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)底径(短) 器高(厚)	口徑(長)底徑(短) 器高(厚)		内面	外面		
1	土師器	坏	(11.7)	4.3	3.7	—	右回転糸切	回転糸割	覆土
2	土師器	坏	11.9	4.8	3.6	—	左回転糸切	完全糸割	No4
3	土師器	坏	12.1	6.1	2.8	—	右回転糸切・煤付着	完全糸割	No5
4	土師器	坏	(12.8)	(5.4)	(3.4)	—	回転糸切	回転糸割	覆土
5	土師器	坏	—	—	—	—	墨書	破片糸割	覆土
6	土師器	坏	(13.2)	(8.9)	(5.3)	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切→付高台	No3
7	土師器	坏	(14.3)	7.3	5.2	—	口クロナデ	右回転糸切→付高台	No4
8	土師器	坏	14.6	7.8	5.1	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切→付高台	完全糸割
9	土師器	足高台碗	16.7	9.7	7.7	—	黒色処理	回転糸切→付高台	完全糸割
10	土師器	足高台碗	(16.9)	(10.4)	8.1	—	口クロナデ	回転糸切→付高台	完全糸割
11	土師器	足高台碗	(17.4)	10.8	7.2	—	黒色処理	回転糸切→付高台	完全糸割
12	土師器	足高台碗	17.5	10.2	7.8	—	黒色処理	回転糸切→付高台	No9, No11
13	土師器	足高台碗	(17.5)	10.7	8.4	—	口クロナデ	回転糸切→付高台	完全糸割
14	土師器	足高台碗	(17.7)	10.6	8.4	—	ナデ	回転糸切→付高台	No8, No11, No12
15	土師器	碗	—	7.0	(3.3)	—	暗文→黒色処理	回転糸切→付高台・編花	完全糸割
16	土師器	碗	—	(7.4)	(3.0)	—	口クロナデ	完全糸割	No7
17	土師器	碗	—	7.6	(3.4)	—	口クロナデ	回転糸切→付高台	完全糸割
18	土師器	碗	—	7.7	(3.4)	—	暗文→黒色処理	完全糸割	No13
19	土師器	碗	—	8.0	(3.0)	—	口クロナデ	回転糸切→付高台	No2
20	土師器	碗	—	(8.8)	(3.0)	—	口クロナデ	回転糸切→付高台	完全糸割
21	土師器	足高台碗	—	10.5	(3.0)	—	口クロナデ	回転糸切→付高台	No6
22	灰釉器	皿	12.9	7.3	2.7	—	脣縁(つけ掛け)	回転ヘラケズリ→付高台	完全糸割
23	土師器	口ク口裏	—	(7.6)	(3.1)	—	カキメ	ケズリ・ナデ	No1
24	土師器	罎	—	8.2	(10.8)	—	ナデ	回転糸割	完全糸割
25	土師器	武笠罎	—	—	—	—	ナデ	破片糸割	No13
26	須器器	罎	—	—	—	—	口クロナデ	ケズリ	No19
								脣面狀文・隣帯	破片糸割・柘本 No15

第 203 表 連携外出土遺物 縄文土器一覧表

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)底径(短) 器高(厚)	口徑(長)底径(短) 器高(厚)		内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	備出埋文・早明	破片糸割・柘本	表様

第 204 表 連携外出土遺物 弥生土器観察表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成形調整		備考	出土層位
			口径(長)底径(短) 器高(厚)	口徑(長)底径(短) 器高(厚)		内面	外面		
1	弥生土器	裏	(18.8)	—	(5.3)	—	口脣部小突起に朝目	回転糸割	—
2	弥生土器	裏	—	—	—	—	沈殿文	破片糸割・柘本	—
3	弥生土器	裏	—	—	—	—	口脣部小突起に朝目	破片糸割・柘本	—
4	弥生土器	裏	—	—	—	—	沈殿文	破片糸割・柘本	—
5	弥生土器	裏	—	—	—	—	口脣部押縁	破片糸割・柘本	—
6	弥生土器	裏	—	—	—	—	口脣部朝目・条直文	破片糸割・柘本	—

第 205 表 遺構外出土遺物 弥生土器観察表 (2)

No	器種	器形	口径(長)底径(短)器高(厚)	重量等	成 形・調 整			備 考	出土層位
					内 面	外 面			
7	弥生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・粘土
8	弥生土器	罍	—	—	波状口縁・条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
9	弥生土器	壺	—	—	赤彩、小突起、祝釵文	—	—	—	破片表調・粘土 O4
10	弥生土器	罍	—	—	波状口縁	—	—	—	破片表調・粘土
11	弥生土器	罍	—	—	波状口縁、波頂部刻目	—	—	—	破片表調・粘土
12	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土 M22
13	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
14	弥生土器	罍	—	—	祝釵文	—	—	—	破片表調・粘土
15	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
16	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
17	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
18	弥生土器	罍	—	—	孔眼文	—	—	—	破片表調・粘土 M22
19	弥生土器	罍	—	—	繩文 (R1.2)	—	—	—	破片表調・粘土
20	弥生土器	罍	—	—	繩文 (R1.2)	—	—	—	破片表調・粘土
21	弥生土器	罍	—	—	波状口縁	—	—	—	破片表調・粘土
22	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
23	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
24	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土 15
25	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
26	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
27	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
28	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
29	弥生土器	罍	—	—	波状口縁	—	—	—	破片表調・粘土
30	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
31	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
32	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土 15
33	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土 M22
34	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
35	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
36	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
37	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土 N9
38	弥生土器	罍	—	—	無糸文	—	—	—	破片表調・粘土
39	弥生土器	罍	—	—	甲輪筋条体 (I.1.2)	—	—	—	破片表調・粘土 1.22
40	弥生土器	罍	—	—	繩文 (R1.2)	—	—	—	破片表調・粘土
41	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
42	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
43	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土 15
44	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
45	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
46	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土
47	弥生土器	罍	—	—	条痕文	—	—	—	破片表調・粘土 表裡

第 206 表 滿洲外出土遺物 赤生土器附屬表 (3)

No	器種	器形	法		量	成 形・調 整		備 考	出土單位
			口径(長)	底徑(短)		內 面	外 面		
48	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
49	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
50	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
51	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
52	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
53	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
54	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
55	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
56	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
57	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
58	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
59	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
60	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
61	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
62	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
63	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
64	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
65	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
66	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
67	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
68	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
69	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
70	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
71	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
72	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
73	赤生土器	罍	(8.0)	—	(5.1)	—	—	—	破片表調・拓本 表採
74	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
75	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採
76	赤生土器	罍	—	—	—	—	—	—	破片表調・拓本 表採

第207表 遺構外出土遺物・土師器一覽表(1)

No	土師器種	器形	口径(長)・底径(短)・輪高(厚)	重量等	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土師器	環	(10.6)	(6.0)	(3.8)	—	ロクロナデ	右回転糸切	回転糸割
2	土師器	環	(11.5)	9.2	3.9	—	陶文→黒色処理	右回転糸切	完全糸割
3	土師器	環	11.7	5.8	4.0	—	ロクロナデ	右回転糸切	完全糸割
4	土師器	環	(12.0)	(5.0)	(3.0)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転糸割
5	土師器	環	(12.0)	(5.4)	(3.3)	—	ナデ→黒色処理	回転糸切	表揉
6	土師器	環	(12.4)	—	(3.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸割
7	土師器	環	(12.8)	(5.2)	(3.7)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転糸割
8	土師器	環	(12.8)	—	(3.9)	—	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	回転糸割
9	土師器	環	12.8	—	(6.9)	—	ミガキ	ミガキ	表揉
10	土師器	環	(13.2)	(12.4)	(3.7)	—	ナデ	ケズリ	回転糸割
11	土師器	環	(13.4)	(5.0)	4.6	—	ミガキ→黒色処理	右回転糸切	回転糸割
12	土師器	環	(13.6)	(7.2)	3.5	—	ミガキ	ケズリ	回転糸割
13	土師器	北式縄文環	(13.6)	(10.4)	(3.0)	—	ナデ	ケズリ	回転糸割
14	土師器	北式縄文環	(13.0)	(12.0)	(3.7)	—	ナデ	ケズリ	表揉
15	土師器	環	(13.6)	(12.8)	(4.2)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転糸割
16	土師器	環	(13.8)	(12.2)	(4.8)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転糸割
17	土師器	環	(14.0)	(5.8)	3.2	—	黒色処理	回転糸切・磨書	回転糸割
18	土師器	有段口縁環	(14.0)	(12.0)	(3.3)	—	摩耗	摩耗	回転糸割
19	土師器	環	(14.2)	—	(3.0)	—	ナデ→陶文→黒色処理	ロクロナデ	回転糸割
20	土師器	環	(14.4)	(12.4)	(3.9)	—	ナデ→黒色処理	ケズリ	回転糸割
21	土師器	環	(14.4)	—	(3.9)	—	ロクロナデ	ケズリ	回転糸割
22	土師器	環	(14.6)	(7.2)	3.9	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転糸割
23	土師器	北式縄文環	(14.6)	(12.4)	(4.0)	—	ナデ	ケズリ	表揉
24	土師器	環	(14.8)	(8.4)	(5.2)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ	回転糸割
25	土師器	環	(16.0)	(11.8)	(3.7)	—	ナデ	ロクロナデ	回転糸割
26	土師器	環	(16.0)	—	(4.6)	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	回転糸割
27	土師器	環	(18.6)	—	(3.0)	—	ミガキ→黒色処理	ナデ→一部ミガキ	回転糸割
28	土師器	環	—	4.5	(1.8)	—	黒色処理	ケズリ	表揉
29	土師器	環	—	4.9	(1.4)	—	ロクロナデ	底彫→周縁ケズリ	完全糸割
30	土師器	環	—	5.1	(1.2)	—	回転糸切	完全糸割	完全糸割
31	土師器	環	—	5.4	(2.0)	—	右回転糸切	完全糸割	完全糸割
32	土師器	環	—	(5.8)	(2.7)	—	右回転糸切	完全糸割	完全糸割
33	土師器	環	—	(6.0)	(2.7)	—	回転糸切	完全糸割	完全糸割
34	土師器	環	—	6.1	(1.5)	—	ロクロナデ	回転糸切	完全糸割
35	土師器	環	—	(6.2)	(3.2)	—	ミガキ→黒色処理	回転糸切	完全糸割
36	土師器	環	—	7.1	(3.2)	—	ミガキ→陶文→黒色処理	摩耗	完全糸割
37	土師器	環	—	(7.8)	(3.2)	—	ミガキ→黒色処理	ケズリ→ミガキ	回転糸割
38	土師器	縄文系縄文環	—	(10.6)	(1.9)	—	陶文→黒色処理	摩耗	回転糸割
39	土師器	環	—	—	(4.8)	—	ナデ	底彫周縁ケズリ・磨書	完全糸割
40	土師器	環	—	—	(4.8)	—	ナデ	磨書	表揉
41	土師器	甕	(11.2)	(6.2)	(4.8)	—	ミガキ→陶文→黒色処理	付高台	回転糸割

第 208 表 道橋外出土遺物土師器一覽表 (2)

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		断面	外面		
42	土師器	碗	(14.2)	—	<4.3>	—	ロクロナデ	回転式測	—
43	土師器	碗	14.3	7.7	6.1	—	回転糸切→付高台	完全式測	—
44	土師器	碗	(15.1)	(8.4)	5.0	—	高台付高台・重畳	完全式測	—
45	土師器	碗	(15.2)	—	<4.7>	—	回転糸切→付高台	完全式測	—
46	土師器	碗	—	8.3	<2.9>	—	回転糸切→付高台	完全式測	—
47	土師器	碗	—	—	<1.4>	—	高台付高台	回転式測	—
48	土師器	耳皿	9.7	4.1	<2.9>	—	黒色処理	完全式測	—
49	土師器	耳皿	(12.4)	(6.8)	3.2	—	黒色処理 孔φ0.5	完全式測	—
50	土師器	高杯	—	(12.0)	4.0	—	糸切→付高台	回転式測	—
51	土師器	手捏	—	(3.2)	<2.7>	—	ケズリ→ミガキ	回転式測	—
52	土師器	裏	(11.8)	—	<5.7>	—	ナデ	回転式測	表採
53	土師器	ロクノ口裏	(12.7)	—	<6.4>	—	ナデ	回転式測	—
54	土師器	裏	(16.2)	—	<4.8>	—	ナデ	回転式測	C11
55	土師器	ロクノ口裏	(21.6)	—	<5.8>	—	ナデ	回転式測	—
56	土師器	武蓋裏	(22.0)	—	<4.5>	—	ケズリ	回転式測	K1
57	土師器	武蓋裏	(22.2)	—	<6.5>	—	ケズリ	回転式測	—
58	土師器	ロクノ口裏	(22.9)	—	<14.0>	—	ケズリ	回転式測	—
59	土師器	武蓋裏	(25.6)	—	<7.0>	—	ケズリ	回転式測	B1
60	土師器	武蓋裏	(25.6)	—	<6.0>	—	回転糸切	回転式測	表採
61	土師器	ロクノ口裏	—	(5.4)	<2.5>	—	ハケス	回転式測	—
62	土師器	裏	—	(8.4)	<1.7>	—	ハケス	回転式測	—
63	土師器	裏	—	(10.8)	<3.2>	—	ハケス	回転式測	B5
64	土師器	東海系(北群?)	—	—	—	—	ハケス	繰上式測・拍本 B12	—
65	土師器	羽釜	—	—	—	—	ナデ	繰上式測	O22
66	土師器	皿	—	—	<8.8>	—	ナデ	完全式測	—
67	土師器	把手	—	—	<6.8>	—	ナデ	完全式測	—
68	土師器	壺	(9.8)	—	<6.8>	—	ミガキ	回転式測	—
69	土師器	壺	—	—	<6.8>	—	ミガキ	回転式測	—
70	土師器	壺	(10.0)	—	<4.0>	—	ミガキ	回転式測	—

第 209 表 道橋外出土遺物須恵器一覽表 (1)

No	器種	器形	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		断面	外面		
1	須恵器	環	(13.3)	(7.5)	<3.2>	—	ケズリ	回転式測	—
2	須恵器	環	(13.7)	(8.2)	<4.2>	—	ケズリ・火押	回転式測	A 耕作土
3	須恵器	環	(13.8)	(7.4)	<4.1>	—	火押	回転式測	表採
4	須恵器	環	(13.8)	(9.0)	<2.9>	—	ケズリ	回転式測	—
5	須恵器	環	(14.0)	(7.2)	<3.0>	—	火押	回転式測	表採
6	須恵器	環	(14.0)	(8.4)	<4.0>	—	回転糸切・火押	回転式測	—
7	須恵器	環	(14.2)	(7.4)	<5.8>	—	ロクロナデ 底部摩耗	回転式測	—
8	須恵器	環	(14.5)	(8.9)	<3.7>	—	ケズリ	回転式測	A 耕作土

第 210 表 遺構外出土遺物須臾器一覧表 (2)

No	器種	器形	法		量	成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)/底径(幅)	器高(厚)		内 面	外 面		
9	須臾器	环	—	(5.8)	—	ロクロナデ	回転糸切	回転表割	覆土
10	須臾器	环	—	6.0	(1.4)	火溝	右回転糸切	完全表割	表探
11	須臾器	环	—	6.0	(2.9)	火溝	回転糸切、火溝	完全表割	表探
12	須臾器	环	—	6.1	(2.0)	火溝	回転ヘラケズリ→ヘラケズリ、火溝	完全表割	—
13	須臾器	环	—	6.2	(2.1)	ロクロナデ	右回転糸切	完全表割	—
14	須臾器	环	—	7.3	(2.1)	ロクロナデ	回転糸切	回転表割	—
15	須臾器	环	—	7.7	(1.3)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	完全表割	C0
16	須臾器	环	—	8.1	(4.2)	火溝	回転ヘラケズリ、火溝	完全表割	—
17	須臾器	环	—	(8.7)	(2.2)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	回転表割	B0
18	須臾器	环	—	—	—	ロクロナデ	ケズリ、割器	破片表割	C2
19	須臾器	环	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片表割	—
20	須臾器	环	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片表割	I7
21	須臾器	有台环	(7.8)	(6.0)	(4.6)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	回転表割	—
22	須臾器	有台环	—	6.6	(1.8)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ→付高台	完全表割	A 耕作土
23	須臾器	有台环	—	(8.9)	(1.7)	ロクロナデ	右回転糸切→付高台	回転表割	I7
24	須臾器	环蓋	(15.9)	—	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	—
25	須臾器	环蓋	(17.5)	—	(2.7)	ロクロナデ	火溝	回転表割	I8
26	須臾器	环蓋	—	—	(1.3)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、つまみ貼付	回転表割	覆土
27	須臾器	环蓋	—	—	(2.4)	ロクロナデ	回転ヘラケズリ、つまみ貼付	完全表割	—
28	須臾器	环蓋	(8.4)	—	(3.8)	ロクロナデ	鑿削状工具による削ぎ文、沈線	回転表割	—
29	須臾器	高环(脚)	—	—	(3.3)	ロクロナデ	ヘラ端沈線、透かし有り	回転表割	表探
30	須臾器	高环(脚)	—	—	(7.3)	ロクロナデ	沈線、三角形通孔(3ヶ所)	完全表割	表探
31	須臾器	甕	(29.8)	—	(6.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	—
32	須臾器	甕	(30.0)	—	(4.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	—
33	須臾器	甕	(38.6)	—	(10.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	—
34	須臾器	甕	—	(10.7)	(4.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	—
35	須臾器	甕	—	(11.2)	(2.3)	ナデ	指頭仕組→ナデ	完全表割	B 耕作土
36	須臾器	甕	—	—	—	ロクロナデ	隙帯	完全表割	—
37	須臾器	甕	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片表割	—
38	須臾器	甕	—	—	—	ロクロナデ	沈線、櫛歯状文	破片表割	—
39	須臾器	甕	—	—	—	—	—	破片表割	—
40	須臾器	甕	—	—	—	当具痕	—	破片表割	—
41	須臾器	甕	—	—	—	当具痕	平行目目	破片表割	—
42	須臾器	甕	—	—	—	当具痕	口縁部櫛歯状文	破片表割	—
43	須臾器	甕	—	—	—	当具痕	ロクロナデ	破片表割	O22
44	須臾器	甕	(9.0)	—	(4.8)	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	破片表割	C2
45	須臾器	甕	—	(7.6)	(3.3)	ロクロナデ	付高台	回転表割	R17
46	須臾器	甕	—	(7.9)	(2.8)	ロクロナデ	付高台	回転表割	—
47	須臾器	甕	—	9.6	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	完全表割	表探
48	須臾器	甕	—	—	(5.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	—
49	須臾器	甕	—	—	(7.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	回転表割	K1

第 211 表 遺構外出土遺物須臾器一覽表 (3)

No	器種	器形	法		量	成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内 面		
50	須臾器	壺	—	—	<7.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全支割	—
51	須臾器	壺	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片支割	H1
52	須臾器	凸部文付四耳壺	—	—	<6.2>	当具痕	平口、凸部、耳貼付	完全支割	H14
53	須臾器	凸部文付四耳壺	—	—	—	ロクロナデ	凸部、耳貼付	破片支割	—
54	須臾器	凸部文付四耳壺	—	—	—	ロクロナデ	平口、耳貼付	破片支割	—
55	須臾器	凸部文付四耳壺	—	—	—	当具痕	平口、耳貼付	破片支割	—
56	須臾器	平瓶	(6.8)	—	<2.7>	ロクロナデ	口脣部に残存	完全支割	—

第 212 表 遺構外出土遺物須臾器・緑釉・青磁一覽表

No	器種	器形	法		量	成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内 面		
1	灰釉陶器	碗	(12.4)	(7.2)	(2.5)	—	—	—	—
2	灰釉陶器	碗	(13.0)	—	<2.6>	—	—	—	—
3	灰釉陶器	碗	(13.6)	—	<3.7>	—	—	—	—
4	灰釉陶器	碗	—	(6.6)	<3.3>	—	—	—	—
5	灰釉陶器	碗	(6.8)	(2.6)	—	—	—	—	—
6	灰釉陶器	碗	(7.0)	(2.3)	—	—	—	—	—
7	灰釉陶器	碗	(8.0)	(1.5)	—	—	—	—	—
8	灰釉陶器	碗	(8.0)	(2.1)	—	—	—	—	—
9	灰釉陶器	碗	(8.2)	(3.7)	—	—	—	—	—
10	灰釉陶器	平瓶	—	(8.8)	<1.8>	—	—	—	—
11	灰釉陶器	碗	—	—	<3.9>	—	—	—	—
12	緑釉陶器	碗	—	—	—	—	—	—	—
13	青磁	碗	—	—	<1.9>	—	—	—	—
14	青磁	碗	—	—	—	—	—	—	—

第 213 表 遺構外出土遺物土製品一覽表

No	器種	器形	法		量	成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内 面		
1	土製品	土器片円盤	4.2	4.3	0.8	—	—	—	—
2	土製品	土器片円盤	2.7	2.5	1.0	—	—	—	—

第 214 表 遺構外出土遺物石器・石製品一覽表 (1)

No	器種	器形	法		量	成 形、調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内 面		
1	石器	凹石	9.6	8.7	5.4	218.0	凹径 1.8、断面あり	完全支割	B0
2	石器	打製石斧	<7.3>	<3.8>	<1.6>	<689.0>	基部欠損、胴部折痕顯著	完全支割	A12
3	石器	石鐮	<1.6>	<1.4>	<0.3>	<0.36>	黒曜石、片断のみ残存	完全支割	—
4	石製品	白玉	0.7	0.7	0.45	0.27	φ 0.3	完全支割	G8
5	石製品	F1玉	0.75	0.75	0.25	0.22	φ 0.2	完全支割	—
6	石製品	碧玉	0.45	0.5	2.15	0.88	φ 0.25	完全支割	I7

第 215 表 遺構外出土遺物・石器・石製品一覧表 (2)

No	器種	器形	法			重量等	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
7	石器	編物石	11.1	7.3	3.1	241.0	完全表割	—
8	石器	編物石	11.2	6.2	3.0	254.0	両側に採り、使用痕あり	表採
9	石器	磨石	2.1	2.0	<1.8>	<9.81>	一部欠損、全体に磨り	完全表割
10	石器	磨石	6.2	4.0	1.1	38.0	磨面 1	完全表割
11	石器	磨石	6.5	6.3	5.4	317.0	全体に磨り	完全表割
12	石器	磨石	8.2	5.4	2.6	151.0	磨面 1	完全表割
13	石器	磨・砥石	<8.1>	<10.0>	<5.8>	<768.0>	磨面 2、正裏と端部に敲打痕	C4
14	石製品	石鏃	3.7	0.9	0.8	2.57	黒曜石、両端鋭角、溝あり	E1'
15	石器	石匙	<4.0>	<3.7>	<1.1>	<12.86>	黒曜石、一部欠損	完全表割
16	石器	二次加工のある刮片	1.5	1.5	0.4	0.71	黒曜石、正裏に加工痕	完全表割
17	石材	石籽	3.0	1.2	0.5	1.56	—	完全表割
18	石材	石材	3.1	1.2	0.7	2.41	—	完全表割
19	石器	石材	5.9	2.5	1.2	20.47	—	完全表割
20	石製品	硯	<6.7>	<2.6>	<0.6>	<14.23>	左側～下部欠損	完全表割

第 216 表 遺構外出土遺物・鉄製品・鉄製品一覧表

No	器種	器形	法			重量等	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
1	鉄器	刀子	<10.4>	<0.8>	<0.3>	<9.20>	両端欠損	H14
2	鉄器	長頸鏃	<2.2>	<0.9>	<0.3>	<4.64>	同一個体(液合しない)	—
3	鉄器	長頸鏃	<7.6>	<0.6>	<0.2>	<1.51>	同一個体(液合しない)	—
4	鉄製品	角釘	<3.9>	0.7	0.3	<1.89>	先端欠損	D0
5	鉄製品	角釘	<4.1>	0.7	0.7	<3.42>	先端欠損	—
6	鉄製品	角釘	<6.1>	<0.5>	<0.3>	<4.31>	両端欠損	A4
7	鉄製品	角釘	<7.7>	0.7	0.4	<7.63>	両端欠損	A6
8	鉄製品	鏃	<3.8>	<3.5>	<0.9>	<7.17>	両端欠損	完全表割
9	鉄製品	角輪	<9.5>	<0.5>	<0.5>	<8.06>	両端欠損	完全表割
10	鉄製品	古銭	径 2.40	—	0.08	2.39	「早末通」	A 附作土
11	銅製品	古銭	径 2.45	—	0.10	3.54	「不明」	完全表割・拓本 C2
								完全表割・拓本 B8



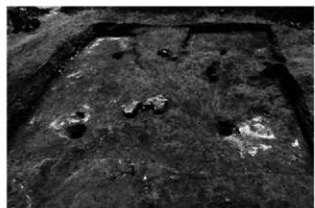
H 1号竪穴建物



H 2号竪穴建物



H 3号竪穴建物



H 4号竪穴建物



H 5号竪穴建物



H 5号竪穴建物カマド



H 6号竪穴建物



H 7号竪穴建物



H 9号竪穴建物



H 11号竪穴建物



H 12号竪穴建物



H 13号竪穴建物



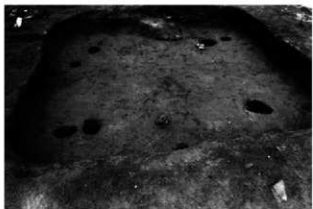
H 15号竪穴建物



H 16号竪穴建物



H 17号竪穴建物



H 18号竪穴建物



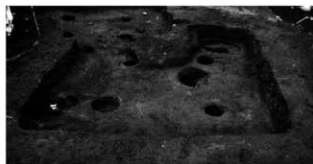
H 20号竖穴建物



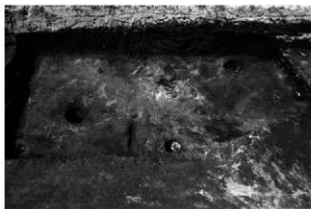
H 21号竖穴建物



H 22号竖穴建物



H 23号竖穴建物



H 24号竖穴建物



H 25号竖穴建物



H 26号竖穴建物



H 27号竖穴建物



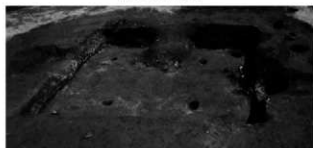
H 28 号竪穴建物



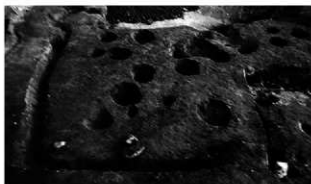
H 29 号竪穴建物



H 30 号竪穴建物



H 32 号竪穴建物



H 33 号竪穴建物



H 34 号竪穴建物



H 36 号竪穴建物



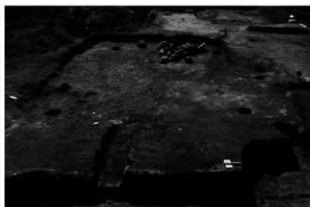
H 37 号竪穴建物



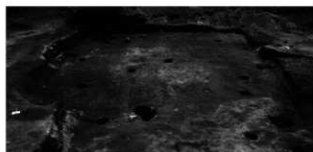
H 38号竪穴建物



H 39号竪穴建物



H 40号竪穴建物



H 41号竪穴建物



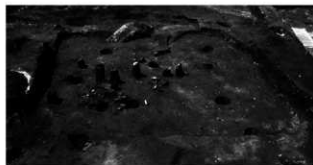
H 42号竪穴建物



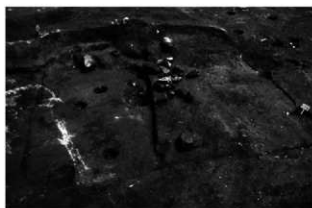
H 43号竪穴建物



H 44号竪穴建物



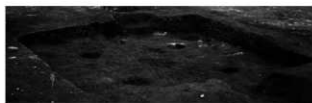
H 45号竪穴建物



H 46 号竪穴建物



H 47 号竪穴建物



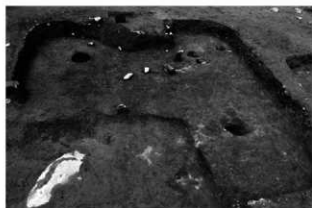
H 48 号竪穴建物



H 49 号竪穴建物



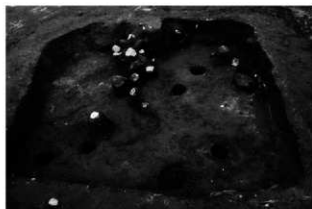
H 50 号竪穴建物



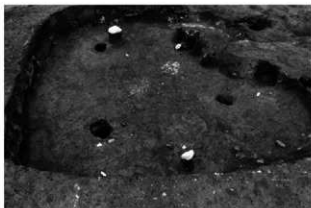
H 51 号竪穴建物



H 52 号竪穴建物



H 53 号竪穴建物



H 54号竪穴建物



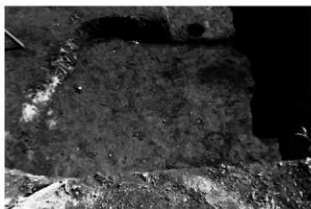
H 55号竪穴建物



H 56号竪穴建物



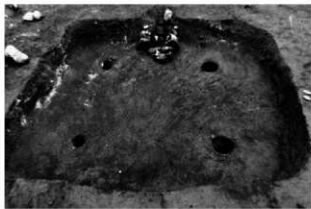
H 57号竪穴建物



H 58号竪穴建物



H 59号竪穴建物



H 60号竪穴建物



H 61号竪穴建物



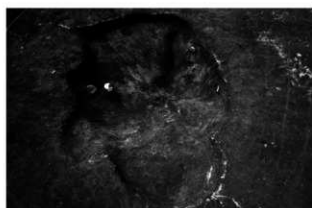
H 62 号竪穴建物



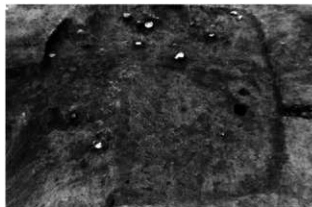
H 63 号竪穴建物



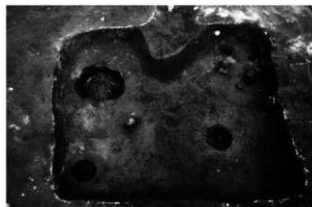
H 64 号竪穴建物



H 68 号竪穴建物



H 69 号竪穴建物



H 71 号竪穴建物



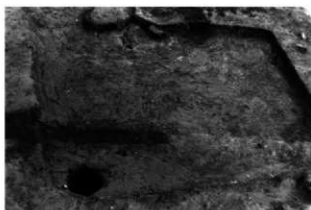
H 72 号竪穴建物



H 74 号竪穴建物



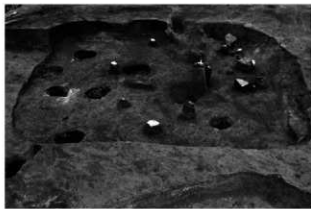
H 75号竪穴建物



H 76号竪穴建物



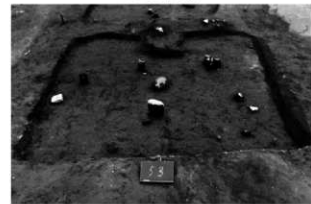
H 77号竪穴建物



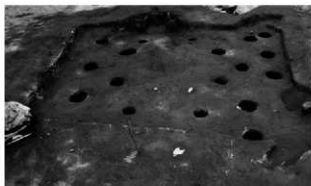
H 78号竪穴建物



H 79号竪穴建物



H 80号竪穴建物



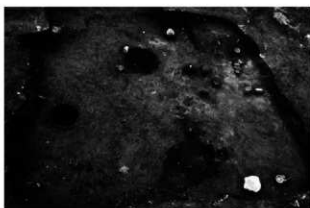
H 81号竪穴建物



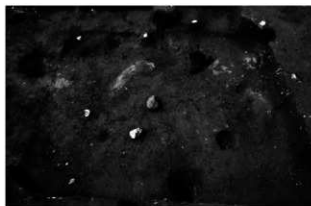
H 82号竪穴建物



H 82 号整穴建物



H 83 号整穴建物



H 84 号整穴建物



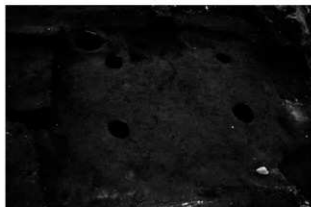
H 85 号整穴建物



H 86 号整穴建物



H 87 号整穴建物



H 88 号整穴建物



H 89 号整穴建物



H 90-91 号竪穴建物



H 92 号竪穴建物



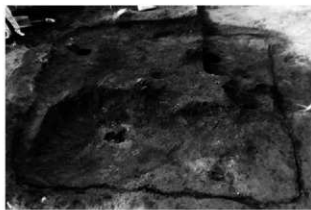
H 93 号竪穴建物



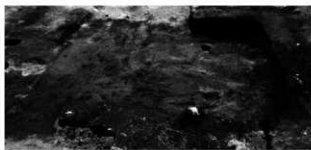
H 94 号竪穴建物



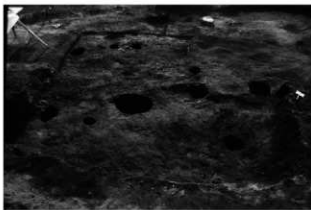
H 96 号竪穴建物



H 97 号竪穴建物



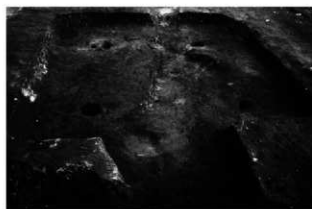
H 98 号竪穴建物



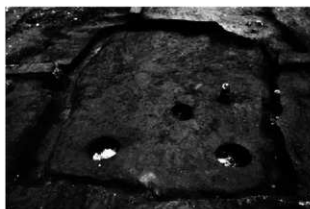
H 99 号竪穴建物



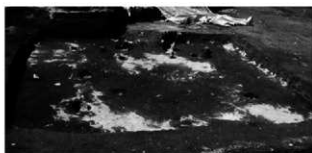
H 100 号竪穴建物



H 101 号竪穴建物



H 102 号竪穴建物



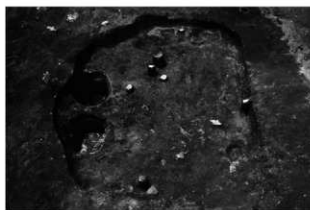
H 103 号竪穴建物



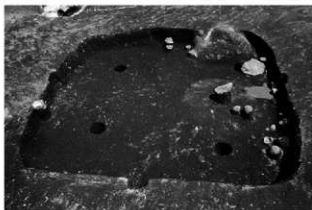
H 104 号竪穴建物



H 106 号竪穴建物



H 107 号竪穴建物



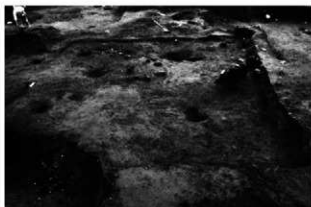
H 108 号竪穴建物



H 109 号竪穴建物



H 110 号竪穴建物



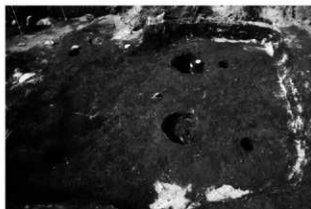
H 111 号竪穴建物



H 112 号竪穴建物



H 113 号竪穴建物



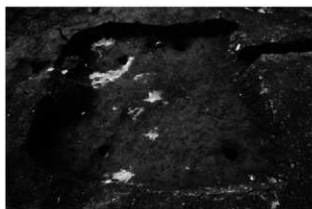
H 114 号竪穴建物



H 115 号竪穴建物



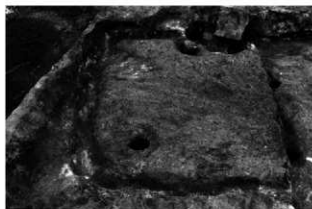
H 117 号竪穴建物



H 118 号竪穴建物



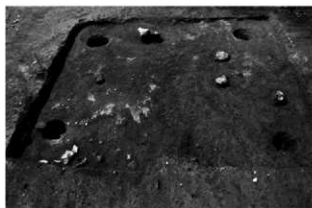
H 119 号竪穴建物



H 120 号竪穴建物



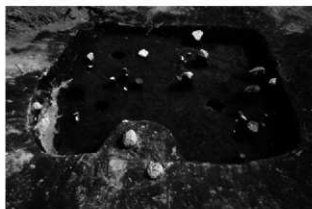
H 121 号竪穴建物



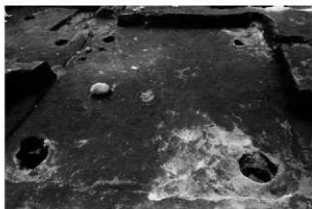
H 124 号竪穴建物



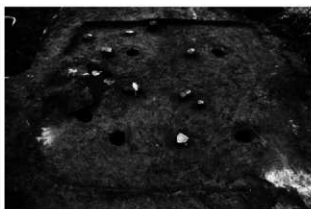
H 125 号竪穴建物



H 126 号竪穴建物



H 127 号竪穴建物



H 128 号竪穴建物



H 129 号竪穴建物



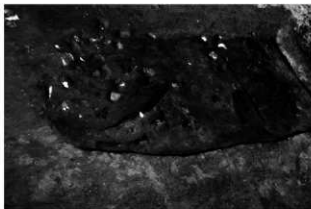
H 130 号竪穴建物



H 131 号竪穴建物



H 133 号竪穴建物



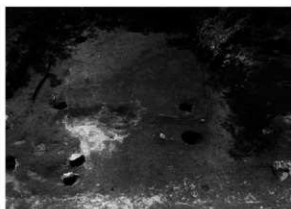
H 134 号竪穴建物



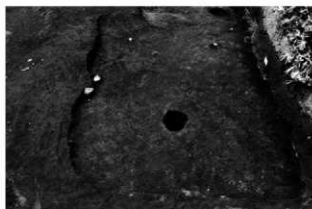
H 135 号竪穴建物



H 137 号竪穴建物



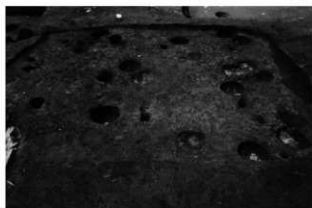
H 138 号竪穴建物



Y1 号竪穴建物



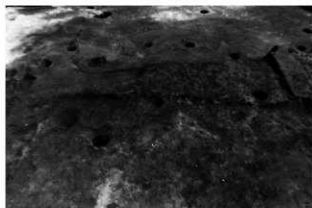
Y2 号竪穴建物



Y3 号竪穴建物



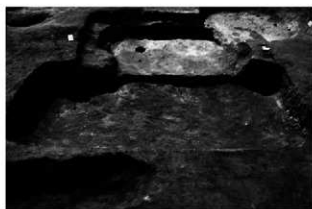
Y4 号竪穴建物



Y6 号竪穴建物



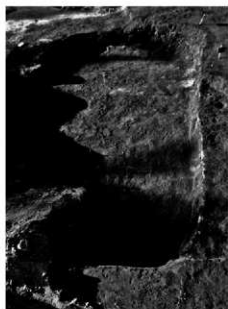
Y7 号竪穴建物



Ta1 号竪穴建物



Ta2 号竪穴建物



Ta3 号竪穴建物



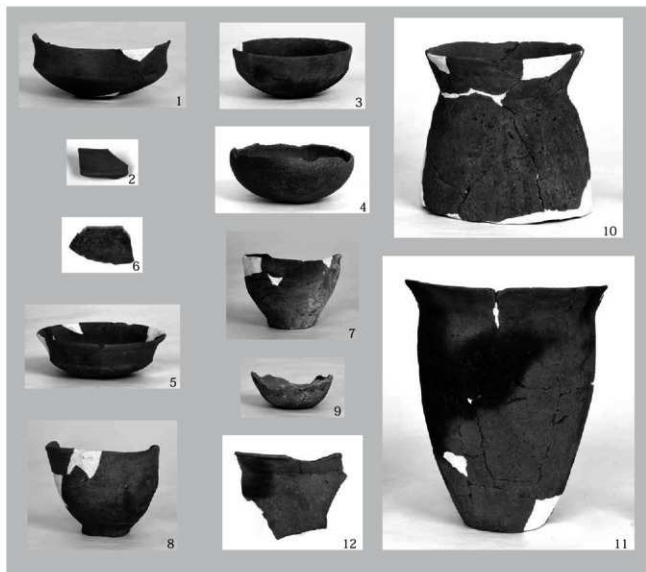
D1 号土坑



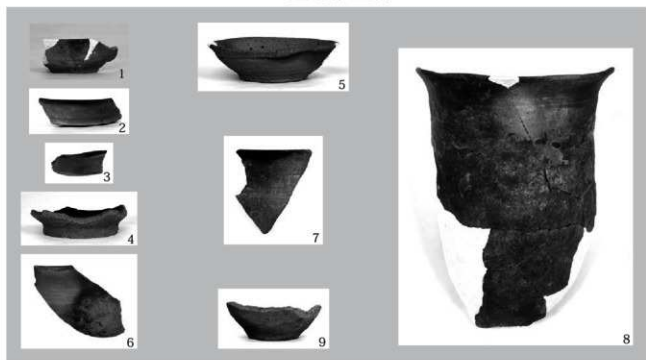
D2 号土坑



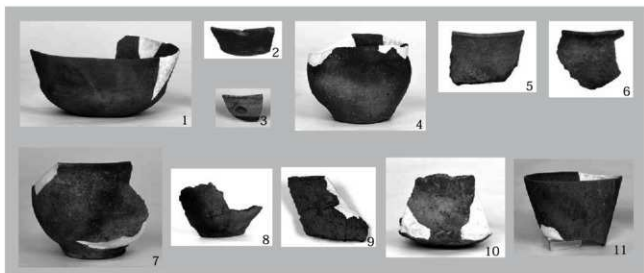
調査風景



H1 号竪穴建物出土遺物



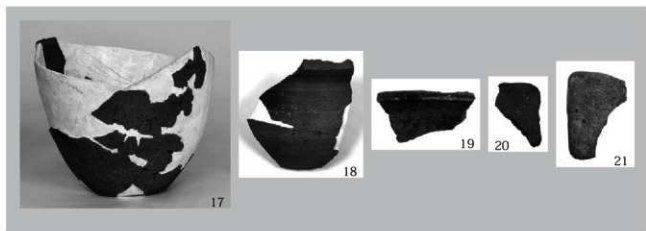
H2 号竪穴建物出土遺物



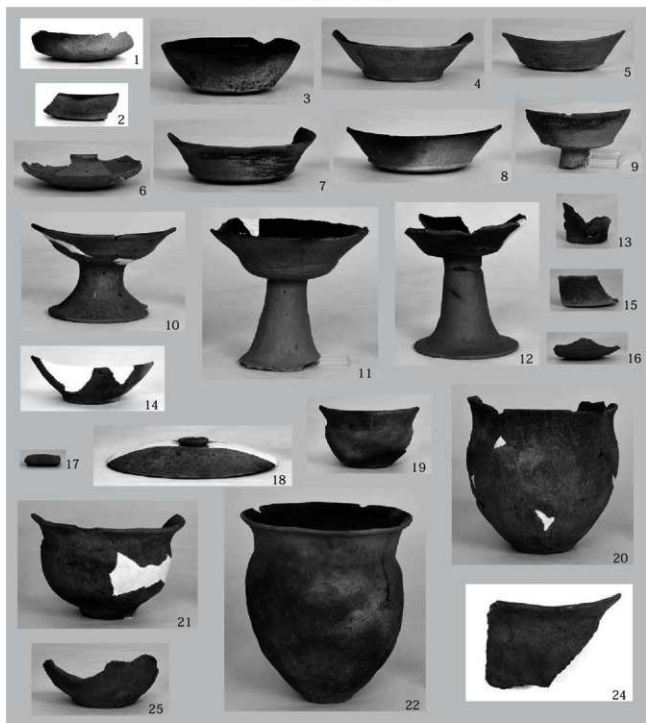
H3 号竪穴建物出土遺物



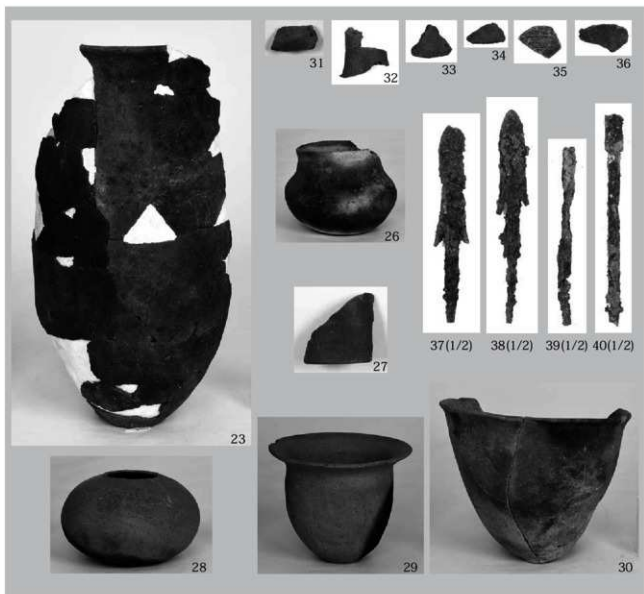
H4 号竪穴建物出土遺物 (1)



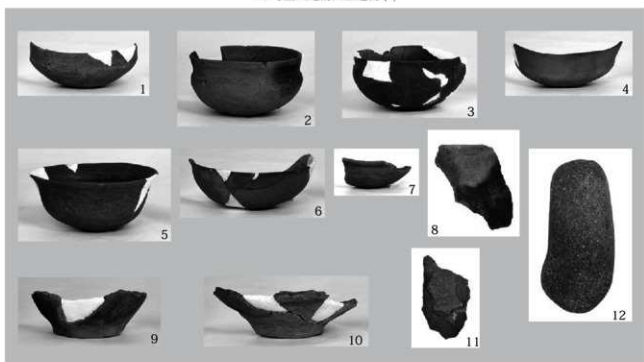
H4 号竪穴建物出土遺物 (2)



H5 号竪穴建物出土遺物 (1)



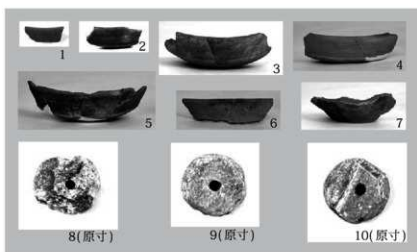
H5 号竪穴建物出土遺物 (2)



H6 号竪穴建物出土遺物



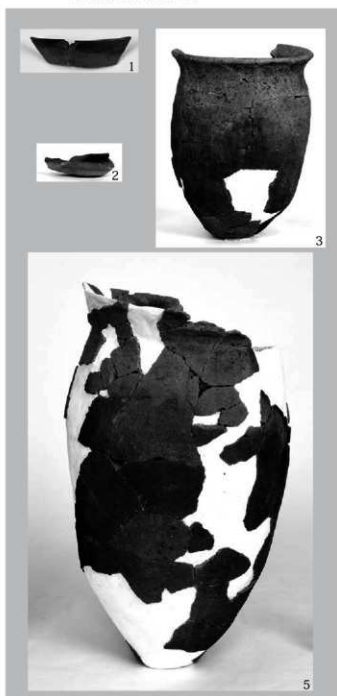
H7 号竪穴建物出土遺物



H8 号竪穴建物出土遺物



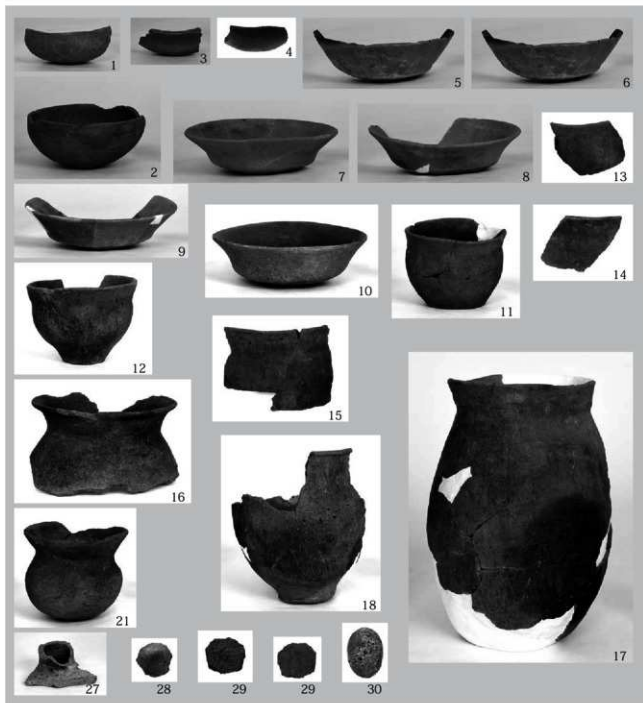
H9 号竪穴建物出土遺物



H10 号竪穴建物出土遺物 (1)



H10 号竪穴建物出土遺物 (2)



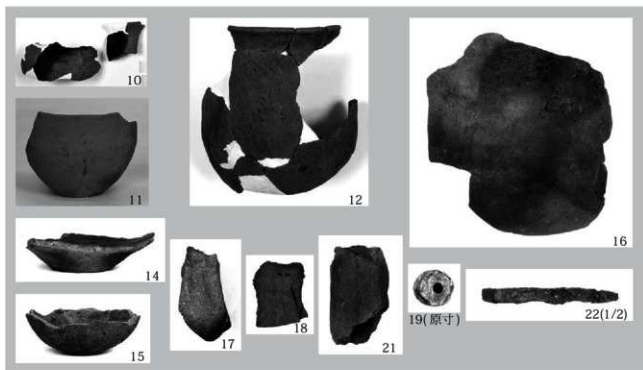
H11 号竪穴建物出土遺物 (1)



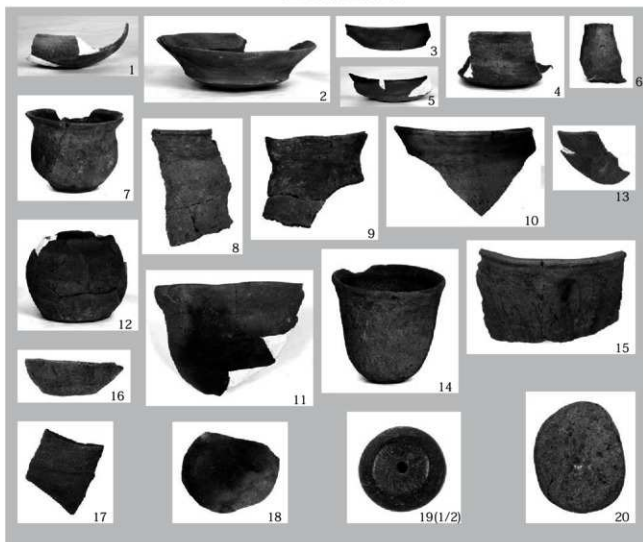
H11 号竪穴建物出土遺物 (2)



H12 号竪穴建物出土遺物 (1)



H12号竪穴建物出土遺物(2)



H13号竪穴建物出土遺物



H 14 号竪穴建物出土遺物



H 15 号竪穴建物出土遺物



H16 号竪穴建物出土遺物



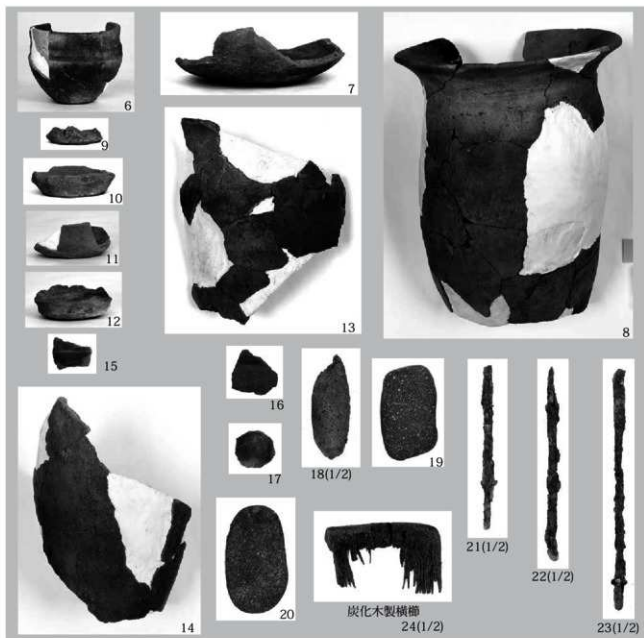
H17 号竪穴建物出土遺物 (1)



H17号竪穴建物出土遺物(2)



H18号竪穴建物出土遺物(1)



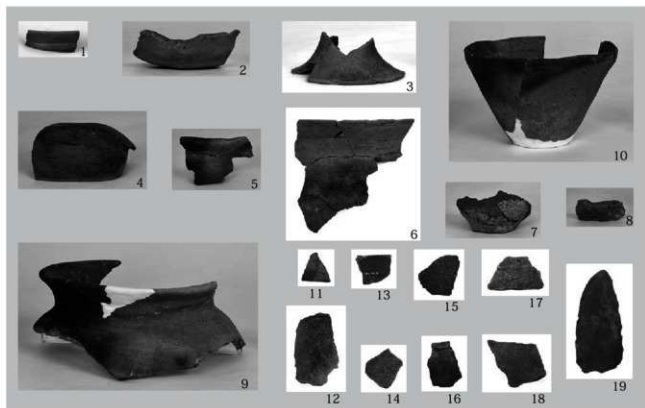
H18 号竪穴建物出土遺物 (2)



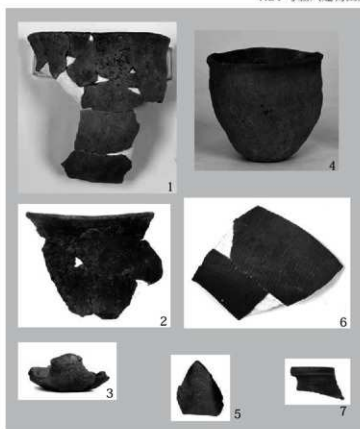
H19 号竪穴建物出土遺物



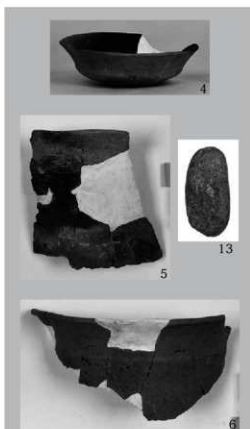
H20号竪穴建物出土遺物



H21 号竪穴建物出土遺物

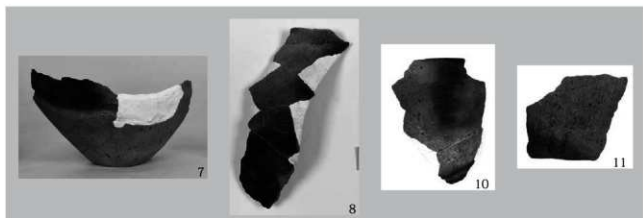


H22 号竪穴建物出土遺物

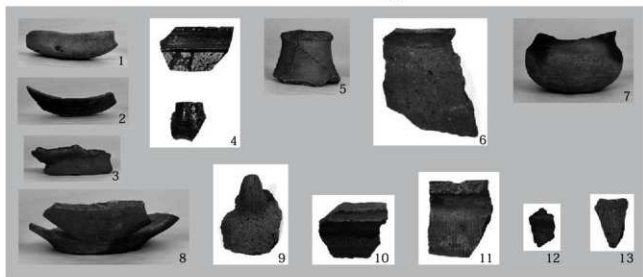


H23 号竪穴建物出土遺物 (1)

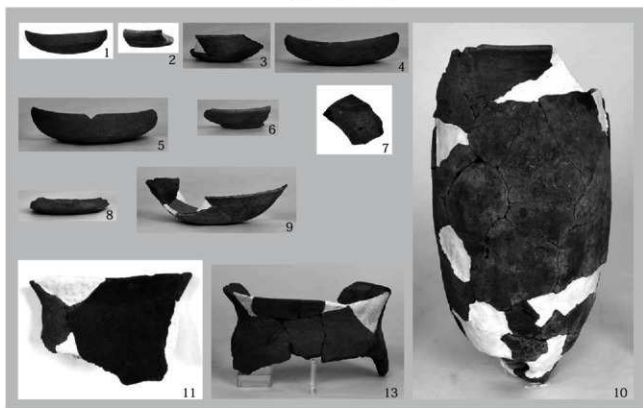




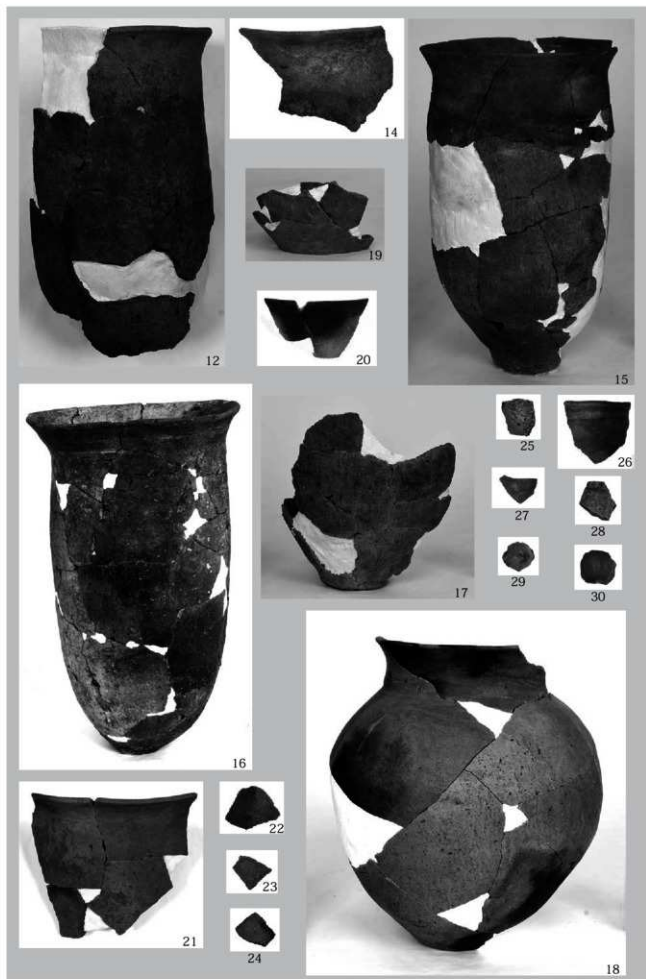
H23 号竪穴建物出土遺物 (2)



H24 号竪穴建物出土遺物



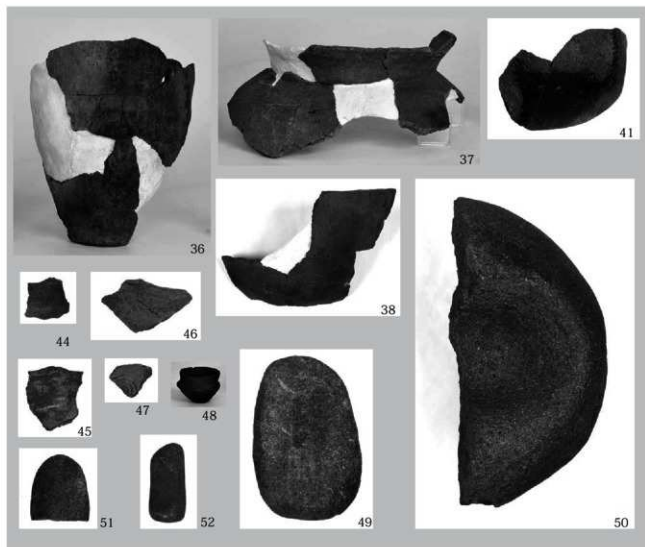
H25 号竪穴建物出土遺物 (1)



H25 号竪穴建物出土遺物 (2)



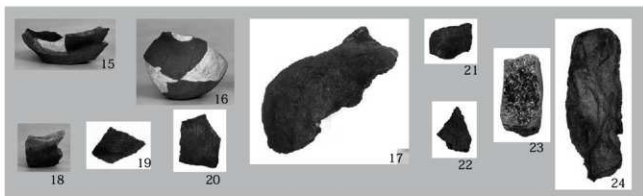
H26 号竪穴建物出土遺物 (1)



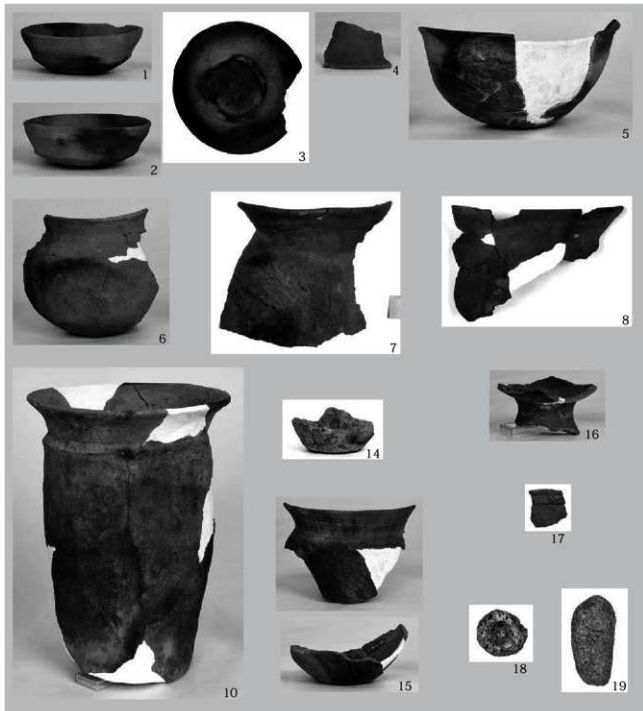
H26 号竪穴建物出土遺物 (2)



H27 号竪穴建物出土遺物 (1)



H27 号竪穴建物出土遺物 (2)



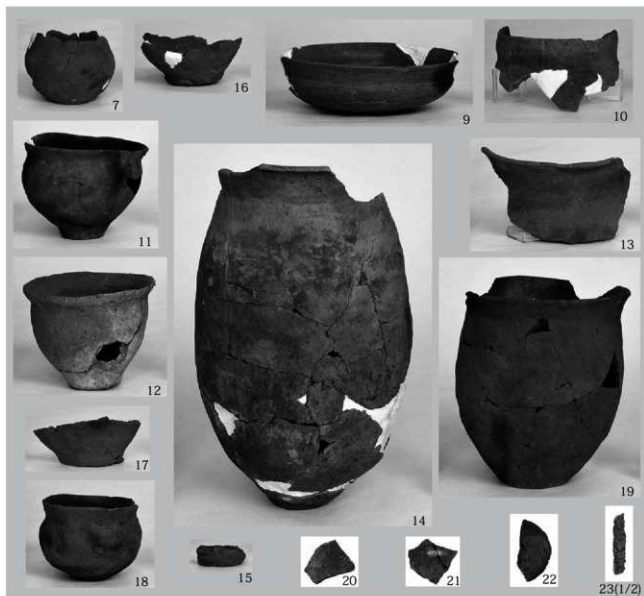
H28 号竪穴建物出土遺物 (1)



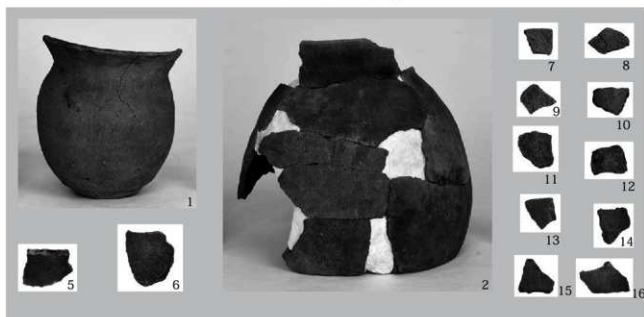
H28 号竪穴建物出土遺物 (2)



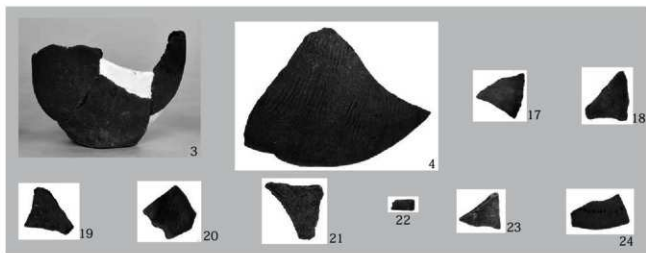
H29 号竪穴建物出土遺物 (1)



H29号竪穴建物出土遺物(2)



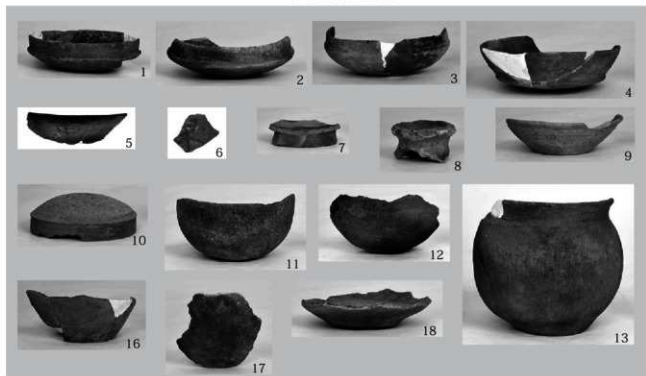
H30号竪穴建物出土遺物(1)



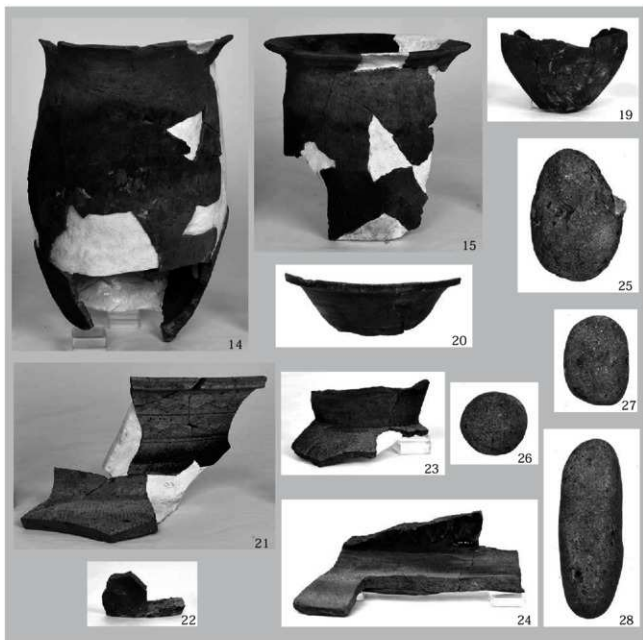
H30 号竪穴建物出土遺物 (2)



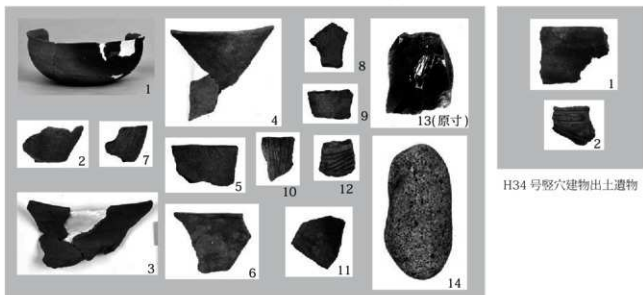
H31 号竪穴建物出土遺物



H32 号竪穴建物出土遺物 (1)



H32 号竪穴建物出土遺物 (2)



H33 号竪穴建物出土遺物



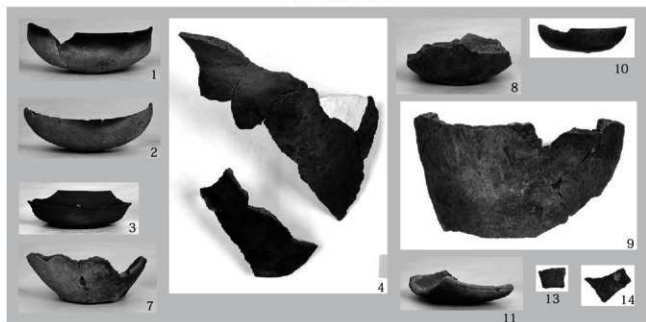
H34 号竪穴建物出土遺物



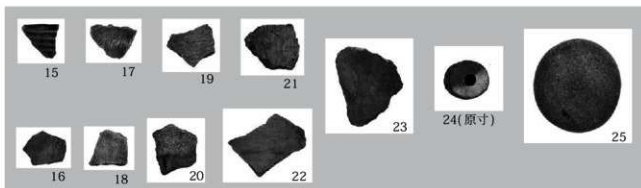
H35 号竪穴建物出土遺物



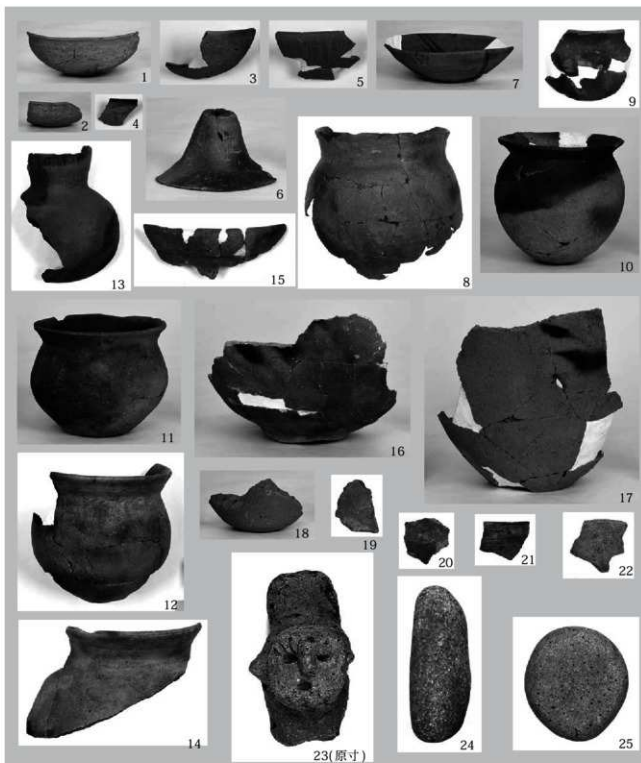
H36 号竪穴建物出土遺物



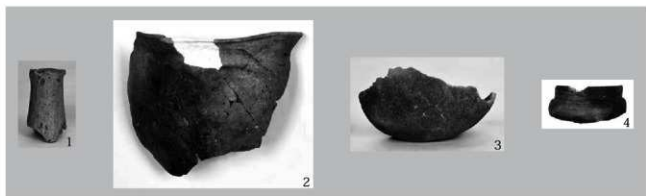
H37 号竪穴建物出土遺物 (1)



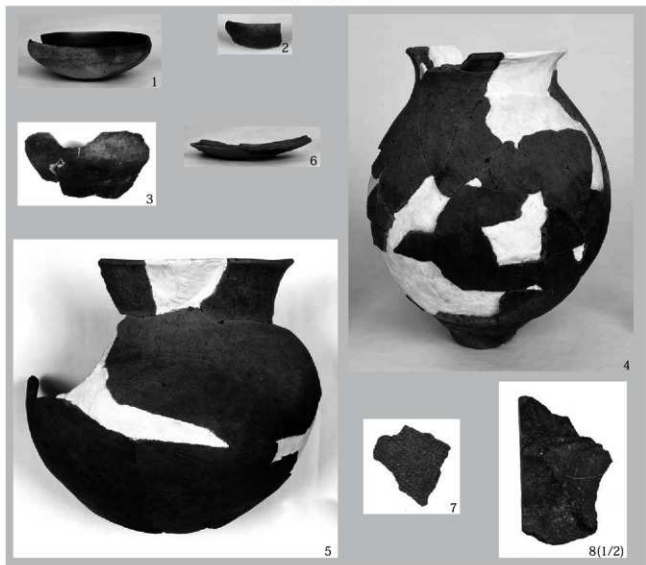
H37 号竪穴建物出土遺物 (2)



H38 号竪穴建物出土遺物



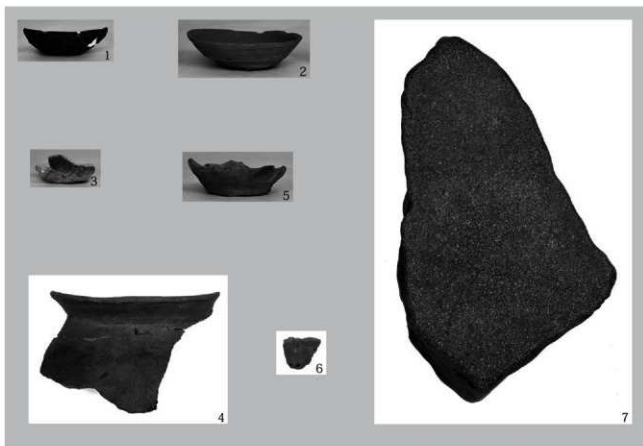
H39 号竪穴建物出土遺物



H40 号竪穴建物出土遺物



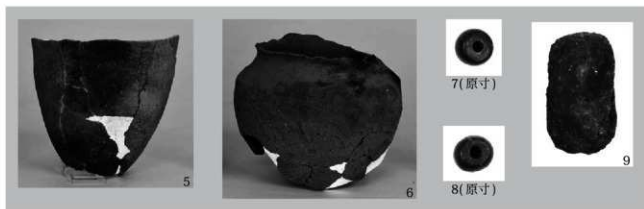
H41 号竪穴建物出土遺物



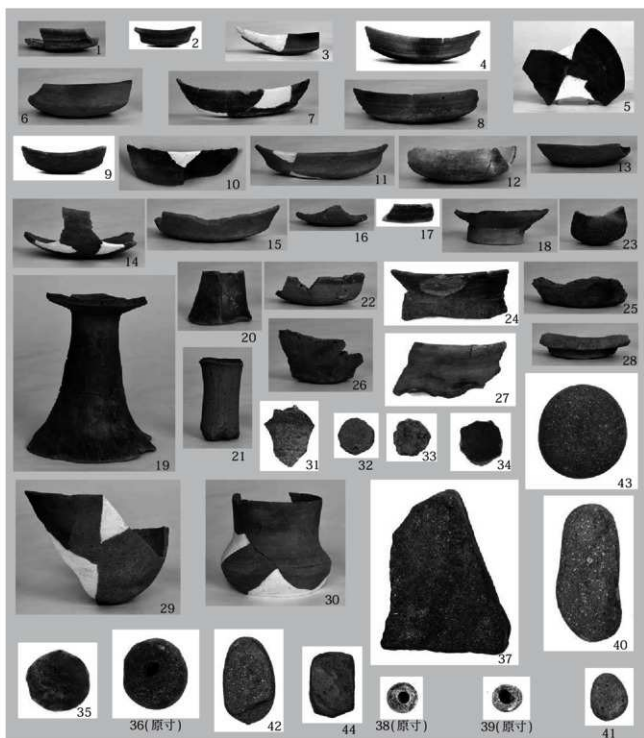
H42号竪穴建物出土遺物



H43号竪穴建物出土遺物(1)



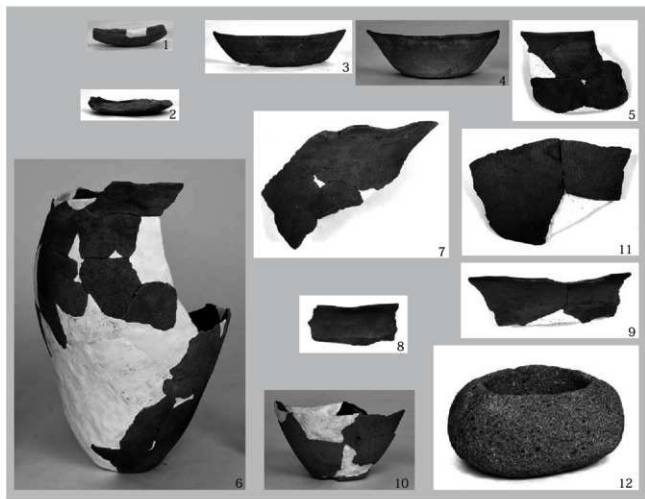
H43 号竪穴建物出土遺物 (2)



H44 号竪穴建物出土遺物



H45号竪穴建物出土遺物



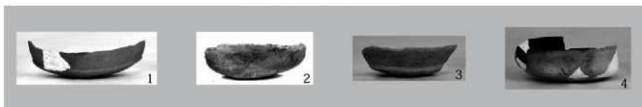
H46号竪穴建物出土遺物



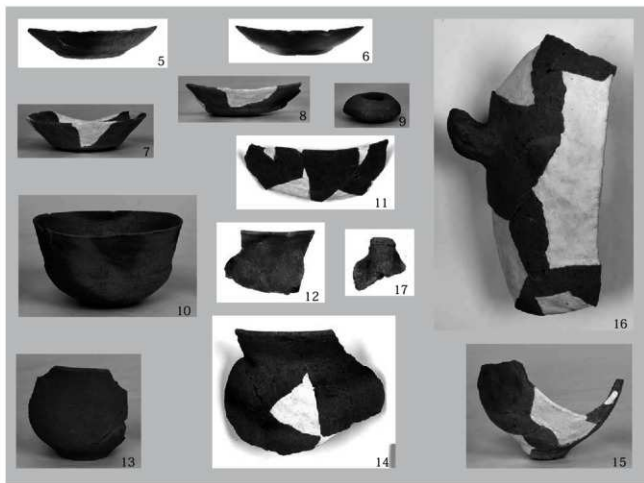
H47号竪穴建物出土遺物 (I)



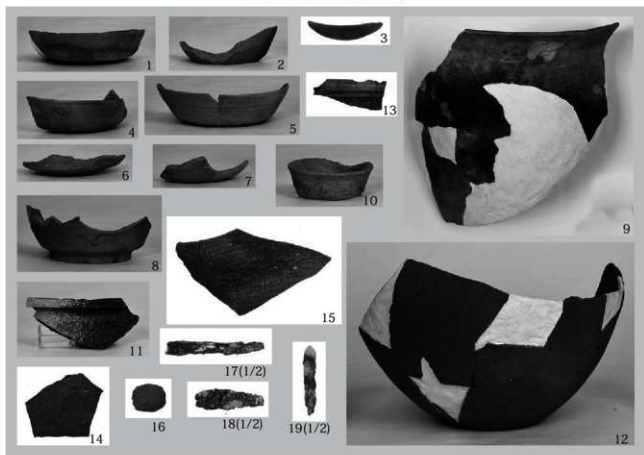
H47 号竪穴建物出土遺物 (2)



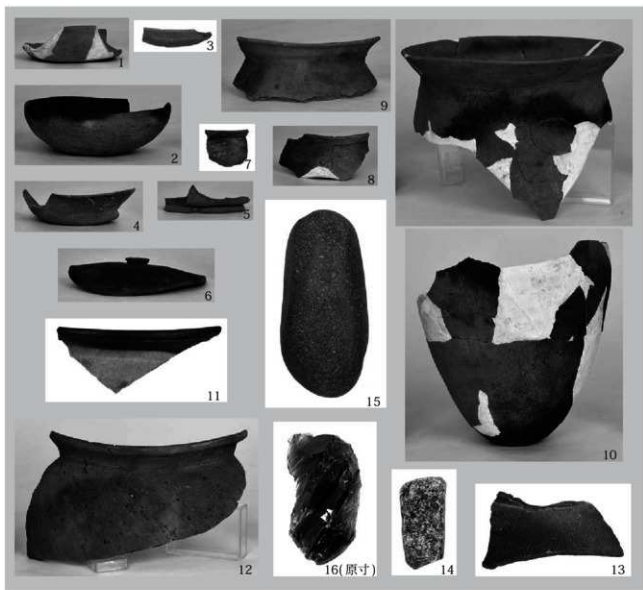
H48 号竪穴建物出土遺物 (1)



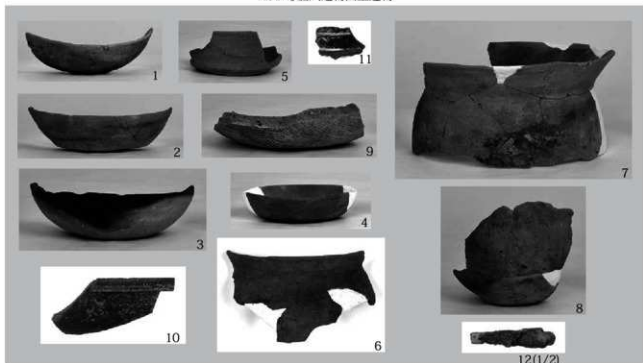
H48 号竪穴建物出土遺物 (2)



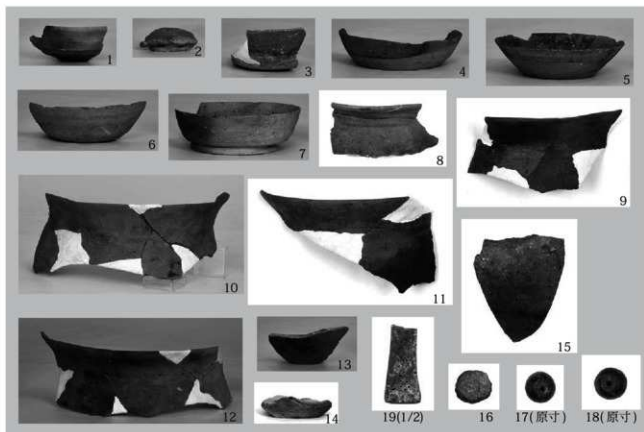
H49 号竪穴建物出土遺物



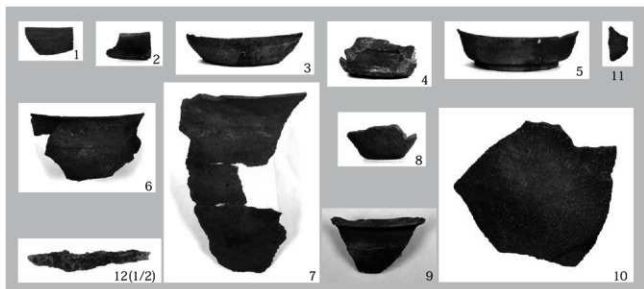
H50 号竪穴建物出土遺物



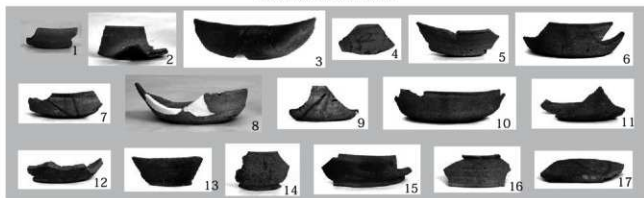
H51 号竪穴建物出土遺物



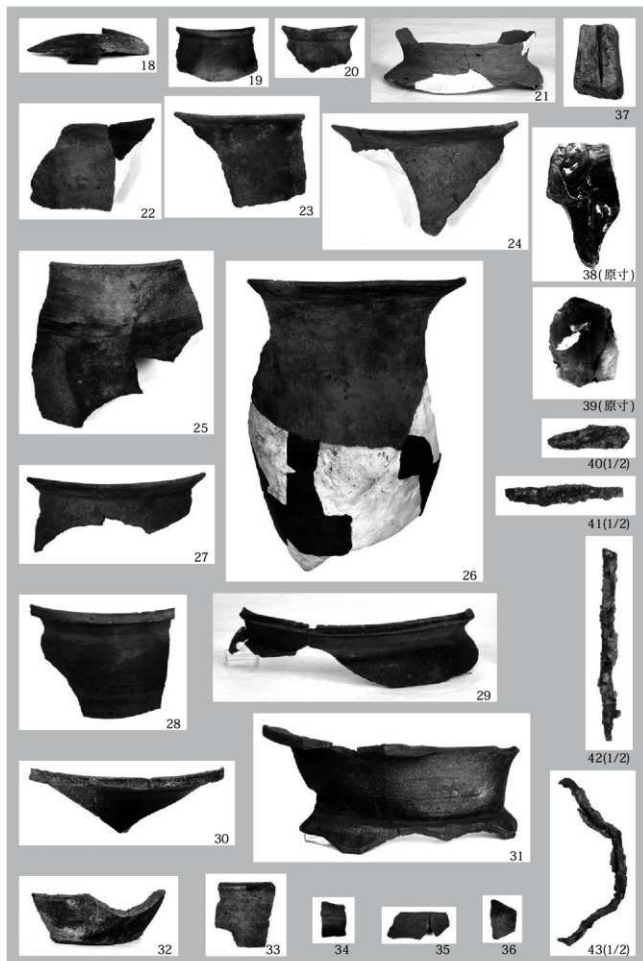
H52 号竪穴建物出土遺物



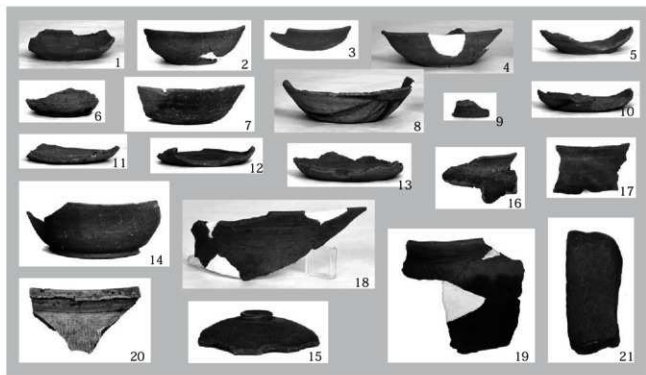
H53 号竪穴建物出土遺物



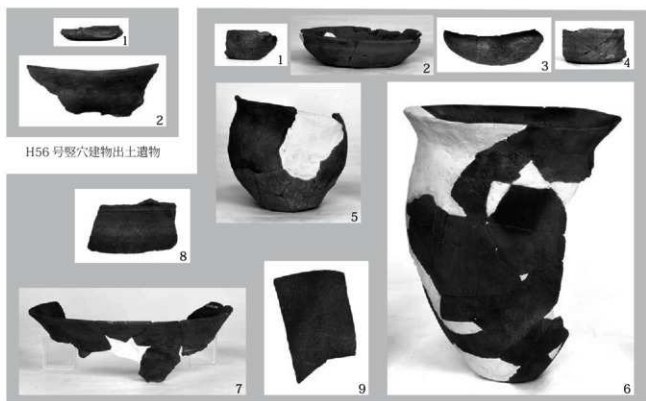
H54 号竪穴建物出土遺物 (I)



H54号竪穴建物出土遺物(2)



H55 号竪穴建物出土遺物

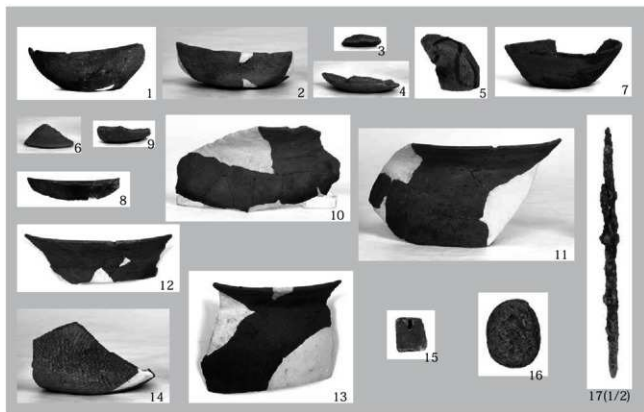


H56 号竪穴建物出土遺物

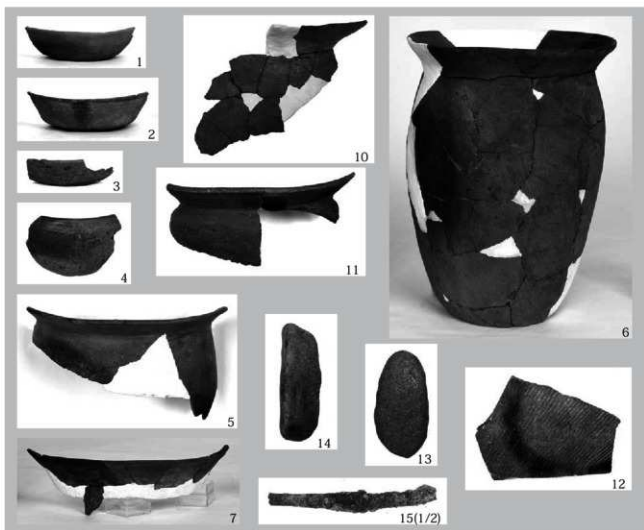
H57 号竪穴建物出土遺物



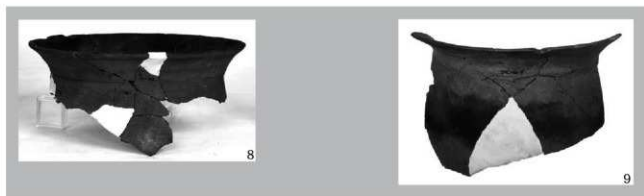
H58 号竪穴建物出土遺物



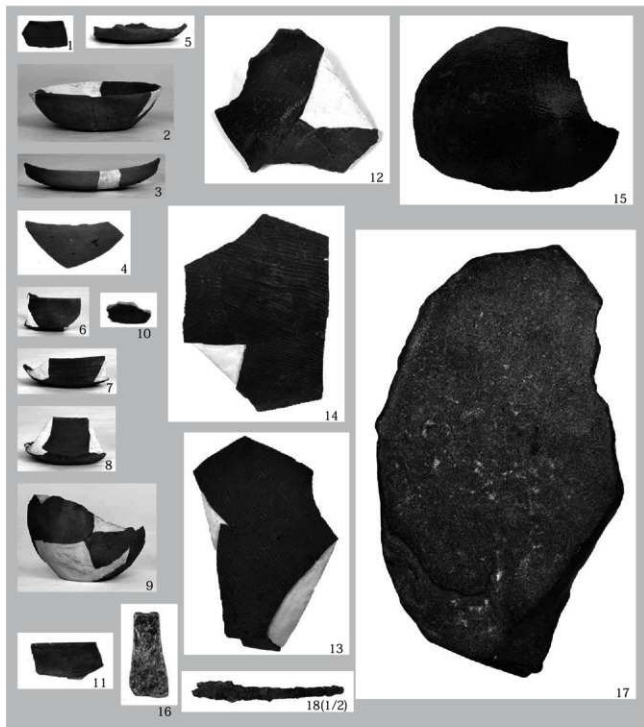
H59号竪穴建物出土遺物



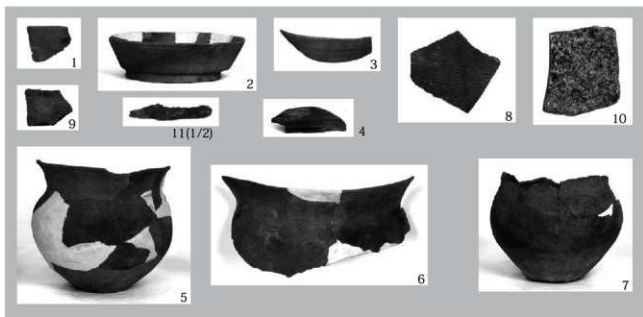
H60号竪穴建物出土遺物(1)



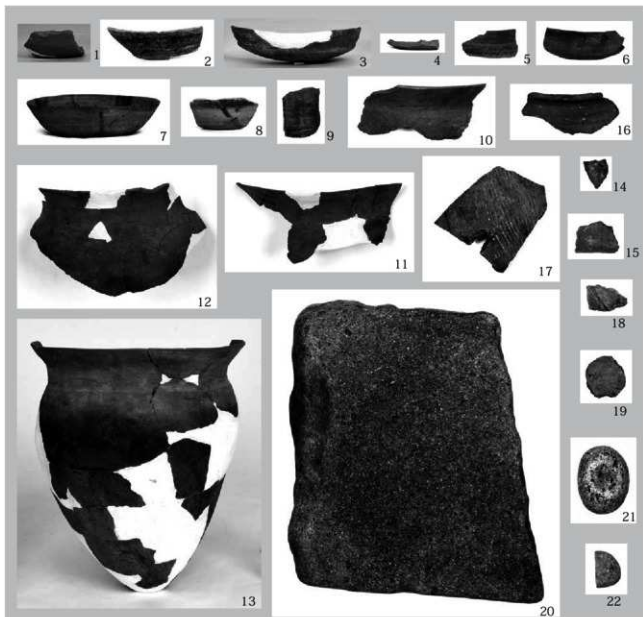
H60 号竪穴建物出土遺物 (2)



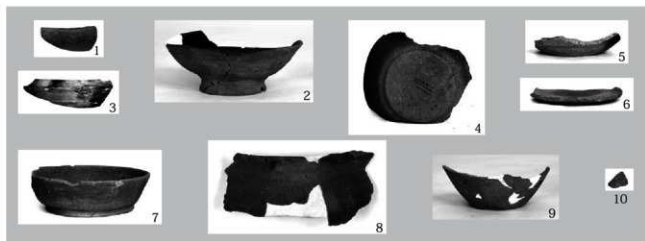
H61 号竪穴建物出土遺物



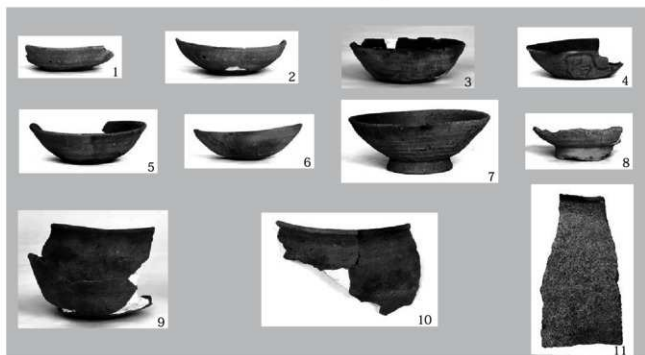
H62 号竪穴建物出土遺物



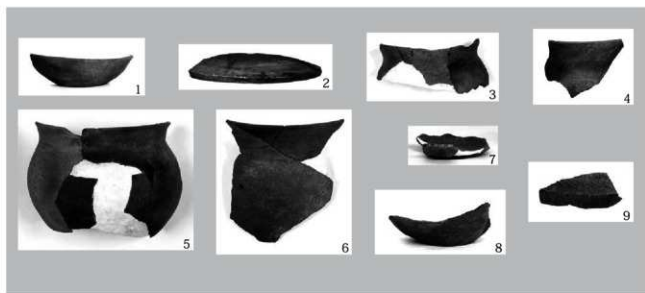
H63 号竪穴建物出土遺物



H64 号竪穴建物出土遺物



H66 号竪穴建物出土遺物



H67 号竪穴建物出土遺物

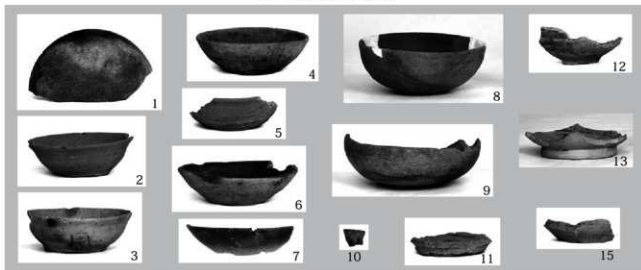


H68 号竪穴建物出土遺物

H69 号竪穴建物出土遺物



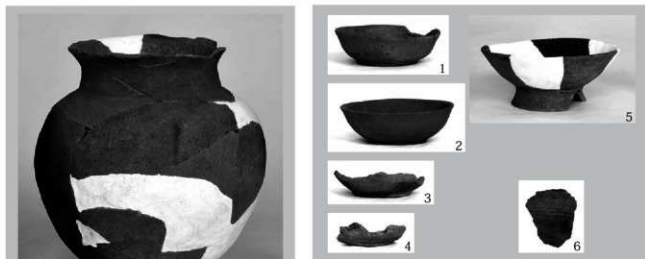
H70 号竪穴建物出土遺物



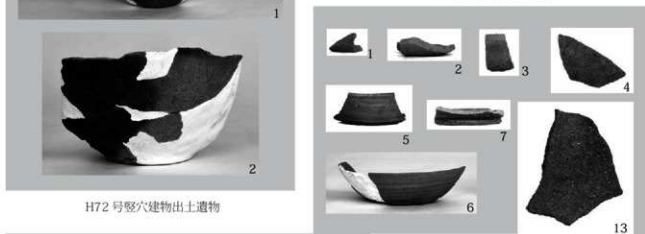
H71 号竪穴建物出土遺物 (1)



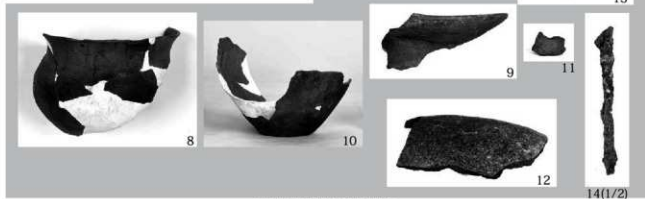
H71 号竪穴建物出土遺物 (2)



H73 号竪穴建物出土遺物



H72 号竪穴建物出土遺物



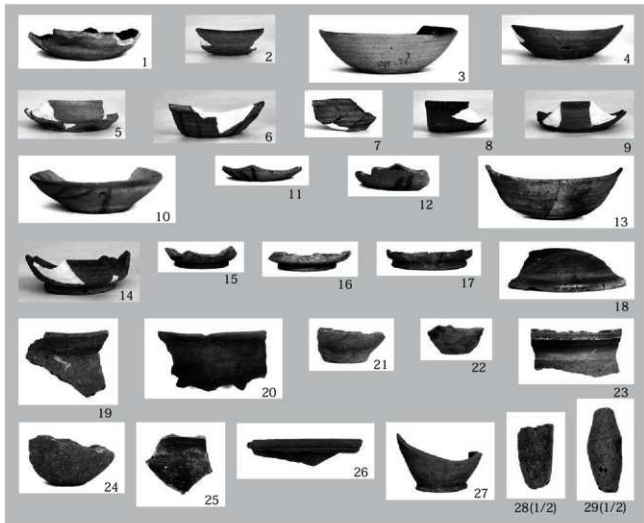
H74 号竪穴建物出土遺物



H75 号竪穴建物出土遺物



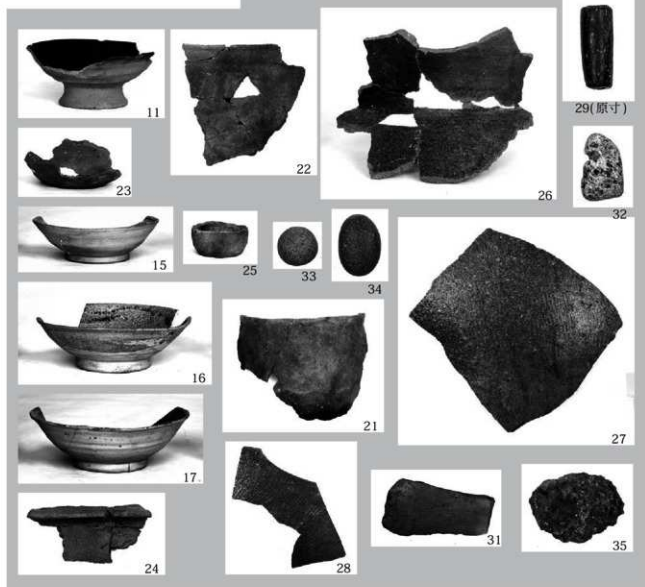
H76 号竪穴建物出土遺物



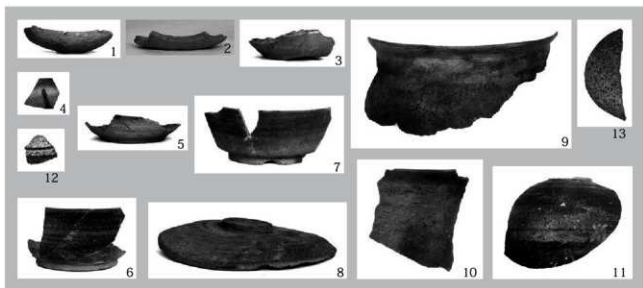
H77 号竪穴建物出土遺物 (1)



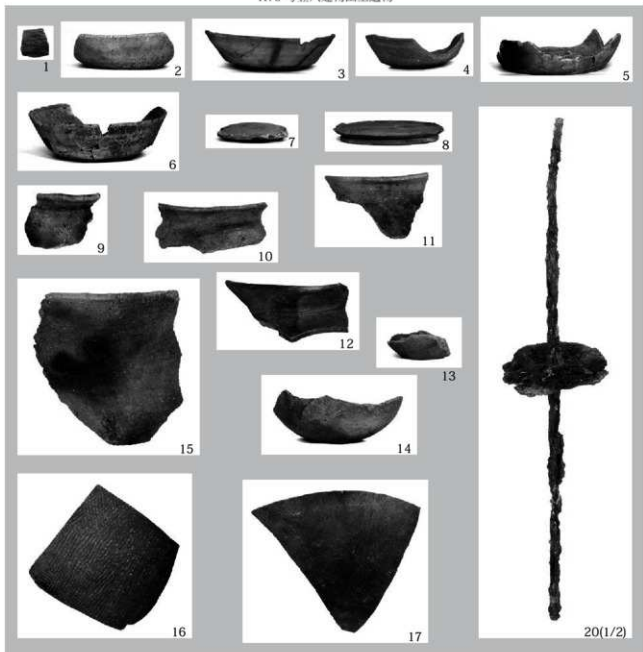
H77号竪穴建物出土遺物(2)



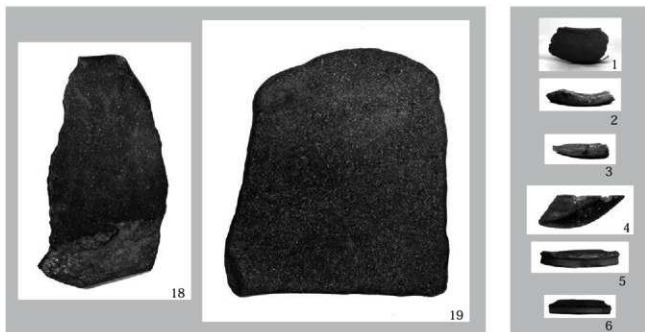
H78号竪穴建物出土遺物



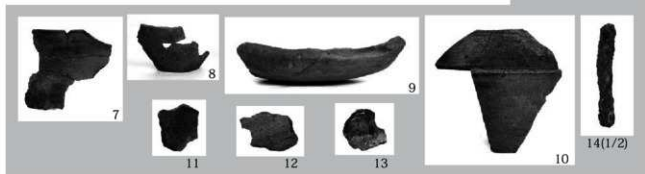
H79 号竪穴建物出土遺物



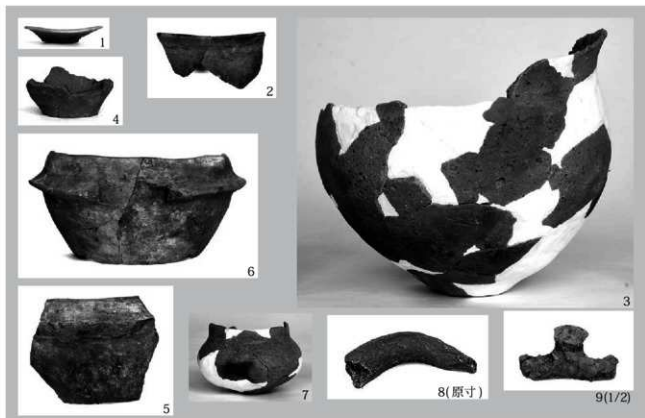
H80 号竪穴建物出土遺物 (1)



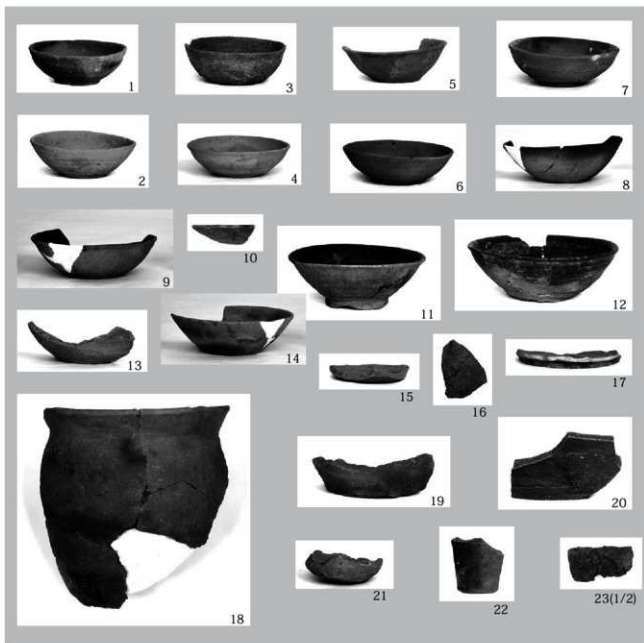
H80 号竖穴建物出土遺物 (2)



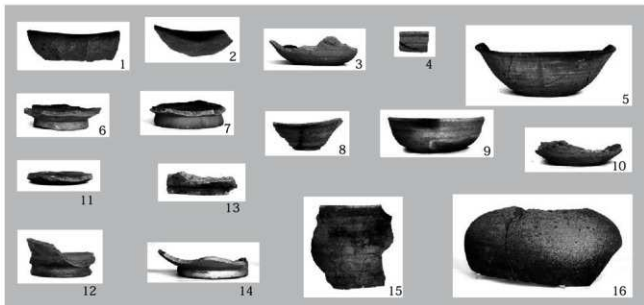
H81 号竖穴建物出土遺物



H82 号竖穴建物出土遺物



H83号竪穴建物出土遺物



H84号竪穴建物出土遺物



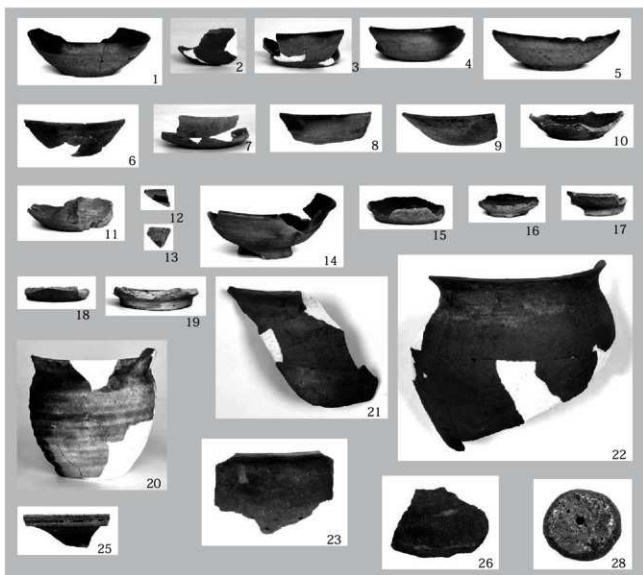
H85 号竪穴建物出土遺物



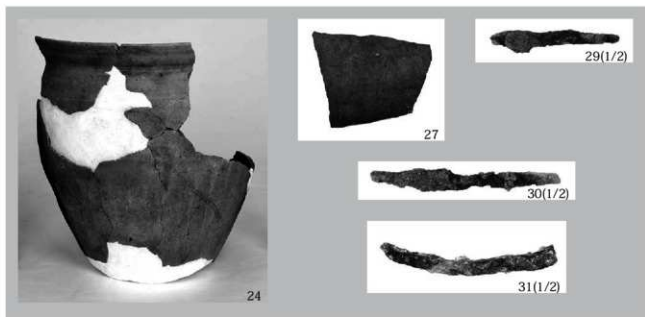
H86 号竪穴建物出土遺物 (I)



H86 号竖穴建物出土遺物 (2)



H87 号竖穴建物出土遺物 (1)



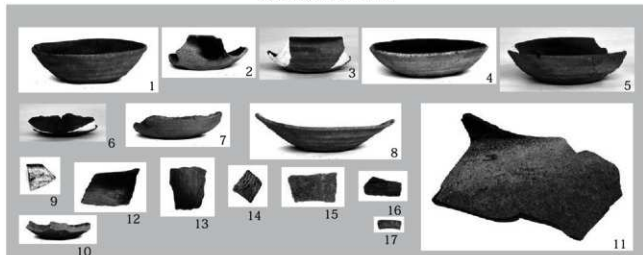
H87 号竪穴建物出土遺物 (2)



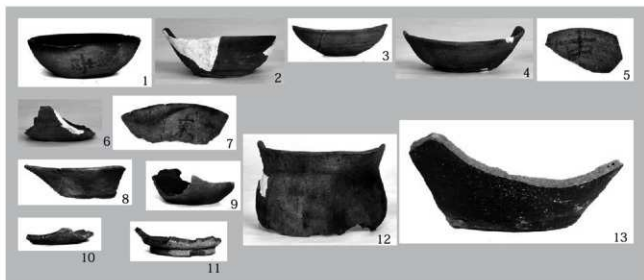
H88 号竪穴建物出土遺物



H89 号竪穴建物出土遺物



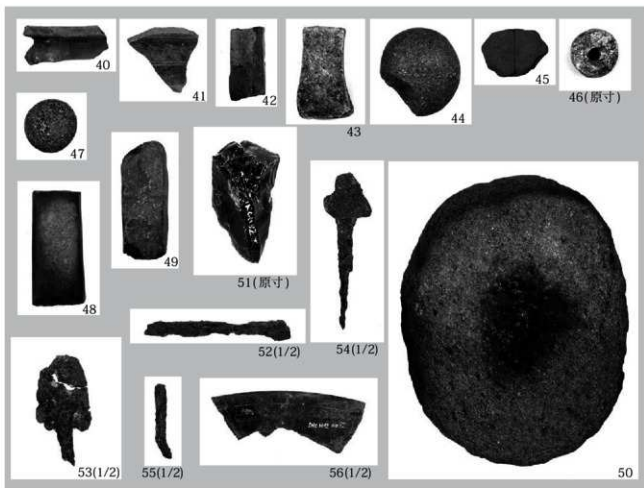
H90 号竪穴建物出土遺物



H91 号竪穴建物出土遺物



H92 号竪穴建物出土遺物 (1)



H92 号竪穴建物出土遺物 (2)



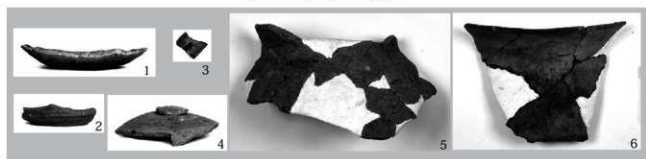
H93 号竪穴建物出土遺物



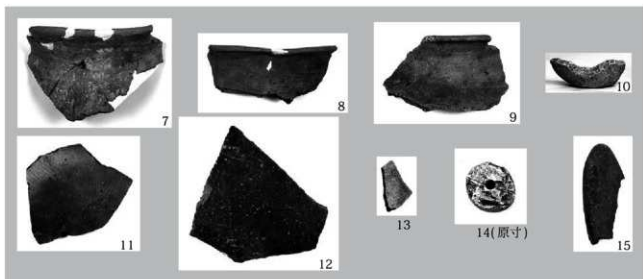
H94 号竪穴建物出土遺物 (1)



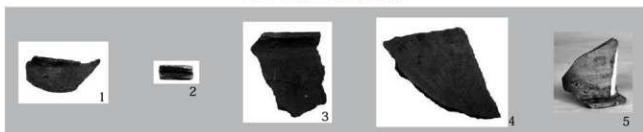
H94 号竪穴建物出土遺物 (2)



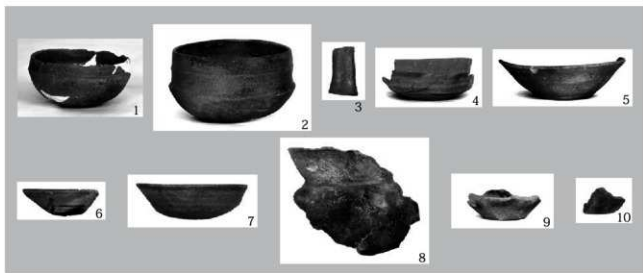
H95 号竪穴建物出土遺物 (1)



H95 号竪穴建物出土遺物 (2)



H96 号竪穴建物出土遺物



H97 号竪穴建物出土遺物



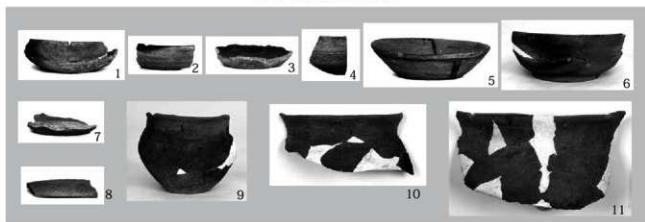
H98 号竪穴建物出土遺物



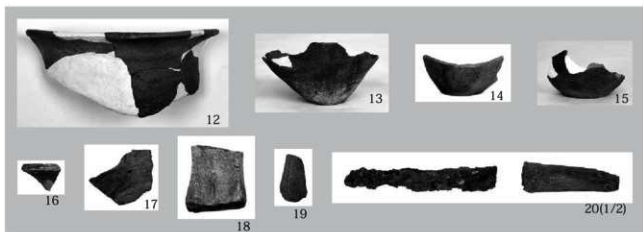
H99 号竪穴建物出土遺物



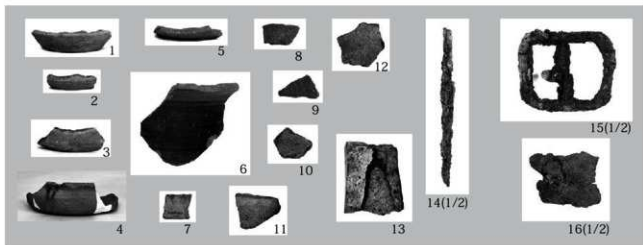
H100 号竪穴建物出土遺物



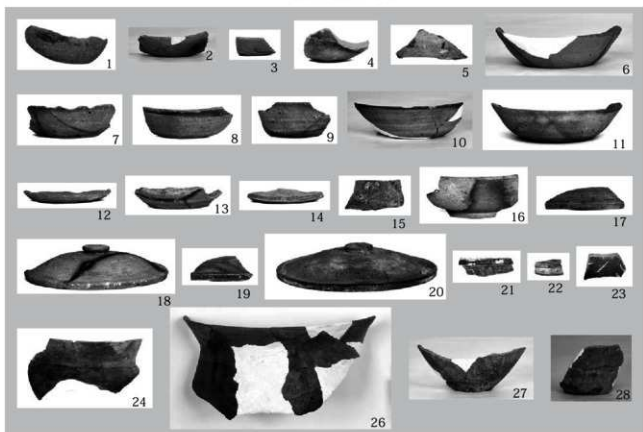
H101 号竪穴建物出土遺物 (1)



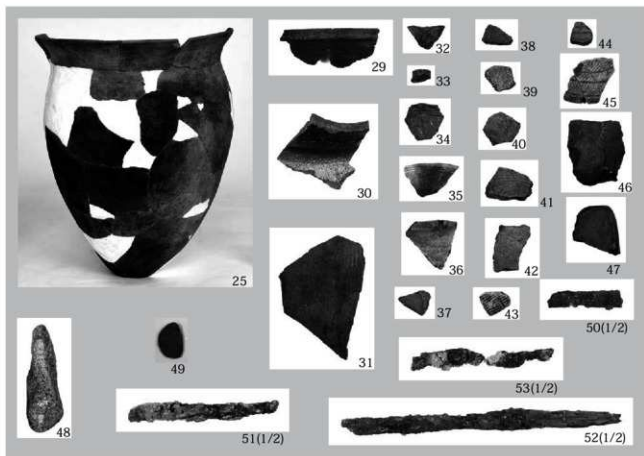
H101 号竪穴建物出土遺物 (2)



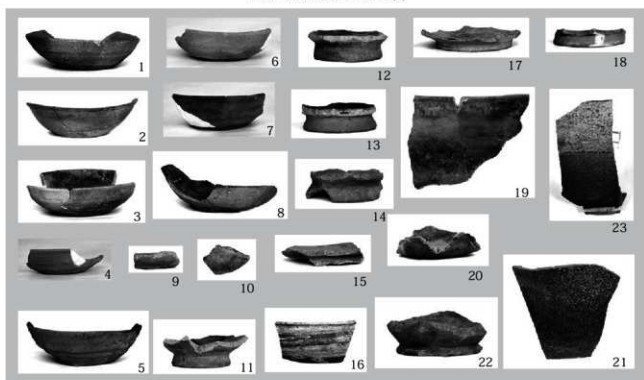
H102 号竪穴建物出土遺物



H103 号竪穴建物出土遺物 (1)



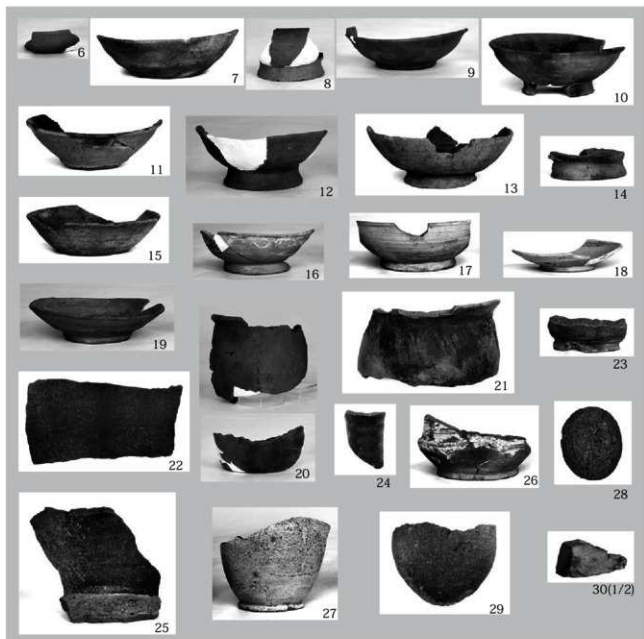
H103 号竪穴建物出土遺物 (2)



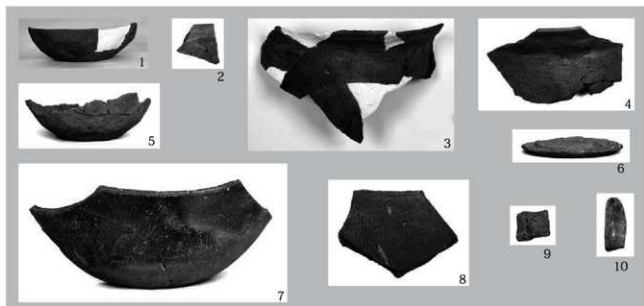
H104 号竪穴建物出土遺物



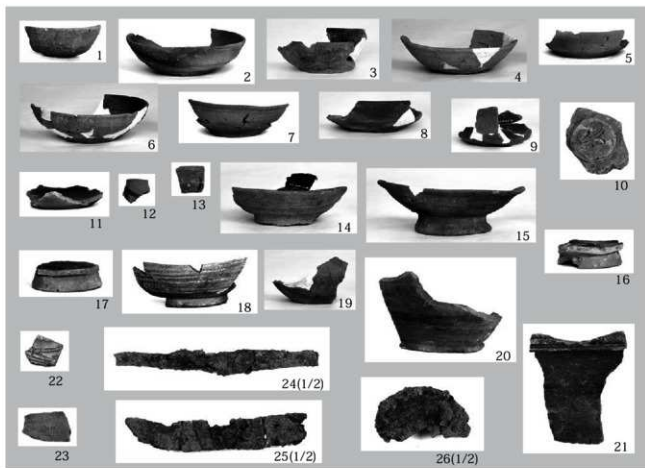
H105 号竪穴建物出土遺物 (1)



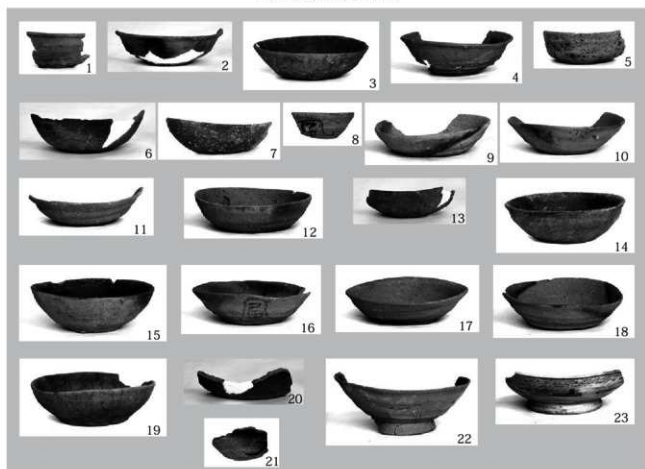
H105 号竪穴建物出土遺物 (2)



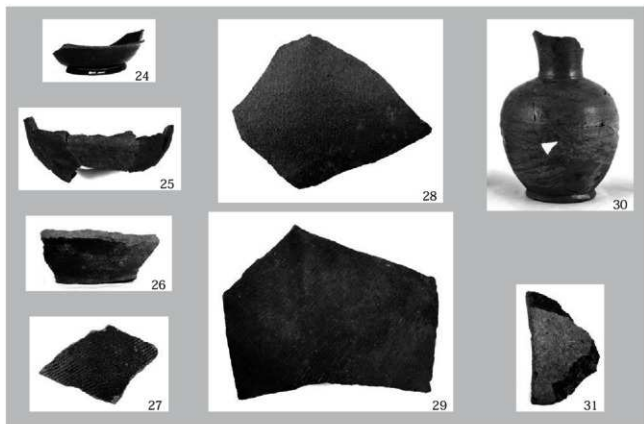
H106 号竪穴建物出土遺物



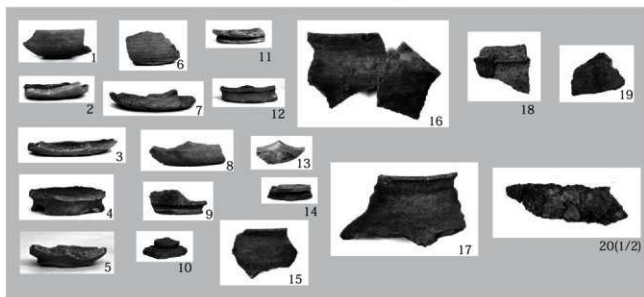
H107 号竪穴建物出土遺物



H108 号竪穴建物出土遺物 (1)



H108 号竪穴建物出土遺物 (2)



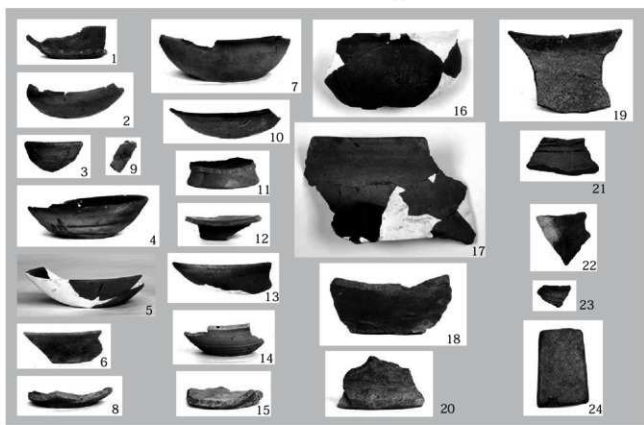
H109 号竪穴建物出土遺物



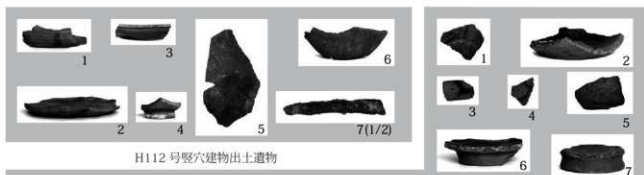
H110 号竪穴建物出土遺物 (1)



H110 号竪穴建物出土遺物 (2)



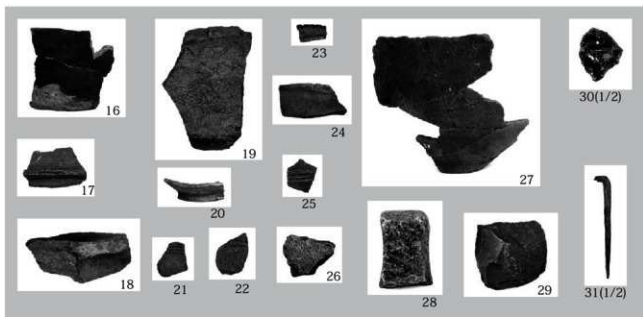
H111 号竪穴建物出土遺物



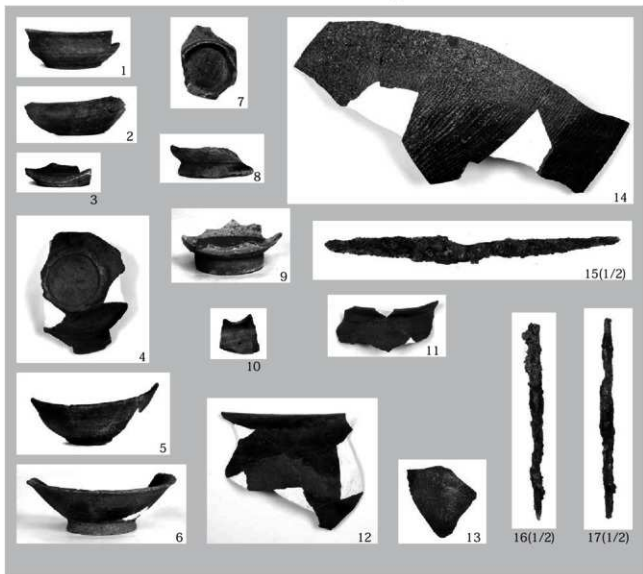
H112 号竪穴建物出土遺物



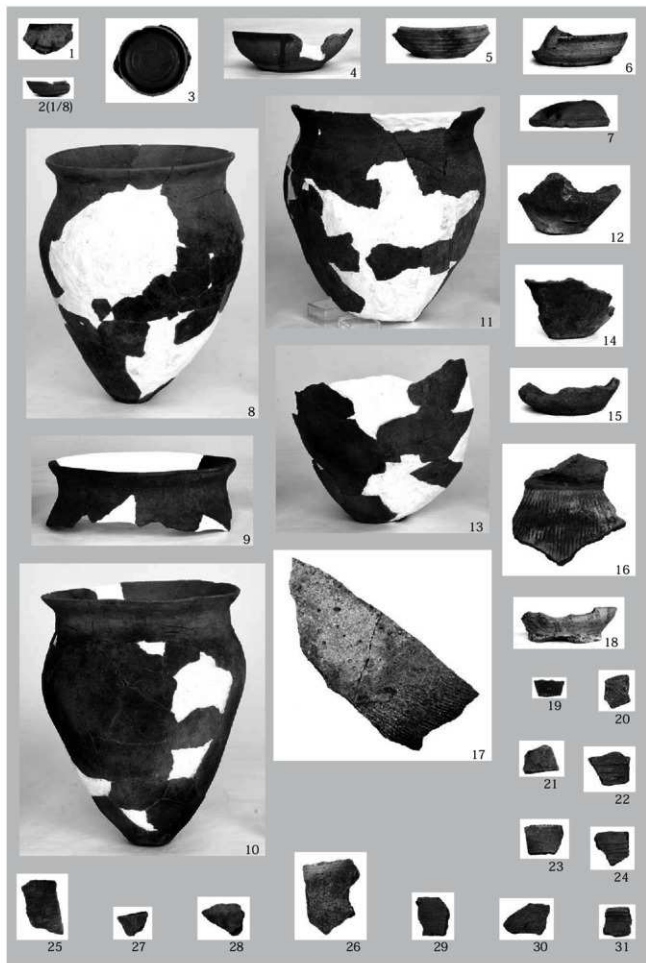
H113 号竪穴建物出土遺物 (1)



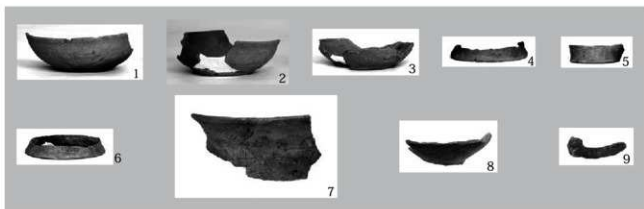
H113 号竪穴建物出土遺物 (2)



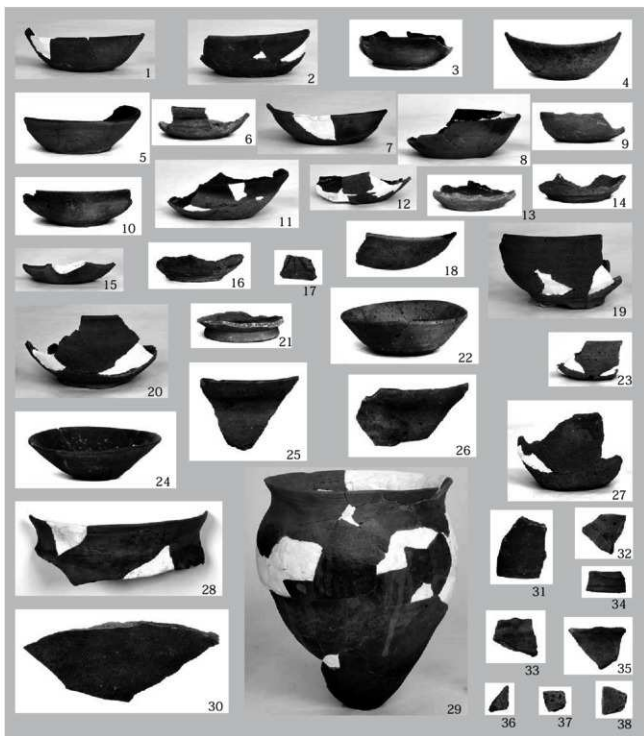
H114 号竪穴建物出土遺物



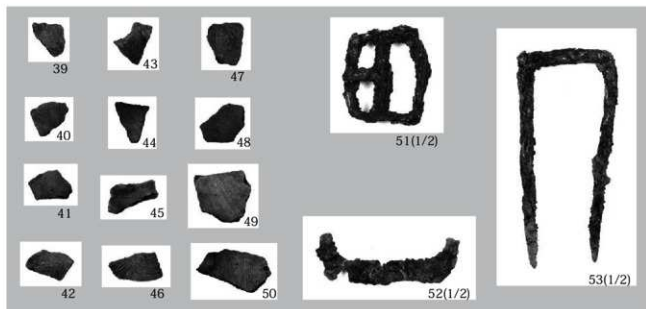
H115 号竪穴建物出土遺物



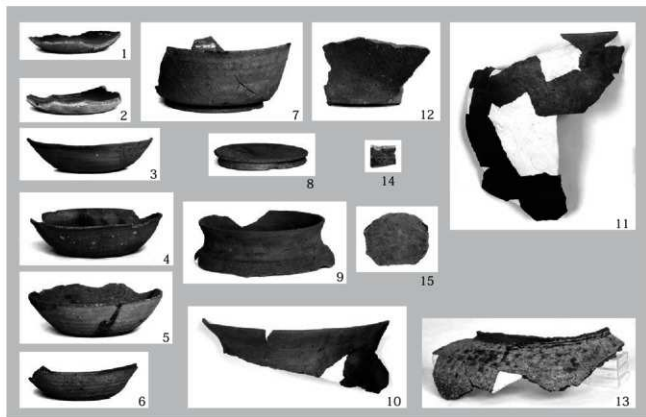
H116 号竪穴建物出土遺物



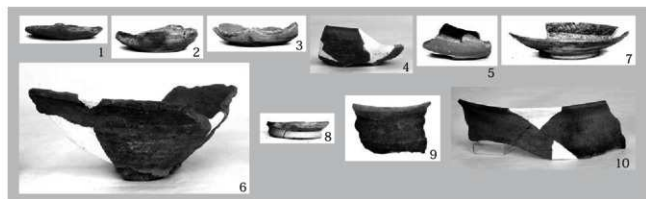
H117 号竪穴建物出土遺物 (1)



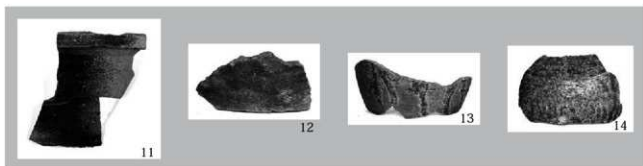
H117 号竪穴建物出土遺物 (2)



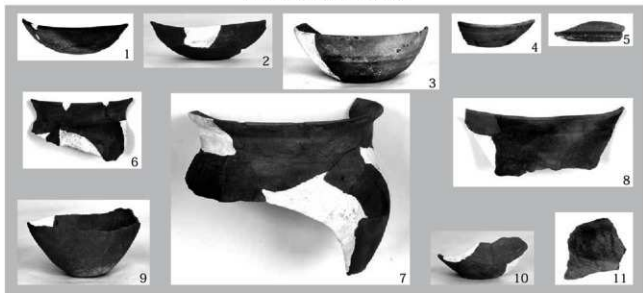
H118 号竪穴建物出土遺物



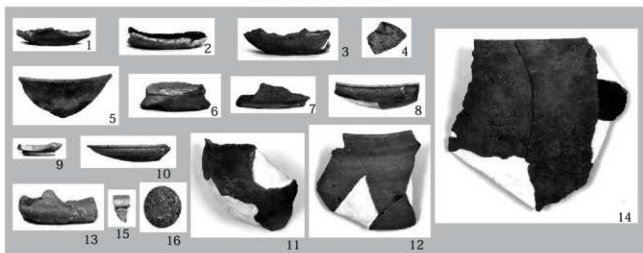
H119 号竪穴建物出土遺物 (1)



H119号竪穴建物出土遺物(2)



H120号竪穴建物出土遺物



H121号竪穴建物出土遺物



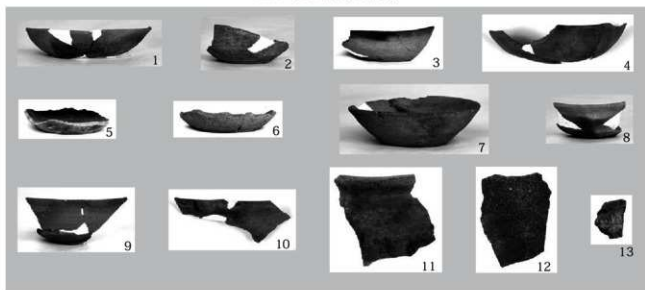
H122号竪穴建物出土遺物(1)



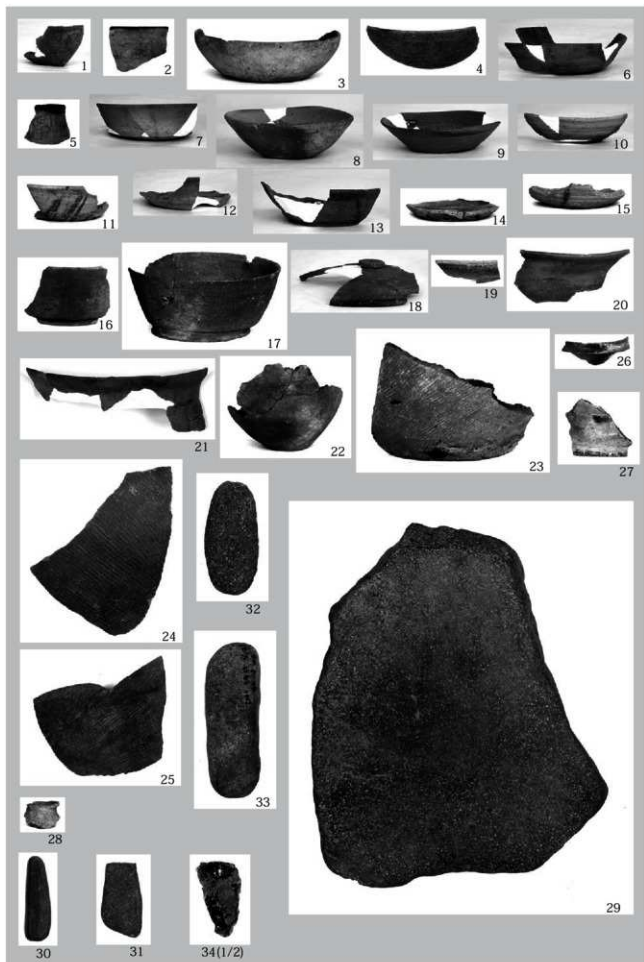
H122 号竪穴建物出土遺物 (2)



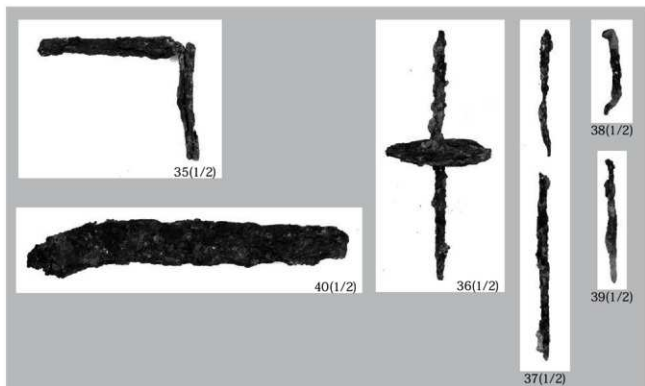
H123 号竪穴建物出土遺物



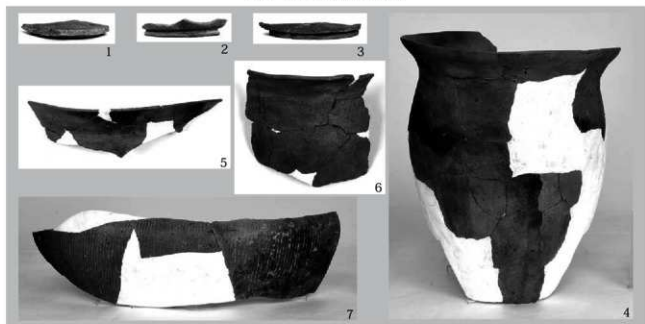
H124 号竪穴建物出土遺物



H125 号竪穴建物出土遺物 (1)



H125 号竪穴建物出土遺物 (2)

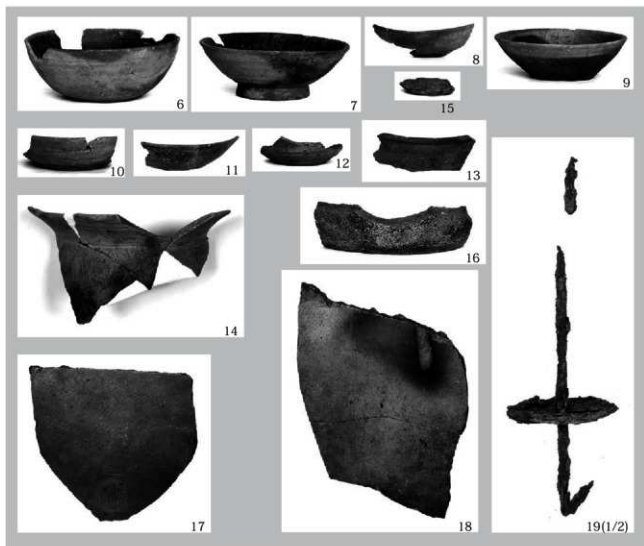


H126 号竪穴建物出土遺物

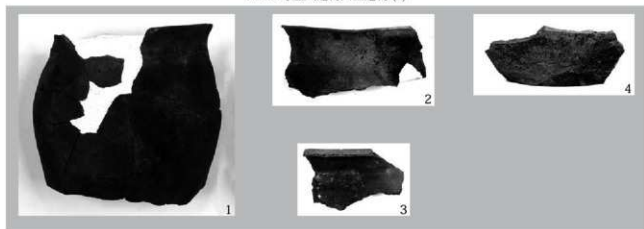


H127 号竪穴建物出土遺物

H128 号竪穴建物出土遺物 (1)



H128 号竪穴建物出土遺物 (2)



H129 号竪穴建物出土遺物



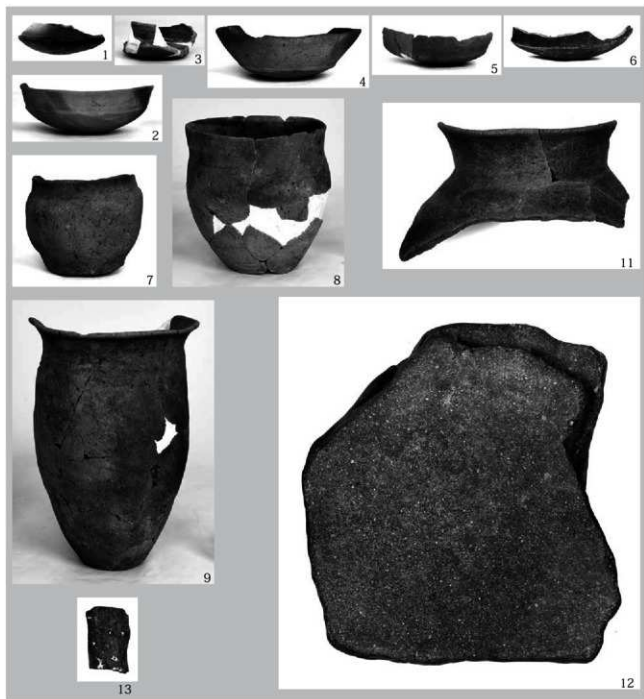
H130 号竪穴建物出土遺物 (1)



H130 号竪穴建物出土遺物 (2)



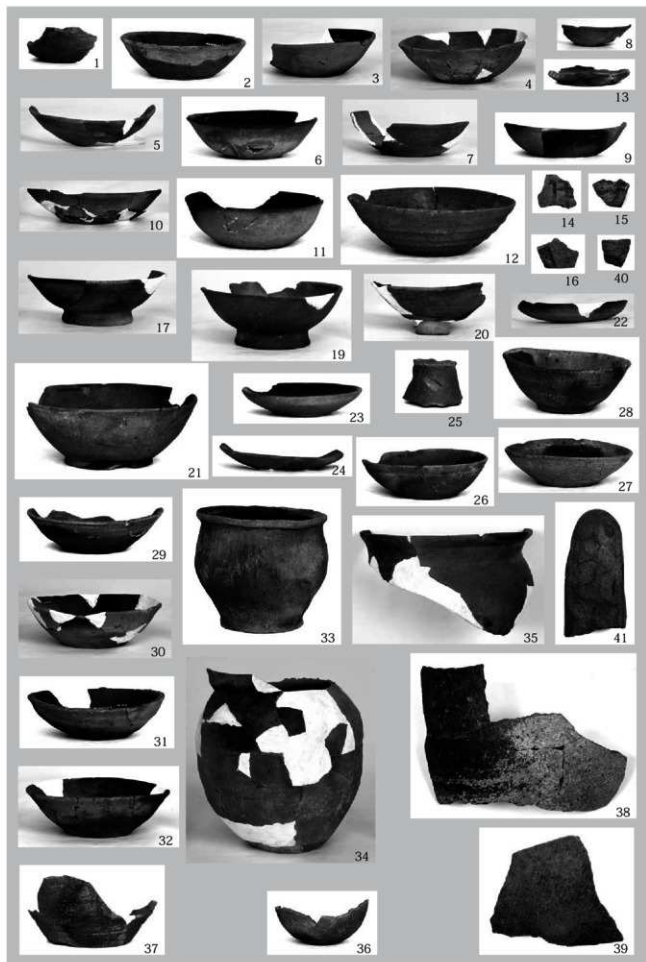
H131 号竪穴建物出土遺物



H132 号竪穴建物出土遺物



H133 号竪穴建物出土遺物



H134 号竪穴建物出土遺物

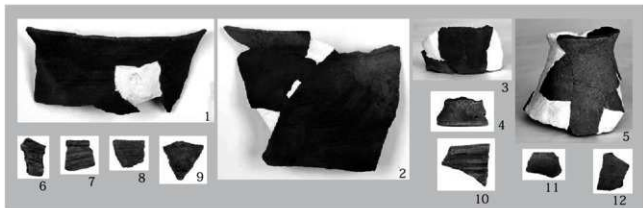


H136 号竪穴建物出土遺物

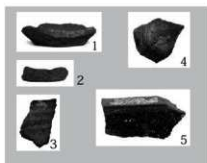
H137 号竪穴建物出土遺物



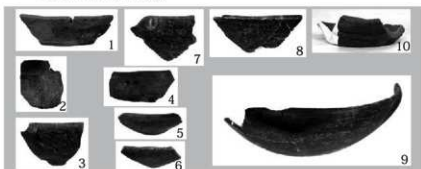
H138 号竪穴建物出土遺物



Y1 号竪穴建物出土遺物



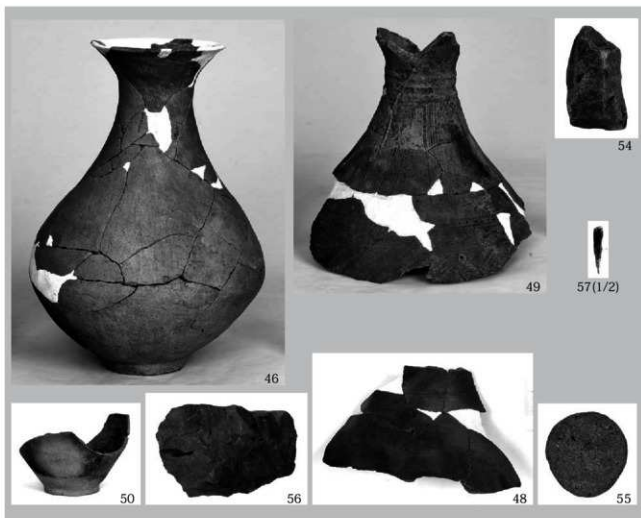
Y2 号竪穴建物出土遺物



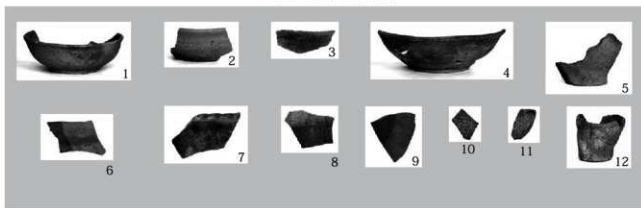
Y3 号竪穴建物出土遺物 (I)



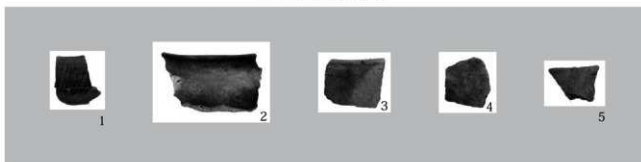
Y3号竪穴建物出土遺物(2)



Y3号竪穴建物出土遺物(3)



Y4号竪穴建物出土遺物



Y5号竪穴建物出土遺物



Y6 号竪穴建物出土遺物



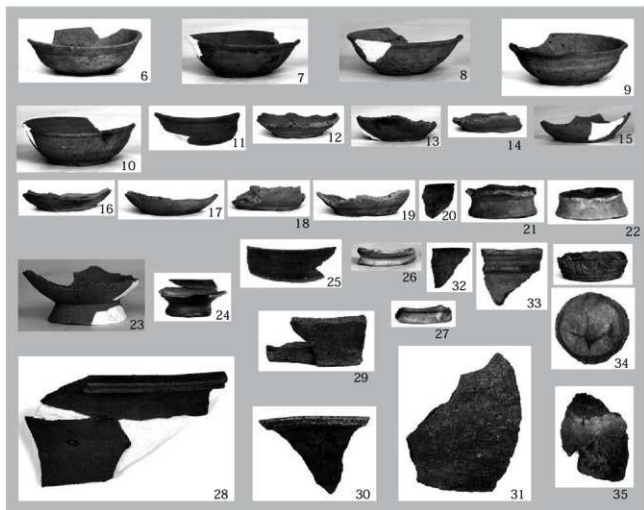
Y7 号竪穴建物出土遺物



Ta1 号竪穴建物出土遺物



Ta2 号竪穴建物出土遺物 (1)



Ta2 号竪穴建物出土遺物 (2)



Ta3 号竪穴建物出土遺物

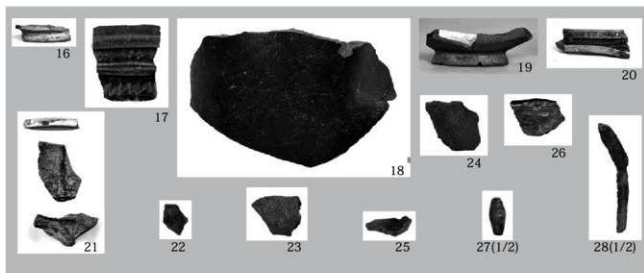


Ta4 号竪穴建物出土遺物

Ta5 号竪穴建物出土遺物



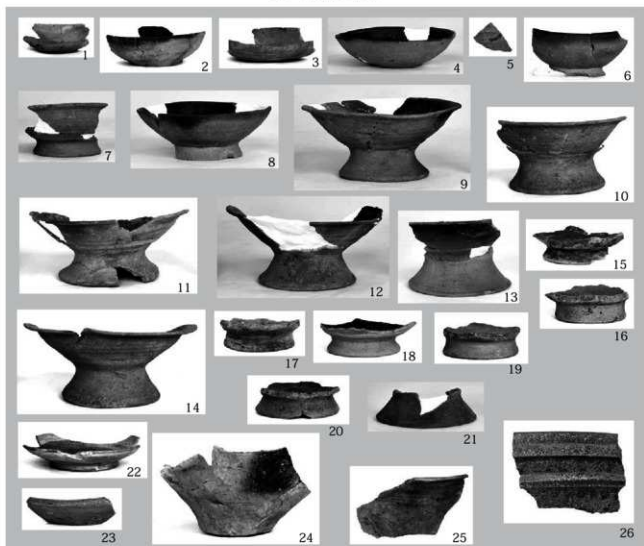
M7 号溝址出土遺物 (1)



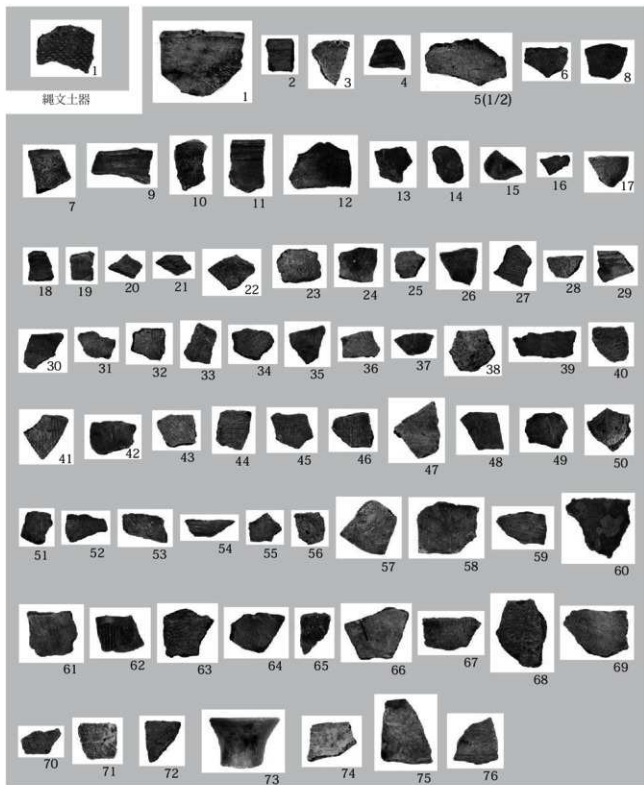
M7 号溝址出土遺物 (2)



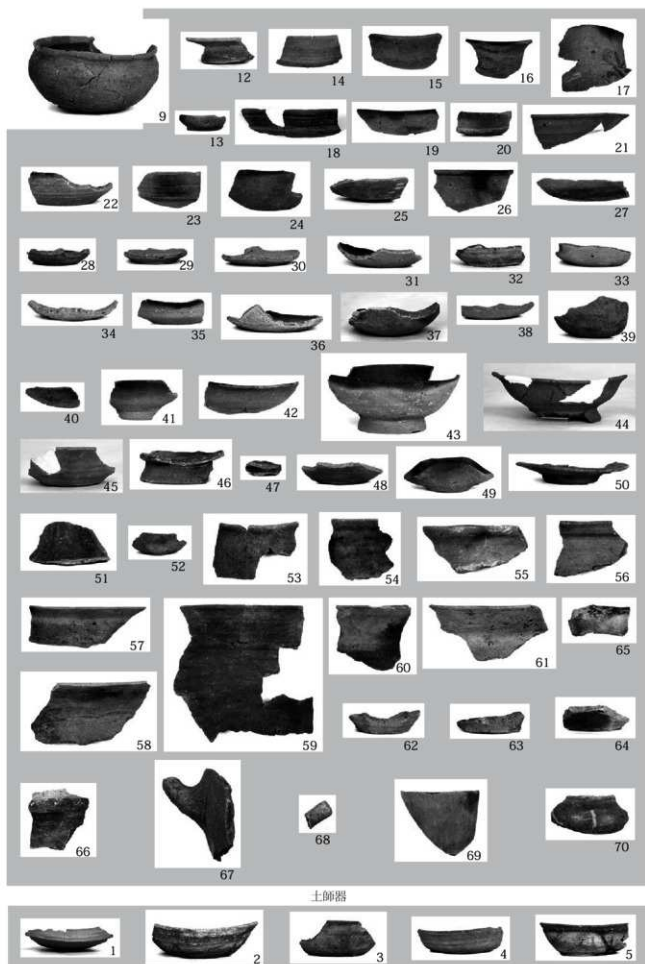
M8 号溝址出土遺物



M9 号溝址出土遺物

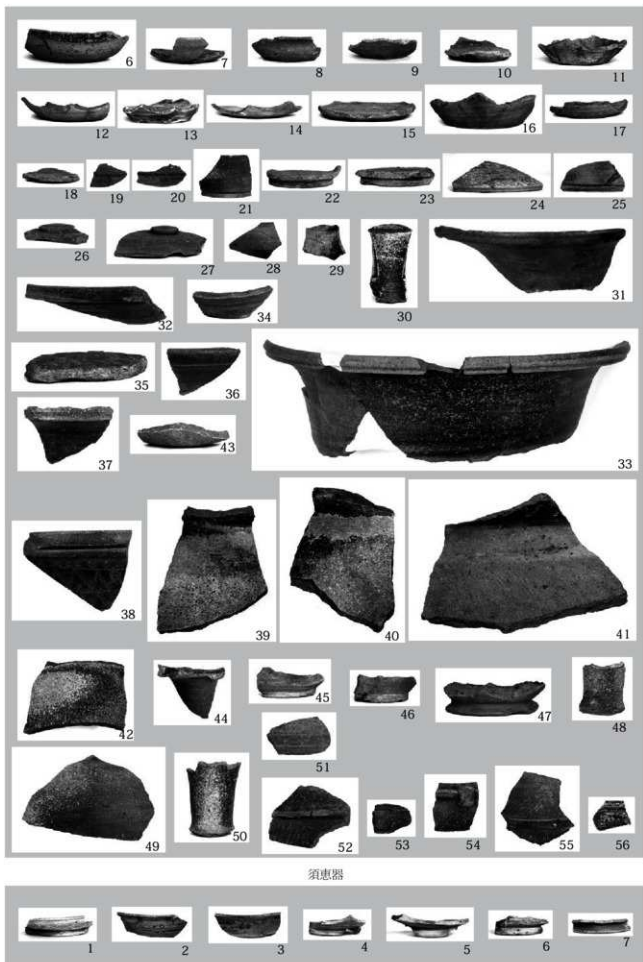


遺構外出土遺物 (1)



土師器

遺構外出土遺物 (2)



須恵器

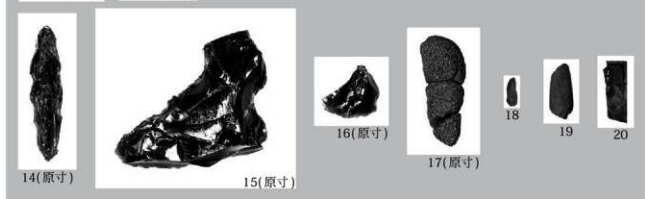
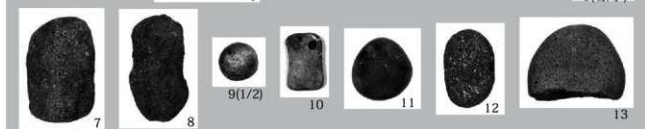
遺構外出土遺物 (3)



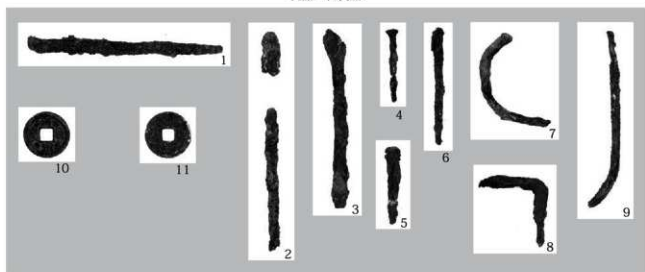
灰釉陶器・緑釉陶器・青磁



土製品



石器・石製品



金属器・金属製品 (全て 1/2)

ふりがな	いわむらだいせきぐん にしよつかまちいせき いち							
書名	岩村田遺跡群 西八日町遺跡 I							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 287 集							
編著者名	小林眞寿							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 ℡ 0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	令和 4 年 (2022) 3 月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号			昭和 58 年		
にしよつかまちいせきぐん	さくしいわむらだ 2152-13 ほか	20217	52	36° 26' 45"	138° 47' 77"	5 月 8 日～ 8 月 31 日	4,850㎡	宅地造成
西八日町遺跡 I	佐久市岩村田 2152-13 外							
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
西八日町遺跡 I	集落址	弥生・古墳・奈良・平安		竪穴建物址 -150 棟 掘立柱建物址 -2 棟 土坑 -11 基 溝址 -3 条 ビット -16 基	弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 石器・石製品 金属器 木器		弥生時代前期資料の出上。 7 世紀代の竪穴建物から成化した横断が出上。	
要約	湯川段丘上に営まれた集落遺跡である。初現は弥生時代前期であり、後期まで連続と続いた可能性が高い。古墳時代前期、中期に断絶期間が認められるが、古墳時代後期以降、平安時代まで大規模集落が展開する。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 287 集

岩村田遺跡群 西八日町遺跡 I

2022 年 3 月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒 385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒 385-0051 長野県佐久市中込 2913

℡ 0267-63-5321

印刷所 キクハラインク有限公司